令和３年度

ＦＤ活動報告書

埼玉学園大学ＦＤ委員会

令和３年度ＦＤ活動報告書の作成に寄せて

埼玉学園大学ＦＤ委員会では、今後のＦＤ活動の活性化のための基礎資料を整え、「ＦＤ活動報告書」を平成 28 年度以降取りまとめている。

本報告書は、令和３年度のＦＤ活動について記載するとともに、研修会の資料及び学生の授業アンケートに基づく授業改善書を収録している。ＦＤ活動は、授業能力の向上を大きな目標の一つとしており、研究成果を授業に反映させるだけでなく、社会に貢献できる人材の育成、新しい社会問題に対応した大学教育の開発が重要な課題となっている。

令和３年度は、第一回の研修会においては「学生のメンタルヘルスについて」、第二回の研修会においては「データサイエンスと教育」についての報告を受け、検討を行った。

これらの資料に授業改善書を加えたＦＤ活動報告書は、膨大なものとなるが、本学のＦＤ活動の記録として保存し、今後のＦＤ活動に活かしていきたい。

ＦＤ委員長　西山　智則

目　　次

１．ＦＤ委員会･･１
(1)ＦＤ委員会の構成
(2)ＦＤ委員会の開催日及び議題

２．教員の研修会　･･2
(1)授業に関する研修会

３．学生による授業アンケート･･････････････････････････････････2
(1)実施期間
(2)授業改善書

４．令和４年度活動計画･･3
(1)教員の講習会・研修会及び研究発表会
(2)ピアレビュー及び授業公開
(3)学生による授業アンケート

＜資料＞
資料No.01･･････････････････････････第１回授業に関する研修会
資料No.02･･････････････････････････第２回授業に関する研修会
資料No.03-1～2･･････････････････････学生による授業アンケート(春期)
資料No.04-1～2･･････････････････････学生による授業アンケート(秋期)
資料No.05･･････････････････････････授業改善書(春期)
資料No.06･･････････････････････････授業改善書(秋期)

１．ＦＤ委員会

(1) ＦＤ委員会の構成

・西山　智則　（人間文化学科教授、委員長）
・伊藤　栄晃　（人間文化学科教授）
・佐々木　美恵（心 理 学 科 准 教 授）
・伊里　綾子　（心 理 学 科 講 師）
・山本　幸正　（子ども発達学科教授）
・杉浦　浩美　（子ども発達学科准教授）
・藤野　好美　（子ども発達学科准教授）
・伊藤　　孝　（経済経営学科教授）
・文　　智彦　（経済経営学科教授）

(2) ＦＤ委員会の開催日及び議題

	開催日	議　題
1	令和３年７月７日(水)	【報告事項】 (1)令和２年度ＦＤ活動報告書について (2)その他
2	令和３年９月８日(水)	【審議事項】 (1)第１回授業に関する研修会について (2)その他
3	令和４年１月５日(水)	【審議事項】 (1)第２回授業に関する研修会について (2)その他
4	令和４年３月２日(水)	【審議事項】 (1)令和４年度ＦＤ活動について (2)その他

２．教員の研修会

(1)授業に関する研修会

①第 1 回【資料 No. 1】
日　時：令和 3 年 10 月 20 日(水)　15:30～16:30
場　所：405 教室
発表者：伊里　綾子（人間学部心理学科講師）
テーマ：「学生のメンタルヘルスについて」
参加者：専任教員 56 名

②第 2 回【資料 No. 2】
日　時：令和 4 年 2 月 16 日(水)　15:30～16:30
場　所：405 教室
発表者：村田　嘉弘（経済経営学部経済経営学科教授）
テーマ：「データサイエンスと教育」
参加者：専任教員 57 名

３．学生による授業アンケート

(1)実施期間

①春期【資料 No. 3-1～2】
令和 3 年　7 月　5 日(月)～ 7 月 16 日(金)

②秋期【資料 No. 4-1～2】
令和 3 年 12 月　6 日(月)～12 月 17 日(金)

(2)授業改善書

授業アンケートを実施し、各教員に授業改善書の作成(1 科目以上)を依頼している。
提出された改善書は以下の通り。
① 春期：131 科目【資料 No. 5】
② 秋期：121 科目【資料 No. 6】

４．令和４年度活動計画

(1)教員の講習会・研修会及び研究発表会

①ＦＤに関する講習会

実施日	対　象	内　容
令和4年　4月20日(水)	専任教員	専任教員を対象に、本学ＦＤ活動の内容等を説明する。
令和4年　4月21日(木) ～　4月27日(水)	非常勤講師	非常勤講師を対象に、今年度ＦＤ活動の方針等を説明する。

②授業に関する研修会

実施日	対　象	内　容
10月及び2月の2回予定	専任教員	授業方法の改善について、教員同士の意見交換を行う。

③研究発表会

実施日	対　象	内　容
令和4年10月12日(水)	教員・学生	学内の共同研究費を得た教員が、研究成果を発表する。

(2)ピアレビュー及び授業公開

実施期間	対　象	内　容
令和4年　6月27日(月) ～　7月　1日(金)	専任教員 非常勤講師	教員が相互に授業を参観し、授業の改善につなげるようにする。また、保証人に対して授業を公開し、本学の教育に対する関心と理解を深める。
令和4年11月28日(月) ～12月　2日(金)		

(3)学生による授業アンケート

＼	実施期間
春期	令和4年　7月　4日(月)～　7月15日(金)
秋期	令和4年12月　5日(月)～12月16日(金)

資　料

2021年10月20日　FD研修会

学生のメンタルヘルスについて

―本学学生の特徴に注目して―

埼玉学園大学人間学部心理学科
伊里 綾子

1

アウトライン

1. 埼玉学園大の学生の特徴
2. 不適応に至るプロセスとは？
3. 不適応を防ぐには？
4. 既に不適応に陥っている学生へのサポート

本学学生の不適応の特徴は？

- 実際にお尋ねしてみるのが一番！
- さいがくルーム（学生相談）を担当されている篠原先生にお尋ねしてみました
- お尋ねした内容をもとに，考察も含め，まとめてみました

本学の学生の特徴

1. **自ら学生相談を利用**する学生が**非常に少ない** ➡ 多くは教員の紹介
2. 不適応に陥る学生の多くが中高生時代など，入学以前に不登校等不適応を既に経験
   ➡ 良くも悪くも**「無理をしないこと」への抵抗感がない**
3. うつ症状を示す学生の多くが，**「やらなければならないことができない」ことによる二次的な症状** と考えられる
4. 面接内容は **課題管理** を行うなど，大学生活に必要なスキルの具体的なサポートが多い

アウトライン

1. 埼玉学園大の学生の特徴
2. 不適応に至るプロセスとは？
3. 不適応を防ぐには？
4. 既に不適応に陥っている学生へのサポート

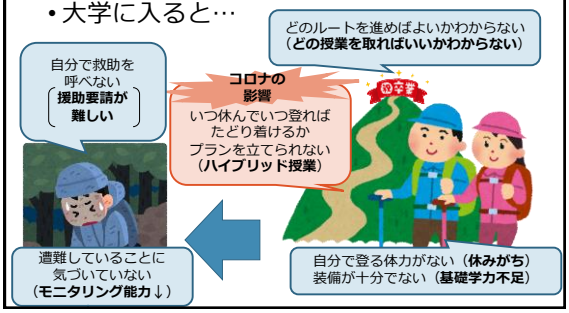
不適応に至るプロセス

- 高校までは…

主体性の乏しい生徒でも
決められた枠組みに
参加できていれば
卒業までたどり着くことができる

不適応に至るプロセス

• 大学に入ると…



アウトライン

1. 埼玉学園大の学生の特徴
2. 不適応に至るプロセスとは？
3. 不適応を防ぐには？
4. 既に不適応に陥っている学生へのサポート

不適応を防ぐ・見つける

• 学生のことは学生に聞いてみるのが一番
• 学生に困っていることを聞いてみました

ゼミ生に現状を聞いてみた

• ハイブリッド授業で困っていること

管理能力
- 課題の提出期限が授業によって異なるので管理できない
- 課題の提出もGoogleフォームだったりTeamsだったりと授業によって異なり難しい
- うっかり提出方法を間違えて単位を落とした
- うっかり提出期限を間違えて単位を落とした

対人交流
- ABグループ分けによって友達と会えなくなった
- 友達と必要なことを確認しあう機会が少ない

ゼミ生に現状を聞いてみた

• ハイブリッド授業で困っていること

管理能力
- 課題の提出期限が授業によって異なるので管理できない
- 課題の提出もGoogleフォームだったりTeamsだったりと授業によって異なり難しい
- うっかり提出方法を間違えて単位を落とした
- うっかり提出期限を間違えて単位を落とした

教員に工夫を求める声もあり，配慮は確かに必要
しかし，**学生にこうした状況を自ら乗り越える力をつけることができれば，社会人になった後も役立つ**

大学で求められるスキル

• **自己管理能力**
- 大学生に当然求められるスキル
- **しかし！**本学の学生の特徴を考えると…
- 獲得できるか否かは適応不適応の大きな分かれ道

自己管理能力の獲得をサポートできれば
深刻な不適応を防ぐことができるかもしれない

自己管理能力について

- スケジュール管理，どうしてる？
  - 頭の中でしている（暗記） 67%
  - ABグループ分けのみスマホで確認　22%
  - スケジュールを全て紙に書き出して エクセルでまとめる　11%（1名）

➡ それでも日時を書き間違えて課題を提出し損ねたとのことです。。。

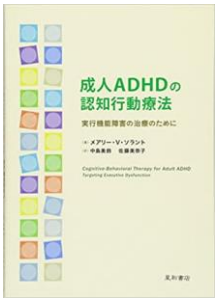
自己管理能力を予防的に支援

成人ADHDの
認知行動療法
実行機能障害の
治療のために

メアリー・V・ソラント（著), 中島美鈴（翻訳), 佐藤 美奈子（翻訳)

星和書店

メディアセンターにも
入っています！



ポイント：発達障害（神経発達症）とは？

- ADHD（注意欠陥・多動症）の症状

以下の9つの症状がそれぞれ（不注意と多動・衝動性）6項目以上みられて、それらが6か月以上継続し、家庭や学校など二つ以上の環境で、生活や学業に悪影響をきたしているときにはADHDの可能性があります。

不注意

- 学業・仕事中に不注意な間違いが多い。
- 課題や遊びの活動中に、注意を持続することが出来ない
- 直接話しかけると聞いていないように見える。
- 指示に従えず、業務をやり遂げることが出来ない
- 課題や活動を順序立てることがむずかしい
- 精神的努力の持続を要する課題を避ける、いやいや行う
- なくし物が多い
- 他の刺激によって気が散りやすい
- 日々の活動の中で忘れっぽい

ポイント：発達障害（神経発達症）とは？

- ADHD（注意欠陥・多動症）の症状

多動・衝動性

- 手足をそわそわ動かしたり、いすの上でもじもじする
- 授業中に席を離れる
- 不適切な状況で走り回ったり高いところに登ったりする
- 静かに遊べない
- まるでエンジンで動かされているように行動する
- しゃべりすぎる
- 質問が終わる前に出し抜けに答えてしまう
- 順番を待てない
- 他人の邪魔をする

NCNP病院国立精神・神経医療研究センター “ADHD（注意欠陥・多動症）の症状 ” https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/disease06.html（参照2021-10-14)

ポイント：発達障害（神経発達症）とは？

- 自閉スペクトラム症の症状
  - 会議などの場所で空気を読まずに発言してしまい、ひんしゅくを買う
  - 視線があいにくく、表情が乏しい
  - 予想していないことが起きると何も考えられなくなり、パニックを起こす
  - 自分なりのやり方やルールにこだわる
  - 感覚の過敏さ、鈍感さがある（うるさい場所にいるとイライラしやすい、洋服のタグはチクチクするから切ってしまう）
  - 手先が不器用である
  - 細部にとらわれてしまい、最後まで物事を遂行することが出来ない
  - 過去の嫌な場面のことを再体験してイライラしやすい

NCNP病院国立精神・神経医療研究センター “ASD（自閉スペクトラム症、アスペルガー症候群）の症状 ” https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/disease06.html（参照2021-10-14)

例：スケジュール帳を使うときの「掟」

（『成人ADHDの認知行動療法 実行機能障害の治療のために』 より）

1. スケジュール帳は，ひとつ所有し，**ひとつだけにすべし**。
2. スケジュール帳は，**常に携帯**すべし。
3. 約束の時間や仕事は**すべてスケジュール帳に記入**すべし！
4. **毎日，朝，昼，晩**にスケジュール帳をチェックすべし！
   - ➡ **スケジュールチェックのリマインド**をする（スマホアラーム等）
   - ➡ 完了していない項目は**スケジュールを立て直す**

スケジュール帳に書かれていないことは存在しない

学生への声かけの例

- 提出物を忘れてきた学生に対して…

もっと
気を引き締めて。
次回から
気をつけるように。

前日にTeamsを
確認する習慣を
つけなさい。
毎週月曜日の夜に
「Teams確認」と
アラームをかけて。
今この場でやってみ
よう。

予定を確認するのは **学生自身** であること
具体的な対処を身につける必要がある ことを伝える

ゼミ生に現状を聞いてみた

- ハイブリッド授業で困っていること

管理能力

交流の場を提供する
例：学園祭 ➡ 今年度心理学科１・２年生で学園祭の展示を企画　意外と楽しそう，任せれば思いのほか自主的に動ける学生も多い（今まで機会がなかった？）

対人交流

- ABグループ分けによって友達と会えなくなった
- 友達と必要なことを確認しあう機会が少ない

アウトライン

1. 埼玉学園大の学生の特徴
2. 不適応に至るプロセスとは？
3. 不適応を防ぐには？
4. 既に不適応に陥っている学生へのサポート

何気ないフォロー

- 自ら「相談したいです」とは言えなくても，サインを出している学生は多いです
  - 出席状況が良くない
  - 課題が提出できていない
  - なぜかいつもよりゆっくり帰り支度をして教員と2人の時間になるのを待っている

このタイミングで，「最近どうなのー？」と
声をかけると，「学校がつまらない」「実は休学を考えていた」などと話してくれる学生は多い

フォローは無理のない範囲で

- 相談に乗っていたら業務が回らない…と思うと，つい声かけもためらわれてしまいます。
- 「ゼミの後の昼休みだけ」「オフィスアワーに収まる範囲で」と決めて，あとは線を引くことも大切だと思います。
- 少し声をかけたら自分から悩みを話せるような学生は学生相談につなぐとよいと思います。

さいがくルームの周知

場所
3号館（埼玉学園大学校舎）
6F エレベーターを降りて右奥

開室スケジュール
【期間】
春期：令和3年4月2日（金）～令和3年7月28日（水）
秋期：令和3年9月17日（金）～令和4年1月21日（金）

【曜日】
水・金曜日

【時間】
10：00～16：00

緊急の場合は学生課(048-294-2208)に連絡してください。
URL:https://www.saigaku.ac.jp/students/student-counselling/

データサイエンスと教育

経済経営学部
村田嘉弘

1

本日お伝えしたいこと

1 Data Sience とは何か。

2 日本政府の目標(「AI戦略2021」)

【大学・高専・社会人】<具体目標1>

事実上の国家プロジェクト

文理を問わず、全ての大学・高専生(約 50 万人卒/年)が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得

※ 大学入試、資格、就職、私学助成金等にも影響します

3 Data Science 教育 とは何か。
基礎教育として何が必要か

4 Data Science を学習した文系大学生の進路は IT企業以外がほとんどである。

2

1 Data Science とは何か
1-1 データの活用(事例1:レシート)

レシートを観察する

財布の中にレシートがあれば、取り出してじっくり観察してみてください。お店の名前、購入年月日時刻、電話番号、購入品名、購入点数、金額、合計金額、お釣り、その他が印刷されています。このレシートを1枚、更に1週間分を別な人に渡し、レシートから自分の嗜好や生活の様子、性格などを当ててもらうゲームをすると、かなりよく当たります。

次に、お店がお客様に発行した1年分のレシートを全て集め、このレシートからお客様について何か分からないか考えてみましょう。今度は枚数が膨大で、しかも雑多です。しかし、これを何らかの方法で分析でき、例えば、(a)どの時間帯にどのようなお客様が来店され、(b)何をどれぐらい購入しているのか、(c)購買行動が何に影響されどのように変化していくのかが分かれば、仕入れ品目や仕入れ量の調整ができ、また、新たな顧客を集める手立てなどを考えられそうです。このような分析を可能にしてくれるのがデータサイエンスです。

出所:「データサイエンスと経済」埼玉新聞2021年7月15日([村田1])

3

1-2 データの活用(事例2:Amazon)

アマゾンはユーザーのさまざまな個人情報を収集している。Amazonでの検索や購入の履歴のみならず、一つひとつのクリックやスクロール、そして「Alexa」が録音した音声まで、アマゾンのエコシステム内でとる行動のすべてが知られているのだ。

Alexa

かつてオンラインでの書籍販売専業だったころから、アマゾンは人々の個人情報にずっと執着している。同社の最高技術責任者(CTO)のウェルナー・ヴォーゲルズは約20年前、おすすめ商品を提供するために「できる限り多くの情報を収集したい」と語っていた。

そしてアマゾンが成長するにつれ、データを収集する業務も拡大していった。「アマゾンはたまたま商品を売っているだけであって、基本はデータ企業なのです」と、同社の元幹部は2020年にBBCの取材に語っている。

出所:「アマゾンが収集している大量の個人情報の中身と、その"追跡"をかわす方法」WIRED 2021年8月30日 ([Wired])

4

1-3 日本学術会議の危機意識

日本学術会議 情報委員会 E-サイエンス・データ中心科学分科会
『提言 ビッグデータ時代に対応する人材の育成』(2014年9月11日)

情報通信技術の飛躍的進歩によって,多くの学術研究分野や社会において時々刻々ビッグデータが蓄積しつつある。ビッグデータには膨大な知識や潜在的価値が埋蔵されているため,その有効活用が今後の学術や産業発展の鍵となっており,激しい国際競争が始まっている。

当分科会ではビッグデータ活用のために今や喫緊の課題となっている,データ中心科学の確立と学術分野への普及・定着のための方策の検討を行ってきたが,その中で新しい科学のための新しい人材,すなわちデータサイエンティストの育成が特に重要であることを認識した。データサイエンティストの育成は,既に海外では急速に進められており,我が国においても直ちに着手しなければ,学術研究や産業界におけるビッグデータ活用において大きく立ち遅れる恐れがある。

そこで,当分科会ではビッグデータ時代に対応した人材育成の在り方を中心に検討を行い,本提言を作成した。

委員長 北川源四郎 (第三部会員) 情報・システム研究機構長
出所:[学術]の「1.作成の背景」

5

1-4 Data Science の定義

Data Science という用語には常に曖昧さが付きまとっているため、

村田嘉弘・鈴木斉「データサイエンス再考」([村田2])

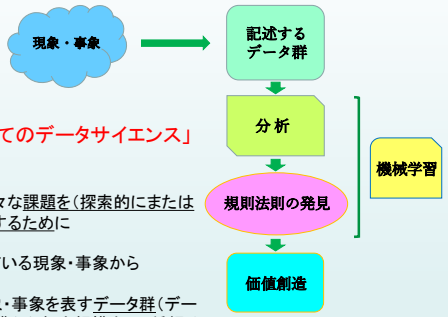
において

「プロセスとしての Data Science」
「学問としての Data Science」

という2つの概念を定義しました。1-4 から 1-6 はそれに基づいて説明いたします。

6

ここの課題を解決したい



「プロセスとしてのデータサイエンス」とは

(1) 世の中の様々な課題を(探索的にまたは実証的に)解決するために

(2) 課題の生じている現象・事象から

(3) それらの現象・事象を表すデータ群(データサイズは小規模から超大規模まで，種類は数値データ・文字データ(文章)・画像データ・音声データ等)を入手し

7

ここの課題を解決したい

(4) そのデータを統計的手法や非統計的手法を用いて分析することで，

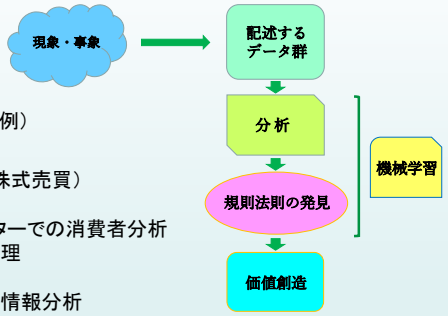
(5) 現象・事象の中に潜む規則や法則を発見し

(6) それらを利用して，新たな価値(新商品・新サービス・未来予測・新たな政策等)を生み出す

一連の手順・手法のことである。ただし，分析および規則法則の発見がコンピューターによる機械学習という形態で行われる場合も含むものとする。

8

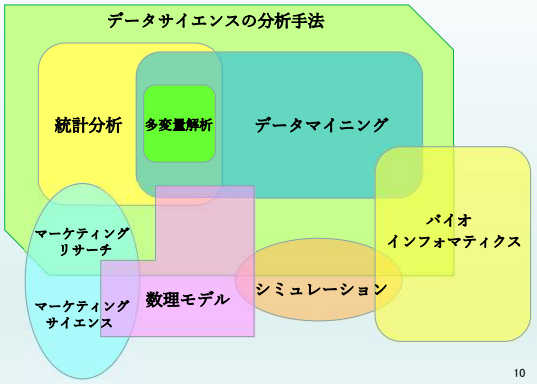
ここの課題を解決したい



(身近な具体例)

・天気予報
・株価予測(株式売買)
・選挙活動
・コールセンターでの消費者分析
・商品販売管理
・大学IR
・企業の信用情報分析
・Amazon 等の Big Tech の活動
・コロナ禍での人流分析

9



10

「学問としてのデータサイエンス」とは

人間やコンピューターが行う「プロセスとしてのデータサイエンス」そのものとそれを取り巻く環境，分析等の結果生じる現象を研究対象とする学問である。

従って，「プロセスとしてのデータサイエンス」の

・適用領域，適用上の条件や課題
・データ収集手法，データ管理技術
・データクレンジング手法，データ加工技術，加工手法
・データ分析手法の改善・開発・評価
・規則法則の抽出方法
・クライアントへの説明方法
・一連の分析手続きの見直し
・分析手法等の他への応用
・必要とする機器・コンピューター

また

・データサイエンス教育
・データサイエンスの可能性および影響

等が研究テーマとなる。

11

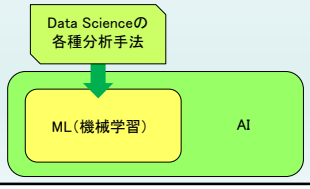
1-5 データサイエンスとAI(人工知能)

コンピューターを駆使し，「プロセスとしてのデータサイエンス」を行える人材がデータサイエンティストです。また，データサイエンスの分析手法はAIの機械学習(Machine Learning)機能としてプログラム化されます。

この種の機械学習機能が現在のAIの機能実現の主流であるため，

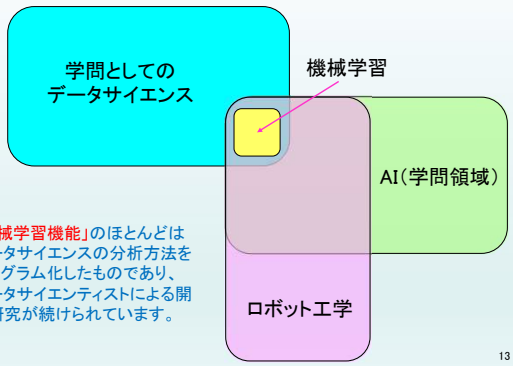
(1) データサイエンティストは，AIの開発に携わる。
(2) データサイエンティストは，AIを用いたデータサイエンスを行う。

ことになります。



12

1-6 Data Science, AI, ロボット の関係



「機械学習機能」のほとんどは
データサイエンスの分析方法を
プログラム化したものであり、
データサイエンティストによる開
発研究が続けられています。

13

2 Data Science・AIに関する各国の動向と日本政府の目標

2-1 各国の動向

◇ 教育のIT化とIT人材の育成（米国） 2009年～
STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）教育

◇ インダストリ4.0（ドイツ） 2011年～
Cyber Physical System に基づく新たなモノづくり

◇ データサイエンス人材の育成（日本） 2014年
日本学術会議 「提言 ビッグデータ時代に対応する人材の育成」

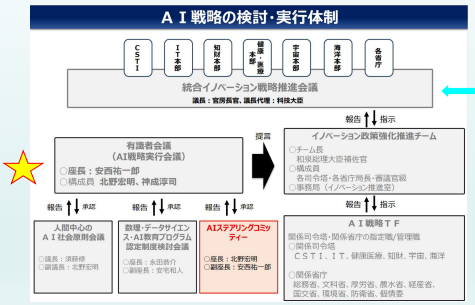
◇ Society5.0の実現（日本） 2016年～
第5期・第6期 科学技術・イノベーション基本計画
サイバー空間とフィジカル空間の融合

◇ 連邦政府によるAIの研究開発推進（米国） 2021年3月
NSCAI(National Security Commission on Artificial Intelligence：
人工知能（AI）に関する国家安全保障委員会）の提言

14

2-2 日本政府の目標

日本学術会議の危機意識（2014年）、「日本再興戦略」改訂2015、「第5期科学技術基本計画」、人工知能技術戦略会議での議論を受け、日本政府は、データサイエンス・AI が国力の基盤であるとの認識を深め、2019年に以下のような体制を構築しました。（[内閣]の資料等）



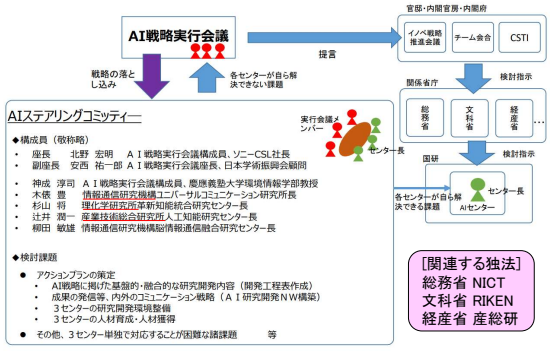
内閣に置かれた会議

CSTI（Council for Science, Technology and Innovation）：総合科学技術・イノベーション会議

出所：[AI1] 2p

15

AIステアリングコミッティー



出所：[AI1] 3p

16

日本政府は2019年に 「AI戦略2019 ～人・産業・地域・政府全てにAI～」を策定し、2021年に改訂版の 「AI戦略2021 ～人・産業・地域・政府全てにAI～」を発表しました。以下はその中に書かれていることです。 （出所：[AI2]）

目 次

はじめに
I. 基本的考え方
(A)戦略のスコープ
(B)戦略の目的
(C)戦略の背景となる理念
(D)戦略の推進にあたっての基本的考え方
(E)戦略目標
(F)官民の役割分担
II. 未来への基盤作り
II－1 教育改革
(1)リテラシー教育
(2)応用基礎教育
(3)エキスパート教育
(4)数理・データサイエンス・AI教育認定制度
II－2 研究開発体制の再構築
(1)研究環境整備
(2)中核研究プログラムの立ち上げ
：基盤的・融合的な研究開発の推進

III. 産業・社会の基盤作り
III－1 社会実装
(1)健康・医療・介護
(2)農業
(3)国土強靭化（インフラ、防災）
(4)交通インフラ・物流
(5)地方創生（スマートシティ）
(6)ものづくり
(7)その他
III－2 データ関連基盤整備
(1)データ基盤
(2)トラスト・セキュリティ
(3)ネットワーク
III－3 AI時代のデジタル・ガバメント
III－4 中小企業・ベンチャー企業への支援
(1)中小企業支援
(2)AI関連創業に関する若手支援
IV. 倫理
V. その他

17

戦略目標1

我が国が、世界で最もAI時代に対応した人材の育成を行い、世界から人材を呼び込む国となること。さらに、それを持続的に実現するための仕組みが構築されること。

「AI時代に対応した人材」とは、単一ではなく、
・最先端のAI研究を行う人材
・AIを産業に応用する人材
・中小の事業所で応用を実現する人材
・AIを利用して新たなビジネスやクリエーションを行う人材
などのカテゴリーに分かれるが、いずれにしても、各々のカテゴリーでの層の厚い人材が必要となる。

人材の増大には、女性も含む多様な人材や、海外から日本を目指す人々も含め、それぞれの層に応じた育成策、呼び込み策が重要である。そのため、今後、先進的な教育プログラムの構築が重要であり、さらに、これを海外にも提供できるレベルにまで充実させることも必要になる。
日常生活では、より有効にAIを利用することで、生活の利便性が向上し、従来ではできなかったことができるようになる。ただし、そのためには、AIに関するリテラシーを高め、各々の人が、不安なく自らの意志でAIの恩恵を享受・活用できるようにならなければならない。

18

Ⅱ－1 教育改革

現在、私達の社会は、デジタル・トランスフォーメーションにより大転換が進んでいる。その変革の大きなきっかけの1つとなっているのが、AIであり、AIを作り、活かし、新たな社会（「多様性を内包した持続可能な社会」）の在り方や、新しい社会にふさわしい製品・サービスをデザインし、そして、新たな価値を生み出すことができる、そのような人材がますます求められている。ビッグデータの収集・蓄積・分析の能力とも相まって、今後の社会や産業の活力を決定づける最大の要因の一つであるといっても過言ではない。

このため、関連の人材の育成・確保は、緊急的課題であるとともに、初等中等教育、高等教育、リカレント教育、生涯教育を含めた長期的課題でもある。とりわけ、「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能と、人文社会芸術系の教養をもとに、新しい社会の在り方や製品・サービスをデザインする能力が重要であり、これまでの教育方法の抜本的な改善と、STEAM教育などの新たな手法の導入・強化、さらには、実社会の課題解決的な学習を教科横断的に行うことが不可欠となる。

（「AI戦略2019」Ⅱ－1 教育改革　の再掲）

STEAM（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）
Arts＝教養・人文科学・社会・言語・芸術

19

＜大目標＞

デジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能、新たな社会の在り方や製品・サービスをデザインするために必要な基礎力など、持続可能な社会の創り手として必要な力を全ての国民が育み、社会のあらゆる分野で人材が活躍することを目指し、**2025 年の実現**を念頭に今後の教育に以下の目標を設定：

・全ての高等学校卒業生が、「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的なリテラシーを習得。また、新たな社会の在り方や製品・サービスのデザイン等に向けた問題発見・解決学習の体験等を通じた創造性の涵養

・データサイエンス・AIを理解し、各専門分野で応用できる人材を育成（約 25 万人／年）

・データサイエンス・AIを駆使してイノベーションを創出し、世界で活躍できるレベルの人材の発掘・育成（約 2,000 人／年、そのうちトップクラス約 100 人／年）

・数理・データサイエンス・AIを育むリカレント教育を多くの社会人（約 100 万人／年）に実施（女性の社会参加を促進するリカレント教育を含む）

・留学生がデータサイエンス・AIなどを学ぶ機会を促進

（注意） 通信制を含めると日本での高校進学率は98.8%（令和元年度）

20

＜具体目標と取組＞
（1）リテラシー教育

【高等学校】

国民全体へのリテラシー教育となることを目指す

＜具体目標＞
全ての高等学校卒業生（約 100 万人卒/年）が、データサイエンス・AIの基礎となる理数素養や基本的情報知識を習得。また、人文学・社会科学系の知識、新たな社会の在り方や製品・サービスのデザイン等に向けた問題発見・解決学習を体験

（取組）
【基本的情報知識の習得】

・【継続】「情報Ⅰ」（2022 年度に必修化）の指導方法の不断の改善・充実【文】

・【継続】「情報Ⅰ」等の実施を踏まえたITパスポート試験等の出題の見直し（2021 年度）【経】

・【継続】ITパスポート試験等の高等学校等における活用の促進（2022 年度）【文・経】

21

・【継続】全ての高等学校で、データサイエンス・AIの基礎となる実習授業を実施、意欲的な児童・生徒に対するデータサイエンス・AIで問題発見・解決に挑戦する場（IT部活動等）の創出（2022 年度）【総・文・経】

・・・

【大学入試・就職】

・【更新】2024 年度より大学入学共通テストにおいて「情報」を出題することについて検討し、2021 年度中に結論を得るとともに、将来的な CBT 活用のあり方について検討を進める（2024 年度）【文】

⇒2025年の大学入学共通テストから出題することが決定しました

・【継続】大学入試や就職のエントリーシートへの、数理・データサイエンス・AI等の学習成果（学校での学習成果、ITパスポート試験等の課外等の課外コース合格等）の記載促進（2021 年度）【科技・文・厚・経】

⇒大学生の就活時のエントリーシートへの影響は不明

・【更新】文系・理系等の学部分野等を問わず、「情報」に関する科目を入試に採用する大学の抜本的拡大とそのための私学助成金等の重点化を通じた支援（2024 年度）【文】

22

【大学・高専・社会人】

＜具体目標1＞
文理を問わず、全ての大学・高専生（約 50 万人卒／年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得

（取組）

・【継続】大学・高専における、リテラシーレベルのモデルカリキュラムを踏まえた教材の開発と全国展開（2021 年度）【文・経】

⇒ 3-3 で説明します

・【継続】大学・高専における、リテラシーレベルの認定教育プログラムの普及促進（2021 年度）【科技・文・経】

⇒ 数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学・高専を文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度

・【継続】カリキュラムに数理・データサイエンス・AI教育を導入するなどの取組状況等を考慮した、大学・高専に対する運営費交付金や私学助成金等の重点化を通じた積極的支援（2021 年度）【文】

・・・

23

【継続】数理・データサイエンスに関する大学・高専のコンソーシアムを組織し、全国的な教育支援体制（FD 活動、コンテンツ充実等）を整備し、継続的に運営（2021 年度）【文】

⇒ 3-1で説明します

本質的に重要

＜具体目標3＞
大学生、社会人に対するリベラルアーツ教育の充実（一面的なデータ解析の結果やAIを鵜呑みにしないための批判的思考力の養成も含む）

STEAMのA （Arts＝教養・人文科学・社会・言語・芸術）の重要性

（取組）

・【更新】大学教育における文理を横断したリベラルアーツ教育の幅広い実現を図るため、「学部、研究科等の組織の枠を越えた学位プログラム」の制度も活用して全学的な共通教育から大学院教育までを通じて広さと深さを両立する新しいタイプの教育プログラム（（「レイトスペシャライゼーションプログラム」等）の複数構築と、その効果測定（2021 年度）【文】

24

【小学校・中学校】

＜具体目標＞
データサイエンス・AIの基礎となる理数分野について、

① 習熟度レベル上位層の割合が世界トップレベルにある現在の状態を維持・向上
② 国際的に比較して低い状況にある理数分野への興味関心を向上

様々な社会課題と理科・数学の関係性の理解と考察を行う機会を確保

・【継続】ICTに精通する教員の養成や外部人材等の活用も含めた質の高い教育を確保する全国的な支援方策を検討し、実施（2021 年度）【文・経】

25

3 Data Science教育とは何か。基礎教育として何が必要か。

3-1 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム

コンソーシアムの設置経緯

日本で最初のデータサイエンス学部を設置

平成28年（2016年）12月，北海道大学，東京大学，滋賀大学，京都大学，大阪大学，九州大学は数理及びデータサイエンス教育の強化に関する懇談会における評価結果を踏まえ，文部科学省より数理及びデータサイエンスに係る教育強化の拠点校として選定されました．

拠点校6校は，数理・データサイエンスを中心とした全学的・組織的な教育を行うセンターを整備して，各大学内での数理・データサイエンス教育の充実に努めるだけでなく，全国の大学に取組成果の波及を図るため，地域や分野における拠点として他大学の数理・データサイエンス教育の強化に貢献することが期待されています．

そのために東京大学を幹事校として数理：データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムを形成して，下記の取り組みを開始しました．

26

令和元年度(2019年度)には、数理・データサイエンス・AI教育の全国展開を加速するため，国立大学20校が新たに協力校として参加し，これを機に全国を6ブロック(北海道・東北，関東・首都圏，中部・東海，近畿，中国・四国，九州・沖縄)に分担して普及活動を行っています．

令和2年度（2020年度)には，全国展開の活動をさらに加速するために、協力校3校と特定分野協力校7校を加えるとともに，公私立大学校および国立高専機構を連携校として加え現在に至っています．

コンソーシアム議長
北川源四郎 情報・システム研究機構長

事業内容

・全国的なモデルとなる標準カリキュラム・教材の作成
・その標準カリキュラム・教材の他大学への普及方策（例えば全国的なシンポジウムの開催等）の検討及び実施
・センターの情報交換等を行うための対話の場の設定（各大学のセンターにおける教育内容・教育方法の好事例を共有し，より取組を発展させるための議論など）
・センターの取組の成果指標や評価方法の検討

出所：[コンソ―シアム]の「コンソーシアム概要」

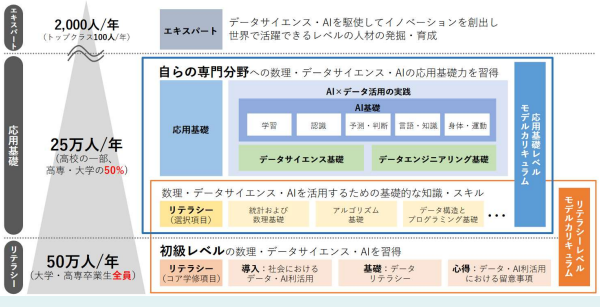
27

各ブロックの担当地域および担当拠点校，協力校，連携校

ブロック名	担当する都道府県	大学数	拠点校	協力校	連携校
北海道・東北	北海道(38)，青森(10)，岩手(6)，宮城(14)，秋田(7)，山形(6)，福島(8)	89校	北海道大学	北見工業大学，東北大学，山形大学，小樽商科大学(社会科学)，東北大学(工学)	公立はこだて未来大学，公立千歳科学技術大学，札幌市立大学，札幌医科大学，岩手県立大学，宮城大学，札幌大学，天使大学，星槎道都大学，北海道医療大学，北海道科学大学，獨内北星学園大学，東北工業大学，東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
関東・首都圏	茨城(10)，栃木(9)，群馬(14)，埼玉(28)，千葉(27)，東京(138)，神奈川(30)，山梨(7)	263校	東京大学	筑波大学，宇都宮大学，群馬大学，千葉大学，お茶の水女子大学，山梨大学，茨城大学(農学)，筑波大学(社会工学)，東京医科歯科大学(医学・歯学)	前橋工科大学，横浜市立大学，明海大学，江戸川大学，敬愛大学，千葉商科大学，麗澤大学，東海大学，慶応義塾大学，工学院大学，国士舘大学，上智大学，成蹊大学，成城大学，創価大学，中央大学，東京医療保健大学，東京経済大学，東京都市大学，東京理科大学，法政大学，武蔵野大学，立教大学，早稲田大学，放送大学
中部・東海	新潟(19)，富山(5)，石川(13)，福井(6)，長野(10)，岐阜(12)，静岡(17)，愛知(51)	128校	滋賀大学	新潟大学，長岡技術科学大学，静岡大学，名古屋大学，豊橋技術科学大学，富山大学	愛知県立大学，新潟リハビリテーション大学，静岡理工科大学，愛知産業大学，中京大学，中部大学，日本赤十字豊田看護大学，名古屋外国語大学，名城大学，人間環境大学，関志専門職大学
近畿	三重(7)，滋賀(8)，京都(34)，大阪(55)，兵庫(37)，奈良(11)，和歌山(3)	155校	京都大学 大阪大学 滋賀大学	神戸大学，神戸大学(社会科学)	京都府立大学，福知山公立大学，大阪府立大学，兵庫県立大学，鈴鹿医療科学大学，京都光華女子大学，京都産業大学，京都女子大学，京都先端科学大学，京都橘大学，京都ノートルダム女子大学，同志社大学，立命館大学，龍谷大学，大阪医科薬科大学，大阪大谷大学，大阪経済大学，大阪工業大学，大阪歯科大学，大阪成蹊大学，大阪電気通信大学，関西大学，近畿大学，四天王寺大学・短期大学部，阪南大学，桃山学院大学，大和大学，神戸学院大学，兵庫大学，兵庫医科大学，高野山大学
中国・四国	鳥取(3)，島根(2)，岡山(17)，広島(20)，山口(10)，徳島(4)，香川(4)，愛媛(5)，高知(3)	68校	大阪大学	島根大学，岡山大学 広島大学，愛媛大学 広島大学(教育学・教員養成)	香川大学，高知大学，公立鳥取環境大学，島根県立大学，高知県立大学，岡山理科大学，広島工業大学，徳山大学，山口学芸大学・山口芸術短期大学，四国大学
九州・沖縄	福岡(34)，佐賀(2)，長崎(8)，熊本(9)，大分(5)，宮崎(7)，鹿児島(6)，沖縄(8)	79校	九州大学	宮崎大学，琉球大学 長崎大学	福岡女子大学，九州産業大学，九州情報大学，久留米工業大学，西南学院大学，日本経済大学，福岡大学，福岡工業大学，保健医療経営大学，活水女子大学，純西学院大学，長崎総合科学大学，熊本学園大学，崇城大学，日本文理大学，第一工科大学

3-2 数理・データサイエンス・AI の学習レベル

数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）の位置づけ



出所：[カリ2]のp8

※ 日本の会社数は約270万社（2019年時点）

29

3-3 リテラシーレベルの教育

数理・データサイエンス・AI　リテラシーレベルの教育方法

➢「導入」「基礎」「心得」「選択」のそれぞれの分類ごとに、推奨される具体的な教育方法を以下のとおりまとめた。

導入	**1. 社会におけるデータ・AI利活用** ・データ・AI利活用事例を紹介した動画（MOOC等）を使った反転学習を取り入れ、講義ではデータ・AI活用領域の広がりや、技術概要の解説を行うことが望ましい ・学生がデータ・AI利活用事例を調査し発表するグループワーク等を行い、一方通行で事例を話すだけの講義にしないことが望ましい	教育方法（例）※ 1，2，3，4 1，4
基礎	**2. データリテラシー** ・各大学・高専の特徴に応じて適切なテーマを設定し、実データ（あるいは模擬データ）を用いた講義を行うことが望ましい ・実際に手を動かしてデータを可視化する等、学生自身がデータ利活用プロセスの一部を体験できることが望ましい ・必要に応じてデータハンドリングスキルを埋めるためのフォローアップ講義（補講等）を準備することが望ましい	教育方法（例）※ 1，2，3，4 1，4
心得	**3. データ・AI利活用における留意事項** ・身近で起こったデータ・AI活用における負の事例を通して、データ駆動型社会のリスクを自分ごととして考えさせることが望ましい（必要に応じてMOOC等の活用も検討する） ・データ・AIが引き起こす課題についてグループディスカッション等を行い、一方通行で事例を話すだけの講義にしないことが望ましい	教育方法（例）※ 1，2，3，4 1，4
選択	**4. オプション** ・本内容はオプション扱いとし、大学・高専の特徴に応じて学修内容を選択する ・各大学・高専の特徴に応じて適切なテーマを設定し、実データ（あるいは模擬データ）を用いた講義を行うことが望ましい ・学生が希望すれば本内容を受講できるようにしておくことが望ましい（大学間連携等）	教育方法（例）※ 1，2，3，4

※上記の「教育方法」欄の手法・形式 1～4 については次頁以降を参照

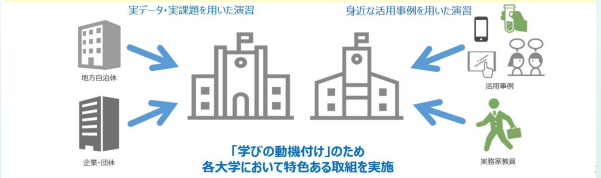
出所：[カリ1]のp19

30

教育方法（例）

1．講義・演習等による授業上の工夫

- ✓ 数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの教育には**「学びの動機付け」が重要**であり、**身近な活用事例や社会の実データ・実課題を用いた演習やグループワークなど**を授業に積極的に取り入れることが効果的と考えられる。
- ✓ **実務家教員の活用**や、**地方自治体や企業・団体と連携した取組**など、各大学の特性に応じた創意工夫が期待される。
- ✓ こうした授業は、大学自らが開設した授業科目について直接の対面方式により実施するほか、次頁以降の2～4の方法により実施することが考えられる。

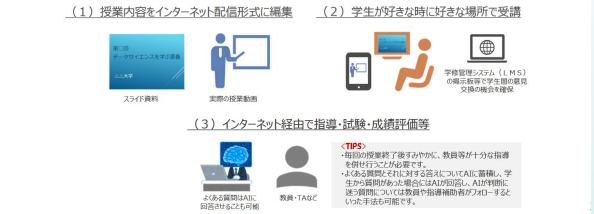


出所：[カリ1]のp20

教育方法（例）

2．オンラインプログラムの導入

- ✓ **オンラインによるオンデマンド型（インターネット配信方式）の授業方法は**、教員・学生ともに時間や場所の制約を受けにくいことが特徴。（具体的な要件は次ページ参照）
- ✓ 毎週授業を行うには教員確保が困難な場合や、一度に多くの学生が受講する場合などに活用が期待される。



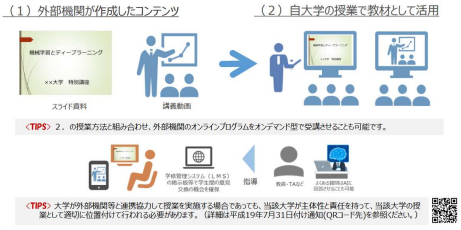
出所：[カリ1]のp21

3-4 明海大学の例を参照してください

教育方法（例）

3．外部機関のオンラインコンテンツを授業で活用

- ✓ 授業の一部で**外部機関等が作成したコンテンツ（MOOC等）を「教材」として活用することが可能**です。
- ✓ 社会変化に応じた最新の内容を授業に取り入れる場合や、既存の科目に一部モデルカリキュラムの内容を入れ込む場合、反転学習などに活用が期待されます。



出所：[カリ1]のp23

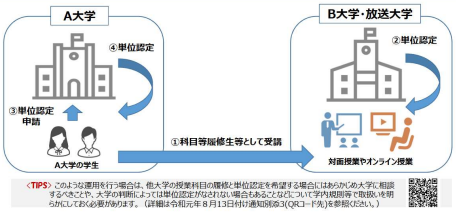
滋賀大のDS-MOOCについては，岡山大，福井大，富山大，金沢大などが導入

東大のスライド教材は自由にアクセスできるようにしているので，どのように活用されているか把握できていません．

教育方法（例）

4．他大学における学修を単位認定（単位互換等）

- ✓ 単位互換が認められる学修は、協定等に基づきあらかじめ定めておくことが原則であるが、**あらかじめ協定等で定めていなくとも、学生からの申請に応じて審査の上、教育上有益と認めるときは、単位認定することが可能**。
- ✓ 自大学の教育課程との整合性に留意しつつ柔軟な運用を行うことにより、個々の学生の多様な学修ニーズにきめ細かに対応することが期待される。



出所：[カリ1]のp24

3-4 明海大学でのデータサイエンス教育

数理・情報系が苦手な学生への
データサイエンス教育
：明海大学の事例

明海大学　総合教育センター　山本　樹

出所：[明海]のp24

明海大学の学部構成

学部	学科	1学年の学生数（定員ベース）
外国語学部	日本語学科	80人
	英米語学科	160人
	中国語学科	40人
経済学部	経済学科	300人
不動産学部	不動産学科	18人
ホスピタリティ・ツーリズム学部	ホスピタリティ・ツーリズム学科	200人
保健医療学部	口腔保健学科	70人

全学部・全学科，
一部入試方式を除き，
入試科目に数学はない

↓

文系の私立大学

明海大学のデータサイエンス科目

科目名	必修・選択	学修目標	PCの利用	データサイエンス教育との関係
学修の基礎Ⅲ-a	1年次配当 全学部必修	・物事を数字化して捉える「数字データリテラシー」の基礎的素養を身につける。 ・得たデータから、適切な結論を論理的に導出することを可能とする「推論力（ロジカル・シンキング）」の基礎的素養を身につける	×	データを読む・説明する
学修の基礎Ⅲ-b	1年次配当 全学部必修	・データサイエンス・AIに関する知識、情報倫理・セキュリティの知識、「データを読む、説明する、扱う」能力などを踏まえて情報の利活用ができるようになること。	○	全般
科学技術と社会	選択（共通科目）	・データサイエンスに関する基礎的な知識を身につけ、データを適切に利活用することができる	×	データサイエンスの教養

37

授業の流れ（「科学技術と社会」の場合）

・2021年度・遠隔授業（オンデマンド）

	方略
導入	■ 前回授業の「振り返り（まとめ）」の確認 ■ 授業内容の概略の確認 ・ 5分程度のYoutubeを利用
展開	■ 授業資料の提示（PPTで作成）・確認 ・ 資料を確認しながらメモを取るように指示 ※資料内に数式はなし、できるだけにコンパクトに
まとめ	■ 授業内容の振り返り ・ 授業資料を250～350字でまとめる ・ LMSに提出

例）授業「統計処理」の場合

【本要約・統計学】ビジネスで本当に使える超統計学

https://www.youtube.com/watch?v=ukrfZ0dB5To

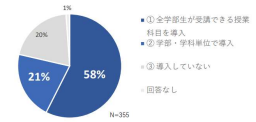
38

3-5 教養教育でのデータサイエンス教育

出所：[調査]p2

一般教養（教養教育）段階での数理・データサイエンス・AI導入は拡大傾向

一般教育（教養教育）段階における「数理」教育の実施状況



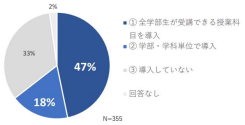
全学又は学部単位で導入 70%→ 79%

全学で導入と回答した大学の1学年当たりの学生総数は22.9万人規模

今後の予定を含めると全学部生が受講できる授業科目の導入は67%

国立大学は80%に及ぶ

一般教育（教養教育）段階における「データサイエンス・AI」教育の実施状況



全学又は学部単位で導入 53%→ 65%

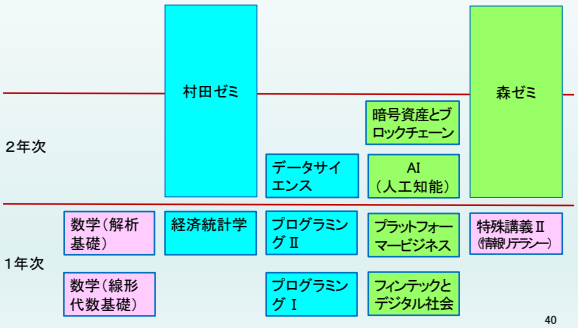
全学で導入と回答した大学の学生総数（1学年）は20.9万人規模

今後の予定を含めると全学部生が受講できる授業科目の導入は63%

国立大学は90%に及ぶ

3-6 埼玉学園大学のデータサイエンス教育

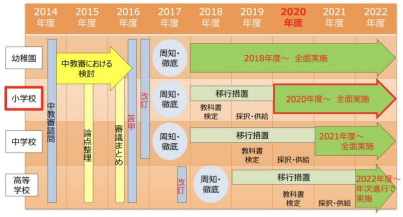
（2022年度 経済経営学科 森先生・村田担当分）



40

3-7 小中高校でのプログラミング教育必修化

学習指導要領：各学校で教育課程を編成する際の基準
それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定める。



技術革新の急速な進展に伴い、文部科学省は**2020年度～小学校、2021年度～中学校、2022年度～高等学校**へと段階的にプログラミング教育の必修化を決定しました。

高等学校では、プログラミング教育を実施するために**情報科**において共通必履修科目「**情報Ⅰ**」が新設され、すべての高校生がプログラミングのほか、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベースの基礎等について学習します。

さらに「情報Ⅰ」に加え、選択科目「**情報Ⅱ**」を開設して、情報通信、データ処理、情報システムなど幅広い内容を学ぶことができます。（出典：[Tech]）

☆学習内容については [文科]を参照。

びっくりします

41

4 データサイエンスを学んだ文系学生の進路（就職先）について

私は、平成元年7月1日より令和3年3月31日まで、国立大学法人 長崎大学経済学部 に所属していました。

私のゼミ（3・4年生のゼミ）は初め「情報管理ゼミ」と言い、その後、「情報化社会研究ゼミ」という名称でした。

ゼミでの学習内容は、一貫して、現在のデータサイエンスに当たる分野であり、約300名のゼミ生が卒業しました。

彼ら・彼女たちの就職先を見ると、一定程度のレベルのデータサイエンスを学んだ学生たちの就職先を予想できます。

42

ゼミ生の就職先(1)

JALパイロット　1名　　ANA地上職員　1名

県庁・市役所の公務員　多数(とても多い)
(1名は長崎県庁1位合格)

財務専門官・国税専門官　複数名(やや多し)

メガバンク　1名　　地銀　多数(とても多い)

TV業界・新聞社　複数名　　鉄道　複数名

大手商社　複数名　　医療法人　複数名

43

ゼミ生の就職先(2)

警察官　複数名　　公認会計士　数名
(数名は県警に3位以内合格)

IT企業　多数(とても多い)　電気　数名

その他、様々な業界

民間企業に就職する学生の大半が大企業に就職しています。

また古い卒業生達から「今はAIを担当しています」との連絡をもらいます。

44

就職活動を終えてのゼミ生の声

「ゼミの3年生のときに行ったグループ研究の成果を話すと面接官が食い入るように聞いてくれた。」

「民間企業の就職でものすごく有利だったが、公務員試験に通ったので公務員になります。」

「ゼミでの学習内容を話したら、是非来てくれと言われました。」

☆ 1回目の面接で内定の出た学生が複数名います。

☆ 企業からは私宛に、お礼と後輩も紹介して欲しいとのメールがありました。

45

まとめ

①「プロセスとしてのデータサイエンス」および AI は非常に強力な力を発揮する。国力の基盤とでも言うべきものになりつつある。

②世界的にデータサイエンスティストが不足している。

③日本政府と日本学術会議はデータサイエンス人材育成を急ぎたい。

④政府としては文理関係なく全大学生(更には国民全体)にデータサイエンス・AI をリテラシーとして教育したい。 [事実上の国家プロジェクト]

⑤データサイエンス・AI教育のためのコンソーシアム(全国組織)ができている。

⑥公務員にも企業人にもデータサイエンス人材が必要とされている。

⑦就職活動への影響の程度は経済界・産業界の動向次第。

⑧入学者のほとんどがデータサイエンスの「リテラシー教育」を受けることができ、一部は高度な教育を受けることができるのが理想的。高度な教育を受けた学生は就職で圧倒的に有利になる。

⑧大学において、データサイエンス教育を教育体系の中にどう組み込むかは大学の判断に任せられている。小中高でかなりなことを学んでくるため、次第に高度化することが必要。2025年度入学生から大変大きく変わる。

46

ご清聴ありがとうございました

47

参考文献

[AI1] 「AIステアリングコミッティーについて」
https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/steering/1kai/1kai.html の資料1-1
[AI2] 「AI戦略2021」 https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2021_honbun.pdf
[調査] 数理・データサイエンス・AI 教育現状調査(第2回)の概要
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/report03.pdf
[コンソーシアム] 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/index.html
[カリ1] モデルカリキュラム(リテラシーレベル)
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy.pdf
[カリ2] モデルカリキュラム(応用基礎レベル)
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_ouyoukiso.pdf
[学術] https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t198-2.pdf
[明海] 関東・首都圏ブロックワークショップ 2021年第2回ワークショップ
http://www.mi.u-okyo.ac.jp/consortium/pdf/ws20210806_lecturenote_yamamoto.pdf
[文科] 高等学校情報科に関する特設ページ
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm
[村田1] 村田嘉弘「データサイエンスと経済」埼玉新聞, 2021年7月15日
[村田2] 村田嘉弘・鈴木斉「データサイエンス再考」長崎大学経済学部『経営と経済』, 第101巻, 第1・2・3号, 2021年12月
[内閣] 内閣府AI戦略 https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/index.html
[Tech] 「小中高で必修化するプログラミング教育とは〈導入背景や目的を徹底解説〉」
https://techacademy.jp/magazine/53100
[Wired] 「アマゾンが収集している大量の個人情報の中身と、その"追跡"をかわす方法」
https://wired.jp/2021/08/30/amazon-history-data/

48

資料No3-1

令和３年６月 28 日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　西山　智則

令和３年度春期　学生による授業アンケートの実施について

令和３年度 FD 活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に春期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

１．実施期間
令和３年７月５日（月）～７月 16 日（金）

２．実施・回収
（1）「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはＱＲコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。
※メール等で事前に教務課より周知致します。
※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）
（2）アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

３．注意点
（1）原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が 10 名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。
（2）実際の出席者が１名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

４．授業改善書の執筆
授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。
なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

別紙1

令和３年７月１日

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：７月５日（月）～７月 16 日（金）
利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ホームページを検索する方法

① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。

↓

②「ニュース&トピックス」内にある『令和３年度春期授業アンケートの実施について』にアクセスする。

↓

③「アンケートはこちら」をクリック

↓

・QR コードを用いた方法

① 以下のQRコードまたはURLからアクセスする。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHidbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NUNkc2TzNZSFA3ODRSS1k0TDBJSTZBSDZDMC4u

↓

↓

↓

アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。
※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。
※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長　冨沢雄太

別紙2

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実　施　日	令和３年　　月　　日（　　曜日　　時限）
科　目　名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備　　考	

以　上

別紙3

令和3年度春期　授業についてのアンケート

月　　日（　曜日）　時限実施

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の〇を黒く塗りつぶして下さい。

	よくした	ややした	どちらとも言えない	あまりしなかった	まったくしなかった
例）ある項目内容について「ややした」と思う場合・・・・・・・・・・・・	○	●	○	○	○
◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。					
1. 出席や課題提出等はしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 質問や発言をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
4. ノートやメモ等を取りましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

		強くそう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
◇この授業について評価して下さい						
Ⅰ 授業内容について	1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	3. テキストなどの資料は適切でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅱ 授業方法について	1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅲ 授業満足度について	1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか ・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

◇上記の回答以外に、この授業について意見（よい点・改善すべき点・得たもの）があれば、書いてください。

なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

令和３年８月５日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　西山　智則

令和３年度春期授業アンケート集計結果の配布及び授業改善書作成について（お願い）

令和３年度春期授業アンケートの集計が終了致しました。
ご多忙のところ恐縮ですが、集計結果をご参照のうえ、授業改善書の作成をお願い致します。
なお、授業改善書は下記の要領で作成いただき、８月 25 日（水）17 時までに教務課にメールでご返送くださいますようお願い致します。

記

１．複数の授業をご担当の場合も、その中から一教科以上を選択し、授業改善書を作成してください。
なお、記入は添付の書式のサイズ１枚に収まるようお願い致します。

２．作成いただいた授業改善書は、メールに添付して教務課にお送りください。
（教務課メールアドレス：kyomu@saigaku.ac.jp）

３．集計結果の「学生による主な意見」欄の記述について
学生の自由記述が多数あった場合は、意見が多かったコメントや改善につながると思われるコメントを選択し掲載しております。

４．授業改善書は、よりよい授業を学生に聞いてもらうという観点から、お書きいただくようお願い致します。また、備品の不備等につきましては、改善書にはお書きにならず、大学事務局までご連絡ください。

以上

授業改善書

科目名	
担当者	

授業の概要

授業の問題点

学生の授業満足度

授業改善の課題と方策

その他

資料No4-1

令和３年 11 月 29 日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　西山　智則

令和３年度秋期　学生による授業アンケートの実施について

令和３年度 FD 活動の一環として、教員の授業内容の自己点検と教授力の向上の為に秋期受講学生による授業アンケートを下記の要領にて実施いたします。今後、本アンケートを先生方の授業の向上にお役立てください。

記

１．実施期間
令和３年 12 月６日（月）～12 月 17 日（金）

２．実施・回収
（1）「授業アンケートの回答方法について」をもとに、インターネットの検索またはＱＲコードにて所定のページにアクセスし、授業アンケートに回答するよう指示をお願い致します。
※メール等で事前に教務課より周知致します。
※用紙での回答を希望する学生にはアンケート用紙を配付、アンケートを回収袋に直接入れさせ、学生にテープで封をさせて下さい。ただし、エラー等があった場合を除き、全員分を用紙で実施することはできません。（アンケート用紙及び回収袋は教室に設置させていただきます。）
（2）アンケート実施後、「授業アンケート完了報告書」に実施日・科目名・授業担当者名・出席者数を必ず記入のうえ、担当教員が教務課にお持ち下さい。（アンケート用紙で実施の学生がいた場合は、アンケート回収袋もご提出をお願い致します。）

３．注意点
（1）原則として、すべての授業科目で実施をお願い致します。
ただし、演習科目及び実際の出席者が 10 名以下の講義科目においてはアンケートを実施しなくても構いません。
（2）実際の出席者が１名の場合は、アンケートを実施しないようにして下さい。

４．授業改善書の執筆
授業アンケートの集計結果を配布しますので「授業改善書」を作成し、教務課に提出して下さい。なお、その内容は報告書として取りまとめ、公表致します。

以上

別紙1

令和３年 12 月３日

学生各位

授業アンケートの回答方法について

授業アンケート期間：12 月６日（月）～12 月 17 日（金）
利用システム：Office365 Forms

《回答の手順》

・ホームページを検索する方法

① 各自のスマートフォンまたは携帯電話のインターネット検索で「埼玉学園大学」と検索し本学のホームページにアクセスする。

↓

②「ニュース&トピックス」内にある『令和３年度秋期授業アンケートの実施について』にアクセスする。

↓

③「アンケートはこちら」をクリック

↓

・QR コードを用いた方法

① 以下のQR コードまたはURL からアクセスする。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Zn6ZC8gm6EaJSeC7QvXtHidbvd2XHjNApxMZ8PNdM5NUQk5WQlNIRUlYV05GTjM5VERONTJISFhDMC4u

↓

↓

↓

アンケートに回答する。全ての項目のアンケートの回答が終わったら、送信ボタンを押し、「ありがとうございます。回答が送信されました。」と画面に表示されれば終了です。

※スマートフォン等を所持しておらず、用紙での回答を希望の学生は担当教員に申し出て下さい。
※授業アンケートの実施状況が悪かった場合は、もう一度実施することになりますので、必ず回答するようにしてください。
※このアンケートは、匿名で行われますので、個人が特定されることはありません。

教務課長　冨沢雄太

別紙2

授業アンケート完了報告書

授業アンケート下記のとおり、実施したことを報告します。

記

実　施　日	令和３年　　月　　日（　　曜日　　時限）
科　目　名	
授業担当者	
出 席 者 数	
用紙で回答した人数	
備　　考	

以　上

別紙3

令和3年度秋期　授業についてのアンケート

月　　日（　曜日）　時限実施

科目名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆授業改善のために積極的にご協力ください。記入によって成績評価が影響されることはありません。

☆以下の各項目について、あなたにあてはまる箇所の〇を黒く塗りつぶして下さい。
例）ある項目内容について「ややした」と思う場合・・・・・・・・・・・・

	よくした	ややした	どちらとも言えない	あまりしなかった	まったくしなかった
例）	○	●	○	○	○

◇この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい。

1. 出席や課題提出等はしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
2. 授業外学習(予習や復習など)をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
3. 質問や発言をしましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
4. ノートやメモ等を取りましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

◇この授業について評価して下さい

		強くそう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Ⅰ授業内容について	1. 授業内容に興味や関心を持ちましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか ・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	3. テキストなどの資料は適切でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅱ授業方法について	1. 授業の方法や資料はわかりやすかったですか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. 毎回の授業でテーマは明確に示されましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	3. 毎回の授業は適切な内容や量でしたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	4. 学生からの質問などにきちんと対応しましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	5. 授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
Ⅲ授業満足度について	1. 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか ・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○
	2. 全体的に振り返って、授業に満足できましたか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○	○	○	○	○

◇上記の回答以外に、この授業について意見（よい点・改善すべき点・得たもの）があれば、書いてください。
なお、意見は、授業改善に役立つことを書き、教員個人に関する非難・中傷を書かないようにしてください。

令和４年２月１日

教員　各位

埼 玉 学 園 大 学
ＦＤ委員長　西山　智則

令和３年度秋期授業アンケート集計結果の配布及び授業改善書作成について（お願い）

令和３年度秋期授業アンケートの集計が終了致しました。
ご多忙のところ恐縮ですが、集計結果をご参照のうえ、授業改善書の作成をお願い致します。
なお、授業改善書は下記の要領で作成いただき、２月 18 日（金）までに教務課にメールでご返送くださいますようお願い致します。

記

１．複数の授業をご担当の場合も、その中から一教科以上を選択し、授業改善書を作成してください。
なお、記入は添付の書式のサイズ１枚に収まるようお願い致します。

２．作成いただいた授業改善書は、メールに添付して教務課にお送りください。
（教務課メールアドレス：kyomu@saigaku.ac.jp）

３．集計結果の「学生による主な意見」欄の記述について
学生の自由記述が多数あった場合は、意見が多かったコメントや改善につながると思われるコメントを選択し掲載しております。

４．授業改善書は、よりよい授業を学生に聞いてもらうという観点から、お書きいただくようお願い致します。また、備品の不備等につきましては、改善書にはお書きにならず、大学事務局までご連絡ください。

以上

授業改善書

科目名	
担当者	

授業の概要

授業の問題点

学生の授業満足度

授業改善の課題と方策

その他

授業改善書（春期）

目　次

専任教員

人間学部

人間文化学科・・・・・Ｐ　1～Ｐ20

心理学科・・・・・・・Ｐ21～Ｐ32

子ども発達学科・・・・Ｐ33～Ｐ52

経済経営学部

経済経営学科・・・・・Ｐ53～Ｐ68

非常勤講師

人間学部・・・・・・・・・Ｐ　69～Ｐ114

経済経営学部・・・・・・・Ｐ115～Ｐ137

専任教員

人間学部　人間文化学科

授業改善書

科目名	日本史学入門
担当者	福島良一

授業の概要

本授業は、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにした。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義した。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目は 4.0 前後となっており、概ね好意的な評価をいただいた。ただ、本授業は全学共通科目ということで大人数が受講したこともあって、必ずしも日本史に興味を持っているわけではない受講学生が一定数存在していたようである。このことは対面授業の欠席や課題レポートの未提出が目立つ学生が散見されたことにも窺える。さらに、成績評価が「可」であった学生が受講者全体の 3 割を超える状況にあった。また、今年度については、コロナ禍という状況のなかで対面とオンラインによる課題レポートを組み合わせた授業を行ったこともあり、授業の進行が遅れることとなったために時間の余裕がなく、授業内容の理解を促進するための授業内小テストを実施できなかった。

学生の授業満足度

本授業に対する「学生の授業満足度」は授業の有益さの評価が 4.17、全体的な満足度評価が 3.93 であった。「学生による主な意見」では、「授業内容はとても面白かった」という好意的意見が見られたが、具体的な記述はないものの一部に授業内容を十分理解できていない学生がいたことは、授業満足度の評価点が 4.0 前後に留まったことにも反映されているように思われる。

授業改善の課題と方策

授業に対する評価を向上させるために、本授業については、特に日本史の知識を持たない学生の授業理解度を高めることが不可欠である。学生による授業評価を向上させる点から、授業への積極的な参加を促すべく、授業内小テストの活用によって学生の予習・復習の励行徹底を図るとともに、とりわけ授業内容を十分理解できていない受講者の興味を引き出すことに留意しつつ、一層丁寧でわかりやすい授業を展開していきたい。

その他

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことにどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①授業内での質問や発問の実施、②授業内容・量の適切性、③テキスト・資料の適切性が、他の項目に比較して低めであり、ここに課題があるといえる。特に①は、前年度に続き 2 ポイント台に留まり、しっかりとした対応が必要である。

学生の授業満足度

授業満足度の二つの項目は、ともに４ポイント台を維持し、受講者の満足度はおおむね良好との印象を受けるが、平均点には及んでいない。それらをさらに高める授業づくりを心掛けたい。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、次期授業についても、基本的な授業コンセプトはこのまま維持し、コンテンツを更に深めてゆく。また「授業の問題点」で指摘した①・②の 2 点については、双方向の授業スタイルを全学共通科目でどのように確立するかという問題への取り組みを強化する。まずは、授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込む。その上で、①への対応として、各回授業の中で次回授業内容の骨子の紹介を行い予習の便を図るとともに、前回授業内容をていねいに振り返り理解定着を図りたい。また②への対応として授業内に質問時間を設けると同時に、授業時間外にも研究室などで可能な限り質問への対応を心掛ける。③への対応としてテキストの書誌的情報を丁寧に開示する。

その他

コロナ前には、この授業では３回に一度小テストを実施していた。それらは、教授者の側の受講者の学力・学習到達度を客観的に知るためばかりではなく、受講者自身の復習の方向性や問題関心の深化にも寄与していた。しかしコロナ蔓延後このシステムが利用できなくなっており、オンライン授業でそのような機能を果たし得る工夫を考案することが求められていると感じている。

授業改善書

科目名	西洋史概説
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

西洋古代地中海世界から、どのような歴史的経緯から「ヨーロッパ世界」が立ち上がってきたのかを、これまでの研究世界における論争過程や新知見を織り込みながら説明し、「ヨーロッパ世界」というきわめてユニークな文明の性格について、理解を深めてもらう。

授業の問題点

以下の３点が指摘できる。①質問・発言の不足、②テキストなど資料の適切性、③授業内容・量の適切性、である。とくに②は平均点にだいぶ及ばず、しっかりとした対応が必要である。

学生の授業満足度

授業満足度の二つの項目については、両方とも４ポイント台を得ており、受講生の満足度は一定程度満たされていると思われる。しかし両項目とも平均点には及ばず、さらなる授業改善の余地は残されている。

授業改善の課題と方策

① については、意識的に授業時間内に質問・発言の時間を設ける。②については、資料情報の提供は可能な限り丁寧に実施する。③については、各授業回に盛り込むべき内容の精査を実施し、説明項目の優先順位を明確にして、メリハリのある授業を目指す

その他

西洋史概説授業は、教室として３F の AV ホールをあてがわれてきたが、受講生からの意見にあるように、小さなホワイトボードで多くの板書を行うことは、彼らには大きな負担と感じられるようである。この授業の性格として一定以上の板書は避けられないので、次年度以降は教室の選定にも考慮が必要である。

授業改善書

科目名	地域文化論Ⅲ
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

ヨーロッパ地域文化の特質は、ここ半世紀以上にわたって常に西洋史の研究界の議論の焦点となってきた。それはまずレスター学派の「地方史」研究から始まり、「ケンブリッジ・グループ」による歴史人口学の導入と家族形成行動分析の実践に受け継がれ、いまやアジアなど非ヨーロッパ社会と地球規模での家族形成パタンの比較を試みるに至っている。本講義は、我々にとって異文化である西欧特に英国の文化を他の文化と対比する学術的方法の最先端の分野である家族構造分析の一連の成果を学ぶことを通して、英語文化圏の社会とその歴史を理解することを目的とする。

授業の問題点

問題点は以下の３点に』見られる。①授業内での質問・発言の不足。②授業外学習の不足。そして③開会授業の内容・量の不適切さ。以上の３点である。

学生の授業満足度

授業満足度の２項目両方とも４ポイント台を得ており、受講生の満足度は一定程度は満たされていると判断される。今後は受講生の知的なニーズにさらに寄り添える授業づくりを心掛けたい。

授業改善の課題と方策

① については、授業時間内に質問・発言の時間を意識的に設けて、受講生からのリアクションを促したい。また授業時間外でも随時研究室で質問や要望を個別に受け付ける。②については、授業の最後に次回授業の内容を大まかに紹介し、また参考文献の紹介なども行って、事前学習を促したい。③については、毎回授業の内容の精査を実施し、説明すべき事項の優先順位を明確にし、受講生の理解の深度に寄り添う授業づくりを進める。

その他

この授業の性格から、歴史学だけではなく、社会学・人類学・人口分析学などの社会科学諸学の基本知識が、受講者には求められる。このこともこの授業の理解の進みに一定のハードルとなっているきらいがある。今後はこの点にも留意し、それ等基本点の説明にも意を用いたい。

授業改善書

科目名	日本文学入門
担当者	掛野剛史

授業の概要

日本文学の入門的授業として日本の近代文学を取り上げ、それを鑑賞、分析することで、多様な「文学」の世界を知り、それを分析する方法や意味を学ぶ。

前半は、具体的な文学作品を取り上げて、「読む」とはどういうことなのか、読むことによって作品世界とそれを読む自分の世界がどのように拡がるのかを考えてもらえるように講義する。

後半は、文学作品と映像作品を比較考察することで、「文学」の特性やその可能性を学べるように講義する。

講義形式だが、授業内では多くの課題を解いてもらうことになる。

以上シラバスより引用。

授業の問題点

数年ぶりに担当した科目である。全学共通科目であるということを考慮しつつも、日本文学を学ぶ上での導入になるよう専門性も意識した。グループ分けとなったため、授業内容を録画したものを提供、課題提出など、teams の機能を最大限に使用し、授業内容の量と質の維持に努めた。

履修者 97 名、回答者 48 名　　（　）内は平均
Ⅰ授業内容について
・授業内容に興味や関心を持ちましたか→4.69（4.39）
・シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか→4.65（4.34）
・テキストなどの資料は適切でしたか→4.81（4.40）
Ⅱ授業方法について
・授業の方法や資料はわかりやすかったですか→4.69（4.35）
・毎回の授業でテーマは明確に示されましたか→4.77（4.43）
・毎回の授業は適切な内容や量でしたか→4.81（4.32）
・学生からの質問などにきちんと対応しましたか→4.69（4.36）
・授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか→4.71（4.33）

以上の結果から、内容、方法について高い評価を受けているものと判断できる。

学生の授業満足度

授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか→4.79(4.41)
全体的に振り返って、授業に満足できましたか→4.73（4.31）

満足度は高い。また独自に実施した遠隔授業についてのアンケートでも評価は高かった。

授業改善の課題と方策

ソフト面での課題は現在のところない。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	英語Ⅰ（月曜日１時間目）
担当者	熊田 和典

授業の概要

英語Ⅰは、大学にて英語を学習する基礎力を総合的に養うことを目的とした科目である。これまで学習してきた英語の力をもう一度確認しながら、英語の基礎力をさらに伸ばすことを念頭に置いている。

授業の問題点

授業改善書に記す科目としてこの科目を選んだのは、私が担当する科目の中で最も授業アンケート結果が芳しくなかったからである。授業アンケートにおいて学生からのコメントがないため、そこから問題点を焙り出すことは困難であるが、授業アンケートを拝見すると、どの個所に問題点があると考えるよりは、全体的に結果が芳しくないと考えた方がよさそうである。

学生の授業満足度

授業アンケートの「学生の授業満足度」の項目は平均の度数よりも低いものであった。もう少し学生の満足度が高くなければならないだろう。

授業改善の課題と方策

毎年、英語Ⅰを担当しているが、昨年度と同じ方法で同じように指導しているはずである（授業での説明も、昨年同様、学生の学力レベルを考慮しながら丁寧に教えることを心掛けている）が、その授業アンケート結果があまりにも差があるため驚いている。この点において授業アンケートは非常に参考になり、有難い。

英語の学習は、本来は他の科目よりは双方向に授業を行う必要があるが、このコロナ禍のため、以前のように学生と自由に授業で活発に発言できず、学習のモーティベーションが下がる傾向がある。しかしながら、この点は他の部分で補っていくしか術はないと思う。

英語Ⅰの受講生には秋期にも英語Ⅱにて指導することになる。授業アンケートが全体的に芳しくなかったため、もう一度様々な面から、授業の仕方を考えていきたい。教え方以外にも、しっかり学生と向き合っていき、英語にまつわる様々な話もしながら彼らの学習意欲をどう向上させるのか考えていきたい。学力レベルも多様であるので、教科書以外にも補助教材を使用し、彼らの学習意欲を刺激していきたいと思っている。

その他

授業改善書

科目名	**英語Ⅰ(心理学科)**
担当者	**現影秀昭**

授業の概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の構造を目指します。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、大学生の日常生活を舞台にした会話、文章の理解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用力を高めます。

授業の問題点

心理学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 4.17 ポイントでした(平均点は 4.39)。
授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 4.19 ポイントでした(平均点は 4.41)。授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては 3.49 ポイントでした。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 4.39 ポイントでした(平均点は 4.36)。

学生の授業満足度

全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 4.22 ポイントでした(平均点は 4.31)。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.33 でした(平均点は 4.35)。また授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたかというアンケート項目についての回答は 4.25 でした(平均点は 4.33)。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習(予習や復習)などをしましたかという問いかけにたいして 3.58 ポイントでした(平均点は 3.78)。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.56 ポイントでした(平均点は 4.40)。毎回、映像と音声のリスニングテストをし、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思います。90 分の授業を適切・有効に使うため、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思います。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが。学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。学生からは(学生からは)わかりやすくてよかったという意見も頂きました。

授業改善書

科目名	英語Ⅰ（人間学部）
担当者	西山智則

授業の概要

基本的な英語を『英語で学ぶリベラル・アーツ』という教科書を使って学習する。人間文化学科の学生がどの領域においても必要とする、リベラル・アーツの基本を平易な英語で理解することにより、それぞれの専攻する分野で必要となるより高いレベルの英語に進むための基本を養成する。英文の読解、リスニング、会話の学習を通して基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学ぶと同時に、世界の様々な文化や歴史に関する教養を深め、多様な分野に関心をもてるように指導する。

授業の問題点

出席や課題などの提出率は、4.57 と平均的であり、全体的に大きな問題はなかったように思える。提出物と小テストと定期テストを評価の基準としたが、テストを受けた学生の多くが合格できた。しかしながら、欠席が多く、テストの点数も良くなく、不合格の学生も少数だがでてきてしまった。最初から英語が苦手な学生をどうケアして、いかに学習意欲をあげてゆくかが課題であると考える。

学生の授業満足度

満足度は 4.03 と平均の 4.41 を割ってしまったのだが、今期は英語の苦手な学生にスピードを合わせたために、簡単すぎたのかもしれない。また教科書の英文が少し単調すぎるところもあるので、学生の満足度をあげるためには、教科書のテーマを教員なりにアレンジして、文化や歴史などの領域に話を広げ、いかにして英語以外の点でも授業に興味をもたすかという工夫が必要となる。

授業改善の課題と方策

英語については、高校までの習得状況にかなり差がでてきてしまい、本学では苦手な学生も少なくない。初歩的で丁寧な説明をすることで、そうした学生をケアしていきたい。また、その一方で英語力のある学生には、別途の教材を与え、自宅での自発的学習を促す意欲向上につながる工夫をしてゆくべきだと考える。コロナ感染に配慮した結果、学生にしっかり英語の発音をしてもらう機会も少なく、授業が単調になったことを反省し、今後学生の興味をひく授業を展開したい。

その他

授業改善書

科目名	教職概論（中高）
担当者	布村育子

授業の概要

教職課程（中高）に在籍する学生を対象とした授業である。公教育に携わる教員の服務・法的な位置づけ・教員組織等を学ぶ。今年度は初めてすべての回でパワーポイントを使用した。

授業の問題点

従前は、グループ学習や全体での討論を多く取り入れていたが、今年度はコロナ禍のために、一方向的な授業が多かった。
授業の終わりに数名の発言を求めたが、いつも限られた学生の発言のみになった。

学生の授業満足度

概ね満足度は高かったが、例年に比較すると低いポイントだった。

授業改善の課題と方策

パワーポイントでの説明、板書、学生の発言、グループ学習など、来年度はメリハリのある授業展開を心がけたいと思う。
授業外学習をしていない学生が多かった。授業内で、参考文献等を強調して示すことが必要である。

その他

グループ分けをしない授業であったが、学生の出席状況は概ね良好だった。

授業改善書

科目名	日本史特論（近世以前）
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

世界の統計や年鑑の類を見ると，ほぼ例外なく日本は仏教国ということになっており，日本の歴史やさまざまな文化も仏教を抜きにしては語れない。精神面でも物質的にも，多くの物事が「仏教」を構成要素にもっている。しかし実際には，そのことはほとんど理解されていないといえる。己を知ることもないまま，異文化の理解を唱えることなど軽佻浮薄ではあるまいか。まずは「日本」を知るべし。その一端あるいは導入として，伝来より平安後期に至るまでの日本仏教史を講義する。

授業の問題点

問題点は 3 つ指摘できる。

① 「学習態度」のうち「質問や発言をしたか」が低い（2.75）。
② 「学習態度」のうち「授業外学習をしたか」が低い（3.25）。
③ 「授業内容」のうち「テキストなどの資料は適切であったか」が低い（3.88）。

学生の授業満足度

授業満足度の 2 項目は，4.38 および 4.44 なので，相応に満足してくれたものと考える。そのほかの授業内容や授業方法についても，概ね 4 ポイント台前半となっているから，履修者諸君の満足度は一応高かったものと理解してよいと思う。

授業改善の課題と方策

【問題点①について】

もっぱら講義となったが，人数は多くない（16 名）から，もう少し双方向的な形をとるべきであったかもしれない。来年度は様子によって考慮したい。ただ，話したいことが盛りだくさんなため一方通行になりがちなのだが，なかなか削りにくい。

【問題点②について】

内容的に予習は難しいと思うが，一方で復習は，ノートを見返すだけでもよいので励行してほしい。その一助として，参考文献を提示するよう留意する。その際，問題のある文献をあえて紹介することも，「自ら考える」ために有効かと考えている。

【問題点③について】

実は教科書は使わず，プリントも配らなかった。ゆえに 3.88 というポイントは，やはり教科書を使ってほしいとの要望の表れと受け止めている。しかし価格的に手頃で，安心できる教科書・概説書は皆無に等しいことが悩ましい。1 冊だけ在ることは在ったが，入手しにくい事情があって採用を見送った。また本音をいうと，朗々たる語りを聴いて耳でノートをとる「大時代的な講義」に徹してみたいとの想いもある。いずれにせよ，教科書については再検討したい。

その他

試験的に，毎回の授業の録音を Teams にアップしてみたが，事実上，無用であった。

授業改善書

科目名	教養演習Ⅰ
担当者	髙山林太郎

授業の概要

1年生対象のゼミ。

授業の問題点

全ての点で平均を上回っているので問題点は少ないと考えられる。
コロナ禍のためグループワークが危険であり実施しなかった。
グループワークを通して学生同士のコミュニケーションが増えればより良かった。

学生の授業満足度

全ての点で平均を上回っているので学生の授業満足度は高いと考えられる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍が収束したら飛沫感染の心配が減り学生に喋ってもらいやすくなる。

その他

なし。

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	髙山林太郎

授業の概要

2年生対象のゼミ。漫画と新聞の文体を日本語学的に分析する。

授業の問題点

多くの点で平均を上回っているので問題点は少ないと考えられる。
コロナ禍のためグループワークが危険であり実施しなかった。
グループワークを通して学生同士のコミュニケーションが増えればより良かった。

学生の授業満足度

多くの点で平均を上回っているので学生の授業満足度は高いと考えられる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍が収束したら飛沫感染の心配が減り学生に喋ってもらいやすくなる。

その他

なし。

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	髙山林太郎

授業の概要

3 年生対象のゼミ。漫画と新聞の文体を日本語学的に分析する。

授業の問題点

新聞をスキャンする為に必要な大型プリンタスキャナとドキュメントキャリア A1 判の準備が遅れて、全体の動作確認ができたのは 8 月に入ってからだった。これで、夏休み中には新聞コーパス（言語資料）を作成して、秋から学生に pdf データとエクセルデータを提供できるよう準備を進めることができる。先行して実施することになった漫画側の文体の分析は着々と進んだが、新聞側で予定にない遅延が生じた。秋からは遅滞なく新聞の文体の分析にも取り組めるようにしていきたい。

学生の授業満足度

平均を大きく下回っている訳ではないので、概ね悪くないのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

4 月の採用以来、ゼミのテーマである新聞と漫画の文体の分析に関して最大限の努力をしてきており、常に改善を目指していて、気付けばすぐに改善して来たため、あえてここに記すゆっくりとした改善点は思いつかない。試行錯誤の連続だが、今年度のゼミにしっかり間に合わせつつ、来年度までには完璧な状態にしたい。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語の文法
担当者	髙山林太郎

授業の概要

学校文法の復習をしながら最新の言語学的知見に基づいた日本語教育文法などの視点を対面授業で口頭や板書を用いて紹介していく。

授業の問題点

A，B グループに分かれているにもかかわらず多人数のまま最後まで行った。質問に来る学生には対応できるが、個別の学生にまで目が届かない。また、初回だったので、質問に来る学生からの指摘に助けられながらより良い授業を目指した。

学生の授業満足度

平均点を大きく下回っている訳ではないので概ね良かったのではないか。

授業改善の課題と方策

次回以降はやり方が分かっているのでスムーズに行くと思われる。課題の出させ方については、より分散した方式を採用すべきであると考える。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語学（概論）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

言語学的な観点から日本語学の基礎を学ぶ。音声学から記号論まで。

授業の問題点

日本語の文法のほうは学生数が全然減らなかったのに対して、日本語学（概論）の学生数の減り方はやや大きかった。これは内容が難しいからではないかと思われるが、だからと言って内容を易しくするのも違うと思われる。非常勤講師であった 2 年間もこの内容でやって来たことであるし、専任講師となった今でも内容としてはこのままで良いと考えている。課題の内容は配付資料に書いてあることを聞くだけなので非常に易しいと自分では思っているが、レポートに空欄の目立つ学生も少なくない。

学生の授業満足度

平均を大きく下回っている訳ではないので、悪くはないのではないかと考えられる。

授業改善の課題と方策

授業としては数年実施してきてほぼ完成しているので、特に改善点は見当たらない。

その他

なし。

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	髙山林太郎

授業の概要

作文の授業。

授業の問題点

春の「日本語の運用」はビジネス文書を、秋の「文章作成法」はアカデミックライティングをやるという当初の目標だったが、実際に作文を始めてみると、基礎的な日本語の間違いが非常に多い。漢字の間違いは変換機能があるからまだ許されるが、テニヲハの間違いは社会では問題となる。そうしたことから、テーマや文体を自由として、自由作文と日本語のミスの添削の授業に完全に切り替えた。来年度のシラバスはビジネス文書から変更する。授業はよく機能していて固定客がついたので、問題は無かった。

学生の授業満足度

ほぼ平均に近い値が出ているし、固定客がついていたので、良かったと思われる。

授業改善の課題と方策

改善点などない。エフォートとしてはこの授業に最大のエフォートを支払った。添削にかかる時間が途方もなく大きい。なので、希望としては、客数はこれ以上増えないでいただけるとありがたいと思っている。客の方も、この授業が非常に「ありがたい」授業であると分かっている、価値の分かる学生だけが来ていたので、そこは良かった。学生との間に文通のような心の交流もあった。秋の「文章作成法」は 2 コマ連続であるが、今より客数が増えると、さばき切れる自信はない。

その他

秋の「文章作成法」も、アカデミックライティングとしてはいるが、学生の実情に応じてグレードダウンする可能性はある。例えばテーマを自由にしてレポート形式の文章をひたすら書かせる授業とかはどうであろうか。柔軟に対応したい。

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	太田絵梨子

授業の概要

人間の発達と学習過程に関する諸概念について，教育実践現場における様々な問題と結びつけて理解することを目的とした。授業では，教育心理学の知見について具体例を交えながら解説した上で，実践的なテーマ（例：高校に入学して学習に対するやる気がなくなってしまった生徒の事例）を提示し，学生同士での理解確認やディスカッションの時間を積極的に設けた。

授業の問題点

講師から説明した内容について，学生が理解できているかを確かめるため，ペアで教え合う活動を取り入れた。そのときの様子から，教授した内容を誤って理解していたり，自身の被教育経験に基づいた偏った解釈をしている学生が少なくないことが分かった。次年度以降は，このようなつまずきを事前に想定し，よくある誤解を提示するなど，説明のしかたや教材を工夫する必要があると考えられる。

また，今年度は教科書を指定せず，講師が作成したプリントを用いて学習を進めたが，学生による主体的な予習・復習を促すためには，教科書等の学習リソースをもっと活用する必要があるだろう。

学生の授業満足度

全体的な授業満足度を尋ねたアンケート項目の平均評定値は 4.71（５件法）であり，学生の満足度は概して高かったものと推察される。一方，平均評定値が４を下回った項目は，「授業外学習をしましたか（3.91）」と「質問や発言をしましたか（3.97）」の２つだった。特に後者については，毎回の授業でペアでの教え合いやディスカッションを取り入れていたのにもかかわらず，相対的に低い値となったのが意外であった。講師から話し合いをするよう指示された上での発言だけでなく，学生自らが主体的に質問や発言をしたという感覚を持ってもらえるよう，授業づくりを工夫していく必要があるだろう。

授業改善の課題と方策

以上の問題を踏まえ，次年度以降は次のような方策をとりたい。

①学生が陥りやすい誤解をあらかじめ明確化し，授業での説明や教材作りに生かす。

②学生による主体的な授業外学習を促すため，教科書等の学習リソースや Teams のチャット機能を積極的に活用する。

③学生自らが質問や発言をしたいと思えるような工夫を取り入れる。例えば，予習して疑問点を挙げさせておく，授業後の振り返りシートに書かれた質問に丁寧に回答する，などが考えられる。

その他

授業改善書

科目名	メディア文化論
担当者	岡田正樹

授業の概要

本講義は、「メディアの不透明性」という視点を軸に、メディアと文化、社会との関係を考察するという内容であった。音楽や映像、写真等の実例を用いながら、メディアが私たちの思考や経験、人間関係等をどのように左右しているのか、そしてメディアはいかにして社会に埋め込まれていくのかを明らかにした。

授業の問題点

学習態度に関する評価に関して、「授業外学習」の数値があまり高くなかった。
また、一部に遅刻や課題未提出も見られた。
「シラバスに提示されていた内容、進度との一致」に関して、比較的にやや低い数値であった。本講義は音声や映像、そのほかメディアの実物を多く用いるスタイルのため、今回、対面授業とオンライン授業を混合した形式での授業実施ということで順番や資料をやや変更する必要があったことが理由かと思われる。

学生の授業満足度

アンケートの数値やコメントシートなどでの反応を見る限り、関心を持ってもらえたように思うが、より良い方法や内容となるよう引き続き検討していきたい。
講義時間中の口頭での発言は遠慮がちであったが、コメントシートや提出課題においては内容や資料に関する意見や質問をくれるなど、積極的に関与してくれた。

授業改善の課題と方策

授業外学習について、積極的に行ってもらえるよう、より多様な話題を例に取り込み、学生のさまざまな興味関心に対応したい。一方で、提出課題等を見ると、授業では扱っていない自らの関心事や時事的な話題とひきつけて意見を提示していることも多い。その意味では授業外の領域にも学習内容を応用して考えをめぐらせている学生も一定数いた。この傾向は維持できるようにしたい。
課題については、必ず提出するよう、よりしっかり伝えるとともに分量も再検討する。

その他

授業改善書

科目名	日本文学特論（古典）
担当者	穴井潤

授業の概要

新古今時代の歌人を中心に、中世和歌について講義した。一二世紀（1100 年代）ごろからは、文芸性の高い作品が多く詠まれるようになるため、中世和歌を読むためにはいくつかの約束ごとを理解してもらった。授業の前半（第 2～5 回）では、そうした約束ごとの説明を行い、後半（第 6～14 回）では、覚えておくべき有名な歌人について概説し、その作品を読解した。王朝文化が衰退していく中で生きた人々が詠んだ和歌について学んでもらった。

授業の問題点

課題・コメントペーパー等を課していなかったため、定期考査の結果が出るまで学生の習熟度を把握できなかった。講義中に学生の意見を求める機会も少なかったため、自発的に意見する場が無かった点が問題と思われる。

学生の授業満足度

学生の授業満足度はⅢ１：4.57　Ⅲ2：4.48 といずれも平均値より高く、概ね高評価であったと判断できる。Ⅱ1：4.52　Ⅱ2：4.76 と授業進度、資料についても満足してもらえたと考えられる。

授業改善の課題と方策

資料・授業進度・満足度については問題ないが、上述した通り「質問や発言」に対するアンケート結果が 3.19 と低い点が今後の課題と考えられる。この問題点を克服するために、毎回の授業の復習課題や授業時間の最後にコメントペーパーを配布することによって、学生の積極的な発言を引き出し、双方向的な講義を行っていきたい。

その他

特記無し。

専任教員

人間学部　心理学科

授業改善書

科目名	健康・医療心理学
担当者	小玉　正博

授業の概要

心の健康の維持増進と予防の問題は、私たちの今日的課題である。コロナ禍のなかでのメンタルヘルスに対する社会的関心は高く、心理的支援を必要とする人も多い。本講義では、健康への考え方、パーソナリティ、生活スタイルなどの心理社会的要因が生活習慣病やストレス性健康障害の発生増悪に密接に関連することを理解し、その改善に対してどのような心理学的支援が可能か，などについて講義する。さらに、心理支援者として理解すべき事項として，医療場面におけるコミュニケーション，患者の心理，ヘルスケアなどに関する基本的知識についても講義する。授業内容をより具体的に理解できるように、教科書だけでなく、映像資料などの関連資料も駆使しながら、講義を進める。なお，本科目は公認心理師を目指す場合の必須科目である。

授業の問題点

昨年度に引き続き、コロナ問題への対応として、対面授業とリモート授業の併用という変則的な授業形態であったことにより、受講者に講義内容を十分伝えられるかという懸念があった。授業理解を深めるために、毎授業後に課題を提示し、teams 上に回答という形式で復習を促した。しかし、Teams 上でも質問を促したが、対面授業での密回避のために学生間で討論する機会をほとんど設定できなかった点、学生への質問応答を最小限にせざるを得なかった点、授業内でのコミュニケーションを十分確保出来なかったことが問題であった。しかし、内容理解が平板にならないように、動画化した授業とネット上の動画資料などを使って内容理解を深めたた。さらに毎回事後課題の振り返りと受講生の理解度を踏まえた追加解説を行い、回答例を授業内で紹介した点、次回授業のレジュメを配布し、予習しやすいように工夫した。それにより、当初の予想以上に、ほぼ期待された学習成果が得られたと評価できる。

学生の授業満足度

例年の授業満足度では、4 点半ば以上の評価を得てきたが、今回はコロナ禍での問題として学生側のネット環境により、講義内容の動画とナレーションが十分受信できなかったなどが散見された。そのため、わかりやすさの評価が 3.69、学生側の授業満足度が 4.09、3.88 と例年よりやや低い評価であった。また、質問・発言への自己評価が 2.56 と低いのは、学生の学習態度が受け身的であったという以上に、今回のような授業形式では対応しにくいのではなかったかと推察される。

授業改善の課題と方策

今回の授業満足度は、コロナ禍という平常時とは異なる環境に影響されたと思われるが、対面授業でも 3 密回避への配慮ということで、授業内でのコミュニケーションの取り方により工夫を要する。また、同じリモート形式でもオンデマンド型ではなく、オンタイム型であれば発言ももっと活発であった可能性があるが、そのためには大学側のより高度なインフラネット環境の整備とともに、学生側への支援の充実が求められる。

その他

コロナ禍で大学全体のネットワークのインフラ整備の必要性がより明確になってきたと思われるので、今後はより一層大学のネットワーク環境の整備と充実が求められる。
さらに、学生個人のネット環境の格差が学習成果の格差に影響している可能性があるため、それらの課題についても大学側のより一層の配慮が必要である。

授業改善書

科目名	発達心理学概論
担当者	藤枝静暁

授業の概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。心理学といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、幼稚園、保育所、学校といった現場での実際の子どもの姿も紹介する。

授業の問題点

アンケート結果から，授業に特段の問題点は無かったと考えられる。

学生の授業満足度

「授業内容から得るところはありましたか」の問いへの回答は，4.61／５点，「授業に満足できましたか？」への回答は 4.52 点/５点満点であったことから，学習満足感はおおむね満たされたと考えられる。

授業改善の課題と方策

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式に対して，戸惑いや，不安もあったと思いますが，多くの方が，授業によく参加し，課題を作成したと思います。レポートの内容は，個人差が大きかったです。テキストの中身をまとめた方から，テキストに加えて自身で調べた内容を加えてまとめた方もおりました。課題への取り組み状況に差があった点が課題かなと思いました。

その他

学生さんの自由記述による感想の一部は以下の様であった。これらの回答からも、学生さんが能動的に，楽しみながら授業に参加した様子がうかがえる。
「授業のキーワードを所々面白くしてくれるので覚えやすいです」
「友達と意見交換をする場があり、良かったです。」
「学生の質問に丁寧に回答してくれました」
「学生の意見を先生がきちんと聞いていて、先生に質問しやすかったです。」
「大人になる時に必要な知識など、将来に行かせることを沢山学べて良かったです。とくに、赤ちゃんのことがためになりました。」
など。

授業改善書

科目名	パーソナリティ心理学
担当者	遠藤寛子

授業の概要

本講義の前半では,「パーソナリティ」およびその研究知見，測定法について紹介した。また，パーソナリティと 健康，文化，犯罪などの関連についても論じた。本講義の後半では，パーソナリティと関連が深い 「感情」についての基本的理論や研究知見（感情と認知，感情と文化，感情と病理）を紹介した。こうした パーソナリティと感情に関する研究を概観することで，自己と他者への理解に役立てるよう促した。

授業の問題点

履修者が 100 名を超えていたため，対面授業と遠隔授業（オンデマンド：動画配信）を交互に行った。授業の満足度，理解度はそれぞれ 4.49 であり，授業内容が概ね伝わっていたと解釈できる。しかしながら，双方の授業後，リアクションペーパーに感想や質問を書いてもらい，次の授業時に回答するようにしてきたものの，実際の授業アンケート結果では，質問や発言に関する回答が 2.72 とやや低い傾向にあった。次年度に向けて，更なる工夫が必要になるであろう。

学生の授業満足度

授業内容への関心，わかりやすさ，内容や量の適切さ，授業への配慮，理解度，満足度は，どれも平均より高い傾向にあり，このアンケート結果を踏まえると，概ね満足して頂けたと捉えている。「自分の性格など知れたり，自分以外の性格など知れて面白かったです。」という感想もあったことから，本授業の知識のみならず，その知識を自己理解に応用し，授業目的を達成できている学生もいた。

授業改善の課題と方策

対面授業時には質問できる雰囲気づくりや，遠隔授業時にもチャットやメールで質問タイムを設けるなどの工夫が重要かもしれない。
また，スライドを示す速度がやや速いとの指摘も受けたので，学生の様子を更に注意深く観察し，進めていくことが肝要である。
さらに，コロナ禍にあったため，途中登校できない学生も複数いた。そのような学生に対しては，授業動画や資料を送るなどして，教育の公平性を保つよう工夫した。次年度以降もこうした配慮は継続していきたい。

その他

授業改善書

科目名	心理学実験
担当者	遠藤寛子・安崎文子・伊里綾子

授業の概要

本講義では,心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後,鏡映描写，短期記憶，推論過程の 3 種目について，実験を行い，レポートを作成した。受講生は毎回，数名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組んだ。1 つの実験種目につき 3 週から 4 週かけて，実験の実施，データの記録・整理，データ分析を行った。そして，実験結果に基づき，各自が実験レポートを作成した。

授業の問題点

毎週木曜日 3 限・4 限目の連続授業を実施した。授業内容への関心，わかりやすさ，内容や量の適切さ，理解度，満足度は，どれも平均より高い傾向にあり，このアンケート結果を踏まえると，履修生には概ね満足して頂けたと捉えている。本授業は実験実習が中心であり，実験参加の意義が大きかったため，コロナ禍にありながらも出席しようと努力している学生が多かった。途中，登校困難となった学生に対して，対面授業をリアルタイムで中継するという授業も試みたものの，その学生側も教員に負担を生じさせているのではないかといった遠慮も語られることがあった。

学生の授業満足度

アンケート結果を踏まえると，授業内容への関心や理解度，満足度はどれも平均より高い。加えて，学生側も予習や復習を行うなど非常に努力していたことがうかがえる。本授業を受けたことにより，大学院進学を考えるようになった学生や卒業論文への意欲が増した学生もおり，本授業から意味を見出す学生も複数見受けられた。

授業改善の課題と方策

コロナ禍にあるため，次年度以降も登校困難な学生に対する対応が必要である。そのような学生に対しては，授業動画や資料を送るなどして，教育の公平性を保つ工夫が必要である。また，登校困難な学生への配慮も積極的に行い，教育を受ける当然の権利として認識してもらいたいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	心理検査法（心理的アセスメント）
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理検査の実施においては，その目的や対象者に応じて，必要な心理検査法が選択される。本科目では，履修生が種々の心理検査法についての基本的な知識を得ることを目的として，発達検査や知能検査，投影法パーソナリティ検査など，心理検査法を広く取り上げ，その理論と実施法，分析法，解釈法について講義する。

授業の問題点

- 学生の質問や発言を得る機会が十分ではなかったこと。
- 授業外学習を促進できなかったこと。

学生の授業満足度

満足度は低くはなく，学生の興味・関心をある程度喚起し，学びの深化に寄与することができたと考えている。

授業改善の課題と方策

- 学生の質問や発言を効果的に得られるように工夫し（リアクションペーパーの改善など），双方向性を高められるように努める。
- 参考文献や学習内容の明示など，授業外学習を促進するための積極的対策を図る。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	カウンセリング心理学(心理学的支援法)
担当者	泉水　紀彦

授業の概要

本講義では，様々な心理療法やカウンセリングの基本を理解するとともに，訪問による支援や地域支援，心の健康教育，コミュニケーションの方法，プライバシーへの配慮などについて学習することを目的とする。代表的な心理療法やカウンセリングの歴史，概念，意義，適応および限界について学習する。

講義全体を通して，人々の心理的な問題や苦痛に関わる様々な支援活動についての理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は，評定は 4.5 以上であるが，授業外学習（3.67），質問や発言の有無（3.06）の質問項目は低評価であった。受講生には，対面では授業後，オンラインでは動画視聴後に感想を書いてもらい，次の授業開始時に匿名で感想を紹介して意見共有を行った。そのため，授業中に学生を指名して発言を求めることがなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか（4.63），授業は満足できたか（4.60）となっており，平均点よりもどちらも高評価であった。

また，授業の方法や資料はわかりやすかったかについては，4.77 であり，高評価であった。授業資料は，事前にすべて教員が印刷して配布する形式をとった。Teams を使用して PDF 形式で配付可能ではあるが，プリンターを持っていない学生が多いと考えられるためである。これも学生からは好評であった。

授業改善の課題と方策

2021 年度春学期は，昨年度に引き続き，新型コロナウィルスの影響により，2 グループに分けた対面授業とオンライン授業(オンデマンド型)のハイブリッド形式で行った。グループ間で不利益が生じないために，隔週の対面授業では AB どちらも同じ内容を講義し，オンライン授業では AB どちらも同じ内容の動画視聴と事後課題を実施してもらった。この形式は，昨年度の他の授業と同じ形式であったが，おおむね受講生には高評価であり，次年度も(コロナ禍であれば)同様の授業進行が望ましいと考えられる。

カウンセリング心理学(心理学的支援法)は，様々な心理療法を紹介するため，理論の理解だけでなく，体験を通した理解も必要であると考えられる。全面的に対面授業が再開された場合は，より体験形式を取り入れた授業展開を行っていきたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅰ
担当者	安崎文子

授業の概要

はじめて心理学を専門的に学ぶ学生の入門として，心理学概論Ⅰでは，心理学の歴史・神経生理・知覚・認知・学習・発達・社会といった，心理学の基本的な領域について，広く概説を講義する。対人支援の専門家を目指す為に，科学としての心理学的な観点から，心理学の基礎的な知識の習得を目指す，授業である。心理学概論Ⅰは基礎，心理学概論Ⅱは応用の内容である。カウンセラーを希望する学生が多いので，概論Ⅰは，学生の興味からやや外れている分野が多い。

授業の問題点

授業内容についてのアンケート結果では，授業内容・授業方法・授業満足度についてほぼ，平均またはそれ以上の得点だった。しかし，学生自身の学習態度については，質問や発言がほとんどなく，受け身の講義であったことがわかる。また学生の意見にも，スピードを落としてもらいたいとの意見もあり，全体に量が多く，進み方が早かった，と思われる。

学生の授業満足度

授業満足度は，2項目ともに平均点を超えており，講義形式で量は多かったものの，一応学生の満足のいく内容であった。学生からの感謝の言葉は励みになる。より満足度が高くなるような授業を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

授業満足度は高かったものの，学生の質問や発言はなく，講義中心であった。今後はActive learningを積極的に取り入れ，参加できる課題を取り入れる必要がある。また，学生に多くのことを教えたいと量が増え，内容が薄まってしまうこともあるので，テーマや課題は絞り学生に考えさせる課題を多く与えるようにしたい。

その他

心理学は，日本だけが文科系に属しているが，諸外国では理科系である。心理学に期待して入学した学生にとっては，想像していた心理学とは大分違うので，まず驚く。これは他の大学の心理学の教師も共通して感じていることである。大概の学生は，カウンセラーを希望して心理学科へ入学してくる。心理学は座って相談を受けるだけの学問ではない。心理学は，臨床だけではなく，知覚・認知・学習・社会・発達・教育・神経生理・産業と幅広い。現実の心理学の立ち位置を，まずわかってもらい，がっかりせずに，興味をもってもらうのが，本授業の目的だろうと，考えている。

授業改善書

科目名	障害児（者）心理学
担当者	安崎文子

授業の概要

様々な発達段階で生じる様々な障害について取り上げる。それぞれの障害の定義や社会的支援制度，障害の持つ意味や問題，障害の多様性，当事者や家族の問題や感じ方について講義する。障害を多様な視点から捉え，どう対応・支援していくことが必要か，ともに生きる社会をどのように作るべきか，受講者と意見を交換しながら講義する。

授業の問題点

全体に平均点を下回った。学習態度については，メモを取らないと進まない授業形式であったので，その点はほぼ平均点であった。授業内容はやや平均より低かったが，資料の適切さがやや低く量が多かったものと思われる。授業方法は最も低く，特に，「適切な内容や量だったか」が低かった。量が多すぎる，早すぎる，とのコメントもあり，今後はポイントを絞り，よりゆっくりと進めなければならない，と思われた。

学生の授業満足度

授業満足度は，2 項目とも平均より低かった。「授業内容は得るところがあったか」は平均よりそれほど，低くはなかった。しかし，満足度は低かった。これより，私なりに解釈すると，わずかでも得るところのある内容ではあったが，学生コメントの内容の通り，授業スピードが早くて，資料の量が多くて，今一つ満足できなかった，ということになるのかと，反省した。

授業改善の課題と方策

1 年生の心理概論では，全体に平均以上の好評価を得た。しかし，専門の授業「障害児者心理学」では，平均より下の評価となった。2 年 3 年生も，1 年生と同じように，初めて聞く内容なので，基礎から教えるつもりでないといけない。また，授業の概要である「意見を交換する」授業内容がほとんどなかった。授業資料の量が多く，一方的に教師が話す授業になったことは，大きな問題点である。今後は Active Learning を取り入れる，授業の内容を欲張らず，学生に考えさせる，平易な言葉や内容に心掛ける，以上の点に気を付けて授業改善したい。

その他

2 年・3 年・4 年生の選択授業だったが，学年が進むと知識は増えるが，本授業の内容については初めて知ることである，と反省している。わかったつもりで進めても何も得られないからである。また，臨床が好きな学生が多いので，障害児（者）に用いる検査や評価法を積極的に教え，実際に試してもらうことで，障害について理解が得られ，満足感が得られるのではないかと考えた。

授業改善書

科目名	知覚心理学
担当者	米村 朋子

授業の概要

知覚心理学は，世界にあるさまざまな情報から自分を取り巻く環境を認識する仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野です。本授業では，知覚心理学の幅広い研究領域に関して，それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルや，知覚研究知見が社会や技術へ応用される例を紹介し，脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めていただきます。

授業の問題点

授業アンケートから，「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して，平均よりも低い評価を受けた。講義形式かつ遠隔形式の授業であったことで，受け身でも受講可能な内容になっていた点が問題だと考えられる。また，参考書の提示は行ったものの，教科書を必須としなかったことや，予習復習の実施の確認をしなかったことが，授業外学習のモチベーションを高められなかったのかもしれない。ノートやメモを取ることについては，取る学生と全くとらなかった学生に分かれた可能性がある。

学生の授業満足度

授業アンケートから，授業内容，授業方法，授業満足度の全ての項目で，平均よりも高い評価を受けた。特に，「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」「授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか」などの項目では高い満足度が得られ，各回の授業意図が伝わりやすかったと感じてくれていたことが分かった。最も満足度が低かった「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」の項目については，教員のミスにより一部内容が変更になった回があり，学生さんには迷惑をおかけしたことが影響していると考える。

授業改善の課題と方策

上述の「授業の問題点」および「学生の授業満足度」で評価の低かった下記 4 項目について以下の改善を実施することとする。

・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題を明示する
・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を配布する
・シラバス内容について：シラバスを精査するとともに次回予告などでミスを防ぐ
その他の項目についても評価がより高まるよう，改善を検討する。

その他

授業内容に関する最新の話題を調べて教えに来てくれたり，わからなかったことを積極的に質問してくれたりと，積極的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ，教員としても大変学びの多かった授業でした。単なる知識を得るだけでなく，日頃の生活と結び付けて考えるスキルを身に付けていただける授業が提供できるよう，今後一層励みます。

授業改善書

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）
担当者	川久保　惇

授業の概要

産業心理学とは、会社や組織の中での人々の意識、態度や行動などについて研究する学問領域である。人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題を心理学の立場から実証的に考えて、解決策を探る。「どうしたら仕事へのモチベーションが高まるのか」、「良いリーダーとはどういう人なのか？」や「仕事のストレスにどう対処すればよいか」などの疑問を探求し、働く人の心と身体の健康を守るための知見を提供することを目指した。授業は主に講義形式であったが、対面講義の際には映像視聴も取り入れた。

授業の問題点

学生の評定をみると、多くの項目の平均が 4-5 点であったが、授業外学習（予習や復習など）をしましたか」と「質問や発言をしましたか」という項目については、それぞれ 3.00、2.91 であった。授業外学習や授業内での教員と学生間の双方向のやりとりはあまり行われなかったと学生は感じたようである。

学生の授業満足度

授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」のどちらも 4.3 点程度であったことから、概ね多くの学生が授業に対して満足していたと考えられる。一方で、それぞれの項目に対して 5 ではなく 4 と回答している学生も一定数いたことから、そうした学生の満足度をいかに高めることができるかが今後の課題となるであろう。

授業改善の課題と方策

授業改善の方策としては以下の 2 点が挙げられる。一点目は、授業を振り返る課題を提示することである。講義時間内で全ての学習を完結させるのではなく、従業外に取り組むことが必要な内容も講義に盛り込んでいきたい。2 点目は、授業内で学生同士のディスカッションを促進するようなワークの導入である。学生が受動的に取り組むだけではなく、積極的かつ能動的に取り組めるような工夫を授業に取り入れていきたい。

また、現在はクラスが 2 つのグループに分かれているが、授業内で出た学生の意見などをお互いのグループに共有するなどにより、グループ間での学習成果が同一のものになるようにしていきたい。

その他

特記事項なし。

授業改善書

科目名	心理実習
担当者	伊里　綾子

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働領域等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、(ア）要支援者へのチームアプローチ、(イ）多職種連携及び地域連携、そして（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の 3 点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

いずれのアンケート項目も平均点よりも高く，大きな問題点は見られなかった。

学生が積極的に参加することが求められる科目であり，多くの外部施設での実習が夏休みから秋学期にかけて実施される。そのため，今後は学生一人一人が，それぞれの課題や目標を見つけて実習に取り組み，有意義な体験ができるよう，より個人に合わせたフィードバックが求められる。

学生の授業満足度

学生の満足度は全員が 5 点の回答をしていた。予習復習に関するアンケート項目や，質問・発言の多さに関する項目の得点は平均を大幅に上回っていたため，学生一人一人が調べ学習や見学実習に積極的に取り組んだ結果であると考えられる。

授業改善の課題と方策

現場での実習も始まっているが，実際に実習に参加してみると，調べ学習では想像ができていなかった難しさに直面する学生も多いように思われる。

実習後は現場の難しさを言語化するよう促し，各学生にあったフィードバックを行い，場合によってはロールプレイなども用いて実際にどのように動けばよいかをイメージしてもらう工夫をするなどしていきたい。そのうえで，準備をして次の実習に臨むよう促し，学生一人一人が成長を実感できる実習としたい。

その他

特になし。

専任教員

人間学部　子ども発達学科

授業改善書

科目名	保育・教育課程論
担当者	浦野 弘

授業の概要

小学校，幼稚園及び保育所を視野に入れた教育課程や全体的な計画の意義と目的について理解し、それらを編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践的な力量の基礎を身につけることを目的とする。中学校教諭及び附属小学校長の実務経験を活かし、学校の教育課程の基準である学習指導要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の中心的な内容（基本方針や特徴等）について歴史的変遷や、それを支える考え方や関連する基礎的な知識・理論を解説する。これらをもとに、教育改革の諸動向や地域の実態をふまえ、学校の実情に即した教育課程を編成できるような資質能力の形成を目指す。

授業の問題点

昨年度までのアンケート結果には，原データもファイルの中にあり，個々人の評価傾向や度数分布等も見ることができましたが，今回は平均値からのみの評価になります。

昨年度の同一科目と比較すると，平均点は全体で 0.5 強低くなっている。とりわけ，「質問や発言をしましたか」「授業の方法や資料はわかりやすかったですか」「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」等が非常に低下している。昨年度のリモート時に比べ，課題の量は多くなった訳ではないが，「課題が多い」という指摘は独自に行っているシャトルカード(大福帳)にも見られる。また，昨年度の比べ，反転授業の要素を多く取り入れたが，テキストをほとんど読まずに出席する学生もおり，予習を前提に進める授業に理解が伴わず，そのため進度が早いという指摘もあるように思われる。

学生の授業満足度

昨年度より平均値も低下し，上記のような指摘がある一方で，本の読み方の大切さ，テキストから対比的な表を作成するリモートでの課題の意義や効果，反転授業による授業の理解の向上等の授業方法に関する高い評価も上記の大福帳に多く見られた。このことは，多くの学生にとって「テキストを精読する課題」は大きな負担感を課すことになるが，一方で多くはないがその成果を評価している学生もみられたということから，リモート課題の範囲とそのレベルが今後の課題と言える。

授業改善の課題と方策

リモート時は，次時の対面時ための反転授業と割り切り，リモートと対面を合わせた２回の講義は，実質的には 1．5 回分程度の内容をもって構成することが肝要と思われる。その際には，リモートにおける課題の提示方法として，文字情報としての提示よりは，，昨年度のように 15～20 分程度のビデオ教材で本時のねらいを明示する方法に戻すことが重要と思われる。

本年度の講義において，「本の読み方」を所々にちりばめて話をしたが，それに対する大福帳での反応は，成績が優秀な学生でも「いままでの読み方を改めたい」という記述が見られた。逆に成績が芳しくない学生にはそのような記述があまり見られなかったことから，教養演習等を通しても「読む」ということの指導が，本学においてはより重要になるのではないかと思われる。

その他

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	尾形和男

授業の概要

教育心理学の意義・目的、内容・領域について概観すると同時に、教育・保育に関わる、子どもの発達、 子どもが主体的に取り組める授業・保育の展開、教師・保育士のリーダーシップ、学習の評価、障害児の理解と 支援について学ぶ。また、家庭との連携による子どもの成長・発達も考える。

授業の問題点

教育心理学の講義を 3 クラスに実施したが、クラスごとに評価に差が見られた。授業内容としては同じことを伝えているものの、各クラスの受講者の受け取り方に差異があることが改めて確認できた。これは、各学生の興味・関心の違いなどによる面もあるが、伝え方も影響しているものと思われる。

また、授業に対する学生の学習態度の、授業外学習(予習・復習)については低く、オンラインと対面式授業の併用に中で、オンラインを予習、対面式を復習として進行することにより理解を深める方法の検討も必要と思われる。

学生の授業満足度

概ね満足度は確保されているものと思われる。しかし、クラスによっては違いがあり、授業の問題点に示したように、出来る限り高い満足度で安定させたいと考える。

授業改善の課題と方策

授業の問題点にも触れたように、予習・復習を定着させるためにオンラインと対面式授業の併用に中で、オンラインを予習、対面式を復習としての位置づけすることにより理解をより深める方法の検討も必要と思われる。

同時に、クラスごとの差異を減らすために、授業内での学生の興味関心の程度や理解度を把握するための工夫を検討したい。そのためには各授業の終わりに、確認テストや質問時間を別に取ることも必要と考える。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	保育内容（健康） Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要

本授業では、保育内容「健康」のねらい、内容、方法に関する理解を深めることを目的としています。具体的には、 乳幼児の心身の健康に関する内容、健康な生活習慣や安全な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を 指導するとともに、乳幼児に対する心身の健康の重要性を伝達するための「保育教材」を作成し、健やかな成 長を育む保育方法を指導しています。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成へ結びつける手がかりをつかむことを目標としています。

授業の問題点

２限クラス、３限クラス、４限クラスとも、「質問や発言をしましたか」（２限クラス－4.00、３限クラス－3.72、４限クラス－4.04）の項目が一番低い数値でした。

学生の授業満足度

学生の満足度は、「4.48～4.92」であり、概ね良好な数値となっています。
また、自由記述欄にも「分かりやすかったです。」との記述があり、良い評価が得られたと考えられます。

授業改善の課題と方策

コロナ禍において、授業中に積極的な発言を求めることは難しいと考えられますが、例えばコメントペーパーを利用し、質問や発言を促す工夫をすることも必要になるかもしれません。授業の実施方法について検討していきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	保育者論
担当者	島田　和幸

授業の概要

概ね、4.0 以上であった中「質問や発言をしましたか」の項目だけが、3.94 であった。全体の中では、中々、発言しにくいところもあるので、今後は、グループの中でこれができるような環境設定を図っていきたい。但し、コロナの感染リスク問題もあるので、工夫が必要である。

授業の問題点

全てのアンケート項目の中で、「授業の概要」でも述べた「発言・質問」だけが、4 点を下回った。これ以外は、4.0 以上であったので、授業の中でこれが保障できるようにしていく必要がある。秋学期は、工夫していきたい。

学生の授業満足度

授業満足度に関する２項目の評価は、共に、4.5 以上となっており、楽しく分かりやすい授業ができたのではないかと思われる。今後も、努力を維持していきたい。

授業改善の課題と方策

学生が、気軽に「質問や意見」を言えるようにするためには、機会の設定が必要であるから、例えば、質問紙法を採用するなどして、この問題の改善を図っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	理科
担当者	長友大幸

授業の概要

小学校学習指導要領を概説するとともに，教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には，可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして，小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能，安全面での配慮事項など，教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかる。

授業の問題点

理科の学習を行うことが久しい学生が多いため、小学校理科の全範囲の実験をなるべく取り上げて実施し、復習させたいと考えていた。そのため、限られた時間内で取り組まなければならず、全体的にあわただしい感じの授業が多かった。また、コロナの影響もあり、十分に取り組むことができない実験観察もあった。

学生の授業満足度

学生自身の取り組みに関する評価と授業方法に関する評価等、全項目にわたって高い評価となった。授業を通して学生にしっかりと活動させることができたことが評価として現れたものと思われる。例年、折に触れて取り入れた応用的な実験を今年度はコロナの影響もあり取り組みが十分ではなかったにもかかわらず、学生の興味関心を高めることができたのは幸いであった。

授業改善の課題と方策

慌しい取り組みが多くなったことについては、やる内容の一層の精選をしていきたい。特に実験については、低学年のものを最小限に絞り、難度が上がる高学年のものを多く取り上げる等の対策を考えていく必要がある。

その他

特になし

授業改善書

科目名	健康科学Ⅰ（1 時限～4 時限）
担当者	野瀬清喜

授業の概要

現代社会とスポーツの意義・学校体育とスポーツ教材・競技スポーツのコーチング・スポーツの安全指導（新型コロナ対策含む）・応急処置、救急処置・古代、近代オリンピック・スポーツ外傷と障害・運動部活動のあり方（スポーツ庁運動部活動ガイド）・ASUKA モデルと AED 使用法・スポーツとパワハラ問題・小学校体育の実態等の項目を取り上げ解説した。本年は、特にオリンピックの負の歴史、問題点を取り上げた。

授業の問題点

前半１０回はＡ・Ｂグループ分けによる面接・オンライン授業を交互で行った。7 月からの４回は全員の面接授業（実技）を行ったが、オンラインの資料提示も最終回までアップロードした。全ての授業で出席率は良く、熱心に聴講してくれたと思う。本授業は本来、「理論および実技」で行う授業であるが、新型コロナウイルスの影響で実技授業は少なかった。特に４時限目は、受講生が多かったため、最後までグループ分け授業であった。

学生の授業満足度

１時限、２時限は、授業満足度が低く十分ではなかった。３時限、４時限の満足度は比較的高い。

学生の興味をひく内容や題材を取り上げ、なるべくタイムリーな課題でスポーツ、体育の意義、生涯健康な生活をおくる方策と意味を伝えたつもりであるが、対象クラスによって興味関心にかなり差があることがわかった。

4 時限目は１００名近い授業であったが、大教室で環境が良く集中していた。

授業改善の課題と方策

新学期が始まる前から新学習指導要領のテーマであるカリキュラムマネージメントを取り入れたアクティブ・ラーニング型の対話的授業、自ら考えて自ら学ぶ授業を展開する準備をしていた。

しかし、新型コロナの影響で対話的な授業の場面、グループワークは全く行えなかった。秋期は春期出来なかった実技の授業を多く取り入れ、グループ学習で、体育の目的を理解し、心身の健康を獲得できる授業を実現したい。

そのためには、体育で養成される「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を獲得できる場面を設定するスポーツ教材を工夫し、運動が苦手な学生に対しても、その資質、能力を向上させることが出来る体育の重要性に気づく授業を展開したい。

その他

グループ分けの隔週面接授業により、学生同士の交流が少なくなっている。実技を重視し、新しい交友関係を作れる環境を目指したい。

新型コロナウイルスの影響で学生の体力低下が指摘されている。事故や怪我に十分留意し、徐々に体力の高まる授業形態と体力の重要性に気づく授業内容にしたい。

授業改善書

科目名	スポーツ指導論
担当者	野瀬清喜

授業の概要

現代社会とスポーツの意義・学校体育とスポーツ教材・競技スポーツのコーチング・スポーツの安全指導（新型コロナ対策含む）・応急処置、救急処置・古代、近代オリンピック・スポーツ外傷と障害・運動部活動のあり方（スポーツ庁運動部活動ガイド）・ASUKA モデルと AED 使用法・スポーツとパワハラ問題・歴史に残る名指導者等の項目を取り上げ解説した。本年は、特にオリンピックの負の歴史、問題点を取り上げた。

授業の問題点

１４回はＡ・Ｂグループ分けによる面接・オンライン授業を交互で行った。１５回目は全員オンラインであった。集中して授業を聴講する学生とそうでない学生の二極化が見られた。前半の授業は、ＤＶＤの動画を用いて問題点を提示して解説する形態を取ったが、面接授業は講義主体を望む意見があり板書、解説を多くした。

学生の授業満足度

授業の満足度は平均を超えたが、問題点であげたように二極化が見られた。学生の興味をひく内容や題材を取り上げ、なるべくタイムリーな課題でスポーツ、体育の意義、生涯健康な生活をおくるためのスポーツ指導法、競技力向上のコーチングを取り上げた。

学生が望むスポーツ指導論の内容は多様なものがありその全てに対応することの困難さを感じた。

授業改善の課題と方策

新学期が始まる前から新学習指導要領のテーマであるカリキュラムマネージメントを取り入れたアクティブ・ラーニング型の対話的授業、自ら考えて自ら学ぶ授業を展開する準備をしていた。しかし、新型コロナの影響で対話的な授業の場面、グループワークは全く行えなかった。

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を獲得できる場面を設定することが授業改善の課題である。スポーツ指導を通じて、非認知能力、批判的思考力を高めるための指導法の改善を行いたい。

その他

グループ分けの隔週面接授業により、学生同士の交流が少なくなっている。実技を重視し、他学部の学生も聴講しているので新しい交友関係を作れる環境を目指したい。

授業改善書

科目名	教養演習Ⅰ
担当者	野瀬清喜

授業の概要

共通の授業概要に従って「大学生活に慣れる」「ゼミに慣れる」「聞き取って書く」「読んでまとめる」「意見を話す」「意見を書く」などの活動を行った。また、幼児教育の講演等を視聴する機会も数回設けた。

大学生の心得や基本的なマナーなどを毎回話した。また、現在の通学方法、授業受講、興味のある分野、将来に関する目標、アルバイト等、現状を個別に対話的に話し合い情報交換を行った。

授業の問題点

教養演習の意義は、上記授業概要にあるように大学生活に慣れ、少人数の交友関係を深めながら、互いに支援し合うことが一つの課題である。しかし、本演習では教員と学生の相互的な対話はあったが、学生同士の対話や議論が不足していた。

また、教員の体験や価値観を話す時間が多く、学生にとっては苦痛な時間が多かったと反省している。幼児教育に興味を持ち、進路を考えている学生が多い中、幼児教育の基本的な知識を講義する機会が少なかった。

学生の授業満足度

人生の中での大学生活４年間を捉えて、目的・目標・計画・実行・反省のＰＤＣＡサイクルを習慣づけ、日誌をつける習慣などを繰り返し話した。また、幼児教育・初等教育での非認知能力の育成についても何回か論じた。

しかしながら、授業満足度の「得るものがあったか」「満足できたか」の設問を始め、各設問とも平均を大きく下回った。小学校教員を希望する学生は、熱心に聴講してくれたが、その他の学生はあまり興味を示さず、満足度も低いものとなったと反省している。

授業改善の課題と方策

２年前、着任時に教養演習を受け持った折は、学生から様々な要求があり、それに応える対応を行った。しかし、今回は、真面目で寡黙な学生が多く、個性を把握できぬうちに半年間がすぎてしまった。

マスクごしで表情が十分に読み取れなかったこと、コロナ禍で研究室を活用できなかったこと、主体的・対話的な深い学びが出来なかったこと、様々な要因が考えられる。

いずれにしても反省点が多く、個々を大切にした対話的なゼミに改善を図ることが急務である。

その他

学生の評価を把握できたことに感謝している。半年間受講してくれた学生には申し訳ないが、後期は早急に改善を図りたい。

授業改善書

科目名	障害児保育Ⅰ
担当者	増南太志

授業の概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもついての理解は重要である。障害児保育Ⅰでは、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史的変遷などを指導する。また、子どもの心理発達の基本をおさえたうえで、各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性や援助のあり方を指導する。授業においては、テキストや視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、ディスカッション等により、知識を深められるよう指導する。

授業の問題点

今年度は新型コロナ感染症の感染予防のため、ディスカッションなどは取り入れず、基本的には講義と課題提出によって授業を実施した。それでも多くの学生が授業に集中して取り組むことができていたと感じられた。授業では、普段関わらない障害児等を対象とした内容であるため、①視聴覚教材等を用いてできるだけイメージしやすくするとともに、②配布プリントを書画カメラで黒板に写し、黒板に書き込むことでプリント内のどこにどのような内容をメモすれば良いのかがわかるように工夫した。

授業の問題点としては、予習復習のためのサポートが不十分であったことがあげられる。予習復習のためには教科書を使用し、それのどこを見ておくなどを案内することが考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に関しては、視聴覚教材で障害のある子どもの感じている世界を示すなどして、できるだけイメージしやすくすることが好評であった。質問や発言についての評価は低いが、新型コロナ感染症の感染予防のこともあり、授業内で発言する機会は設けていない。一方、授業内で個別の質問はみられた。予習復習をしていないとする学生が多かったが、こちらも予習復習をしやすくするようなサポートをしていなかった点は課題である。今回は、授業当日の配布プリントのみで、教科書を使用していなかったため、予習復習がやりにくい状況にあったと思われる。

授業改善の課題と方策

予習復習への支援としては、教科書を使用し、予習すべき場所や復習すべき場所を授業内で案内することが考えられる。またそれを実施できるような課題を用意する必要がある。一方それらの課題については、学生の負担になり過ぎないものにすることも重要である。

その他

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	三浦正雄

授業の概要

教育の現場において、正しい日本語表現能力は、必要不可欠のものです。
＜日本語の運用＞では、教育者として必要な正しい日本語表現を、「学習指導要領」等に示されているように、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの分野から具体的に学習し、最終的には論文を書くことへとつながるように指導します。高等学校の国語科の復習をし、正しい日本語表現に興味を持ち、基礎から身につけることが目標です。同時に、言葉についての様々な知識や書籍についての情報なども講義します。全員が、スピーチの実演を行えるように指導を行います。
＜文章作成法＞に接続する形で授業を行います。

授業の問題点

今期もオンラインでの授業が多く、学生との双方向のやり取りが難しいと感じました。「日本語の運用」を学習するには15回の授業でも少ないと感じられ、できるだけ重要なポイントにしぼることを心がけていますが、中学・高校で学ぶ文法や文章作成の基礎事項が身についていなかったり、携帯・パソコンの多用により語彙力や語義の知識が定着していなかったりなど、土台固めを行う必要がその都度生じてまいります。そのために、どうしても中学・高校の国語科の学習内容を復習する時間が必要となります。その結果、スピードが速くなることがあり、速すぎないように進めることが課題ですが、最近のアンケート結果を見ると、適度なスピードでできてきているようです
スピーチについては、いつも学生が熱心に取り組んでいるので、少しでも原稿を書くために調べやすいように、書きやすいようにアドバイスをしています。
コロナにより、対面授業においても、学生のコメントが得にくいのが難点です。

学生の授業満足度

オンライン課題が多いため質問への対応が非常に難しかったと思います。文字による伝達ですと、ニュアンスが伝わりにくいと感じました。
また、対面授業においても回数が少ないため、学生のコメントが得にくく、双方向が難しくなっておりますが、その割には、意思疎通があったと思います。
大人数であるうえに、オンライン課題と少ない対面授業という授業形式の中で、満足度を上げるのは難しいところもありますが、双方向的な要素を少しずつでも増やすことができればと思います。

授業改善の課題と方策

オンライン、そしてプリント等のやり取りを減らした対面授業ということで、学生との双方向のやり取りが難しくなっています。こうした中で、学生のコメントを得るための何らかの方法を、今後は模索してゆきたいと思います。
本年、新たにオンライン課題内にコメントを書く欄を設置しました。

その他

全学共通科目であるだけではなく、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目ですので、可能でしたら私の担当の時間は子ども発達学科に限定した形にしていただけると内容をしぼった形で授業が展開しやすいと存じます。

授業改善書

科目名	家庭支援論
担当者	杉浦浩美

授業の概要

A、B グループ分けによる教室授業と遠隔授業の併用となった。毎回、教室授業と遠隔授業のテーマに関連を持たせ、教室授業で講じたテーマについて、翌週の遠隔課題学習に取り組ませることで理解を深める、というやり方で進めた。教室授業では映像素材や応答的ワークを用いるなど、対面授業の満足感を学生がもてるよう、工夫をした。翌週の遠隔授業の課題についても、ねらいや取り組むべきポイントなど、あらかじめ指摘した。さらに教室授業時に、前週の遠隔課題について解説し、提出された回答のなかからすぐれたものを紹介するなど、学生が遠隔授業にも意欲をもてるよう、さまざまに配慮をした。

授業の問題点

育士資格取得の必修科目であるため、出席が非常に重要となる。よって課題の未提出は細かくチェックをした。２度続けて課題が未提出だった学生については、教室授業時に指導をしたところ、改善が見られた。

学生の授業満足度

授業評価アンケートについては、すべての項目で平均点を上回っている。
「授業に関心を持ったか　4,67」「授業内容に得るものはあったか　4,61」など、概ね高評価であると考えている。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしたか」が唯一の３ポイント台だが、教室でも遠隔でも、必ず質問を受ける時間（項目）を設けている。これについては、学生側の態度や意識の問題としてさらに指導していきたい。

その他

科目名	子どもの歌と伴奏法Ⅰ	
担当者	寺田・佐山・田中・舘岡・宮崎・若宮・渡邉	

授業の概要

保育現場で歌われる子どもの歌について、ハ長調のコード伴奏による弾き歌いを指導する。クラスを前半、後半に分け、専任による一斉授業と講師によるグループごとの個人レッスンを 45 分ずつ交代で行う。個人レッスン課題は学生のレベルに合わせてテキストから 5 曲以上弾き歌いできるよう指導する。

授業の問題点

2 年生の状況として、昨年度 1 年生での授業が 6 回までオンラインによる課題提示授業であったため、実技課題の進捗が遅れたことと個々の学生の授業内容定着度の把握が難しいとの申し送りを受けた。これを受けて、授業課題の見直しと指導方法の変更等を計った。

学生の授業満足度

満足度は 4.5 以上であり、学生による主な意見で「日に日にピアノが弾けるようになっているのが実感できている。」「先生の教え方がわかりやすい。」「ピアノを弾くだけでなくリズムについての学びなどの発展した内容によりピアノが弾きやすくなった。」などの回答が得られたことは喜ばしい。

授業改善の課題と方策

今後も学生のつまずきを拾い上げ、一斉授業と個人レッスン両方の面から個々に応じた指導を補完できるよう工夫する。

その他

授業改善書

科目名	教職概論
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を講じる科目として、最初に教育についての基本的な諸概念について、教えるという行為に関わって解説した。その上で、教員という職業がどのように考えられてきたかを概観しつつ、今日の教員に求められる資質を考察した。これらの基礎的、歴史的な視座をふまえて、教員の生活や教員に関する法制について、今日の状況を中心に解説した。

例年は毎授業時にグループディスカッションを織り込み、さらには小レポートを書かせるのだが、昨年度に引き続き密を避けるという観点よりグループディカッションを行わなかった。

授業の問題点

一部クラスの回答率が低いのが気になるところだが、アンケートの数値を見る限り、特に問題として取り上げる点は見られない。昨年度は半分の期間がオンラインで、残り半分が対面（グループ分割なしの通常の授業と同じ形式）で、今年は全面対面という例年通りの方法に復したが、それでも大きな変化ないことを勘案すると、喫緊の改善を要する重大な問題はないと考えてよいものと思われる。

学生の授業満足度

満足度に関する質問については、2 コマとも 4 点台中盤である。昨年度とほぼ同じ数値（昨年度は 4 点台前半と中盤）であり、おおむね妥当なラインだと考えている。

授業改善の課題と方策

また、昨年度よりグループディスカッションを入れなくなっているが、授業開始時レポートをウェブ（MicrosoftForms）で回答し、全レポートに目を通した上でコメントすることで、一定の水準は維持できている。授業時間外の負荷は増えるが、授業時間の確保の観点からもしばらくこの方法を継続していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、社会科の歴史や特質及び様々な教育観について検討し、実際に教材研究・授業づくりを体感・体験することで、受け手としての子どもの立場から作り手としての教師の立場へと転換していくことを目的としている。社会科の特質及び社会科教育史の検討、小学校社会科教師の授業体験及び社会科授業実践に関する共有と議論、地元地域に関する分析とプレゼンテーションから単元プランの構想、ICT の活用及びフィールドワークを含めた埼玉県川口市の教材研究とプレゼンテーションを実施し、自己の社会科教育観の変容を促した。

授業の問題点

ノートやメモ等（3.25）と授業内容の量（3.75）、授業外学習（4.25）に関して、作業や発表、外部講師との対話や議論を中核に授業を進め、学生の社会科授業観の変容・転換を目的としていた一方で、その目的自体の理解の共有や自己の変容をより深く認識させる時間と学生の作業時間（さらには他の授業の授業観・教育観との違い）との兼ね合いからアンケートのポイントとしては課題となっている。

学生の授業満足度

おおむね満足を得ていたようである（4.50 以上）。しかしながら、作り手・実践家としての教師の立場を忘れて、受け手の立場のみで授業にかかわる場面も多く見られ、双方の立場について自己認識できるようにカリキュラムを調整し、修正・改善に努めていきたい。

授業改善の課題と方策

活動や議論の中でその都度修正したり、修正のポイントを自ら考えられるようなヒントを与えたりしていた一方で、変容に関する学生の自己認識の取り組みが十分とは言えず、アンケート結果にも表れていた。また、他者への倫理的な配慮については 15 回にわたる授業の中で伝達・修正できたが、特に記述の際の語彙・言い回しの部分やパワーポイントでの引用のルール等については、授業内では限界もあり、授業外学習等を含めて体系的に組織していく必要がある。他授業との関連も含めて検討していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それらを踏まえて社会科・公民教育の教育観・授業観を再構成することを目的としている。戦前の社会系教科と戦後社会科の違い、社会科と道徳教育との関係性、学習指導要領と社会科教育との関連性についての検討、様々な授業理論・授業方法に関する作業や議論を通しての授業づくりの体感的習得、教材研究及び高校単元プランの作成を実施した。

授業の問題点

授業外学習やノート・メモ等に関して、やや課題となっている（各 3.92)。この背景には、学生の様子の見取りを踏まえて、記述のみの授業というよりは、口述・議論をしながらその中で自らの言説を修正する活動を多く取り入れたことが挙げられる。また、大学の授業自体を社会科授業化したことで、授業内での内容・方法に関する理解度を高めることができた一方で、さらなる高みを目指すための授業外学習に積極的に取り組む学生が全員ではなかったことが課題である。

学生の授業満足度

おおむね満足できていたようである（4.38～4.77)。授業内容の質に関してより高めていきたい。

授業改善の課題と方策

社会科・公民科教育の内容は多岐にわたるが、授業内容に関してより深く探究するためのヒントや関連資料をより多く提示していくことが求められる。授業外学習との関連性をより効果的なものにして、よりよい授業の実施につなげていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それらを踏まえて自己の社会科・地理歴史科教育の教育観・授業観を再構成することを目的としている。近代国家の成立と地理歴史教育の関係性についての理解や、歴史教育・地理教育に関する異なる立場と授業実践の検討、社会科・地理歴史科教師の４つのタイプと成長過程の検討、実習校周辺の単元プランの構想と発表・協議について実施した。

授業の問題点

授業外学習（4.50）については、カリキュラム上、レポート課題や単元プランと関連して行うことになっているが、テキストや参考文献のより深い読み取りなどさらなる高みを目指すための方策が授業時間内だけでは十分進められなかった。

学生の授業満足度

おおむね満足できるもの（4.75 以上）となっていたようである。特に、関心の高める部分（4.83）や授業の方法・資料の適切さ（4.92）については、高評価が得られており、今後も継続・修正していきたい。

授業改善の課題と方策

学生の質問や発言（4.67）については、授業空間を調整することで、対教師のみならず、学生間でも、他者に配慮した適切な言葉を用いるかたちでの成長過程が見てとれた。改善の方策として、授業外学習での文献の選択や読み方のヒントを与えることで、より内容に即した発言・議論が展開できるようになると思われる。授業時間外に研究室に訪ねてくる学生も多く、関連文献の閲覧や議論の続きをしている。継続して取り組んでいきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	音楽実技Ⅰ
担当者	山本・一村・影山・佐藤・須田・宮崎・安田

授業の概要

音楽の基礎技能についてのクラス授業とピアノの個人レッスンを 45 分ずつ３クラス×２組ずつ（６クラス）実施した。授業開始時の調査で学生の音楽経験に応じてクラスをＡクラス（初心者）とＢクラス（経験者）に分けたが、人数配当の関係で必ずしもぴったりとはいかないので、秋学期（音楽実技Ⅱ）でＡＢの変更を行って調整する必要がある。

クラス授業は『保育者のためのピアノの基礎』（井口・笠井著、朝日出版社）に基づき、全調課題を中心に、ハンドサインやリズムのワーク、音名と階名を意識させる教材を用いた。ピアノの個人レッスンでは『おとなのためのピアノ教本』（ドレミ楽譜出版）を主として用い、経験のある学生には適宜より高度な教材を用いた。

授業の問題点

クラス授業では、ピアノ初心者もしくは音楽の苦手な学生に対して十分なケアを行えておらず、全体の進行を優先するために、個々のニーズに十分に対応することができなかった。一人ひとりの学生とのコミュニケーションについても、授業内で質問できるよう配慮がなされていたとはいいがたい。単にピアノの経験の有無だけでなく、音楽の認知という点で一人ひとり多様な状況があるため、学生のリアルタイムの声を聞いて対応するなどの工夫が必要である。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」について、３限、４限、５限の３クラスのうち、３限の回答が 4.14（4.41）、4.11（4.31）と最も低い結果となった。一方、４限の回答は、4.67（4.41）、4.42（4.31）、５限の回答は、4.55（4.31）、4.45（4.31）と、３限に比べて高かった。

授業改善の課題と方策

４限は、「出席や課題提出等はしましたか」では 4.79（4.61）、「授業外学習（予習や復習など）をしましたか」では 4.79（3.78）、「質問や発言をしましたか」では 4.29（3.24）、「ノートやメモ等を取りましたか」では 4.29（4.27）であり、そのことと満足度が関連していることがうかがえる。そのため、しっかりと授業外学習を定着させるとともに質問や発言、ノートやメモへの促しを行うなどの取り組みが必要である。

また、単にピアノの経験の有無だけでなく、音楽の認知という点で一人ひとり多様な状況があり、質問の促しを必ず行うとともに、45 分では時間的に難しいこともあり、フォームで毎回質問を受けアドバイスを行うなど、学生の心理や悩み等にきめ細かく対応することが考えられる。

その他

「音楽実技Ⅱ」では再履修者が多くいると聞いている。そのことの対策が必要である。また、すでに「音楽実技Ⅰ」で欠席超過のために単位未修得者がおり、次年度に再履修者となる可能性があることから、来年度は極力再履修者を出さない取り組みが必要になってくると考えられる。

授業改善書

科目名	幼児理解の理論と方法
担当者	石橋 優美

授業の概要

乳幼児期の発達についての基礎的な知識を学びながら，乳幼児への理解を深め，さらに「子どもの発達にとって大事なものとはなにか？」について考える視点を身につける。
子ども理解の意義や発達と学びを捉える原理，及び幼児教育の今日的課題について概説したうえで，乳幼児期の発達のプロセスについて詳細に解説する。加えて，様々な幼児教育の実践方法を紹介し，それらを理論的及び実践的視点から考察する。

授業の問題点

4 月当初の授業では，学生がノートやメモを取る様子があまり見られず，授業の中での授業者の説明や授業資料に改善が必要であると感じた。
また，今学期は着任直後ということもあり，学生の実態を確認しながら進めたため，4 月当初はオンライン課題の難易度や量が適切でなかった可能性があり，課題の提出率がやや低かった。

学生の授業満足度

おおむね満足のいくものであったと思われる。他の質問項目への回答を見ると，学生にとって，毎回の授業内容，量は適切であり，また，半期を通じて，授業内容に興味や関心を持つことができたようである。これらのことが本授業への評価につながっていると考えられる。

授業改善の課題と方策

5 月以降，学生自身が授業中にノートやメモをとることを積極的に促した。その結果，ノートやメモ等を取ったかという質問項目への回答は，平均点を超えるものであった。今後の授業においても，学生が授業の中で能動的に学習するよう，学生自らメモをとって授業者や他者の話を聞くことの重要性を伝えていきたい。
オンライン課題については，学生の実態に即して，5 月連休以降は量や内容を調整し，提出率も向上したため，来年度以降も継続していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	保育内容（言葉）Ⅰ（火１）
担当者	佐内信之

授業の概要

子どもの発達において「言葉」は、コミュニケーションの手段、行動の調整、考える道具として非常に重要な役割をもっています。そこで、本授業では言葉について子どもが興味や関心を広げ、より良い成長を促すために、保育者が言葉の観点から深く保育について考察できるように講義します。

授業の問題点

授業内容についての評価「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」が、他の項目に比べると低い点数でした（4.21）。これは本学で授業を担当するのが初めてであったため、事前に学生の実態を充分に把握できていなかったことが原因だと思われます。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の点数は 4.46、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.54 と、おおむね好意的な評価が得られました。これは、グループで話し合う活動を取り入れるように意識して授業を構成したためだと思われます。

授業改善の課題と方策

活動中心の授業を行うと学生の満足度が上がることは想定通りでした。けれども、どのような活動の反応が良いのかは、試行錯誤しながら探っていたところがあります。そのため、当初の予定通りには進められなかったという反省があります。保育の意識を高めるためには「言葉遊び」が有効であると分かったため、次年度に向けてシラバスの改善を行う予定です。

その他

専任教員

経済経営学部　経済経営学科

授業改善書

科目名	環境会計論
担当者	吉田雄司

授業の概要

講義は３部構成です。第１部は環境会計の理論を文化的側面等からの講義です。第２部では環境省の「環境会計ガイドライン」について概要を講義しました。そして第３部では実際の企業が公表する「CSR 報告書」や「環境・社会報告書」、「統合報告書」等についてそのケーススタディでした。授業後半 20 分程度は知識の確認として小テストを実施した。

授業の問題点

・問題点は、授業で質問や発言をする学生が少なかったことである。
質問や発言をしましたか　スコア 2.67　（平均 3.24）　反省点である。

学生の授業満足度

受講者数７１人中の 24 人の回答

１．授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
スコア 4.08（平均 4.41）
MOS Teams の課題提出はあまり評価されないと感じた。毎回の対面授業を検討する。

２．全体的に振り返って、授業に満足できましたか
スコア 3.88（平均 4.31）
小テストの正解や、添削が不十分だった。次回はその対応を充実させる。

授業改善の課題と方策

・質問や意見をする学生が少なかったため、次回からは「質問カード」を配布し、そこに記述してもらうようにします。その回答は、次の授業時間で回答する。

・今回は受講者数が多くＡ・Ｂクラス分けをした。このためオンライン MOS Teams の課題提出はあまり良いとは思わなかった。次回からはできるだけ対面授業を検討する。

その他

授業改善書

科目名	金融論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

金融市場や貨幣といった金融のミクロ的側面、バブルや金融政策といったマクロ的側面、銀行の役割や金融規制といった制度的側面そして企業の資金調達といったファイナンス的側面を、それぞれ基礎から学び、金融に関する理解を深めることを目的として実施した。

授業の問題点

グループ分け授業に該当したため、各グループともに対面授業が 7 回、Teams を利用した課題提出方式によるオンライン授業が 6 回、そして期末試験が 1 回という構成になった。オンライン授業である程度の補足はしたものの、対面授業では速いスピードで講義を進めざるを得なかったため、予習、復習が不足した学生には、理解するのが難しかった面があるかもしれない。

学生の授業満足度

学生アンケートの授業満足度は、4.3 程度であった。来期に向けて授業内容を改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

グループ分け授業となったため、時間をかけて丁寧に説明することや前回の復習をすることが、十分にはできなかった。今後は、重要な点をより丁寧に説明するとともに、前回講義における重要な点を復習するなど、学生の理解を深めるための取り組みを強化していきたい。

その他

授業改善書

科目名	財務諸表論Ⅰ
担当者	李　相和

授業の概要

本講義は，企業会計の理論を学ぶものである。授業では、会計諸規則や会計の諸概念を体系的に説明するとともに、主な会計処理問題を会計制度に織り込みながら解説する。

特に、本講義では、企業会計の基礎を理解したうえで、貸借対照表及び損益計算書の原理を中心に解説する。

授業の問題点

・授業中に携帯を触るものが多少いることが気になっている。
・受講者が必ずしも意欲的であるとはいえない。

学生の授業満足度

提出された課題レポートを分析した結果、授業理解度は期待した基礎レベルには達していて合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業内容が難しくならないように、会計の基礎を固めながら、要点解説や新聞などの資料を用いて、わかりやすく説明できるように工夫したい。また、丁寧に話せるように努力したい。

大学生としての自尊心を尊重するが、常識的な授業態度を守って欲しい。

その他

授業改善書

科目名	健康ビジネス論
担当者	一戸　真子

授業の概要

昨今ニーズが高まっている健康ビジネスについて、教科書を用いながら授業を実施した。なぜ今健康ビジネスなのか、コロナ禍の問題も含め、講義した。

授業の問題点

受講者が多く、A,B クラスに分かれての講義となったが、なかな運用がむずかしかった。学生個々人のクラス認識も十分でなく、また隔週になるため、連続性のある内容について、関心が維持できていないようであった。

学生の授業満足度

受講学生は 2 層に分かれており、熱心で関心が高い層と、単位取得のみを目的とする層とに別れており、毎回実施のリアクションペーパーにも満足度が 2 分化している結果となった。

授業改善の課題と方策

授業内容方針には変更する予定はないが、単位取得が目的であり、関心のない学生への対応に今後はより工夫する必要がある。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅰ
担当者	一戸真子

授業の概要

大学生活導入サポートの観点から、教科書を使用しながら読む力、発表する力、文章作成する能力などを修得できるよう演習を実施した。

授業の問題点

大変熱心な学生ばかりであったので、予定通りに授業を展開することができ、特に問題点は散見されなかった。

学生の授業満足度

少々レベルも上げても全員がついてきてくれており、結果も伴っており、安堵している。

授業改善の課題と方策

今後は、更にレベルをアップさせ、学生の潜在的な能力をアップさせられるようにして行きたい。

その他

授業改善書

科目名	国際経営論
担当者	伊藤　孝

授業の概要

日本，アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは，今日，本国のみならず諸外国でも活発に生産，販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は，世界企業，多国籍企業などと呼ばれています。この講義では，世界企業（多国籍企業）の活動を対象として，国際経営を理論的・体系的に解説します。その際，電機・電子企業のソニー，自動車のトヨタ，などの具体的な産業企業（特に日本企業）の活動を事例として取り上げます。理論的考察を具体的な企業事例であとづけながら講義します。

授業の問題点

クラスを A，B に区分したことで，当初予定した授業計画の半分しか進まなかったことは，やむを得ないとはいえ残念でした。第 2 章の販売の国際化については，最も重要な「第 2 節　直接輸出」について説明しきることが出来たことは幸いです。

学生の授業満足度

学生の授業満足度が高いことにホッとしています。ごく一部の学生を除き，私語もほとんどありませんでした。

今回は，3 年次生が，自発的に研究発表を行ってくれました。30 分のプレゼンテーションで見事に自説を披露したことが印象に残ります。私は，何度か事前にアドバイスを行いましたが，本人は良く調べ，大変努力しました。本学部学生の学習意欲の高さを知った次第です。

授業改善の課題と方策

教室授業では，ほとんど質問などが出ないため，授業容についての質問・意見については，隔週の遠隔授業のレポートに記載させました。これについては，今後は，必要に応じて，教室授業の際に紹介して，解説することが必要と考えています。

レジュメ，スライド，統計資料をくみあわせて解説しましたが，スライドについては，図表を入れるなどの工夫が今後必要と思います。

その他

授業改善書

科目名	会計学総論
担当者	大塚浩記

授業の概要

会計学は，企業の経済活動を記録，計算，報告する役割を果たす。その報告は主に財務諸表といわれる決算書を通じて行い，報告対象は企業の所有者である株主のみならず，その企業に関心のある人たちを含む。財務諸表は，一定のルールに従った共通の用語・計算で作成される。本講義では，記帳の対象となる企業の経済活動を知り，それを表す共通の用語などを知ることを第１の目標としている。そして，会計情報の特徴や利用に関連して，会計学の領域を少しずつ紹介する講義である。

授業の問題点

オンライン課題の提出および対面授業の２形態で実施した授業であるが，いずれをも継続的に提出ないし参加できている学生と，そうでない学生との差が大きい。必修の科目でもあるため，後者の学生に積極的な参加を促す工夫が必要である。

学生の授業満足度

インターネットを通じたアンケート実施だったにもかかわらず，回答数も通常の提出・出席状況と大きく変わらなかったため，アンケートの結果は概ね満足できているものだと考えられる。

授業改善の課題と方策

問題点で指摘した通り，受講者のより積極的な受講姿勢を得られるような方策の検討が必要である。平常点を多くし，また中間レポートへの配転も多くしているという，参加するためのインセンティブを増やしているのだが，考え直すとすれば，その内容だろう。

ただし，昨年度と合わせて学生の傾向を考えると，オンライン課題を提出することに難のある学生が多く，自宅での学習姿勢が影響している。これに対する方策は検討課題である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	インターンシップⅡ
担当者	大江清一・大塚浩記

授業の概要

インターンシップⅡは 3 年次夏季以降にインターンシップ（1 日仕事体験を含む）に参加しようとする学生のための授業である。インターンシップは，受講者自らが受入先を選択し、応募し，採用されて初めて参加可能になる。このことから，授業では受講生が実際にインターンシップに参加するため準備等の指導を行う。なお，授業は事前指導と，インターンシップを経験した学生の事後指導とに分かれ，6 月から夏季休業中にかけて，一定の要件を満たしたインターンシップへの参加を単位取得の前提とする。また，民間企業にて採用人事を経験している教員が職種や業界についての基礎知識を講義し，さらに応募（エントリー）に際しては助言や指導を行う。

授業の問題点

この授業を選択する学生の大半は，自らの就職活動を意識して受講しているため，受講姿勢は良い。また，本年度は特に履修者は昨年度の 2 倍を上回る状況だったため，従来のような個別の指導の機会がほぼなくなった。

学生の授業満足度

思ったより回答者が少なかった。また，全体に４を超えているので良いと考えられるが，中でも「全体の満足度」が一番低いところは原因を考えなければいけないかもしれない。

授業改善の課題と方策

この授業では，ことあるごとに「この授業は，他の授業とは異なり，最終的な目標は受講者が 3 年次後半からスムースな就職活動を実践でき，また最終的に自身の満足する内定を得ることを目標としている。」ことを学生に伝えている。この意味を理解して，行動できているかといえば，まだ方向づけられていないかもしれない。特に，今年度は受講生が多かった分，学生個々の対応ができなかったことが上記の満足度につながっているかもしれないことも併せ，方策を検討していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	経済史
担当者	張　英莉

授業の概要

この講義では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（傾斜生産方式)、③高度成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易)、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を解説する。

授業の問題点

アンケート調査の結果を見る限り、受講生は授業内容、授業方法を概ね肯定的に評価しており、これらについては特に修正する必要がないように感じている。また授業満足度も 4.33 ポイントになっているので、今後はこのまま続けていきたいと考える。

今年度は問題点として挙げられるのがレポートの作成についてである。新型コロナウィルスの感染予防策として対面授業とオンライン授業を半々で行っていたが、オンライン授業にうまく対応できず、求められる課題レポートを締切日まで作成・提出できない、または提出できても、引用先を明示しないコピペレポートが散見されている。

授業改善の課題･方策

この問題は学生の文章表現力、理解力・要約力の低下、書くことへの苦手意識に関連しているので、簡単には解決できないと思われるが、次年度は以下のような試みを行ってみたい。

○課題を提示するだけでなく、レポートの趣旨、作成の手順を説明し、参考資料をより具体的に示す。
○前回提出した良いレポートの例を読み上げ・解説する。
○成績評価に占めるレポートの割合を上げる

専門科目の授業時間内でレポートの作成法を解説する余裕がどれほどあるか分からないが、できる範囲内で試したいと思っている。

その他

授業改善書

科目名	経営戦略論
担当者	文智彦

授業の概要

経営戦略の理論と実際について講義している。

授業の問題点

特に大きな問題点はないが、授業外学習と授業内での発言の点数がやや低い。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は、Ⅲ－1が４．７６、Ⅲ－２が４．６５となっており、高い評価である。

授業改善の課題と方策

授業外学習と授業内での発言を増やすための対策を積極的に取りたい。

その他

授業改善書

科目名	経営学総論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営学の基礎を修得する。そのためにはまず組織論の基礎を修得し、企業経営、経営戦略、企業倫理、企業の国際化の順で、経営学で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営学は生きた学問として身につけられなければならない。経営学は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営学の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営学を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、二部制への対応であった。1 回おきにしか受講チャンスがない学生たちに講義するには一挙に多くの内容を講義で話すのではなく、要点をわかりやすく説明することが肝要と思った。
(2)ソーシャルディスタンスをとって座席についており私語は少なかった。

授業改善の課題・方策

【授業内容の改善】

(1)講義内容に対する著しい不満は見られないので、今後も引き続きレジメを用いて、講義中で重要ポイントを強調する方式で講義を進める。また、実務事例は従来以上に豊富に盛り込む。
(2)講義内容に関係する経験談は講義内容を理解する上で必要なものに限って行うように心がける。

【規律の厳格化】

(1)レポートの提出期限は 1 週間をメドにしたが、期限後に提出する学生が散見されるため、その点を改善させる。

その他

(1)マイクの使い方についてコメントがあったので、注意深く取り扱いたい。
(2)レポートの提出頻度に一部誤解が生じたので来期は明確化する。

授業改善書

科目名	経営管理論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営管理論の基礎を修得する。そのためにはまず経営管理の基礎を修得し、経営戦略と経営管理、経営管理の体制、経営管理の対象、国際化と経営管理の順で、経営管理論で取り上げる領域の大半をカバーする。

経営管理論は生きた学問として身につけられなければならない。経営管理手法は日々進歩しているため、基礎講座ではあるが、本講義では経営管理論の最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込む。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営管理論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」に基づく改善ポイントは、講義内容をさらに改善することである。
(2)経営管理論の履修生は 2 年次以上であるので、経営学の基礎知識が修得されているという前提で専門性の高い内容を講義に盛り込んでいる。
(3)経営学総論で説明した内容を折に触れて振り返るよう努力した。学生にリマインドさせる効果はあったと考える。

授業改善の課題・方策

【講義内容のレベル】

(1)経営管理論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野であると考える。
(2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視た工夫を凝らしてはいるが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに改善を加える。

【講義運営】

(1)講義における学生の集中度はさらに改善された。実務の経験談や資料を多用したことが奏功したと思われる。
(2) レポートの提出期限はおおむね守られたが、毎回注意喚起することにより規律づけを徹底したい。

その他

(1)レポートを 15 回提出させることで講義内容の理解レベルはむしろ改善したと思われる。
(2)ごく一部に提出頻度に関する誤解があったので、今後明確化する。

授業改善書

科目名	租税法Ⅰ
担当者	佐藤正勝

授業の概要

租税法の制度、すなわち、消費税、所得税、法人税、等について、授業をした。

授業の問題点

学生にとって、なじみがない内容なので、文字だけのテキストでは、難しかった。

学生の授業満足度

出席している学生は、ほぼ満足しているように見えた。

授業改善の課題と方策

今後、可能な限り、ビジュアルな配付資料も、作成することとしたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	プログラミングⅠ
担当者	村田　嘉弘

授業の概要

コンピューターに関する基礎事項を解説し、その後、実習を通じてPythonの文法とプログラ作成の入門事項を説明した。

授業の問題点

・プログラミングの実習では、少しの間違いでもエラーの続出となる。自分で間違いに気が付く学生もいるが、綴りの間違い、記号の間違い、空白の使い方の間違い、文法の勘違いなどになかなか気が付けず「パソコンが悪い」と言い出す学生たちがいた。
・根気強く学習を継続できる学生は最後まで授業に出続け、試験も合格しているが、根気が続かない学生は途中から出席しなくなってしまった。
・Pythonという言語は正しく分かってしまえば簡単な優れた言語であると感じるが、初めから深く学ばないと混乱してしまう奥深い言語である。学生の中には簡単な言語であると言われているから授業も簡単であろうと思っていた学生もいた。
・多くのことをきちんと説明しないと自分でプログラムを作れるようにはならないので詳しく説明したが、消化不良を起こしたようである。これが授業アンケートの「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」への評価がかなり低いことにつながった。
・情報機器操作の基本を知らない学生たちもいた。

学生の授業満足度

・「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」に対する評価が高めであったのはよかった。
・「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」との問いに対する評価が少し低くなったのは、上に述べた授業の問題点があったためであると考えられる。

授業改善の課題と方策

・今年は講義内容をPowerPointのスライドで提示し教科書も使いながら説明したが、手元に資料がないと入力エラーが頻発すると思われる。そこで来年度はPowerPointのスライドを紙資料としても配布していきたい。
・講義内容が多いので、プログラミングⅡに回せるものはそちらに移動し、更に各回の講義内容の配分を調整することで、授業進度にもう少しゆとりを持たせるようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	企業論
担当者	反田 和成

授業の概要

・本授業では「株式会社」の基本的な仕組みを概観するとともに、現代企業が変化の激しい時代を生き抜くための経営戦略、リスクマネジメント、マーケティング、戦略的提携やリーダーシップについて学び、現実の経営事象を理解する力を身に付けることを目的としている。
・グローバル化の下で大企業が行動する際の特徴や課題についても授業を行う。毎回最新の企業の事例を取り上げながら、基本的な内容を重視し、授業を通じて学生の論理的思考力、判断力、プレゼン力、イノベーション力に必要な発見力や実行力といった能力の向上を図ることを目指している。

授業の問題点

・授業の前半にプレゼンテーションを前提としたグループ分けを行ったが、授業によって欠席者がまちまちだったので、プレゼンテーションの班分けに時間がかかったため、学生同士で打ち合わせる時間が少なかった。
・授業の前半にグループディスカッションを前提にグループ分けを行ったが、欠席者が多い授業では一部グループディスカッションができなかった。

学生の授業満足度

・授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション（一部）、プレゼンテーション、期末試験を想定したが、一部予定通りに進捗できなかったため、学生の満足度は 4.17 であった。
・一方、具体的な事例を踏まえた授業の内容だったので、学生の理解は深まったと考えている。

授業改善の課題と方策

・次年度以降、プレゼンテーションやグループディスカッションは出席者が確定してから、班分けを行い実施する。
・次年度以降もミニレポート、グループディスカッション、プレゼンテーション、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

・特にありません。

非常勤講師

人間学部

授業改善書

科目名	政　治　学
担当者	伊　藤　肇

授業の概要

今期も昨期と同様、受講者を二つのグループに分け、対面授業とオンラインによる遠隔授業とを交互に実施した。学習内容としてはシラバスに記載している内容を順次取り扱ったが、特に社会保障制度についてその基本的な枠組みを理解するために「保険」という制度の仕組み、あるいは「社会保険」という場合の「社会」が意味していることなど基本的なことから確認していった。また、遠隔授業の際の課題としては我々人間が生きていくうえで必要不可欠な「水」をめぐって「公共財」「コモンズ」といった用語についての考察に取り組んでもらった。

授業の問題点

コメントに「声が小さく少し聞き取りにくかった。」とある。当初の見込みより受講登録者が多かったため、二つのグループに分け対面授業の出席者数を半数にしても「密」の状態になることから学期の途中で大教室に移動して対面授業を実施することになった。コロナ禍の中ではマスクは必須、さらにフェイスシールドを装着しての講義だったため、後ろの方の席に座っている受講者にとってはたしかに聞き取りにくかったかもしれない。ただ、フェイスシールドを装着しているからと言ってあまりに大きな声を出すのは憚られ、かといって、後ろの席に座っている学生に「前の席が空いているからそこに座るように」という指示を出すこともためらわれた。マイクを使用することも考えたが、教室が替わった際に「聞こえますか」と確認した際には大丈夫との反応だったのでマイクを使用することなしに授業を実施した。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」　4.27(平均 4.41)
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」　4.16(平均 4.31)

学習内容も受講者数(担当者一人あたりの受講者数)も異なる教科を平均点と比較することにあまり意味はないように思われるが、データとしては平均点以下である。ただ、回答者の多くが「5」「4」あるいは「3」と回答していると推測できるのは少々意外である。もっと低いスコアを予想していたからであり、改めて「満足とは?」と問い返してみたい。

授業改善の課題と方策

上記の「授業の問題点」に関連することであるが、学生としては不満な点があったとしても担当者に直接告げるのはなかなか勇気がいることと思われる。この授業評価アンケートもしばらく前から紙の用紙に記入するスタイルからスマホなどの端末を利用した方式に変わり、その点ではさらに思っていることを気楽に記入できるようになったと思われ、また集計する側も多少は手間がかからなくなったのではと考えられる。(担当者の方には「そんなに軽く言うな」と言われてしまいそうではありますが…)であるならば、毎回学期の終盤になって実施されているこの種のアンケートをたまには学期の折り返し地点で実施してみるとか(担当者しては途中から軌道修正が可能になる)、学生が不満な点があればより迅速に担当者に伝達できるようそのルートは常にオープンにしておくなどのアンケートの実施方法自体の改革も必要なのではないかと思われる。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅰ
担当者	大山健一

授業の概要

１年次必修科目の春期（前期）科目であった。全１５回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、最終課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

前年度と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとした。その結果、「質問や発言」が 3 以下というアンケート結果になり、4 を超えていないことから、発音指導が求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

前年度と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。今期に関しては、自由記述の回答から、「英語は苦手でしたが、友達と話し合って答えを出せたのは自分なりにためになった点」「面談をすることによって、一対一で話し合えることが良いと思った点」が満足度に繋がったと考えられる。

授業改善の課題と方策

前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要性がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

FD 活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。

ＡとＢとのグループ分けも可能であったが、教室の収容人数から合同で実施した。対面授業の利点を意識し、アクティブ・ラーニングを可能な限り実施しつつ、特に大学１年生ということから学生同士のふれ合いや対教師への関係性を構築、面談による英語学習へのアドバイスを実施する必要があると考えられた。一方で、定期試験ではなく、最終課題を課すことを実施し、毎回の対面授業が負担にならないように配慮した。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（英語）
担当者	大山健一

授業の概要

３年次必修科目の春期（前期）科目であった。ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。教科書を基に、小学校の教育実習の準備を目標とした。評価方法としては、発表、模擬授業・指導案、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

授業は、教科書の内容を基に、対面授業においては、グループ発表を実施した。一方で、オンライン授業においては、グループ発表を聞いてのディスカッションに答えるもの、または教科書の内容を纏めるものを実施した。グループ発表においては、レジュメを作成した上での発表のため、見るだけで確認が可能であった。その結果、「ノートやメモを取る」が 4 を超えていないことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。

その他

PC 教室の収容人数から、ＡとＢとのグループ分けとなったが、学生一人ひとりへの指導が細かく行き渡っていなかったと実感している。理由として挙げられるのは、３年次必修科目のためか、履修学生が多く、学生からの質問に答える程度の指導になりやすかったためである。また、模擬授業の実施が最終目標であっても、その模擬授業をするための事前知識を身に付けさせるための時間が多く必要であった。これら２点の理由から、教科書の内容を理解させた後の模擬授業となるため、模擬授業のフィードバックの時間をどのように確保するのかを検討しなくてはならない。

２年次選択科目に「子ども英語」が設置されているが、大半の学生は同一曜日・時限に必修科目が設定されていることから履修が不可能のようである。そのため、模擬授業をするための英語力を習得させる機会をどのタイミングで設けるのかが早急の課題であると考えられる。

授業改善書

科目名	情報処理（文書の作成と表現）
担当者	坂本明子

授業の概要

演習形式の授業形態により、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、情報化社会における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、キーボードタイピング練習、電子メールの受・発信などの基礎的な知識と技能について指導した。MOS Word2019 の資格試験に合格することを目的とし、試験対策用教材に取り組んだ。具体的に、Word の文字、段落、セクションの文書設定、表とリストの作成、画像、SmartArt の挿入、参考資料の適用について指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く、出席が良かった。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業アンケートの学生による意見に「分からなかったところがあった際、すぐに駆けつけてくださって丁寧に 1 つずつ分かりやすく教えてくださり良かった。また、演習の時間で個別指導も充実しており良い授業であった。」「課題提出の確認ができるサイトがあってとてもありがたかったです。」「レポートを作成する際にとても活用できることをたくさん学びました。」「すごく受けやすい授業でした。進行度もちょうどよく毎回明確な目標もあったので意欲的に取り組めました。」「わかる人はどんどん進んで、わからない人（箇所）からの質問を受けるスタイルがとてもよかった」とコメントがあることから、満足が得られる授業が展開できたと考える。

授業改善の課題と方策

さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ。学びをふり返り、自分の変容を知ることのよって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業改善書

科目名	**英会話Ⅰ(初級)**
担当者	**シーハン小田 早苗**

授業の概要

初回のみ AB グループ分けにより Teams でのスライド動画学習を取り入れましたが、その後の授業はすべてグループ分けのない対面授業を行いました。対面授業では、感染予防対策を講じながら、コミュニケーション実践のためのさまざまなアクティビティや演習を行いました。また、自分の考えを英語で積極的に表現するための訓練として、プレゼンテーション課題にも取り組みました。

教科書にある英会話の学習内容にとどまらず、高校までに学習したはずである文法事項や重要単語の復習を加えるとともに、実践的なコミュニケーションで必要となる語用論的視点に立った説明演習も随時加えながら、体系的な授業展開を心がけました。

授業の問題点

英語に対する苦手意識の強い受講生が多いため、そのような学生のモチベーションを高め、集中力を維持させることに苦慮しました。また、１つのクラスの中で学生の能力差が大きいため、そのバランスをうまく取りながら授業を展開していくことに毎回細心の注意を払いました。同じ内容のアクティビティを実施しても、クラスにより学生の反応がかなり異なるため、費やす時間量やアプローチ方法に調整工夫が必要でした。

学生の授業満足度

受講生に英語学習の楽しさを実感してもらい、今後の英語学習につなげることが最優先項目であると常に意識しながら授業を進めましたが、授業満足度に関するアンケート回答で 4.63～4.90 というデータ結果が出たことにより、一定の満足と達成感を与えることができたのではないかと受け止めています。

春期授業を振り返るリフレクションを期末に書かせたところ、「嫌いだった英語が楽しく学べた」「同じ意味であっても、その場の状況に応じたさまざまな表現を使い分ける必要があることを学べてよかった」などのコメントが多くありましたので、今後の英語学習にポジティブにつなげることができるのではないかと思います。

授業改善の課題と方策

受講生の能力差が大きく、特別な配慮を必要とする学生もいたため、そのような学生をしっかりとフォローしながら、いかに上位の学生に高度な学問的刺激を与え続けることができるかが今後の改善課題であると実感しました。

コミュニケーション重視の授業であるため、教師からの一方通行ではなく、学生からの発信を重視するアクティブラーニング形式の授業を展開するよう努めます。また、将来ビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のためにビジネス実践英語を紹介しつつ、将来小学校等で英語を教える立場になる学生のためには英語教授法の専門的知識に基づいた指導法も適宜紹介し、それぞれの学生が自ら将来のビジョンを描きながら学習することができるようにサポートしていきます。

その他

授業改善書

科目名	英語（見て聴く英語）
担当者	染谷昌弘

授業の概要

タイトルにある通り、基本的には英語を見て聴く授業です。The World Heritage（世界遺産）に関する DVD を観ながら、異文化に関する総合的な理解を高めるとともに、テキストにある様々な問題を解くことによって、Listening, Reading, Speaking, Writing のいわゆる英語の４技能を磨くことがこの授業の目的です。

授業の問題点

リスニング力の養成については、ノーマルスピードの音声を聞き取ることができるようになるには授業内だけの練習では限界があるので、普段から英語音声を聴く習慣を身に付けさせることが肝要です。映像と音声の関連性から内容を推量する能力も同様で、普段から映画などの英語音声に興味を持ち、積極的に楽しくそれに接するように促す必要があります。授業中においては、ペアをつくりリスニング箇所を音読させたり、リスニング箇所を細かく切って聞き取りやすくしたりと今年度も若干の工夫をしたつもりだが、さらなる工夫を考慮する必要がある。異文化に対する理解と関心を育成すること関しては、課ごとのテーマに関して、議論させたり、発表させたりするような発展的な活動をさせる時間が、コロナの影響もあり、今年度は全く取れなかった。このことは、引き続き、今後の授業の課題となる。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとってえるところのあるものでしたか」については(4.08)、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については(4.17)とほぼ平均並か若干少なめの数字となっている。今後も学生自身が満足感を覚えるような授業展開を模索するつもりである。

授業改善の課題と方策

今後も引き続き、課ごとに小テストを行い、基本的な英語問題の理解と定着に努めるように促す。さらに、授業以外でも、普段からリスニングなど実用の英語に触れることを習慣とするように指示する。その他、ＤＶＤの内容の理解を要点を絞って簡潔に解説することで、時間の節約をはかりたい。そのために、ＤＶＤのスクリプト原稿を配布して、読解をすることで、リスニングの大きな援助になるように工夫する。また、内容の理解の効率を上げることによって、テキストの趣旨に沿った課題の議論や研究発表など、さらに発展的な課題に取り組む時間が生まれるようにする。このことに関しては、依然として大いに改善の余地があるようだ。今後とも学生との意思疎通をはかりながら、おもしろいと感じてもらう授業運営をはかり、それが、英語の習熟度を高める助けとなる、そのような授業を目指したい。

その他

授業改善書

科目名	数学(線形代数基礎)
担当者	寺澤信雄

授業の概要

線形代数学は、一言で言えばベクトル、行列の学問であり、数学分野では極めて実用的な学問である。本講義では、ベクトルと行列の概念から、それらの演算について解説する。他分野への応用を視野に入れながら、現実的な演算能力を養うことを目標としている。取り扱うテーマは、行列式の定義とその性質、応用、行列の概念とその演算および、正則行列、逆行列の概念と一次方程式などへの応用、固有値、固有ベクトルの概念と応用、行列の関数と関数の行列、数ベクトル空間などである。

授業の問題点

学習意欲が一部の熱心な学生を除いて一般に低く、苦慮している。線形代数学は論理的思考力を養うばかりか、基礎的な演算手法は現代のあらゆる場面に応用されている。従ってこれを習得する事は社会人にとって大きな力となるが、残念なことに学生の学習意欲が一般に低い。

学生の授業満足度

熱心に学習する学生が次第に増えつつあり、必要な学力を獲得できたと思われる成績を上げるものが増加傾向にある。これは本学の学生が線形代数を習得するに十分な基礎力を有している事を示している。また、講義内容が大学教育として、必要かつ適正なレベルであることも示しており、多くの学生に満足してもらえたと考える。

授業改善の課題と方策

習得できているかどうかは別として、線形代数学を通して論理的思考力を養える様、また実際的な計算手法を少しでも習得できる様、例題の解説に特に力をいれて講義した。成績評価を厳格にするのが望ましいと思うが、その場合多数の不合格者を出すことになると予想されるので、実行に躊躇をおぼえる。

その他

今年度はコロナウィルスの感染が広まって、前半は対面授業ができなかったが、その間、オンライン授業に参加したのは約 20 パーセント程にとどまった。学生のオンライン環境を充実させる必要があると考える。例えば、入学時にタブレット端末を全員に支給、もしくは貸与し、通信環境も整えたうえで、リモート授業の講習を行ってはどうだろうか。

授業改善書

科目名	社会学Ⅰ
担当者	中村　牧子

授業の概要

社会学を初めて学ぶ学生のために、身近な社会現象を社会学的に考察するしかたを紹介していく授業である。各回に 1 つテーマを定め、それに関連する重要概念、既存研究の動向、現代社会で起きている諸現象の理解しかたなどを、具体的事例に即して学んでもらっている。今回は、コミュニケーション分野からは異文化間コミュニケーション、流言の社会的影響、ネット環境の可能性と危険性などを、また家族分野からは未婚化と単身者増加の問題、少子化、DV や子ども虐待の問題などを取り上げた。対面授業、オンライン授業いずれも、資料や説明を踏まえた社会の現状認識とそれについての自分の意見を、整理して書けるようになることを目指した。また、参加者の意見は次回授業で必ず紹介するようにして多様な見方に触れてもらうようにした。

授業の問題点

学習態度については、ノート取りはきちんとできている学生が多いが、それに比べて授業外学習や質問・発言のスコアは低い。全体として、受動的な学習態度になっていることが窺われる。
授業内容・方法については、興味が持てた、授業方法や資料がわかりやすい、テーマが明確等については高評価である反面、学生からの質問への対応の項目は低めである。

学生の授業満足度

授業の内容に得るところがあったか、満足できたかについては、評価されているようである。日常的に経験する身近な社会現象を取り上げたことや、統計等だけでなく具体的事例や記事を多めに紹介したことで、わかりやすかったのかもしれない。

授業改善の課題と方策

学生の受動的な学習態度が主要な問題である。これについてはまず、もっと自発的に調べたりまとめたりする機会を設けることが必要と思われる。例年ならば、授業が半ば進んだところで、各自で資料集めをして作成したレポートを提出してもらうのだが、今期は対面授業が半分しかないためその機会が作れなかった。オンラインで類似の課題を出したが、検索や編集のスキルによって出来に大差ができてしまい、全体的に自主的学習、授業外学習が浸透するまでには至らなかった。この点は、今後工夫したい。
もう 1 つは、大教室授業のために個人の発言機会が少ないことへの対応である。オンライン授業になってから、メールを介した個別の質問・意見はやや増えており、対話も可能であるため、こちらの活用をもっと呼び掛けていく方法が考えられる。
　ただし、オンライン授業を殆ど利用せず対面授業にだけ出ている学生もいるため、現状では、呼びかけの対象が限定されてしまう恐れがある。今回のアンケートも、対面授業に出ていた学生の 30 名前後がオンラインでの回答作業に参加できていないことが後日判明した。(紙媒体による回答の可能性を示しても、大教室では名乗り出にくい様子)。よってまず必要なのは、個々の授業を超えた大学全体として、オンラインスキルのサポートに、何らかの形で取り組んでいくことであるように思われる。

その他

授業改善書

科目名	法学入門
担当者	宮島　薫

授業の概要

2008 年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は法学入門、民法の２科目の担当をさせていただいております。法学入門につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点は助けられています。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても、担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。なお、今年度も１コマのみの開講となりました。(開講当時は２コマ体制で、履修者が 100 名を切ると１コマになりましたが、今回は、当初 237 名でのスタートでしたがコロナ禍による教室不足もあり、そのままでした。この点も、改善必要点かもしれません。)

授業の問題点

一般に、専門外の科目の場合、担当者との距離感に学習意欲や満足度など、生身の人間である受講生の側の反応が左右されがちですが、コロナ禍ということで、Ａ班、Ｂ班、リモート、となり、中々直接顔を見て講義、ということができない以上、原点に立ち返って、少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないようにという点もです。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「4.58」→シラバスとの一致度「3.99」→満足度「3.78」とあり、昨年度は、出席「4.52」→シラバスとの一致度「3.89」→満足度「3.90」という結果でした。２コマ体制から１コマになったものの、科目としての総履修者数は、概算で 145 名から 217 名となり、いわゆる・人口密度の問題も関係するかもしれません。例年、人口密度の高い・窮屈感が、不快指数の増加につながることも考えられますので。学問の場でもある授業が、うれしい、楽しい、ばかりではないかもしれませんが、この点も交えまして、今後の検討課題とさせていただきたいと思います。なお、評価の低さとは逆行する形で、意見には、好意的なものも見られました。

授業改善の課題と方策

教室は勉強・学習の場であるということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場で、かつ卒業後には学生各人が社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどう授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。具体的に書く作業、声に出して読む作業などメリハリをつけるようにし、ある意味正当なライバル意識などは学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけています。まずは、学生一人一人の顔を見て講義するようにしています。

その他

今期は、初めて平均点という表記がされ、これをどう活用すべきなのか。又アンケート実施日の講義出席者が 67 名（Ｂ班・7 月 6 日)、70 名（Ａ班・7 月 13 日）で回答者総数が 93 名という事実をどう改善するか、コロナ禍における大学教育の在り方を大学とともに、模索すべきかと思います。徒に点数稼ぎはすべきではないでしょうが、未回答部分が賛成に回れば点数も結構変わると思いますので。この点今後の検討課題とします。

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田 純一

授業の概要

MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容はすべて指導した。毎回の授業で課題を提出してもらい、理解していることを確認して、不十分な点があれば次回以降の授業で補足説明を行った。課題は、教科書だけでなく、社会に出ても役立つような実践的かつ最新のデータも取り入れ、役立つことをイメージしやすいようにした。

授業の問題点

３クラスを担当したが、いずれのクラスでも「テキストなどの資料は適切でしたか」の項目が平均に比して特に評価が低い。上述のようにテキスト以外の課題を出した影響と思われる。

また、授業内容が易しすぎると感じるためか、予習復習が不要で質問するまでもなく理解できると感じた学生もいたようである。

学生の授業満足度

授業の満足度は、4.47～4.92 ポイントであった。次回も、基本的には授業内容を変えずに継続していきたい。

授業改善の課題と方策

テキストについては、使わない回もあったことから、テキストを使わず、すべてオリジナル教材で授業を行う方向で検討したい。その分、いくつかの参考図書を紹介する。

また、Excel の学習経験が豊富な学生も少なからずいたことから、授業は初心者向けに実施するものの、社会応用や一歩進んだ内容についても軽く触れられるように工夫していきたい。

その他

授業で使った資料はすべて Teams に掲載して自習できるようにしたが、やはり欠席すると理解度が下がるようである。できるだけ欠席が少なくなるよう、興味ある題材を使うようにしたい。

授業改善書

科目名	韓国語Ⅰ
担当者	李芝善

授業の概要

「韓国語Ⅰ」初級では、主に文字の読み書きができるように指導しながら、日本語との言語的差異や文化的背景などを取り上げ、韓国語はもちろん、自国の文化をも知ることを目指した。また、韓国文化への興味と理解を深めるために言葉で説明するのみならず、ドラマ、映画など視覚をとおした理解を積極的に図った。

授業の問題点

受講人数も多く、オンライン希望者が何人かいたため、オンラインと対面授業を併用して行ったため、学生のネット環境によっては対応に多くの時間がかかる場合があるなど、すべての学生に指導が届かなかったのではないかと気になっていたが、アンケート結果を見ると、今まで通り授業を進めても問題はないと思われる。

学生の授業満足度

アンケート結果、多くの学生が韓国語に興味を持ち、韓国語Ⅰで目指した文字の読み書き・自己紹介など、全体的に授業が理解でき満足できる授業であったと思われる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍に合わせ、自習を楽しませる方法がないか考え、自習に積極的になるように改善したい。

その他

今後も多くの学生が満足できるようにより良い授業を目指して最善を尽くしたい。

授業改善書

科目名	フランス語Ⅰ（初級）
担当者	市橋 明典

授業の概要

この授業ではフランスの豊かな文化を学ぶとともに「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにする。
プリントと映像を使い、ビデオ教材である『彼女は食いしん坊』の内容に沿って簡単な会話練習を行う。基礎的な文法の学習に基づく練習問題をこなすとともに、実践的なコミュニケーション能力を養うべく単語集を使った語彙の補完につとめる。また、教科書のトピックに合わせて随時フランスの文化について学習する。

授業の問題点

2021 年度前期の授業は前年度に続きコロナ・ウイルスの蔓延が原因で最初の２週間は隔週のオンライン形式で行われた。今年度は特に Microsoft 365・Stream で授業動画を閲覧してもらうなどの工夫をしたものの、初心者にとって対面授業の中でさえ理解が難しい第二外国語をオンラインで学習することは極めて困難であった。その後十分な感染対策のもとで対面授業が行われたが、遠隔授業による学習プログラムの遅れが影響したことは否めない。

学生の授業満足度

前期最初の２週間は隔週の遠隔授業になり、後の対面授業においてその内容を復習する必要があった。従来の学習プログラムが大幅に遅れたため、アンケートにおける「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していたか？」の質問項目では満足度のポイントが若干落ちた。また、レッスンの遅れを取り戻すために課題の量を増やした結果「毎回の授業は適切な内容や量であったか？」の質問では履修者の満足度が同じく下がった。ただしその他の項目に関しては、データを見る限りでは、受講生の満足度は比較的高かった。

授業改善の課題と方策

外国語初級の学習において、発音等に関する受講生それぞれの理解度を把握するとともに、分かりやいプレゼンテーションを心掛けて学生一人一人に対する細やかな指導を行うことは、学習の基礎固めをする上で重要である。それだけに、状況が許す限り万全の対策を講じた上で、対面授業を今後とも実施する。また、Stream を使用したオンライン授業を行うにあたっては、学生の学習意欲が高められるようにオンデマンド授業の方法をみなおしていく。

その他

授業改善書

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	王振宇

授業の概要

この授業では、中国語の発音、基本単語、基礎文法を習得し、教員やクラスメートとの会話練習を通して日常生活で最もよく使われる中国語の基本的表現を身につける。また、中国関連の紙資料、視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化、中国歴史などに対する理解力を高めていく。

授業の問題点

今学期は新型コロナ感染症の防止策を講じており、授業中の発言や発音を控えるようにと受講生に理解を求めた。そのため、授業アンケートの「質問や発言をしましたか」の問いに対する答えが 3.56 であり、比較的に低い点数であった。いかに安全な学習環境を提供しながら、発音練習を行うのかは大きな問題点である。

学生の授業満足度

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」と「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の問いに対する回答はそれぞれ 5.00、4.67 となっている。また、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」の回答は 4.78 であり、やや高い評価であった。

授業改善の課題と方策

コロナの感染状況が続く状況で、教室での会話練習をいかに行うかは大きな課題になると考える。

その他

授業改善書

科目名	社会調査論
担当者	春日清孝

授業の概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義においては以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業の問題点

講義内容についての問題点はとりわけ存在しない。
ただし、履修登録時以前のガイダンス時に、この講義の特性と履修上の注意（「講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことを求める」）ということを丁寧に説明し、責任主体として受講するように学生に求めることを今後は強調したい。

学生の授業満足度

授業内容に興味関心を持たない学生が多いようだが、現時点での大学生活を基準にするのではなく、特に大学卒業後の生活がどのようになるのかを理解・把握させるような事例を多用し、そのような状況をいかに主体的に生きるかを引き受けられるような講義内容を展開したい。

授業改善の課題と方策

社会調査という講義においては、社会に向き合うことが絶対的な条件となる。そのために、今後自身が一員となるべき社会の問題や話題、事象や制度を取り扱っても、そこに積極的な価値を見いだすことができなければ、向き合うこと自体を先送りしてしまう傾向も生じる。根本的な認識論に踏み込んだ講義形態が必要であろう。

その他

ICT をはじめとしたオンライン環境をもっと活用していくことができれば、社会調査論については学習効率が飛躍的に伸びる可能性もある。インフラとしてそれを使いこなせる環境を期待したい。

授業改善書

科目名	人文地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

今年は履修者が多く、またコロナの影響のため、2 グループに分けての授業となった。対面授業とオンライン授業を同時並行で実施し、グループごとに交互に受講する方法で授業を進めた。オンライン授業は YouTube による動画視聴型の授業とした。いずれに授業においても、地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして授業を進めた。

授業の問題点

コロナの影響もあり、ほとんど出席しなかった学生もいた。授業開始当初は、対面授業とオンライン授業を交互に繰り繰り返して受講することが定着しなかった。対面授業は例年と同様であったが、オンライン授業はただ授業動画を見ているだけという学生もいたようである。また Microsoft Forms を利用し、授業内容の質問と授業の感想を書き、提出させることで出席確認の代替とした。しかし提出を忘れてしまうといった学生も少なからずいた。

授業の難易度は決して高いものではないが、基礎的な地理の知識が不足している者も少なからず見受けられた。

学生の授業満足度

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントで進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

授業改善の課題と方策

対面教室での授業の場合、一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。オンライン授業の場合は、Microsoft Teams を効果的に使用する方法を検討したい。

その他

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

大人数の授業のため、一方通行になってしまいがちである。アンケート結果を見ても、「質問への対応」に対する満足度が若干低くなっている。登校授業で出してもらう質問用紙や、オンライン授業でのコメントなどに書かれている質問には、授業の中で極力答えるようにしてきたが、隔週登校の授業形態の影響もあってか、学生が満足のいくレベルには達していなかったようである。オンライン授業のレポートを Forms にしたのも、一方通行感が増してしまった原因かもしれない。ただし、レポートを双方向のものにしたからといって、人数的にすべての学生に対応しきれるかどうかは難しいところである。

学生の授業満足度

概ね、高い満足度を得ていると見受けられる。オンライン授業との併用であったが、登校授業の際にオンライン授業の補足説明があってよかったという感想が多い。オンライン授業も、読む資料だけでなく、解説の音声をあげたのがよかったと思う。質問に対する対応については、上記で延べたとおり、充分でないと感じた学生もいたようである。

授業改善の課題と方策

メールなどのツールが発達していることもあり、教師と精神的に近い距離で学びたい、あるいはパーソナルなやり取りをしたいという学生が多くなっているように思う。質問への対応について、授業の中で触れるだけではなく、もっとメールを活用してもよいかもしれない。今学期も、個別のメールを送ってきた学生は何人かいたが、より窓口を広げ、積極的な学生がどんどんと学んでいけるような仕組みを作っていきたいと思う。

その他

登校授業とオンラインとの併用スタイルはある程度、枠組みが確立できたと思う。今後もこのような形態になった場合、今年度の実績を活かしてより満足度の高い授業を実践できるようにしたい。

授業改善書

科目名	西洋史特論Ⅰ（アメリカ史）
担当者	武市一成

授業の概要

ピューリタニズム、フロンティア、奴隷制度等、アメリカ史の基本事項を学ぶとともに、アメリカ合衆国と言う存在を、アジア（特に日本）との関係で学ぶこと。

授業の問題点

何より、分散登校となったのがネックであり、A グループと B グループにたいして、基本的に同一の授業を行った関係上、コンテンツが半分となり、それをネットで十全に補うだけの労力を発揮することは、現在の環境では非常に困難と感じた。昨年は、最初から遠隔授業であったので、計画的にレポートを課して、補うようにしたが、今年度は一応対面授業が成り立っているために、昨年のように定期的にレポートを課すようなことはしなかったが、本来は小テストのようなものを課して補う措置をとるべきであったとも感じる。

学生の授業満足度

全体として平均をわずかに下回っているケースが多いように思うが、そのあたりは、上記の「授業の問題点」で述べたことが関係している可能性があると考えている。

授業改善の課題と方策

今回は、ネットのコンテンツを積極的に使用するようにしたが、テレビ画面に映し出す方法にしたために、画面が小さい関係上、後ろに座っている学生には見づらかった可能性がある。来年度は、配布資料と共に、パワーポイント資料を積極的に使用することも考えてみたい。

その他

コロナが収束して、分散登校が回避され、対面で最後まで行われるのがベストである。その点、政府の奮闘に期待したい。

授業改善書

科目名	地域文化論Ⅱ（南北アメリカ）
担当者	武市一成

授業の概要

アメリカ州の地理的概念を頭に入れた上で、アメリカ合衆国とカリブ海地域における、奴隷制や植民地主義の関係を学び、また、アメリカ合衆国を中心における人種や民族をめぐる諸問題を学び、差別や排外主義の問題を考えること。

授業の問題点

今回は、例年と異なり、香港を授業の中に加えて、アヘン戦争、日清戦争、アメリカのフロンティア開拓、カリブ海のプランテーションの間の繋がりを提示しようとした。したがって、テーマの提示にもっと時間をかける必要を感じた。

学生の授業満足度

上記で述べた問題点が、学生の反応にも表れているように思う。

授業改善の課題と方策

たくさんの項目を詰め込むより、テーマを絞り込んで、各々に十分な時間をかける方が良いと考える。また、今回は、コンピューターを使用して、ネット等の映像コンテンツも使用したが、テレビ画面にそのまま映し出す方法をとったため、画面が小さく、後ろに座っている学生には見えにくかった可能性がある。プロジェクターにスクリーンを使えば、それはある程度解決できるのだが、準備に時間がかかり、機動性に欠けるのが問題である。来年度は、基本事項をパワーポイントに映し出して、プリントを併用するような形で授業が出来ないか検討したい。

その他

コロナが収束して、分散登校などにならず、平穏に対面授業が行われることを望む。政府の奮闘を期待したい。

授業改善書

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級）
担当者	手嶋　直彦

授業の概要

初級ドイツ語の 3 分の１くらいを教科書に沿って学ぶ、という予定だったのですが、AB に分かれての隔週対面、という形式で、オンラインの方は教科書とは別に会話表現を学ぶ、というかたちにしました。したがって教科書の方は予定の半分くらいしか進んでいません。

授業の問題点

オンラインだけで対面と同じ内容の授業をするのはドイツ語のように発音しながら進むべき教科では難しく、結局進度が遅くなるのはやむを得ないのかな、と思います。

学生の授業満足度

学生は去年よりはオンライン授業の対応に慣れているようで、満足度は例年とあまり変わらないようでした。

授業改善の課題と方策

もう少し進めるようにしたいのですが、なかなか難しいですね。オンラインで課題を指定して対面で答え合わせをする、という形式にすれば少し早くなるかもしれません。

その他

分割しなくてもよい状態に早くなるといいですね。

科目名	東洋史資料講読
担当者	中村麗衣

授業の概要

実際に資料を読むことによって、歴史をみる筋道と視角を養い、史料の信ぴょう性について判断することを習得することを目的とする。インドのM.K.ガンディー本人が120年前に書いた冊子を取り上げる。120 年前の世界情勢、インド、イギリス、日本はどのような状況だったのかを理解しながら、ガンディーの訴えたかったこと、現代的意義を考えていく。歴史的背景に即して考えることによって、表現の奥にある思想を読み解いていく。

授業の問題点

3	質問や発言をしましたか	3.00 (3.24)
4	ノートやメモ等を取りましたか	4.15 (4.27)

ここが平均値よりも低いことが問題である。

学生の授業満足度

Ⅲ授業満足度について		
1	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか	4.74 (4.41)
2	全体的に振り返って、授業に満足できましたか	4.78 (4.31)

授業改善の課題と方策

授業前に必ず資料を読んで、要約とガンディーの意見、自分の意見をまとめて提出させているが、次回は授業後に提出させることにし、自分の意見を口頭で発表してもらうようにする。

その他

特になし

授業改善書

科目名	英語圏文学概論
担当者	新堀　司

授業の概要

この授業のテーマは、ユーモアを通して学ぶ英語圏（特にイギリス）文学である。このテーマのもと、イギリス文学における主な作家・作品を取り上げ、英語表現を学ぶために作品の一部抜粋に触れつつ、その文学世界を講義する。文学にまつわる基礎的事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。(本年度の場合は、クラスを二つに分け、面接授業とオンライン授業を隔週で交互に実施した。)

授業の問題点

令和 3 年度の春期授業アンケートの集計を見ると、「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」 の項目中の 3 「質問や発言をしましたか」の結果が、2.85 と低かった点である。

学生の授業満足度

アンケートの集計によると、「授業満足度について」の項目の 1 「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の結果が 4.41、2「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の結果が 4.39 であったことから考えると、学生から一応の評価を得たように思われる。

授業改善の課題と方策

質問や発言の少なさが問題ではあるが、例年とは異なって面接授業が 2 週間に 1 度であったために、質問や発言の機会が少なく、加えて、面接授業の内容項目も例年よりが多かったために、質問や発言を促す時間をとることができなかったことが影響しているように思われる。例年のような状況になれば、指名したりして、質問や発言を強く促すようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料購読（近世）
担当者	福澤　徹三

授業の概要

現在の日本近世史の通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義を行う。学生には、史料から歴史像を組み立てていくおもしろさを味わってもらい、時には、より専門的な史料を読んでいくことにより、より深く、立体的な歴史像を学生が持てるような授業を行うことを目的としている。

今年は、履修学生が教室定員の半数を超えたので、Ａ・Ｂグループに分けて授業を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、シラバスに記載していた見沼通船堀の見学は中止した。

授業の問題点

Ａ・Ｂグループ分けのため、一昨年度に比べると３／４程度の内容となった。

中間試験が授業時間数確保のため行えなかったことが原因だと思うが、基礎的事項の理解が後半にずれ込み、いつも以上に成績が「まばら」になってしまった。それでも、期末試験で満点に近い点数を取った学生が複数いて、Ａ・Ｂグループ分けでも十分な理解度に達することが可能であるということもわかった。

学生の授業満足度

Ⅲ授業満足度は、両項目とも４．５６と４・５１であり、学生にはおおむね満足してもらえたと考えている。

授業改善の課題と方策

「質問や発言をしましたか」の項目が、２．９５であった。例年は、解答を板書させ、史料の歴史的意義を考える場面で学生を指して意見を聞いていたが、今年は進度を気にするあまり、まったくできなかった。反省点として、来年度改善したい。

その他

新型コロナウイルス感染症対策として、教員はマスクを装着して授業を行った。学生もマスクをきちんと着用し、着席位置も守って協力してくれた。授業態度は、例年以上にとても良いものでした。

授業改善書

科目名	中国語Ⅰ（初級）
担当者	李小捷

授業の概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌などを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業の問題点

1. コロナの影響で学生たちがマスクをつけたまましか発音練習ができないです。口の形や発音の正確性を確認しにくくなります。
2. 学生たちは授業外の学習が（予習や復習など）少し不足しています。
3. 5時限の授業は学生たちは少し疲れて、眠くなってしまいます。

学生の授業満足度

学生の授業満足度は4.65に達しました。

学生たちが中国語を取った理由は「アルバイト先で中国人とコミュニケーションを取りたい」、「将来の仕事にきっと役立つ」、「中国語は漢字を使うため、英語より馴染みだと思って、この授業を取った。」などです。このようにほとんどの学生が積極的に受講することができました。学生による主な意見は「発音は難しいけど、面白い授業でした！」です。

授業改善の課題と方策

学生たちが予習と復習不足で、また遠隔授業を自習する効果が対面授業と比べて低いかもしれないので、新しい授業の内容を理解しにくくなることにつながると思います。ですから、本学期から対面授業にまず三十分で先週の遠隔授業の内容をもう一度一緒に復習してから、新しい内容を学ぶことになりました。このように学生たちも安心して授業を受けることができました。これからもコロナ時期はこのように授業を行いたいと思います。

コロナ時期は学生たちがマスクを外して声を出して発音練習ができないですが、少しマスクを下に下げて、声を出さずに正しい口の形をまねして、またマスクを戻して、声を出して、発音練習することができます。これからもこのように発音の確認を行いたいと思います。

また、学生たちが授業に対する興味や集中力を向上させるために、さらに工夫したいと思います。例えば、中国の切り絵（剪紙）を一緒にやりたいと思います。

その他

学生たちの発音はとても上手です。この点ではたくさん褒めてあげました。

授業改善書

科目名	文化人類学（金曜１限）
担当者	西澤秀行

授業の概要

文化人類学がひとつの学問として誕生してから、一世紀あまりしかたっていない。しかし、文化人類学が今日的な意味での学問分野として成立するまでには長い歴史があった。この歴史的経緯を振り返るとともに、文化人類学の確立に多大な影響を及ぼした学者たちの業績と、彼らが唱えた理論を各回の授業のなかで講義する。とくに、文化人類学はアメリカ合衆国を中心に発展したため、このコースでもアメリカにおける文化人類学を中心に据えていきたい。（学期開始時に配布したコース・シラバスより転載）

授業の問題点

１年生メインのコースとしては、指定した教科書が難解であり、事前学習（その日に学習する単元を前もって読んでくる）を困難にしていたものと思われる。また、事後学習（その日に学習した単元を後日読み返す）に関しても、授業内容を理解・確認する意図をもって各自に取り組ませるには、やや難し過ぎたかもしれない。こうした理由により、多くの学生が定期試験前に、十分な試験勉強をしていなかったようである。

（コロナ禍ということもあり）授業中に学生に発言させる機会をほとんど設けなかったため、私からの一方的な講義になってしまった。そのため、学生の興味関心に十分な配慮を払うことができなかった。

学生の授業満足度

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」および「テキストなどの資料は適切でしたか」の評価点が、上記の問題点を反映しているといえる。

一方で、シラバスに示した授業計画に沿って毎回授業を行えたことは、学生からの高い評価につながっているようである。

授業改善の課題と方策

今後、このコースを同様の授業内容で開講する場合、１年生（２年生）にふさわしいレベルの基礎的な教科書を選んでいく必要がある。市販の日本語書籍で教科書として適切なものがないのも事実で、私が授業用プリントを作成して、都度、配布することも検討していきたい。

（コロナ禍が終息したら）当初の授業計画案で述べたように、学生の積極的な発言を促す授業（グループ・ディスカッション、グループごとのプレゼンテーションなどを取り入れた授業）を展開し、こちらからの一方的な詰込み型授業を脱却することを目指したい。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	比較文化論（金曜２限）
担当者	西澤秀行

授業の概要

本コースは文化人類学のアプローチを用いて、世界各地で見られる様々な文化を比較・考察しながら、文化そのものについての理解を深めることを目的としている。文化を観察するには幾通りもの方法があるが、ここでは文化人類学者たちにより研究されてきたテーマに沿って、いくつかの事例を取り上げながら講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。(学期開始時に配布したコース・シラバスより転載)

授業の問題点

学生の自学自習の利便性を考え、とりあえず「教科書」として本を一冊指定したが、その本自体の内容が本コースのテーマとうまく一致していたとは言えず、かえって学生たちを混乱させたかもしれない。こうした理由により、定期試験に向けた勉強で多少苦労した学生もいたと思われる。

くわえて、（コロナ禍ということもあり）授業中に学生に発言させる機会をほとんど設けなかったため、私からの一方的な講義になってしまった。そのため、学生の興味関心に十分な配慮を払うことができなかった点も問題であったと考えている。

学生の授業満足度

「テキストなどの資料は適切でしたか」の評価点が、上記の問題点を反映していると思われる。

他方で、シラバスに示した授業計画に沿い、毎回授業を実施してきたことは学生からの高い評価につながっているようである。

授業改善の課題と方策

授業計画に適合した初級編の教科書を選ぶことにくわえ、自己学習用の資料を一層充実したものにしていければと考えている。

また、（コロナ禍が終息したら）当初の授業計画案で述べたように、学生の積極的な発言を促す授業（グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、グループごとのプレゼンテーションなどを取り入れた授業）を展開し、こちらからの一方的な詰込み型授業を脱却することを目指していきたい。

その他

グループ A、グループ B に分かれて授業を実施することになったため、コース全体として一貫性を保つことが難しかった。これまでに扱ったトピックに「プラスするかたち」で講義しようとしても、学生によっては、知識を持っている者と、そうでない者がいる状況が生まれてしまった。

授業改善書

科目名	日本思想史
担当者	杉山亮

授業の概要

古代から幕末に至るまでの思想を概説した。時代ごとに書籍を中心に、歴史的背景と著者の生涯、書籍の内容を解説した。書籍の選定は『山川倫理用語集』によった。
講義ごとにレジュメを作成・配布し、内容を解説した。同時にコメントペーパーを配布し、講義ごとに質問や感想を募集した。集めたコメントの内、講義の進展に資すると思われるものは次回講義で紹介した。

授業の問題点

1 回ごとのレジュメ・配布資料の分量が多くなり、配布時に学生が混乱することがあった。講義中もレジュメの内容を全て紹介しようとするあまり、早口になってしまい、学生から理解が追い付かないとの声があった。
また、講義に進める際、講壇から一方的に話しかけることに終始したため、学生がレジュメを眺めるか、ノートを取るかに終始してしまい、集中力を切らしてしまうことがあった。さらに、授業アンケートによれば、復習した学生は 3.48 と平均を下回っており、学生の復習意欲を喚起できなかった。

学生の授業満足度

コメントペーパーを活用したことから、講義への参加意欲は上昇したものと思われる。講義中、発言や質問をしたと答えた学生は 3.52 と平均を上回り、ノートを取ったと回答した学生も 4.36 と平均を上回った。教員は学生の質問に答えたと回答した学生も 4.64 と平均を上回った。また、毎回の講義冒頭で講義のあらましを述べたことから、講義内容や進度について明確だったとの評価を受けたと思われる。シラバスに掲示された内容に沿っていると回答した学生は 4.48 と平均を上回った。しかし、配布資料の適否に関する回答は 4.36 と平均を下回っている。講義内容に関心を持てたと回答した学生が 4.48 と平均を上回ったにも関わらず、全体の満足度が 4.2 と平均を下回ったのは、配布資料に関する不満が影響しているものと思われる。

授業改善の課題と方策

授業アンケートからもうかがえるように、配布資料の改善が急務である。分量を縮小する。見やすいようページ番号を振る、重要箇所はフォントを変えるなど、一目で理解できるようにする工夫が求められる。
また、学生の集中力を保つべく、講義中に学生の意思表示を伴うやり取りが必要である。コロナ感染防止の観点から、簡単なディスカッションなど学生間の発話を伴う意思表示の導入は難しいが、挙手でのアンケートなどの発話を伴わない意思表示を各講義 1 回は組み込むことで、学生の集中力と関心を維持する必要がある。

その他

授業改善書

科目名	日本文化概論Ⅰ
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業では、日本では古来、古典文学の造形化がどのように行われてきたのかを、『源氏物語』『伊勢物語』の絵画、漆工、染織品、メディア芸術を取り上げながら講義することで、受講者に改めて古典文学の内容を学んでもらうと同時に、その造形文化について理解してもらうことを目指した。

授業の問題点

交互対面授業になってしまったことも原因の一つであるが、授業の冒頭で、前回の授業に対するコメント返しと課題の答え合わせをしていたことで時間が足りなくなり、1 回の授業で 1 単元を終わらせることができなかった。そのため、シラバスに記載していたのにも関わらず、取り上げられなかった内容が多かった。

学生の授業満足度

「シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか」と「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」の評価が低いのは、上記に挙げた問題が原因だと考える。また、コメントペーパーで「内容が難しい」といった声も多かったので、1、2 年生にとっては適切な内容ではなかったと反省している。

授業改善の課題と方策

今後は、授業時間の配分により考慮したシラバス作りを心がけたい。コメント返しは必ず行いたいので、その時間を含めた授業内容を考える。また、内容に関してももう少し受講者の理解度に寄り添った内容にしていきたい。芸術の授業ということで絵画などの画像資料を提示すると理解度が増すように感じたので、画像資料を増やすことを考えている。

その他

授業改善書

科目名	児童青年心理学
担当者	田中道弘

授業の概要

本講義では、人間の発達について、遺伝と環境について説明する。また、代表的な発達理論及び生涯発達の視点から、主に児童期、青年期の位置づけを理解する。同時に、自分自身の自己理解も深める。児童期から青年期にかけては学校での学び、学習意欲も重要な課題であるため関連する諸理論を紹介する。最後に発達障害について理解し発達障害児・者への支援の仕方を検討する。以上の流れに沿って授業を実施した。

授業の問題点

今期は、人数が多く対面と遠隔での授業を実施した。特に初回から４回目程度にかけてであるが、Teams での会議では、半年以上ぶりとなり、遠隔授業対象者には、画面が閲覧できない、声が小さいなど、設定上の問題で迷惑をかけてしまった。次に、４回目以降の問題である。４回目以降は、コロナの影響もあり、３限目と４限目とは、階も異なる教室での授業実施を強いられた。インターネットの接続、プロジェクターの設置、ＰＣの起動および Teams へのログインなどの作業があり、３限目は早めの終了を、４限目では早めの機材の設置など求められた。そのため従来の授業内容を実施できないことから、教務課と相談し、例年よりも内容をコンパクトにしたもので対応することとした。
それでも、学生からの質問があると次の授業実施時間に間に合わないこともあった。
　授業の資料作成等については、それぞれの回の内容の重要度から取捨選択する必要があり、それに合わせて学生資料を２種類（対面クラスと遠隔クラス）作成することに非常に多くの時間を費やすこととなった。さらに学生からの Teams およびメールでの相談、質問も多く、授業時間以外の学生への対応を迫られた。試験問題作成についても、授業内容を変更したため、予定していた試験問題自体を作成しなおす必要があり、また内容の異なる試験問題を２つ作成（40 分程度）することもあった。そのため、常に時間に余裕がなく、逼迫した中での授業となってしまった。試験に関しても、40 分での試験を２回繰り返すということになり（しかも、次の授業時間まで、休憩時間が 10 分しかない）、通常 60 分での試験ではなく、余裕の持てない時間構成になっていたのではないかと思います。

学生の授業満足度

上記のような環境の中で、学生の授業満足度は「得るものがあったか」3.91,「満足できたか」3.59 であり、平均よりも低いとはいえ、今回の環境下では３点を超えていることから、良かったものと考えたい。

授業改善の課題と方策

　次年度はコロナが収束し、今回のような事態にならないことを望むが、今回のように履修者が多い場合、教室変更が難しい場合などは、学生には心苦しいがセレクションなど、ある程度の履修者制限も考える必要があるのではないだろうか。また、すべて遠隔での同時双方向、あるいはオンデマンド型の動画配信でもよかったのではないか（他校では実施していたので、参考までに。）学生からの質問に対しては、可能な限り個別対応をしていたが、共通する内容は Teams の連絡、ファイル等に内容を入れ、書き込むことにした。

その他

遠隔授業では、事前のクイズの設定など作業時間が多く、大変でした。最後まで残ってくれた履修者は、トラブル時にも我慢強く待って頂いた。履修者に心より感謝したい。

授業改善書

科目名	メディア心理学
担当者	田中道弘

授業の概要

メディアと言えば、かつては新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「四大メディア」が主流であった。「四大メディア」は、特定の情報源から不特定多数の人々に大量の情報を発信する一方通行の情報の流れが特徴である。しかし、2000 年以降、この構図が劇的に変化した。現在、「メディア」は、インターネットを利用し個人が情報を発信し、ユーザー同士のコミュニケーションにより情報が拡散していく「ソーシャルメディア」へと移行している。「ソーシャルメディア」は、個人が発信した情報が、インターネット上の不特定多数の人に共有され、拡散していくだけでなく、情報を受け取った受信者の誰もが情報の発信者になりうるという双方向の情報の流れが特徴である。こうした内容を、様々な角度から説明していく。

授業の問題点

今期は、人数が多く対面と遠隔での授業を実施した。特に初回から４回目程度にかけてであるが、Teams での会議では、半年以上ぶりとなり、遠隔授業対象者には、画面が閲覧できない、声が小さいなど、設定上の問題で迷惑をかけた。次に、４回目以降の問題である。４回目以降は、コロナの影響もあり、３限目と４限目とは、階も異なる教室での授業実施を強いられた。インターネットの接続、プロジェクターの設置、ＰＣの起動および Teams へのログインなどの作業があり、３限目は早めの終了を、４限目では早めの機材の設置など求められた。そのため従来の授業内容を実施できないことから、教務課と相談し、例年よりも内容をコンパクトにしたもので対応することとした（そのため、授業準備にも例年以上に時間を費やしたことを指摘しておきたい)。また、学生からの質問があると次の授業実施時間に間に合わないこともあった。授業の資料作成等については、それぞれの回の内容の重要度から取捨選択する必要があった。さらに試験では、それに合わせて学生資料を２種類（対面クラスと遠隔クラス)、および遠隔での受験希望者のために、異なる問題を１種類、合計３種類の試験問題を作成せざるを得なかった。

さらに学生からの Teams およびメールでの相談、質問も頻繁にあり、授業時間以外の学生への対応を迫られた。定期試験時には、40 分での試験を２回繰り返す、しかも、同時に遠隔での受験者への対応もあり、一人では余裕の持てない時間構成になっていたのではないかと思います。

学生の授業満足度

上記のような環境の中で、学生の授業満足度は「得るものがあったか」3.82,「満足できたか」3.39 であり、平均よりも低いとはいえ、今回の環境下では３点を超えていることから、良かったものと考えたい。

授業改善の課題と方策

次年度はコロナが収束し、今回のような事態にならないことを望むが、今回のように履修者が多い場合、教室変更が難しい場合などは、セレクションを実施し、ある程度の履修者制限も考える必要があるのではないだろうか。学生からの質問に対しては、可能な限り個別対応をしていたが、共通する内容は Teams の連絡、ファイル等に内容を入れ、書き込むことにした。

その他

遠隔授業では、事前のクイズの設定など作業時間が多く、大変でした。最後まで残ってくれた履修者は、トラブル時にも我慢強く待って頂いた。履修者に心より感謝したい。

授業改善書

科目名	学習心理学
担当者	時本　楠緒子

授業の概要

本講義では、保・幼・教員の各資格取得を志す学生を対象に、学習に関する身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について講義する。また、学習理論の延長上にある記憶や動機付け、さらには発達理論との関りについても学ぶ。授業の中で簡単な心理学実験を体験することで、学習心理学および心理学全般への理解を深めていく。

授業の問題点

対面形式の講義科目であるが、今年度は受講者数が 92 名とこれまでになく多く（昨年度は 18 名）、コロナを考慮して対面授業と遠隔授業を併用する形での授業となった。遠隔授業は昨年も行っていたが、A・B グループ交代制は初めて経験する授業形態であったため、4 月中は課題の提出を始め不具合が多くあり、落ち着くまでは授業運営を難しく感じることがあった。また、学生の課題への取り組みには個人差が見られ、課題以外にも興味を持った内容について自主的に調べて知識を吸収していく学生と、課題を提出することも覚束ない学生に、それぞれ適切に対応する難しさも感じた。

学生の授業満足度

今年度の受講生の学習態度の評価平均は、全体的に昨年度と同様、または少し低めであった。受講者数・授業形態ともに異なるため簡単に比較できないが、上記のような状況であったことを考慮すると、全体的に満足できる結果であり、学生と教員の双方が努力を重ねた結果が反映されていると考えている。しかしながら、学習態度のうち項目２「授業外学習をしましたか」および項目３「質問や発言をしましたか」の評価がともに３点台と前年に比べて低かった。これは授業や課題に取り組む姿勢には個人差が大きいこと、また遠隔授業で発言の機会が少なかったことなどが原因と考えられる。

授業改善の課題と方策

授業内容の理解度が学習態度を大きく左右するため、学期を通して学生の学習意欲を継続するための方法を模索してきました。今年度は遠隔・対面を問わず、すべての受講生に「その日の授業で印象に残ったこととその理由」・「質問・疑問・感想・提案など」をまとめてもらうようにし、その内容をもとに翌週に補足説明を加えるようにしたことが、理解力向上に役に立ったと感じています。毎回提出しなければならないことが一部の学生には不評でしたが、対面受講生には授業後すぐにスマートフォンからも提出できるようにしたことで、負担感が軽減されたようです。受講生とこのように密なやり取りができたのも Teams が利用できたおかげだと思っています。教室で発言できない学生も、課題という形でなら意見を述べることができることがあるため、来年度以降、通常の対面授業に戻った後も Teams の使用を継続させて頂ければと思っております。

その他

大学全体の平均値が大変参考になりました。

授業改善書

科目名	精神医学概論（精神疾患とその治療）
担当者	片岡岳

授業の概要

精神医学

授業の問題点

教えるべき内容が多く、質問に割く時間が取れなかった。

学生の授業満足度

4 点を超えている。

授業改善の課題と方策

公認心理師国家試験を考慮すると教える内容を減らすことは難しい。他授業のシラバスを参照し、重複を避けることを考える。

その他

授業改善書

科目名	乳幼児心理学
担当者	岩崎桂子

授業の概要

胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。
とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように進める。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養う。

授業の問題点

選択科目ということで、履修者が確定するまでに時間がかかり出席管理が複雑になってしまった。真面目な学生が多く、真摯に授業に取り組んでいるが学生が積極的に発言する姿はあまり見られなかった。自由な発言を引き出すように会話の中で質問、指名等を行ってはみたが、効果は薄かった。

学生の授業満足度

ほとんどの項目において平均点であった。しかし、予習・復習、質問や発言の点数は平均をやや下回っていた。
この点においては今後の課題と思われる。
しかし、履修者登録をしている学生（登録しているけど授業に参加していない学生も含む）の半数しかアンケートの回答を行っていないので真面目に授業に取り組んでいた学生の回答と思われる。その他の学生の意見も気になるところである。

授業改善の課題と方策

授業改善の課題と方法について一点目は、授業において自由な発言、自発的な発言を行う事に慣れていないのでは無いかと考えられる。二点目は、実際に子どもと接する機会が少ない学生が実際の子どもの姿を想像する事が困難な野では無いかと思われた。
選択科目だからこそ、学生が積極的に発言をできるように声かけの工夫を行う必要がある。また実際の子どもの姿を理解しやすいように DVD の視聴機会を多く取り入れる必要を感じた。

その他

授業改善書

科目名	英語Ⅰ
担当者	青木雅幸

授業の概要

国際化する日本の教育現場において、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につけ、自分のパートを覚えクラスでスキット再現する。なお且つ、基本文法項目を復習しつつ、子ども向けのストーリーを読み、英語による「読み聞かせ」にも挑戦する。各課のまとめとして学習した内容について自分なりの英文パラグラフを作成する。これらのサイクルを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回り物事を英語で表現できるように指導する。また、各Unit の応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。

授業の問題点

昨年に続きコロナ禍により A/B グループ編成の隔週対面授業及び遠隔課題学修となっており、第 1 学年とっては経験をしたことのない学生生活であった。特に、語学の授業としては異常事態（飛沫感染を防ぐために大きな声で発音ができない等々）を感じつつ春期が終了した。対面授業と遠隔課題との組み合わせは、対面授業で学習した内容を家庭学習として復習する形式を採り、対面授業での内容を MicrosoftTeams にアップすると同時にプリントでも配布するようにし、万一コロナによる発熱により対面授業に参加できない場合でも、Teams を開いて家庭学習ができるように工夫をしているが、学生にとっては慣れない作業であり、システムの活用に無駄な時間を過ごしてしまう者が散見された。また、対面授業の週に家庭学習内容の解説を含むためにどうしても授業のスケジュール管理が難しくなっている。

学生の授業満足度

アンケートの結果全般で判断するに、授業にはそれなりに満足している学生が多いと思われる。英語が苦手な学生の割合が高く、またコロナ禍で慣れない授業形態ではあるが、学生の自助努力は敬服に値する。「授業方法について」並びに「授業の満足度」については、高評価であると分析しているが、「授業外学習」及び「予習」についての項目については、クラスによっては学生の自己評価は高いとは言えない。また「質問や発言をしましたか」についての数値が他の質問より低いことは、学生の授業科目に対する無関心度を示すこととも理解できる。

授業改善の課題と方策

コロナ禍で授業のスケジュール管理が難しい状況にはあるが、授業の進度が遅れることは、英語が苦手な学生の多い子ども発達学科のクラスにおいては授業内容に対する理解が深まる前向きな要因ともなり得る。しかし、一部の英語が得意な学生にとっては不満の種ともなり得ることとなり、「授業外学習」及び「予習」がおろそかになる要因でもある。この点については、学力差に対応した授業展開がより求められる。また、「質問や発言をしましたか」についての数値が他の質問より低いことは、授業に対する積極性が低いとも理解できるので、学生を巻き込む授業計画に一層力を注ぐ必要がある。

その他

授業では幼保英検の模擬問題の指導を行っているが、子ども発達学科の学生諸君には、英語が苦手であっても、せめて幼保英検３級ないし４級を取得して欲しいと願っている。英語学習の動機付けにも直結すると確信する。

授業改善書

科目名	英語（読む英語）
担当者	青木雅幸

授業の概要

グローバル化時代において、実質的に世界共通言語と言える英語の必要性が更に高まっていることは言うまでもない。海外旅行などで求められる英語はもちろん、国内においても様々な業種で英語ができる人材が求められている。2020 年度より小学校の「英語」が教科化されたこともこの社会的要望に応えたものである。このような背景を基に、「英語（読む英語）」では英語の基礎文法と語彙を確認しつつ、身近な物事に関する英文記事の講読法を指導する。

授業の問題点

授業科目「英語（読む英語）」にもあるようにこの授業は講読力の強化が第一の目的である。できれば学生の専門分野に関する教材を提供したいところではあるが、①複数学科の学生が履修している、②学力差が大きい、などの理由で基礎的で一般的な講読内容の教材『Have a Nice Day! -Talking about Daily Activities（大学生のための英語基礎演習)』にて授業を展開した。このことに関して学生諸君は理解していたが、②の学力差については十分に対応することが出来ず、小数名にとっては難しい授業となった。

学生の授業満足度

アンケートの結果全般で判断するに、授業には満足している学生が多いと思われる。
アンケート調査の①「この授業に対するあなたの学習態度を評価して下さい」の項目では、２．授業外学習(予習や復習など)をしましたか、３．質問や発言をしましたか、など授業への積極性がやや低い数値であった。
アンケート調査の②「この授業について評価して下さい」の項目においては、Ⅰ授業内容について、Ⅱ授業方法について、Ⅲ授業満足度について、は概ね満足度数値は高いと判断される。

授業改善の課題と方策

上記したように、２．授業外学習(予習や復習など)をしましたか（3.92）、３．質問や発言をしましたか（4.08）、など授業への積極性がやや低い数値であった。学力差に対応しつつ、学生には予習復習を促す手段として自宅学習課題を与え、また学生を巻き込み学習内容に関する発表の機会を与え、議論ができるよう授業の方法を再検討することが必要であると考える。もちろん、このコロナ禍においては、「発表」と「議論」の際には飛沫対策を徹底するため、学生の一層の協力が必要となる。

その他

身近な物事に関する英文記事の講読法を指導するための教科書として『Have a Nice Day! -Talking about Daily Activities（大学生のための英語基礎演習)』を使用し、身の回りの物事に関する基本語彙を身に着け、基本英文法を再確認した。授業科目は「英語（読む英語)」ではあり、あくまでも講読力を身に着けることが主眼ではあるが、講読内容のテーマに関するネイティブスピーカーの英会話を聞き取り、正しい発音を学ぶことも実施した。

授業改善書

科目名	保育内容(人間関係) I
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、人とのかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れ、各自発表を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が 5 点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容指導法
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容を総合的に踏まえ、指導案作成と保育実践に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や指導案作成を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自が指導案を作成することで、学生が主体的に学ぶことに繋がっていることが読み取れた。学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が 5 点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	幼児体育Ⅱ
担当者	石川 基子

授業の概要

本科目では、保育士・幼稚園教諭として運動あそびを指導・援助できるように、幼児の運動でみられる基本的な動きを「移動系」「平衡系」「操作系」「非移動系」に分け、いろいろな動きを経験する。さらに、幼児が楽しく意欲をもって活動をし、充実感や満足感が味わえるように、環境や方法を工夫した運動を指導・援助できる能力を養うことを目的とし、授業を展開していく。
授業のまとめとして、実践力を養うために、グループで教材研究や運動の指導計画を作成しロールプレイを行う。

授業の問題点

「質問や発言をしましたか」「ノートを取りましたか」の項目の評価が低かった。
1限クラスは，2限クラスに比べて全項目で評価が低かった。

学生の授業満足度

以前より，1限クラスは，2限クラスより評価が低い傾向があるので，朝からの体育実技を意識した導入を心がける。
アンケート項目全体を通して評価は高かったが、この結果に甘んじることなくより良い授業を計画し丁寧な指導を行っていく。

授業改善の課題と方策

コロナ禍真っ只中での体育実技の対面授業で，感染症対策を講じての授業であった為，学生同士のディスカッションや協働作業が難しかった。今後は更に ICT を活用するなどして授業方法を考えていく。
また，選択授業ということもあり，履修者数の制限をするなどで授業内容の充実に努めることも必要と考えられた。

その他

授業改善書

科目名	保育内容「環境Ⅰ」
担当者	伊藤能之

授業の概要

保育における環境の意味について学ぶ。環境と通した保育、遊びを通した保育の意味について理解する。教材研究として物的環境、人的環境、社会的環境について考え、環境設定の意味を指導案指導に結び付けて学ぶことで、ねらいと内容についても理解し、環境を題材として指導案指導の作成に挑む。また、その過程を模擬保育にて実践し、保育者の思い、子どもの気持ちについてより具体的に指導する。

授業の問題点

保育内容「環境」という授業における「環境」という言葉は非常に日常よく使われる。学生の中にも、社会一般の環境問題に興味のある学生もいる。そのような学生の環境に対する関心を授業内容としての「環境」に結び付けたい。たとえば、ゴミ問題をゴミの分別という視点から、子どもたちにどう伝えるか、というような課題につなげていきたいと考える。社会一般で用いられる環境という概念と連動させつつ、保育内容としての環境の概念を正確に伝えたいと思う。

学生の授業満足度

授業は３コマ担当させていただているが、一つが３点台。あと２つが４点台であった。担当教員としては、いずれも同一内容にて授業を行っているつもりであるが、このよう差が生じた原因について考えていきたいと思う。

授業改善の課題と方策

「環境」というフレーズが社会の中で、大きな意味を持つようになっているので、地球環境のような社会問題との関連づけも必要であると考える。たとえば、ゴミ問題と幼児の意識、地球温暖化の考え方などをどのように幼児に伝えるか、等。
このような授業展開により学生の興味を高めていく必要がある。

その他

学生の授業態度はおおむね良い。
発言量もけっこう多い。ただ、大人しい学生もいるので、そのような学生にも発言する機会を設けたい。

授業改善書

科目名	家族論Ⅰ
担当者	工藤　豪

授業の概要

日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その中で変化した側面と基本的に持続している特性を判断し、認識することが求められる。その一方で、家族慣行や家族規範に関する空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団でもある。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えることを目的とし、現代家族の持続と変容について講義する。

授業の問題点

遠隔授業で実施し、オンデマンド型の課題学習を中心に行ったが、履修者数が 125 名ということもあり、毎回、すべての学生に個別のフィードバックを行うことは困難な状況となった。毎回、全体向けにフィードバックを行うとともに、個別の返答が必要な学生にはできる限り対応したが、学生に主体的な学習（授業外学習）を行うような意識をもってもらうところまでは到達できなかったように感じられる。

学生の授業満足度

授業内容について、および授業方法についての評価は、昨年度（今年度と同様にオンデマンド型）と比較すると全体的に満足度が高くなっており、昨年度の反省を踏まえて講義準備を行うように心がけたことで、一定の満足度が得られることになったのではないかと思われる。

授業改善の課題と方策

学生からの評価において、「（教員が）学生からの質問などにきちんと対応しましたか」については高い評価となっているものの、「（学生が）質問や発言をしましたか」については低い評価となっている。学習意欲が高く、教員への質問等を行うことに積極的な学生に対しては、十分な対応が行えたと考えられるが、そうではない学生に対しての配慮や対応を十分に行えなかったと考えられる。すべての学生が学習意欲を高められるような教育方法、質問等を行うことへの障壁が低くなるような学習環境を構築できるように努めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	家庭
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校５年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。小学校家庭科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、講義、演習、実習を通じて、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培う。

授業の問題点

昨年前半のような完全オンライン授業ではなかったものの、Ａ、Ｂグループの２つに分けて実施したため、教員側からすると学生の顔が毎週変わることにより、授業内容の一貫性、継続性に欠けた面が否めず、「課題」のフィードバックも難しかった。

学生の授業満足度

授業評価については、授業全体としては、概ね学生も満足をしてくれたのではないかと思う。本授業は、家庭科の目的、対象、方法、など基本的な事項を学び、後期の教科教育法での演習に向けての基礎固めの性格をもつ。オンライン併用という、難しい授業の中で、学生なりに意欲的に取り組んでくれた様子がみてとれた。

Ⅲ授業の満足度の自分にとって得るものがあったかとの回答は得点が高く出ていたので良かったのではないかと思う。

授業改善の課題と方策

本年度もコロナ感染拡大防止のため２つのグループに分かれての対面授業で行った割には、学生の満足度が比較的高く評価されていたので良かったと考える。昨年は課題が難しいという指摘があったため、資料・課題をできるだけわかりやすくすることに努めて比較的良かったのではないかと思う。

学生の質問、発言の機会をもっと増えるような環境づくりと、グループディスカッションなどを取り入れ、主体的な学びができるようにしたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容の研究（健康）Ⅱ
担当者	丸山東人

授業の概要

保育の質を、健康教育学の観点から考究している。専任の先生方が尽力されているため、保育所保育指針および幼稚園教育要領の中での「健康・安全」や、乳幼児期の子どもの健康支援に関しては、みな既に、健康Ⅰと幼児体育ほか関連する授業（保健、心理、５領域Ⅰ等）を通じ充分な学修を済ませている。この利点を生かす形で、健康Ⅱでは、既習事項のおさらいをしつつ、対象年齢や話題提供の幅を広くとりながら進めている。

特に、教授内容と学校保健学との円滑なつながりには、相当留意している。履修者が学校教諭（小、中、高）に就いた場合でも、勤務校の養護教諭から「この先生は、子どもの健康課題をある程度は勉強しているようだ」との評価を受けられるように、極々広く浅くではあるが話題提供をしているつもりだ。

授業の問題点

スコア上、問題となる点は見当たらない。今回はサンプル数が過少のため、数値は高めである。項目別に見ると、例年と同じような傾向がみられる。

学生の授業満足度

今年度は、人数が過少のため、①事前にワークシートを配り、②何を考えながら聴いていたのか、疑問・質問したいことは何か、等を自由に書いて提出させ（匿名可）、③回収後にスキャンして PDF ファイルに一本化、④担当者からのコメントを付け出席者全員に送信、という試みをした。

受講者からは既に、「同じ授業でも、それぞれ着眼点が違うのが面白い」「深い学びにつながる」「ディスカッションにつながるかも」等の意見を頂いており、好評だったようだ。どの学生も、細かくメモを取り、熱心な論述をしていたので、むしろ感謝している。

授業改善の課題と方策

今回は「レジュメの内容や試験問題は同一でも、人数によって全く違う授業展開ができる」、ということを改めて体験した。ある学生のいう通り、上記④のファイルを用いて総合討議を行う機会があれば、皆で時を忘れて楽しめるだろう。時間の都合上、どうしても難しい面はあるが、そうした時間を作れるように工夫を重ねたい。

その他

（私見）

僭越な言い方だが、私は着任時より、「保育内容健康Ⅰ・Ⅱを開講している大学は多々あるが、埼玉学園の保育内容健康は、全国どの大学にも劣っていない」という心持ちで奉職してきた、それだけに、今年度の履修者の減少は、当初は本当に悔しかった。

しかし一方で、上述した通り、授業を創る楽しみを味わうことができた。また、暑い日には納涼会と称してアイスクリームを食べ、食育の授業では共食（皆で食べる喜び）を体験するためにポッキー食べるなど、楽しく進めることもできた。これらは、全て学生の協力があってこその経験である。コロナ禍であっても熱心に学んでいる貴大学の学生には心から敬意を表したい。私は、非常勤講師の立場ではあるが、これからも、学期中は学生の熱心さに対応すべく試行錯誤を続ける所存だ。

授業改善書

科目名	社会心理学Ⅰ
担当者	那須里絵

授業の概要

社会心理学Ⅰの授業では、社会的認知、感情、態度と説得、自己に関する社会心理学の基本的な概念を学び、日常生活における現象や体験と結びつけながら理解できるようになることを目指しました。教員が概念を羅列的に説明するのではなく、出来る限り具体例を提示し、学生の授業内容に対する興味や関心を高め、分かりやすい授業となるよう心がけました。

授業の問題点

授業アンケートでは、多くの学生が社会心理学Ⅰの授業内容に興味や関心を持ち、授業の進度や資料は適切だったと回答していました。また、学生からの質問に対する教員の対応についても高い評価が得られました。一方で、授業外学習（予習や復習など）については、平均点よりやや低い値（3.50）でした。以上から、授業内容には関心を持ったものの、学生の自主的な授業外学習に結びつきにくかったことが本授業の問題点であったと考えられます。

学生の授業満足度

授業アンケートにおける授業満足度に関する質問項目では、「授業の内容は得るものがあったか」については(4.53)、「全体的に振り返り、授業は満足できたか」については(4.42)と、それぞれ高い評価が得られました。これは、教員が一方的に知識を教授するのではなく、身近な例をもとに学生自身に考えてもらう時間を多くもうけ、他の学生との意見の共有を行ったことが影響していると考えられます。こうした手法を取り入れることで、学生が授業の中で主体的に学ぶことを促進できたのではないかと思います。

授業改善の課題と方策

授業外学習（予習や復習など）が平均点よりやや低い値であったという授業の問題点を踏まえると、授業内の時間だけではなく授業外の時間の学習に結びつくような課題の提示が必要と考えます。これは、学生にとって負担となるような課題ではなく、授業の内容を深め、学生自身が興味を持って調べられるような課題が適切と考えます。以上の点については、今後授業を行う際に改善したいと考えています。

その他

授業改善書

科目名	初等教科教育法「生活」
担当者	齋藤　澄子

授業の概要

・生活科の教科目標や内容について講義し、生活についての理解を深める。
・生活科の９つの学習内容を理解し、指導上の留意点等について知る。
・指導計画や単元構成における配慮事項を理解し、学習指導案を書くことが出来る。
・生活科の学習における特徴である気付きの質の高まりや学習評価について理解する。
・学習指導案を書き、指導案検討を経て模擬授業を実行できる。
・生活科を通して育てる子ども像や児童理解との関わりについて考えることができる。

授業の問題点

・15 回という回数でシラバスを考えていたが、オンライン授業の回の指導には限界があり、課題提出されたレポートには課題を感じるものがあった。
・学習指導案の作成や模擬授業を行うのが初めてという学生がほとんどであったため、その為の説明や方法の解説に予想外の時間を要した。
・授業の開始時刻に間に合わずに、遅刻してくる学生が数人いた。
・オンライン授業では、最初「授業内容が難しい」と感じる学生がいたようだった。コメントを返したりしながら、徐々に学生との関係づくりができ、後半はそういた声もなかった。

学生の授業満足度

・最終授業における感想コメントには、この授業を通して学習指導案の書き方や模擬授業を体験することができ、よい経験になったという感想がほとんど全員から聞かれた。
・後半の学指導案検討会や模擬授業の事後検討会等、全員の声を集めてする授業形態をとったので、全ての学生の有用感を高めることができたと思う。
・最初から出席していない学生や途中から出席しなくなってしまった学生の様子が気になる。メール等で連絡をとったが、返信がなくそのままになってしまったことが気がかりである。

授業改善の課題と方策

・学生の理解度を高めるために、 前半の理論研究の授業を、もう少し小刻みに時間をかけて行うようにしたい。
・前半の理論研究の際に、実際の学習指導案や実践例を紹介するなど、学校現場の実践を意識した内容でつなげ、後半の学習指導案の作成や模擬授業に繋げていきたい。
・今後も、理論研究にとどまらず、学校現場で活用できるような授業を行いたい。そのために、学指導案を書く力や授業をする力を身に付けることは必須であると考える。
・来年度もオンライン授業と交互に授業を行う見通しであれば、シラバスの内容を工夫して、対面とオンライン授業のつなぎ方を工夫したい。

その他

・学生により、力に個人差がかなりあった。支援の必要な学生には個別の対応が必要だったが、非常勤講師としてどこまで行えばいいのか迷うこともあった。
・ほとんどの学生が熱心に講義に参加する姿勢が感じられ、やりがいのある時間だった。

★はじめての非常勤講師でわからないことが多い中でしたが、教務課の皆さんにいろいろ教えて頂き、心から感謝申し上げます。　　本当にありがとうございました。

授業改善書

科目名	保育内容（表現-造形）Ⅱ
担当者	前沢知子

授業の概要

実際の保育の現場を想定して、子どもの姿に寄り添いながら、表現・造形活動を進めることの理解を目指す。保育の現場で行われる季節の行事や、子どもが日常で感じる季節感を取り入れた制作を行ための下記の３つのスキルを学ぶ。
・子どもの表現と発達の関係について学び、子どもの制作についての基礎を理解する。
・保育の現場や子

授業の問題点

全体的に４以上の高評価であったと見られる。
その中で、平均に比べて数値が低かったものは、「学習態度」の「4. ノートやメモ等を取りましたか」というものであった。（評価４、平均 4.27）
この理由としては、授業自体が、実技制作を行うものであったため、基本的にメートやメモの必要がなかったこと、プロジェクターを使用しての説明においては、暗い中での解説になり、メモが取りにくかったことなどがあげられる。

学生の授業満足度

授業満足度は、２つの項目とも、4.8 と 4.4 であり、満足度は高いように思われる。全体的に振り返った評価が、比較をすると少し低かった。

授業改善の課題と方策

上記、問題点である、「学習態度」の「4. ノートやメモ等を取りましたか」については、例えば、制作過程を説明するときに、ノートやメモををとるように声が消したり、またプロジェクターを使うとき、室内の明るさを少し明るくしてノートやメモをとりやすい環境設定をすることを心がけたい。

その他

本年度初めて授業をもったこともあり、アンケートについて把握しきれておらず、対象クラス 10 人以上という意味がよく把握できていなかった。
そのため、アンケートを行う際、A と B に分けた時の、１クラスの人数としてカウントしたために、10 名以上は一つのクラスしかなく、１クラス（4 限 A）しかアンケートを実施しなかった。

授業改善書

科目名	算数
担当者	神戸佳子

授業の概要

本授業では、社会事象と算数の関わりに着目し、算数教育の意味と算数教育に必要な基礎的な知識について、及び児童の思考方法や特徴とそれに応じた算数数教育に於ける指導内容や方法について講義した。さらに、算数教育の系統を把握するため、数と計算領域について学習指導要領の内容を各自で整理しそれをもとに児童が躓きやすい点についてグループで検討した。また、幼稚園との接続、中学校との接続、及び、日常生活と算数科の関連性について、グループワークを交えながら、学習した。

授業の問題点

A・B のグループに分かれて、対面授業と Web での授業を交互に行ったが、その対応が十分にできておらず、Web を用いて各自学ぶことの課題の焦点が絞り切れなかった。また、対面授業においては、伝えたい内容を短い時間に入れ込んでしまったため、教師から話す事柄が中心になってしまい、学生が自主的に活動する内容が少なくなってしまったことと時間的にも短くなってしまったことが反省点である。

学生の授業満足度

授業アンケートの集計結果からみると、授業内容についての興味・関心や授業内容が自分にとって得るところがあったかという点についての満足度が低くなっている。一方、ノートをとることや予習復習の実施等の学習態度は比較的高くなっている。

授業改善の課題と方策

上記アンケート結果から、学生にとって興味・関心があり、将来の仕事に有益であると考えられる内容を取り入れることが必要である。そのためには、授業内容を変えるというよりも、学習指導要領等の必須の内容を面白くかつ有益であると感じさせるための指導方法を工夫すべきであると考える。具体的には、学生の疑問や課題意識をもとにし、それを解決していく課題解決型の授業を取り入れることが効果的であると考える。また、学生の主体的な学習活動を促すためのグループワークやプレゼンテーションを取り入れていくようにしたい。

その他

非常勤講師

経済経営学部

授業改善書

科目名	企業情報論（ＩＲ）
担当者	米山徹幸

授業の概要

① 企業に関する情報は多くが新聞・雑誌やテレビ・ラジオ、インターネットなどのメディアや家族や友人などを通じて私たちに届く。そんな企業の情報の中で、本授業は株主や投資家など金融市場に向けた情報開示（IR）を取り上げる。
③ 授業では、金融市場向けの企業情報を、金融商品取引法や取引所規則などの法的開示（有価証券報告書や決算短信）から自主的な開示（自社 IR サイトなど）まで、各社の事例を具体的に追い、企業情報の内容や拡散の経路を理解する。
④ 授業は、独自の PPT を用意し、各回とも Teams にアップして予習や復習の利便を図った。
⑤ 受講者は、3 回のレポート（①関心のある上場会社の株価推移、②法が定める大企業とは？③自分が選んだ企業の IR サイトについて）を提出。

授業の問題点

① アンケートをみると、授業内容で「授業内容に興味を持ちましたか」や「シラバスに提示されていた内容、進展と一致していましたか」や「テキストなどの資料は適切でしたか」の 3 項目は、どれも昨年度よりも評価が高く、授業の成果も確認できよう。
② 株主・投資家と取り上げる企業情報を論じる「授業方法」でのアンケート結果も、昨年度よりも高い評価を得ている。とりわけ、「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」と「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」は高い評価となっている。
③ 毎年のように「ノートやメモ等を取りましたか」のアンケート結果が今一つなのは、課題である。毎回、授業の最後に、その要点を書いてもらうといったスタイルも考えたい。

授業改善の課題・方策

① 授業では PPT の冒頭で「前回のポイント」と「今回のポイント」を用意して、授業の内容を確認しながら進行した。
② 毎回の「ポイント」を追うと講義の全体を概観できる効用があり、いわば教科書の目次の次にくる要約集となる。
③ 毎回の授業の最後に、「今回のポイント」となる要約を書いてもらうスタイルも考えたい。

その他

授業改善書

科目名	産業組織論
担当者	安藤　陽

授業の概要

産業組織論では資本主義経済における市場メカニズムに関して、財・サービスの供給主体である企業・企業グループの市場行動やそれらが属する産業部門での行動原理を検討するが、この授業では、 電気事業や鉄道事業などでの企業行動や、競争・独占・規制と市場メカニズムとの関連を講義した。

授業の問題点

授業方法では、事前に授業内容のレジュメをインターネットに掲示し、パワーポイントを利用してその回の内容を説明し、授業後にパワーポイント資料と当日配布の授業ノートをインターネットに掲示した。このことによって、予習・復習を可能にし、また授業内容について自分のノートを作成・整理することができるようにした。

多くの学生は教員の意図を汲んで予習・復習をしたように思われる。そのことはリアクション・ペーパーでの記述にも反映されている。しかし、学生に十分に意図が伝わっていないという問題も残っている。

学生の授業満足度

授業内容について、学生の興味をより一層引き出す工夫は必要であるように思われる。ただし、レアクション・ペーパーでの記述を見ると、理論的な説明よりも具体的な事例の説明に反応しているように見られるので、理論的な説明を具体的な事例を交えながら説明すれば、学生の興味や学習意欲を引き出すことができ、授業満足度も高まったのではないかと思われる。

授業改善の課題と方策

授業内容と方法は引き続き改善を加えながら同じ方法を取っていきたいと考える。学生の興味・学習意欲を高めるために、授業時間中での質疑応答やレアクション・ペーパーおよびインターネットでの掲示資料の活用を図っていきたい。

その他

特にない。

授業改善書

科目名	原価計算論Ⅰ
担当者	江頭　幸代

授業の概要

製品を「１個作るのにいくらかかるのか」を求める原価計算論の授業です。製品を１個作るのには、それを作るために材料費、労務費、経費がかかります。前期の原価計算論Ⅰの授業では、費目別計算として材料費、労務費、経費の計算を行いました。その後、場所別にいくらかかったかを把握する必要から、部門別計算（直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法）を学習しました。前期の後半では、受注製品（たとえば船舶など）に関する原価計算である個別原価計算について学習し、後期の原価計算論Ⅱにつなげていきます。

授業の問題点

ほとんどの学生が熱心に取り組んでくれましたが、欠席の多い学生は欠席すると、なかなか次のステップに進むことができず、個別に対応しなくてはなりませんでした。また、教科書の入手の遅い学生も前半分部分では、授業についていけない様子もみられました。

学生の授業満足度

授業アンケートの結果は、よかったので、学生も満足してくれたものだと理解しております。

授業改善の課題と方策

オンライン授業と対面授業の隔週授業は、あまり効果がないように感じています。

その他

授業改善書

科目名	日本経営論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、コーポレートガバナンスを中心に日本企業の経営の特徴を解説した。具体的には、欧米企業などの動向に触れながら日本企業のコーポレートガバナンスの特徴を明らかにした。

授業の問題点

早々に出席と課題提出を止め、単位取得を諦める学生が多かったように思う。内容の問題か授業の進め方の問題か見当が必要であろう。

1 限開講の授業のせいか居眠りしている学生も結構いたように感じた。最後列の端の席を指定席にしている学生などで、ペンケースなどを隠れ蓑にスマホや内職に興じている学生が居り、着席についてもある程度規制を加える必要性を感じた（教室に十分なキャパシティがあったので、最後列の座席に座らないなどの規制を加えるなど。着席に指定を加えないとどうしても後列に学生が固まるので・・・）。

学生の授業満足度

満足度は、4.08 と平均値の 4.31 よりも低かった。内容の問題か授業の進め方の問題かどうか検討が必要であろう。

授業改善の課題と方策

講義開始直後は、本学部は経済学・会計学系のゼミに所属している学生が多いので、コーポレートガバナンスをテーマにした本講義は学生が普段学習している内容との親和性が高く、取り組みやすいのではないかと感じていたが、決してそうではなかったようである。次年度は、本講義のテーマ（コーポレートガバナンス）自体を見直す必要もあるかもしれない。

その他

グループ分けによる開講については初めての経験ゆえ戸惑うことが多かった。実際に受講している学生は A グループと B グループで合計 20 名弱であったので、グループ分け開講にする必要性は特に感じなかった。しかしながら、実履修者は 38 名であり、実履修者ベースで考えると、グループ分けの廃止は困難であった。次年度もグループ分けによる開講の場合は難しい判断が求められるのではないかと思う（この社会情勢は次年度も大きくは変わらないであろうことを踏まえるならば、グループ分けによる開講か全員受講させるかについては考えておかないといけないであろう）。

授業改善書

科目名	スポーツマネジメント論
担当者	大野貴司

授業の概要

本講義では、具体的な企業や組織の事例を挙げながら、スポーツならではの経営活動であるスポーツマネジメントの理論について講義した。

授業の問題点

1 限開講でありながら遅刻することなく割と真面目に受講してくれている学生が多かったように感じた。敢えて問題点を指摘するならば、授業態度の濃淡には多少差があったように感じた。次年度は時間割の隙間を埋めるために受講した層へ関心を高めるための仕掛けが必要となろう。

学生の授業満足度

満足度は、4.55 と平均値の 4.31 よりも高かった。彼らの需要とこちらの供給がうまくマッチしたこともあるかもしれないが、この数値を高めるための努力を継続したい。

授業改善の課題と方策

今年度のグループ分けによる開講については初めての体験ゆえ、戸惑うことが多かった。この社会情勢は大きく変わらないであろうことを踏まえると、グループ分けによる開講への対応を考えておく必要がある。具体的には、課題について教科書を有効活用できなかったので、次年度は教科書を有効活用できるような課題を出したいと考えている。

その他

部分的なオンライン教育の導入により、学生からのメールによる問い合わせが増えた。具体的な体験談は割愛するが、メールのやり取りの中で感じたのは、電子メールの扱いそのものに慣れていない学生が多いということである。そのあたりのメールの作成方法や情報倫理に関する教育の必要性を感じた。

授業改善書

科目名	経営心理学
担当者	杉原大輔

授業の概要

組織を構成する人の心的側面を正しく認識し、経営に活用できるよう、モチベーションとリーダーシップを中心的テーマとして、これらを日常生活レベルに還元して理解できるよう映画、動画等を用いながら、Teams の会議ツールを利用したリアルタイム型のオンライン形式で実施。授業を録画し、別途にアップすることで出席できなかった場合や追加の履修者でも初回より視聴、いつでも復習できるようにしている。

授業の問題点

・A/B に分かれため初回のガイダンスを 2 回やることになり、シラバスとのズレが発生した。
・Teams を全面的に利用しているが、Teams に触れることが初めての学生も少なくない為、課題の提出等で問題を抱える学生が若干名見受けられた。

学生の授業満足度

コロナ禍によって通常とは違う日常において、オンラインの長所を自らの大学生活に取り入れ、柔軟にこれに対応することを学ぶことができたと思われる。
社会に出ればミーティングツールの活用は当然の事なので、大学がせっかく用意してくれているツールを、積極的に利用しそのメリットを最大化してもらいたい。

授業改善の課題と方策

・毎回の講義の冒頭は新たなテーマの導入を兼ねて前回の復習を行っているが、シラバスのズレを取り戻すために、復習に掛ける時間が全体として少なかった。より柔軟にコントロールする必要がある。
・Teams の課題機能を利用したレポート等の提出を課したが、スマートフォンのみで対応しようとする学生が、レポートの作成、提出についてトラブルを抱え提出期限間際に個別の問い合わせをしてくる例が数件あったので、大学構内の PC の利用をより促す必要があった。

その他

各回の講義の骨子となるスライドは配布しているのでこれ以上の配布はしない。
各自が必要と考える情報が講義中にあったのならば、講義中に筆記することが肝要と考える。仮に、リアルタイムでの筆記が間に合わなかったのならば、復習用の動画があることは常にアナウンスしてるのだから、それを視聴し筆記することが復習の意味そのものだと考える。

科目名	管理会計論Ⅰ
担当者	藤井博義

授業の概要

管理会計は、経営者の意思決定に有用な会計情報を提供するための会計である。言い換えれば、経営者が経営上の諸問題を発見し、解決するために重要な会計である。本講義は管理会計の基礎的な知識の習得を目的として行う。
　本講義ではただ単に管理会計の技法を扱うだけでなく、管理会計が歴史的にどのように発展してきたのか、組織や経営の変化とどういう関係にあるのかという観点も含めて、説明する。講義後、できるだけ受講生の理解を深めるために課題を行う予定である。なお、受講生の反応みて内容を変更することがある

授業の問題点

アンケート結果から大きな問題点は特にないと判断できる。最大の問題はアンケートの回答率であるので、今後は学生へのアンケート告知を徹底した。

学生の授業満足度

概ね予想通りで大きな問題はないと考える。

授業改善の課題と方策

練習問題を増やすなどして、学生の理解度向上に努めたい。

その他

授業改善書

科目名	社会政策論
担当者	舩木惠子

授業の概要

資本主義社会である我々の暮らしになぜ社会政策が必要なのかを学ぶ基礎的な学習。格差、労働環境、福祉国家などを中心に身近な問題から理解を深める。

授業の問題点

社会政策の範囲は広いが、本講義では雇用問題やセイフティ・ネット、福祉国家の変遷を中心に講義をおこなったが、基本的に社会政策史に沿って大きな視点で講義を進めた。ただ、学生の中には漠然としていて、ピンとこないと感じたかもしれない。概要の理解と個別の理解の問題がある。

学生の授業満足度

学生たちの「得るところはあるが、満足度はややそれよりも低い」というような結果をきちんと分析し受け止めたい。

授業改善の課題と方策

視覚教材、例えばビデオやスライドなど、あるいは YouTube など使用することも考えたい。

その他

授業改善書

科目名	経済学史
担当者	舩木惠子

授業の概要

経済学の歴史をわかりやすく学習する。経済理論の成立をギリシャ、ローマの哲学の視点から説明し、現代の新古典派経済学に至るまでの理論史を経済学者の思想を含めて学習する。

授業の問題点

経済学を学ぶための基礎的な思考を養う、いわば教養科目であり、確立された経済理論をどうしても覚えてもらうことは多くなる。学術的事項の理解をしたうえで、議論に参加するという点で、大学教育にふさわしいとともに、それに興味を抱かない学生とのギャップが問題となる。

学生の授業満足度

やや平均を下回っているが、参加型ではなく、講義を主体とする授業であるため、また前述の「授業の問題点」で記述したような理由もあるのではないだろうか。また授業を選択する学生個人の目的にもよるだろう。単位取得だけを目的にする学生は毎回ごとの課題提出は苦痛であろう。しかし熱心な学生は「せっかくこの授業をとったのだから経済のこと、一通り理解して社会に出たい」とわざわざ言いに来る学生もいた。

授業改善の課題と方策

スライドの切り替えをゆっくりしてほしいという意見があったので留意したいと考える。しかし、同じスライドを毎回 Teams に載せ、事前にダウンロードできる状態にしてあるので、今後は自分でダウンロードできることを周知させたい。

その他

「質問や発言をしましたか」の数値が低いので、今後 Teams などを使って発言等を促したいと考える。

授業改善書

科目名	経済学総論
担当者	舩木惠子

授業の概要

経済学に関する予備知識として、経済とは何か、経済学はどのような学問なのかという初歩的なイメージを作る授業

授業の問題点

本講義は今年から受け持ったもので、学生たちがどの程度の基礎的学力を有しているのかが把握できなかったため、多くの大学で使用するマンキュー経済学からピックアップして現代的、もしくは新古典派経済学的ベースから始めることにした。ミクロ、マクロの概念、図表、グラフの見方、などから始め、最後はマルクス経済学の原論も加えたが、盛沢山すぎて、原論はほとんど理解されなかった。

学生の授業満足度

今回学生たちには少し難しかったかなと思っている。
ただ、今回はリモートと対面の交互対応をせざるを得ず、教える方も混乱しがちだったが、とにかく繰り返し理解させることに徹した結果、学生が「対面授業の時に復習として説明していてわかりやすかった」と意見してくれたことは嬉しかった。

授業改善の課題と方策

スライドは Teams のなかに事前に入れておき、同じものを授業で使用するようにしていたが、スライドの切り替えが早いという意見もあったので今後 Teams のダウンロードをして事前に予習するように促していく。

その他

リモート時の出席確認のために毎回簡単な質問を出していたが、それを試験が終了しても送信してくる学生がいる。課題は期間内に提出するという基本的なことを徹底したい。

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティ、オフィスソフトによる文章作成・データ処理・プレゼンテーション、インターネットを活用する情報収集・発信のための基本知識と技能を体系的に学べるように指導しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」や「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数でありました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「ネットの知識がなかったので少しでも知識を得られたことが嬉しかったです。先生も優しく教えてくださりとても楽しい授業です。」などのコメントをいただきました。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であったため、今後よりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。また、「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数であった理由については、今期から指定テキストの内容に沿って授業進行したことよる影響が大きいと考えております。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	環境経営論
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、持続可能な社会の実現に向けて、地球環境問題の構造と企業の社会的責任、環境経営の視点と実践に関する基本知識を体系的に学べるように講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」の項目が比較的低い点数であることがわかりました。

学生の授業満足度

アンケートの結果（授業満足度の平均点数は 4.71 と 4.52）から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であったため、今後よりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	リスク・マネジメント論
担当者	谷内　陽一

授業の概要

本講義は、リスク・マネジメントの意義と役割を平易かつ具体的に理解できるよう、講師の年金基金、銀行および生命保険会社での実務経験に基づき、保険論・金融論をベースとしたリスク・マネジメントの理論的体系から、企業・金融機関・個人におけるリスク・マネジメントの手法・実務ならびに具体的事例まで、学術・実務両面の視点から幅広く講義する。

授業の問題点

授業の方法や資料のわかりやすさは 4.88 点（平均 4.35 点）毎回の授業の内容・量の適切さは 4.81 点（平均 4.43 点）と高評価を得られたため、特段の問題は無いものと推察される。
強いて言えば、学生からの質問への対応が 4.63 点（平均 4.36 点）、授業を円滑に進めるための配慮は 4.69 点（平均 4.33 点）が他の項目に比べて相対的に低めだが、いずれも平均は上回っている。

学生の授業満足度

設問 1（授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか）が 4.88 点（平均 4.41 点）および設問 2（全体的に振り返って、授業に満足できましたか）が 4.81 点（平均 4.31 点）とも高評価を得られたため、特段の問題は無いものと推察される。

授業改善の課題と方策

学生からの質問への対応および授業を円滑に進めるための方策として、オンライン（Teams、Zoom 等）授業を本格的に導入し、チャットや質問入力フォームを活用して学生からの質問等を促す双方向形式での授業の実施に本格的に取り組みたい。

その他

特記事項無し

授業改善書

科目名	マクロ経済学
担当者	吉岡努

授業の概要

マクロ経済学の入門的な内容について講義を行った。講義では、基本的な用語の解説、GDP など一国経済の規模を推計するための指標の説明、財政政策や金融政策の効果を分析する理論的な方法などを扱った。

毎回の講義において、最初の 20 分ほどを前回の講義内容の復習にあて、学生が一つ一つ知識を確認しながら学習していくことができるように心がけて講義を行った。

授業の問題点

リアクションペーパーによって学生の理解度を確認しながら講義の進行速度を調整した結果、シラバスの内容をすべて終えることができなかった。授業内容の量が多いという学生からの意見もあったため、授業内容を絞ることで各回の説明をより丁寧にしていく必要がある。

復習の手助けとして、小テストの回数を増やして欲しいという意見もあった。今後は確認テストや小テストを複数回行うなど、学生が復習を行いやすくするための取り組みを強化していきたい。

学生の授業満足度

学生の授業アンケートによると、授業に対する満足度は４程度の水準であった。他の項目と比べ、授業内容の量に関する項目の点数と資料のわかりやすさに関する項目の点数が低かった。

より多くの学生が興味を持って学ぶことができるよう、講義内容の見直しと、講義資料をより見やすくするための工夫が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

授業で扱う内容の量が多いという意見があったので、講義で取り上げる内容を絞り、実際のデータを利用した現実の経済問題に関する説明や、例題による知識の確認にあてる時間を増やすことで、学生が各講義の内容を理解することができるようにしたい。

講義内容の要点を理解しやすくするため、講義資料中の図表を増やすなど学生の理解を助ける資料作りに努める。

今回は小テストを１回しか行わなかったが、学生が知識を確認するための機会を増やすため、確認テストや小テストを複数回行うことも検討する必要がある。

その他

授業改善書

科目名	国際経済論
担当者	小原篤次

授業の概要

国際経済論は、国々の間の経済関係や、国際経済の枠組みのなかでとらえた各国経済の現象に関する科目である。
前半は、国際収支の仕組み、外国為替のメカニズム、経済発展、国際貿易および経済成長の理論の基礎、後半は、国際貿易・海外直接投資、産業集積、社会関係資本・社会ネットワーク、経済協力・政府開発援助・SDGs など経済発展の諸要因を講義する。

授業の問題点

国際経済論と欧米経済事情を担当。国際経済論の履修は 1 年生から可能、他方、欧米経済事情は 3 年生が履修した。国際経済論は、確立した理論があるため、欧米経済事情より難易度が高いものとなった可能性がある。さらに、マイクロソフト FORMS や TEAMS などパソコン操作、大学などで利用環境についての質問が相次ぎ、1 年生が慣れておらず、戸惑いがみられた。当初、国際経済論履修の 1 年生は欧米経済事情の 2 科目の回答を行っていた。15 回のクイズ回答数の中央値はともに 13 であるが、平均値は 11.1 回と 11.7 回、履修者のうち 10 回以上の回答者が 74.7%と 82.6%と欧米経済事情の回答が若干、国際経済論を上回っている。懸念された点は回答状況でも示唆されていた。

学生の授業満足度

授業の満足度の 1 は、国際経済論が 3.79、欧米経済事情が 4.75、平均点が 4.41。
授業の満足度の 2 は、国際経済論が 4.05、欧米経済事情が 4.63、平均点が 4.31。

授業改善の課題と方策

欧米経済事情の評価の大半は平均点を上回っており、授業資料やクイズなどの難易度の調整を図りたい。
短い行数の連絡を繰り返すことで、パソコンの問題は解決できるものだろう。パソコンの問題の多くは学生がスマホでアクセスしたことで起きたものが大半だった。
いずれにしても、来年度、対面で改善できることも少なくないだろう。

その他

授業改善書

科目名	観光ホスピタリティ論
担当者	冨吉　光則

授業の概要

「ホスピタリティ」は、今最も必要とされているビジネスマナーの一つであり、顧客満足度を高める企業活動にとって必須の考え方である。日本には古くより「おもてなし」の文化があるが、業界別の「おもてなし」とは何かを検証したあと、観光に関する「ホスピタリティ」の現状をジャンル別に深く考察する。観光産業における顧客満足度・企業価値の最大化・持続可能なビジネス活動、を「ホスピタリティ」の観点から講義する。

授業の問題点

・「学習態度における授業の質問や発言をしましたか」の評定が 3.00 と低かったことを問題点としてとらえる。

学生の授業満足度

・「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.47 と高い評価であった。

授業改善の課題と方策

・授業の理解度をはかる毎回の課題の提出、また次週の講義の予習課題については、取組みを Forms で提出させる方式なので、こちらでの確認もできて、学生の取組も緊張感を持って一定の効果を見せている。
一方、授業内に学生に発言させることは実施しなかった。これを改善するために、まずは確認のための挙手、Yes/No の選択肢に挙手させる、その後、徐々に発言を求める方法で、授業を活性化させることとする。

その他

授業改善書

科目名	博物館教育論
担当者	奥田　環

授業の概要

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。
多くの実例を知り、体験することによって、次には自身が主体的な視点をもって博物館教育を考えられるように指導していく。

授業の問題点

博物館教育論は講義で学び得た知識や理論をもとに、実際の博物館活動のなかで自身が体験・実践することを通して、さらに知見を広め習得していくべきものであるが、本年度においてはコロナ禍により、様々な現場の教育活動を見学する機会を持ちにくいことが、残念な点であった。

学生の授業満足度

これまで自身が見聞してきた博物館の教育活動について、体系的・理論的にとらえることを通じ、あらためてその意図するところを理解したり、問題点を見出すことができたことが良かったと考える。
また、自分で企画を考える課題では、それぞれに創意工夫のある取り組みができ、より理解が深まった。

授業改善の課題と方策

博物館活動については、デジタル化が進む中で、展示・教育の概念もより広く多様になりつつある。現場の展示を実際に見ること、作ること、そして展示や資料をもとに展開される現場における教育活動については、これ以後も決して軽んじることはできないが、一方でオンラインを利用した新たな教育活動の提示のしかたについても学び、利用し、自らが構築する技術を積極的に指導していきたい。

その他

学生は総じて博物館学芸員課程の科目の習得に熱心で、興味を持って聴いてくれる手応えを感じている。その熱意を大切に、学生が関心を持ち積極的に臨める授業内容を提供するべく努力する所存である。

授業改善書

科目名	博物館実習
担当者	髙梨真行

授業の概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って，実践的な知識と技術の習得を目的とする。特に実際の現場では，いかなる問題を抱えながら，どのような対応をしているのか，といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容とする。秋期は博物館で行われている各種事業について実習の経験を踏まえ具体像を検討していく。その上で事業の実際を知るために博物館への見学を２回程度実施する。最終的には実習終了をうけ，各館で体験してきたことを中心に，１ 人１０分間程度の報告をしてもらう。その報告をテーマに受講生全員でのディスカッションを行いたい。

授業の問題点

話だけで板書がないため、一部に内容についていけない学生がいた
毎回の授業の内容や量にバランスを欠くと感じる学生がいた

学生の授業満足度

授業全体としては概ね好評価と判断される

授業改善の課題と方策

春学期は実習前ということもあり、実技内容が多かったため、各回授業において講義と実技との間で時間的内容的な格差が生じていた。秋学期に関しては、内容を精査して、各回に格差の生じないように努力する。

また、各回授業では事前に資料を作成して当日配付し、これをもとに講義を進めていたが、授業時に補足をする場合は口頭のみで済ませていたため、秋学期では板書やスライド画像上映も併用したいと考える。

その他

授業改善書

科目名	国語科教育法Ⅰ
担当者	橋本和顕

授業の概要

国語科教育法Ⅰは、教職課程の 2 年生を対象に、中高免許取得に向け、スタートを切る科目である。前半では、国語科の各領域別に教材の特徴を理解し、言語活動の特性に触れながら、学習者から指導者への視点の転換を緩やかに図ることを意図して進めている。また、後半の活動では、実際に教材研究を行い、学習指導計画を立て、模擬授業の実践、授業協議会の進め方や支店の取り扱いの具体を実地に学んでいる。

授業の問題点

おおむね満足度は高かったが、やや低かった 2 点について検討する余地がある。まず、出席や課題提出など、学生自身の学習態度についてである。資格認定の科目でもあることから、全授業回の出席を基本としているが、1 回～2 回程度の欠席が見られる。体調を崩す学生もいることから、感染症の広がりの懸念もあり、無理をさせられない面があった。欠席した学生へのフォロー課題を整えていくことも、今後、検討したい。

次に、授業内容や量について適切であったかどうか、も今後意識していく必要があるだろう。詳しい内容は、コメントもないので、直に学生から聞き取りをしないと分からないが、理解していくスピードの割には、量的なものが多かったのかもしれない。学習活動をさせる中で、言語活動の中身を十分に理解させていきながら、指導者として配慮することに丁寧に繋げていく時間の確保が必要かもしれない。注意深く、学習者の学びの過程を確かめながら進めていく必要があるだろう。

学生の授業満足度

上記以外は、学習態度、授業内容、授業方法、満足度ともに高評価なので、よいところを意識して、今後も進めていく。特に、学生同士の対話から、発想の豊かさを引き出したり、充分話し合ってから、教員が助言を加えることで、ねらいに近づけたりするなど、丁寧な授業運営を信条としているが、引き続き、学生主体で進めながら、大事な点を学ばせる質の保証も同時に進めていきたい。学生の意見や反応を引き出すことに時間をかけているので、それが学びの達成感を得られるように、今後も授業内容方法の工夫と改善を加えながら取り組む。

授業改善の課題と方策

問題点で述べたように、①フォロー課題の検討に入る。欠席をしてしまうと授業効果が半減してしまうので、課題を出し助言を個別に行うなど、相談にも応じやすい手厚い指導を心掛ける。②授業内容や量の見直しを意識して、学生の理解状況を把握しながら、適切な内容と量を割り出していく。理解が不十分学生へのフォローを積極的に行っていく。

その他

授業改善書

科目名	図書館概論
担当者	村上郷子

授業の概要

テキストを中心に図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から図書館活動の各領域に関する多様な知識や概念の基礎的なコンセプトを総合的に理解することをめざす。必要に応じて、ビデオ視聴、グループデスカッションなども取り入れる。授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

・「授業への学習態度」について、大半の学生の「ノートやメモ等を取りましたか」は4.80、「出席や課題提出等はしましたか」は4.77と自己評価が高かったが、「授業中の質問や発言をしましたか」の項目は3.90と低かった。

・授業内容や方法について相対的に学生の評価が低かった項目は、「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」が4.20、「学生からの質問などにきちんと対応しましたか」が4.43であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は4.57、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は4.43であった。

授業改善の課題と方策

・本授業では毎回次回の授業レジメを配り、予習をし、毎回授業前にクイズがあるため、復習をするよう促している。また、遅刻や欠席が多いと得点する機会を失う。今後も自発的に予習復習をするよう促していきたい。

・学生からの質問に適切に対応し、毎回の授業内容に心を配り、学生に考えさせるような質問を投げかけ、授業を円滑に進めるための努力を続けたい。

・視聴覚資料を使った分かりやすい授業やディスカッションなど、学生の興味関心を促す授業をしているが、今後も興味を持てるような授業運営に尽力したい。

その他

授業改善書

科目名	図書館情報資源概論
担当者	村上郷子

授業の概要

図書館情報資源に関する資料の類型と特質、資料の構造と歴史、現代社会における情報資源の生産・流通の現状と課題、資料の選択・収集・保存など、情報資源に関する基礎的な知識について講義する。同時に、講義だけではなく、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認テストを行うことにより、知識の定着をはかる。

授業の問題点

・「授業への学習態度」について、大半の学生の「出席や課題提出等はしましたか」は 4.76 と自己評価が高かったが、「授業中の質問や発言をしましたか」の項目は 4.09 とやや低かった。

・授業について相対的に学生の評価が低かった項目は、「授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか」が 4.24、および「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」が 4.32 であった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」は 4.47、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.44 であった。

授業改善の課題と方策

・本授業では毎回次回の授業レジメを配り、予習をし、毎回授業前にクイズがあるため、復習をするよう促しているが、今後も自発的に予習復習をするよう促していきたい。

・学生からの質問に適切に対応し、毎回の授業内容に心を配り、学生に考えさせるような質問を投げかけ、授業を円滑に進めるための努力を続けたい。

・授業内容の分量やスピード等は、学生の理解度を確認しながら、適切かつ有効に授業時間を使っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	図書館サービス特論
担当者	杉本ゆか

授業の概要

今まで学んだ司書課程科目を総合して、図書館におけるサービスについてさらに詳しく学ぶ。

授業の問題点

授業の大前提となっている、他の司書科目の履修が済んでいない、もしくは図書館概論しか履修が済んでいない学生が履修者だった。中には、司書課程を今年から学ぶ 2 年生が履修していて、図書館概論さえ履修していない者もいた。

学生の授業満足度

おおむね良好。

授業改善の課題と方策

「図書館サービス特論」は、「特論」であり、応用科目である。したがって、司書課程の他の科目を複数学んで、司書課程の内容の基礎知識を習得した段階で履修するように設定すること。

その他

授業改善書（秋期）

目　次

専任教員

人間学部

人間文化学科・・・・・Ｐ　1～Ｐ15

心理学科・・・・・・・Ｐ16～Ｐ30

子ども発達学科・・・・Ｐ31～Ｐ49

経済経営学部

経済経営学科・・・・・Ｐ50～Ｐ70

非常勤講師

人間学部・・・・・・・・・Ｐ　71～Ｐ108

経済経営学部・・・・・・・Ｐ109～Ｐ127

専任教員

人間学部　人間文化学科

授業改善書

科目名	日本史概説
担当者	福島良一

授業の概要

本授業では近代日本の歴史を取り上げ、主に日本政治の歩みを概説的に講義した。特に、江戸封建体制から近代国家へと転換する時代潮流にあって、日本はどのように国内体制を構築し近代政治を展開したのか、そして対外的には国際社会のなかで日本はどのような行動をしたのか、という点に着目をしていった。それにより、近代日本の内政と外交の実相を理解し、日本の近代化の特質を考察した。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目は4点台のものが少なくなかったが、「授業方法について」に限って見ると「授業方法のわかりやすさ」や「授業内容の量」の面では4点を割る結果となった。この問題点は私自身も自覚しているところである。その要因として、対面授業とオンラインによる課題レポートを組み合わせた授業スタイルをうまく運用できなかったことが大きかった。対面で扱う授業内容が授業時間内で消化しきれないことが多くあり、そのため十分な説明ができないことがしばしばあった。その分学生には、自学による課題レポート作成という大きな負担をかけることになってしまった。そのため、一定数の学生にとって、授業が苦しくわかりにくいものになってしまったのではと考えている。「学生による主な意見」に「わかりやすく丁寧に教えてくれた」という好意的意見がある一方で、「理解出来ないときがあった」、「内容を読み解いて行くのに時間がかかってしまった」という批判的意見が存在していることにも、この授業の問題点が明瞭に示されている。

学生の授業満足度

本授業に対する「学生の授業満足度」は授業の有益さの評価が4.13、全体的な満足度評価が3.99であった。授業に対する理解度の違いが、満足度評価にも大きく影響していることが窺える。

授業改善の課題と方策

コロナ禍における対面とオンラインの併用型授業の展開方法に改善すべき点があることを認識する必要がある。特に時間的に無理のない授業計画を立て、それに基づいて各回の授業内容の分量を配分することである。過度なノルマに追い立てられることがないよう、学生の授業理解度を確認しつつ、余裕をもってわかりやすい授業を行っていくことを心がけたい。

その他

授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤　栄晃

授業の概要

本講義は、歴史を叙述・研究し学ぶ営みが西洋でどのようにして生まれ育まれてきたかを、古代地中海世界の戦争の記述から始め、現代英仏の「社会史」研究の最先端にいたるまでの歴史を概説する。西洋の歴史学・歴史叙述の最大の特徴は、過去を描くことにどのような意味があるのか、そして過去をどのように描くかという問題に常に真剣に取り組んできたことにある。本講義ではこの歴史哲学上の問題を、第一に歴史観という思想の問題として、第二に歴史叙述のスタイルや歴史調査研究方法という技術の問題として講じる。加えて史料の取り扱いや歴史事実の批判的検証などの技術的課題に研究者がどのように取組んできたかという問題にも触れる。時代背景としての現実の歴史過程の紹介も、可能な限り実施する。

授業の問題点

アンケートからは、①予習復習（授業外学習）の実施ならびに②授業内での質問や発問の実施の 2 項目のポイントが他の項目に比して明らかに低く、ここに課題があるといえる。特に②項目は今期も２ポイント台と低迷しており、特にしっかりとした取り組みが必要である。

学生の授業満足度

授業満足度の二つの項目は、ともに４ポイント台を得ており、受講者の満足度はおおむね良好との印象を受ける。ただいずれも平均値には及ばず、とくに１の授業内容の有益性如何の評価が低めだったのに注意したい。今後はその改善に注力したい。

授業改善の課題と方策

上記の評価に基づき、次期授業についても、基本的な授業コンセプトはこのまま維持しつつコンテンツの充実に努めるのが良いと思われる。また「授業の問題点」で指摘した①・②の 2 点については、オンラインでの双方向の授業スタイルを全学共通科目でどのように確立するかという問題への取り組みが必要である。そのためにはやはり、授業で取り上げる項目の優先順位を更に明確にし、絞り込むことが肝要である。その上で、①への対応として、各回授業の中で次回授業内容の骨子の紹介を行い予習の便を図るとともに、前回授業内容を大まかに振り返ることで、理解の定着を図りたい。さらに重要な②への対応として、授業内に質問時間を意識的に設けると同時に、授業時間外にも研究室などで可能な限り質問への対応を心掛ける。

その他

とくに昨年来のコロナ禍の中で受講生にはやや負担とも思われるが、この授業では１回の必須のレポート課題を実施している。このような難しい状況の中でも受講生の 81%を超える 86 名がレポートの期限内提出に応じてくれた。彼らの積極的な取り組みと払われた努力とを多としたい。また、結果として提出できた受講者のほとんどが合格できているという実績からすれば、その学習効果は明らかであり、今後も工夫を加えながらレポート課題は継続してゆきたい。

授業改善書

科目名	日本文学史概論（近現代）
担当者	掛野剛史

授業の概要

毎回対面授業で行った。シラバス記載の内容は以下の通り。

明治維新前後から、1960 年あたりまでの日本文学の流れをたどり、この時期の文学の歴史を講義していく。最低限の文学史の知識を身につけることが第一目標であるが、そのためには、文学史と密接に関わる日本近代史の知識も必要であり、また、自ら多くの文学表現に直接触れ、実感することも必要である。授業時間外の各自の自習によってそれらを補うことが望ましい。授業では 3～4 つの課題作品を指定するのでそれを読むこと。その内容を小テストによって確認する。この小テストは 4 回行う。

授業の問題点

履修者 59 名、回答者 59 名

前年度→今年度の形で記す。
なお前年度は、対面と遠隔（オンデマンド）を交互におこなう形式であった。
Ⅰ授業内容について
・授業内容に興味や関心を持ちましたか 4.66→4.40
・シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか 4.53→4.44
・テキストなどの資料は適切でしたか 4.59→4.54
Ⅱ授業方法について
・授業の方法や資料はわかりやすかったですか 4.66→4.49
・毎回の授業でテーマは明確に示されましたか 4.72→4.62
・毎回の授業は適切な内容や量でしたか 4.38→4.46
・学生からの質問などにきちんと対応しましたか 4.47→4.57
・授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか 4.59→4.56

以上の結果から、内容、方法についても昨年度同様、高い評価を受けているものと判断できる。

学生の授業満足度

・授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.59→4.44
・全体的に振り返って、授業に満足できましたか 4.59→4.38
自由記述の内容も、こちらの意図を理解した上でのコメントであり、昨年度同様、高い満足度を得ているものと思われる。
また、

授業改善の課題と方策

ある程度の形ができており、学生からの評価満足度も高い授業となっていると考えられる。今後もこの形でさらに質の高い授業を提供したい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	熊田 和典

授業の概要

この授業改善書には、私が今期担当した 3 クラス（3 学科）の英語Ⅱについてまとめて書くことにする。春期に行った英語Ⅰと同一の受講生に対して、英語Ⅰから継続して行ったこの英語Ⅱは、大学で英語を学習する基礎力を総合的に養うことを目的とした科目である。これまで学習してきた英語の力をもう一度確認しながら、英語の基礎力をさらに伸ばすことを念頭に置いている。担当した英語Ⅱの 4 クラスはすべて学科が異なり、すべて英語を苦手とする学生対象のクラスである。

授業の問題点

この英語Ⅱと同一の学生が受講した英語Ⅰの授業アンケートは 3 クラスとも、あまり良い結果とは言えなかったため、授業に工夫を行ったところ、3 クラスとも総じてアンケート結果が上がった。その中で、特に、学生からの質問に対する対応と授業を円滑に進めるための配慮の項目が他の項目よりも評価がやや低かった。授業の満足度ももう少し上げて、学生に満足してもらわなければならないだろう。

学生の授業満足度

授業アンケートの数値を見る限り、3 クラスともに 5 点満点中 4 前後であり、もう少し評価を高くしたいところである。3 クラス中では月曜日 1 限のクラスが比較的低かった。

授業改善の課題と方策

この英語Ⅱと同一の学生が受講した春期の英語Ⅰの授業アンケートは 3 クラスとも、総じてあまり良い結果とは言えなかった。そこで、対策として、個々の問題点への対処よりも、このコロナ禍で感染には気をつけながら、受講生との距離を心理的に近くするように努め、さらに、英語の学習だけではなく、テキストに出てくる、英語圏の文化にまつわる話題を盛り込み、英語に親しみやすくするようにした。その結果、3 クラスとも総じてアンケート結果が上がった。しかし、上述したように、まだ問題点は残っている。問題点は、特に、学生からの質問に対する対応と授業を円滑に進めるための配慮の点であることから、方策は、私が今期推し進めている改善の仕方で方向は間違っていないように思える。この項目の評価は英語Ⅰより上がっているものの、もう少し評価を上げたいところである。コロナ禍でマスクをつけなければならないこと、飛沫が飛ぶことから双方の授業が以前ほど行えないことなど不利な条件も重なっているが、まだ改善の余地はある。各授業の工程にさらに工夫すべきことがないか確認しながら、さらにこの方向を推し進めていきたい。

その他

英語が苦手な学生もいることから、できるだけ丁寧に教えることをモットーとしているのだが、ある学生から、「先生が英語が苦手でも、丁寧に解説して下さり、分かりやすかったです。」という有難いコメントを頂いた。この方針は続けていこうと思っている。

授業改善書

科目名	**英語Ⅱ(心理学科)**
担当者	**現影秀昭**

授業の概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の構造を目指します。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、大学生の日常生活を舞台にした会話、文章の理解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用力を高めます。

授業の問題点

心理学科の学生のための英語の試みでした。授業の内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいして 4.32 ポイントでした。
授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかという問いかけにたいしては 4.56 ポイントでした。
授業内容に興味や関心を持ちましたかという問いかけにたいしては 4.32 ポイントでした。学生からの質問にきちんと対応しましたかという問いにたいしては 4.52 ポイントでした。

学生の授業満足度

学生からは基礎からしっかり教えてくれて、発音の仕方なども教えてくれてとてもためになりましたという意見もあり、全体的に振り返って、授業に満足できましたかというアンケート項目についての回答は 4.44 ポイントでした。授業の方法や資料はわかりやすかったですかと言うアンケート項目についての回答は 4.40 でした。またノートやメモ等をとりましたかというアンケート項目についての回答は 4.68 でした。以上のことから、学生の授業満足度はあったと思います。

授業改善の課題と方策

授業外の学習、たとえば、予習や復習などをしましたかという問いかけにたいして 3.68 ポイントでした。この課題に対しては、適切な分量の宿題をだしたり、提出物や調べものをしてもらうことが必要になると思いました。適切な分量と動機づけも必要です。テキストなどの資料は適切でしたかという問いかけに対しては 4.64 ポイントでした。毎回、心理学の単語をテストし、授業の初めに学生を指名して前回の復習しています。しかしテキストの練習問題や本文の訳などを事前に(グループで)調べてもらってきて、授業のときに発表してもらうというようなアクティビティーを行う方策が考えられます。

その他

授業中は、なるべく誰もが意見や質問を出しやすい雰囲気を作るように努力していますが、今後も学生に対する質問などをうまく使って、学生にいろいろな意見や質問をだしてもらうように今後も努めていきたいと思います。毎回の授業は適切な内容や量でしたかという問いかけにたいしては 4.48 ポイントでした。これについては、90 分の授業をいくつかのセグメントに区切って、複数のアクティビティーやエクササイズ、練習問題などを適切な時間配分でおこなうということを今後も心がけていきたいと思います。ただ内容により時間配分を工夫しないと難しいのですが。学生は素直で授業中も私語はなくやりやすいのですが、むしろ元気に教科書を音読する学生を励まし増やしていければと思います。最後の課題プリントの問題数に対して時間をもう少しとる必要を感じました。

授業改善書

科目名	英語圏文学講読（近現代）
担当者	西山智則

授業の概要

エドガー・アラン・ポーを中心として、英語圏のゴシック小説の傑作を分析する。ときにその映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫ると同時に、文学を通した他者理解を目指す。

授業の問題点

英語圏文学の名作を読み解いてゆく科目であるが、原文の英語ではなく、日本語の翻訳を使った。しかしながら、翻訳であっても現在の大学生のレベルには少々難解な作品が多かったのは残念である。また、ときに映像化された作品を使うことは、理解の助けになったと考える。文学作品の時代背景やそこに隠された政治的無意識などを普段ほとんど学生は考えないが、文学をそうした資料として読み解くのは、異文化理解の上でも重要であり、読書への動機づけとなる。文学作品を現代に生きており、さらに一般に開かれたものとして講義してゆきたい。

学生の授業満足度

エドガー・アラン・ポーを中心として英語圏の様々な小説を取りあげて、性差・人種観を考えるという授業内容であったが、授業アンケートにおいて授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたかの項目は 4.63、授業内容に対する興味や関心の項目も 4.63 だった。授業アンケートでは「観点が新鮮でとても楽しめた」「とても将来に役立つ講義を受けさせてもらいました」「有名だけど見る機会のなかった映画が取り扱われたりして面白かったです」などの意見もあり、授業中のコメントペーパーやレポートには、独創的な視点から文学の歴史的、文化的背景を読み解けた優れたものも多数存在した。授業の方法や資料のわかりやすさの項目は 4.60、満足度の項目は 4.60 であった。また、学生からのコメントはできるだけ数多く紹介したので、学生からの質問に対応したかの項目は 4.60 であった。

授業改善の課題と方策

文学を通した他者理解を促すために、文学への関心を喚起してゆける授業を目指し、学生が自発的に読書に向かうような動機づけを果たしたい。学生の活字離れの問題もあり、なかなか難しい課題であるが、そのためには、動機づけの第一歩として、映画やアニメなどのサブカルチャーを導入口に利用し、古典的な文学が形を変えていかに現代に残っているかを実感させたい。また、大変優秀で知的好奇心の高い学生も存在した。こうした学生の能力を伸ばすために、コメントカードやレポートのさらに詳細な添削をしてゆきたい。

その他

授業改善書

科目名	生徒進路指導論（中高）
担当者	布村育子

授業の概要

教職課程（中高）の必修科目である。前半は生徒指導、後半は進路指導の内容であり、それぞれの理念を学習した後に実際の教育現場の事例を考察するという構成である。また各種統計を用いて、自身の持っていた生徒指導に関するイメージ等を批判的に検討するという作業も行っている。

授業の問題点

履修者が 50 名となり、話し合い等の学習を取り入れることができなかった。
通常は、全員のコメントを互いに検討する時間を設けているがそれができなかった。
教職に就く意欲がなくなった学生が出始める時期であり、モチベーションをどのように上げていくのかが課題である。

学生の授業満足度

すべての項目で満足度が平均を上回ることができた。
予習と復習を行っている学生が前回のアンケート時よりも増えていた。
教職に就くというだけの目的ではなく、授業内容を教養として身に着けてもらえているようであった。

授業改善の課題と方策

学生が授業内に発言できる機会を増やしたい。
予習と復習のために、参考文献をプリントにまとめることも必要である。

その他

授業改善書

科目名	日本史資料講読（古代・中世） および 古文書学
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

＊方法と目標が類同であり，アンケート結果もほぼ同傾向だったので，2科目まとめて記述する。両科目の相違点は以下のとおり。

日本史資料講読（古代・中世）：訓読・活字化された資料を読む。教職課程「教科に関する科目」に列しているため，主に高校日本史に登場する題材を扱う。

古文書学：文書原本の写真版を用い，翻刻と訓読とを参照しつつ読解する。

授業の問題点

＊「古文書学」において，「授業外学習をしましたか」が低い（3.77）。　語学や国語の古典に近い性質の科目ゆえ，このポイントが低いのは問題だと考える。

＊「質問や発言をしましたか」が低い（3.44／3.30）。　履修者の積極性を見る意味では低いのは問題だが，例年と同じ程度。単純に高ければよいともいえまい―講義科目で質問がやたら多いのは，わかりづらい／納得できない，という批判かもしれぬ。

学生の授業満足度

両科目とも履修者諸君はそこそこ熱心に見受けられた。実際，「授業について評価」の各項目いずれも4ポイント以上なのは，担当者として大いに慶ばしく思う。数値的には満足度80%以上，これはそれなりに嬉しいことである。もっとも，母集団40名前後でこのような数字を出したところで，さしたる意味もあるまいが…。

授業改善の課題と方策

＊授業外学習（予習・復習）の励行促進

とにもかくにも，シラバスおよび初回授業で指示しているとおりの予習・復習を励行してほしい。要するに，【予習】題材を前もって眺めておく，【復習】教科書とノートを読み返す，と言っているだけなのだから，何ら難しいことを求めてはいない。それすらしないのは履修者側の怠惰に過ぎないから，担当者として改善する余地はないのだが，それでは身も蓋もないので，何か方策を出さねばなるまい。やはり，毎年予告しながら実践できていない「指名して読ませる・答えさせる」を実践することが有効だと思う。立ち往生の姿を見るに忍びないけれども，来年度は心を鬼にして敢行しようか。

＊ノートをとることの督励

両科目とも4.5ポイント強だが，この数値は受容できない。こちらの見るところでは2ポイント台に止まるはず。諜報員の養成所ではノートをとることを禁ずると仄聞するけれども，大学の講義でそんな無茶な話はない。この課題もまた，当方が何か策を練る底のものではないが，強いて方策をとあらば，頻繁に確認の小テストを実施すること，（教養演習で）ノート・テイキングを鍛練すること，などが想定される。

アンケートから窺われる課題は，必ずしも当方だけが方策を講ずべきものではなく，むしろ履修者諸君の意識向上に俟つところが大きいようだ。「学ぶ」にあらず，「単位を取る」に終始しているかと感じられ，残念でならない。毎年，そして今年も，素点では平均30前後。「理解」以前に「常識」を疑う，奇態な珍答も少なからず見られる。

その他

今回は自由記述欄に記入されたコメントはなかった（らしい）。

数年前の「古文書学」につき，黒板に掲げる写真が小さいのでプロジェクタの使用などを検討するとの改善策を示したものの，別の難点を生ずることが明白なので導入していない。闇雲に学生の意を迎えることは，衆愚に堕する危険もあるように思う。

授業改善書

科目名	日本文学講読（古典）Ⅱ
担当者	穴井　潤

授業の概要

平安時代から鎌倉時代への移行期を生きた女性の作品『建礼門院右京大夫集』を講読する。激動の時代に翻弄された女性が自分の人生を作品化したもので、輝かしかった過去から、それが失われた後の絶望の日々までが記される。

過去の出来事を選んで残すということは、記さずにはいられなかった思い出が集められているということであるので、その点に注目しながら読み進めたい。特に「建礼門院右京大夫」という呼び名がなぜ残ったのか、そこにはいかなる思いがこめられているのか、に注目する。

授業の問題点

対面・オンライン併用であったため、対面授業の回と課題提出の回では理解度に差があったように感じられた。課題についても復習している様子は見受けられず、対面授業の回で質問しても答えられない学生がまま見られた。

また、二年次以上が履修するということもあり、課題の難易度を上げたところ、質問しに来る学生とわからないまま放置する学生とで理解度の差が開いていき、それが定期試験の結果に如実に表れてしまった。

学生の授業満足度

Ⅲ-1 は 4.54(平均 4.45)と学生にとって得るものがあったととの評価を受けた。また、Ⅲ-2 も 4.54(平均 4.37)と授業に満足した生徒が多かったと判断できる。学生からは、「なかなかマイナーな作品だったのだが和歌で感情を表現するところが美しかったのが面白かったです」との意見をもらった。

授業改善の課題と方策

【授業満足度】欄に記入したように、専門的な作品であったが、学生は関心をもって受講してくれた。興味を引くよう努力したが、それが結果に反映されているようなので継続して努力を続けたい。

一方で、【授業の問題点】欄に記入したように、毎回オンライン用課題を設定していたのだが、Ⅰ-1 が 4.50(平均 4.60)とやや低かったため、周知が足りていなかったかもしれない。次回以降はさらに頻繁に課題提出を呼びかけるようにしたい。課題の難易度を下げることも検討する予定である。

その他

特記事項なし

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	太田絵梨子

授業の概要

科学としての発達心理学に関する基礎的な理論の理解を深めると共に、人間の発達を促す保育・教育実践のあり方についても議論する。将来、教師や養育者として人の発達を支える立場になることを見据えて、理論的基盤に基づいた判断・行動ができるようになることを目指す。

授業の問題点

・１限の授業ということもあってか、学生の出席率の低さが目立った。
・教科書を指定せず自作のプリントを用いて授業を行ったことにより、学生の主体的な授業外学習（特に予習）を促すことができなかった。
・授業中に学生同士で話し合う時間を設けたものの、一部の学生のみが話し合いに参加するにとどまり、効果的な協同学習を促すことができなかった。

学生の授業満足度

・「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」平均点 4.45
・「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」平均点 4.37

以上の結果から、全体的な授業満足度は比較的高かったことが窺える。
しかし、「質問や発言をしましたか」平均点 3.34 など、主体的な参加を促せたかどうかという点については課題が残される。

授業改善の課題と方策

・次年度以降は、教科書を指定し、主体的な予習及び復習の機会を設ける。
・１限であっても参加したいと思えるよう、ロールプレイングやデモ実験など、学生が楽しんで学べる工夫を今以上に積極的に取り入れる。
・アイスブレイクや課題の工夫を行うなどして、学生同士での話し合いがより円滑に進むような雰囲気づくりを心がける。

その他

授業改善書

科目名	教養演習 II
担当者	岡田正樹

授業の概要

1 学年向けのゼミ形式の授業である。今学期は、自分で対象・テーマを定めてレポートを書く」ことを最終課題として提示し、それに向けて各種課題に取り組むことで、大学での学びに必要な知識や技術を身につけることを目指した。

授業の問題点

授業外学習に関する項目が平均を下回っている。
I-2 シラバスの内容や進度との一致に関する項目が平均を下回っている。

学生の授業満足度

III-1 が 4.83、III-2 が 4.75 であった。

授業改善の課題と方策

質問や発言の項目は平均を上回ってはいるが、もう少し高いほうが望ましいと考えている。COVID-19 の状況にもよるが、より多く発言できる環境を作っていきたい。

授業外学習については、課題の頻度を調整する。提出状況は悪くなかったため、その点は維持したい。

I-2 に関しては、シラバスに「回数や進度についてはあくまでも例示であり、担当教員によって変更がある」とあるとおり、適宜変更を加えた。具体的には、質問の仕方、論理の基礎、発表用資料の作成方法、ウェブの資料を含む参考文献の書誌情報記載の方法などを授業内容としてとりいれた。シラバスとの相違について、授業時により詳しく伝えるようにする。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	日本語学（各論）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

日本語学の様々な広がりを学ぶ。対照言語学、社会言語学、比較言語学など。

授業の問題点

日本語学（各論）の学生数は日本語学（概論）に比べてやや少なかった。これは内容がマニアックだからではないかと思われるが、だからと言って内容を平易にするのも違うと思われる。非常勤講師であった 2 年間もこの内容でやって来たことであるし、専任講師となった今でも内容としてはこのままで良いと考えている。課題の内容は配付資料に書いてあることを聞くだけなので非常に易しいと自分では思っているが、レポートに空欄の目立つ学生も少なくない。

学生の授業満足度

平均点に近い数値が出ているので、良かったのではないか。

授業改善の課題と方策

授業としては数年実施してきてほぼ完成しているので、特に改善点は見当たらない。

その他

特に無し。

授業改善書

科目名	文章作成法（月曜 4 限）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

作文の授業。毎回アカデミックライティングに関連したワークシートをやり、それに関連した講義も実施する。余った時間は作文を書く。作文は家でやってきてもよい。

授業の問題点

春の「日本語の運用」はビジネス文書を、秋の「文章作成法」はアカデミックライティングをやるという当初の目標だったが、春に実際に作文を始めてみると、基礎的な日本語の間違いが非常に多かった。漢字の間違いは変換機能があるからまだ許されるが、テニヲハの間違いは社会では問題となる。そうしたことから、テーマを自由として、何かを論述する作文と日本語のミスの添削の授業を実施した。授業はよく機能していた。

学生の授業満足度

平均点に近い値が出ているので、良かったのではないか。

授業改善の課題と方策

改善点はあまり見当たらない。エフォートとしてはこの授業に最大のエフォートを支払った。添削にかかる時間が途方もなく大きい。春の「日本語の運用」の授業改善書で「秋の「文章作成法」は 2 コマ連続であるが、今より客数が増えると、さばき切れる自信はない」と書いたが、案の定、客数が非常に多く、大変だった。

その他

特に無し。

授業改善書

科目名	文章作成法（月曜 5 限）
担当者	髙山林太郎

授業の概要

作文の授業。毎回アカデミックライティングに関連したワークシートをやり、それに関連した講義も実施する。余った時間は作文を書く。作文は家でやってきてもよい。

授業の問題点

春の「日本語の運用」はビジネス文書を、秋の「文章作成法」はアカデミックライティングをやるという当初の目標だったが、春に実際に作文を始めてみると、基礎的な日本語の間違いが非常に多かった。漢字の間違いは変換機能があるからまだ許されるが、テニヲハの間違いは社会では問題となる。そうしたことから、テーマを自由として、何かを論述する作文と日本語のミスの添削の授業を実施した。授業はよく機能していた。

学生の授業満足度

平均点に近い値が出ているので、良かったのではないか。

授業改善の課題と方策

改善点はあまり見当たらない。エフォートとしてはこの授業に最大のエフォートを支払った。添削にかかる時間が途方もなく大きい。春の「日本語の運用」の授業改善書で「秋の「文章作成法」は 2 コマ連続であるが、今より客数が増えると、さばき切れる自信はない」と書いたが、案の定、客数が非常に多く、大変だった。

その他

特に無し。

専任教員

人間学部　心理学科

授業改善書

科目名	心理学統計法Ⅰ
担当者	安崎文子

授業の概要

心理学は科学であり，「人の心」を理解する為に実験・調査・観察などを行う。そして，その実験や調査で得られた数値データ結果を統計解析し，数値の意味を解釈していく。心理学統計法Ⅰでは，心理学で扱うこうした数値データを解析する為の，最も基本的な統計的基礎について，講義形式に一部演習を加えて授業をおこなった。本授業は，心理学科の必修科目であり，公認心理師カリキュラムに対応する科目である。

授業の問題点

大部分の学生は，心理学を文系と勘違いして入学してきた。その為，数字や統計処理に拒否的で抵抗感が強い。心理学統計法Ⅰは必修の科目であるが，100 余名の学生すべてに，統計の意味と方法を理解してもらうことは，非常に難しかった。なかには，正負の数の加減がわからない，2 乗の意味が分からないという学生もいた。そこで，できる限り，覚えなくてはいけない量を少なくし，同じような例題を繰り返した。実際に計算をしてもらい，アクティブ・ラーニングを取り入れた。毎回取り上げた課題は，その時点では理解できても，次の授業になると忘れてしまうので，繰り返し問題提起するように心がけた。計算には時間がかかるので，できる限り全員出来るまで待つようにした。

対応の有り無し，分散が等しい等しくない等による推測統計の違いは，理解できていないようであり，繰り返し丁寧な説明が必要であると考える。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るとこがあったか」は 4.23（平均 4.45），全体的に振り返って授業に満足できたか 4.14（平均 4.37）と平均より多少低めだった。それでも，4 点以上であり，学生にとって難解な統計学ではあったが，なんとか嫌がらずに 15 回終わることができた。

授業改善の課題と方策

苦手の数学をわかりやすく理解させることが課題である。方策だが，式を見せると，極端に苦手意識が強まるので，具体例を常に示すよう努める。専門用語は避ける（シグマは全部足す，2 乗は 2 回かける等），小中学校で既習の事柄であっても，当たり前と思わずに，繰り返し説明をすることが肝要だと思われる。今後も引き続き，実際にアクティブ・ラーニング，手計算を繰り返すことなどにより，眠らせない，覚醒させる，事を心掛けたい。

その他

心理学で扱う数学は中学校レベルである。しかし，多くの学生たちは，小学校の「割合」の計算でつまずいている。心理統計の計算は，結局，パソコンで行われる。従って，計算力より，どのようなときに何の統計処理を行う必要があるのか，理解させるように，努めたい。

授業改善書

科目名	心理学統計法Ⅱ
担当者	安崎文子

授業の概要

「人の心」を理解するために行われる心理学の実験や調査で得られる数値データは，数値の意味を解釈するために必ず統計的処理が行われる。心理学統計法Ⅱでは，心理学統計法Ⅰを基に，心理学研究で用いられる様々な統計的技法のなかから，相関分析，分散分析，多変量解析等の一部を紹介した。また EXCEL や SPSS といった基本的統計ソフトウエアの操作方法についても，演習を行った。本授業は心理学科の学生にとって選択科目である。

授業の問題点

最も大きな問題は，心理統計法Ⅰは必修であったが，ごく基礎の最低限の知識であり，そこから，一気に飛躍しすぎた点である。標準偏差や相関などが，なんとかわかる程度の学生に，一気に分散分析や多変量解析は難しすぎた。同様に問題点であったのは，学生が，パソコンの基本的操作を知らないということであった。SPSS にデータを入力する前に，EXCEL データの作成，EXCEL でのコピーの方法，完成したデータの保存，などといった基本的な操作を知らない学生がほとんどであった。学生のレベルの差も大きく，前期で心理学実験を履修した学生にとっては比較的易しい課題であっても，大部分の学生にとっては非常に困難であった。慣れていない為と思われるが，作業スピードが非常に遅く，授業を進めるスピードは倍以上にゆっくり進めた方が良かったと，反省している。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るとこがあったか」は 3.52（平均 4.45），全体的に振り返って授業に満足できたか 3.26（平均 4.37）と平均より大分低めだった。難解でついていけなかったということに尽きる。

授業改善の課題と方策

統計法Ⅱで，因子分析まで網羅することが無理であった。統計法Ⅱでは，パソコンの基本的操作を終えてから，理解度に合わせて，ゆっくり進むべきだった。3 年の統計法演習担当の先生とも話し合い，今後は分担する必要があると思われる。

その他

パソコンの基本操作は，「情報処理の操作」で学習していると思われるが，統計に必要な EXCEL の使い方は十分理解できていなかった。

授業改善書

科目名	学校臨床心理学
担当者	杉山雅宏

授業の概要

いじめ、不登校、学級崩壊など、学校現場で頻発する問題を臨床心理学の視点から解決に導く方策について学ぶ。
子どもの心の問題についての実践的な学習を通して、自己理解や他者理解を深め、社会生活において役立つコミュニケーション能力を磨き、豊かな人間性を育めるような講義にする。
他者理解（子ども理解）を促進するため、、自己理解を深めるワークを実施する。

授業の問題点

・他学科の学生さんを対象とした講義であるため、興味・関心など個人差が大きい。
・履修する学年も特定の学年に指定されていないため、経験の幅がことなる。

学生の授業満足度

・学生さんは概ね講義の進行・内容に満足されていたようである。

授業改善の課題と方策

・具体的な事例を紹介し、学校臨床心理学に興味・関心を抱いていただくような工夫を試みた。
・個人ワークにより毎時間、学生同士が自分の考えを発表できるような場面を創出した。
・学生からの質問には毎時間応えるようにした。
・学生さんが私語をしないような工夫を心みたい。

その他

授業改善書

科目名	環境心理学
担当者	古澤照幸

授業の概要

環境心理学とはどのようなものかを第2回で講義し、環境の認知を第3回から第5回に述べる。第6回以降、「パーソナルスペース」「都市と自然」「犯罪への認知」など環境に関わる問題を総合的に議論した。

授業の問題点

「授業内容について」「授業方法について」は「授業外学習」「質問や発言」を除いて中央値の3.00を上回るものであった。しかしながら、「平均点」よりも高い項目はなかった。「質問や発言」は、2.21であり、最も低い値であった。質問や発言をしやすくする雰囲気づくりが必要である。

学生の授業満足度

「授業の内容」は、3.36、「授業への満足」は3.07であった。平均点よりは1ポイント程度低い値であった。学生は、授業内容を批判し、満足ができないものととらえている。講義内容の改良を心掛けていく所存である。

授業改善の課題と方策

「繰り返し同じ話をする」という指摘があった。この点については気を付けたく思う。「何度も出席をとろうとする」という意見もあった。この講義が5限目にあるということが「繰り返しの同じ話」「何度も出席」を結果として引き起こしているのではないかと思う。自身の疲労とこれら結果が結びついているように思う。体調を維持するように気を付けながら授業をしていくように努める所存である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	交通心理学
担当者	古澤照幸

授業の概要

自動車交通を中心とした「安全」に影響する要因とともに「事故発生」に影響する要因を検討する。事故発生には、明るさ、暗さ、道路の整備状況、運転者の運転技術、性格、睡眠、疲労、年齢などさまざまな要因がかかわっている。本講義では、交通心理学がどのようなものなのか、その定義から始める。事故発生については、環境要因、人的要因について細かく検討を行う。運転者だけではなく、歩行者の年齢や性格などが事故にかかわることを確認する。交通事故を引き起こさないようにするためには、どうすればよいのか。どのような点に気を付ければよいのかを歩行者、運転者の両方の側から検討する。また、心理学が安全にどのように寄与するのかを考察する。 交通事故が低減するようにするにはどうしたらよいのかを考える。

授業の問題点

学生からの意見として、「講義内容から逸れる話が多く挙げられる」とあった。気を付けたいと思う。オンラインの講義での課題提示がないとの指摘もあった。注意したい。

学生の授業満足度

「得るところのあるものでしたか」は 3.96、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 3.79 であったので、高めであったのだが、全体の平均はそれぞれ 4.45、4.37 であった。

授業改善の課題と方策

講義内容から逸れる話についての指摘があったが、講義内容から逸れず、うまく膨らませる内容にしていくように努めたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会心理学概論
担当者	遠藤寛子

授業の概要

自己レベルの心理を理解していくことは、対人レベルそして集団レベルでの行動を考えていく上で重要な知識となる。本講義では、社会心理学における自己や他者に関わる様々な理論や知見を紹介する。具体的には自分自身をどのように捉えているのか、他者との関係を形成しようとする気持ちが社会的行動とどう関わってくるのか、なぜ、他者を傷つけるのか、そして他者を助けるのか等について講義する。到達目標は以下に挙げられる。

・個人・集団レベルおよび文化レベルにおける人の考え方・感じ方・行動の仕方のメカニズムを理解できる。
・社会心理学の視点を応用して、現代社会における様々な問題を解決するための糸口を指摘できる。
・社会生活を円滑に進めていくために何が重要になってくるのかについて、授業で学んだ知識を参考にしながら自身で答えを見つけることができる。

授業の問題点

昨年度に続き、遠隔授業と対面授業が交互に行われた。遠隔授業の際には、自宅に PC 環境が整っていない学生に対してもスマートフォン等で対応できるように文字と絵、図表を交えた資料を多めに提供した。ただし、Teams をまだ十分に理解できていない学生からは、Teams 上での課題提出などが難しいとの訴えがあり、メールでの個別対応も行った。

学生の授業満足度

満足度の平均は 4.65 と全体的に高く満足して頂けたようである。学生自身の日常生活に応用できたという報告もあり、理解度も比較的高いと思われる。しかしながら、予習および復習の平均点は低かったため、今後モチベーションを維持できるような予習および復習の提示が必要になると考えている。

授業改善の課題と方策

コロナ禍の状況が収まるまでは今後も、対面授業と遠隔授業の双方を交えながら進めていくことになると予測されるが、それに備えて、感染症の拡大防止に配慮をしつつ視覚的に情報が入りやすい資料を準備することが重要である。動画作成だけではなく文字と絵、図表を交えた資料を作成することを予定している。
また、Teams を活用して、質問コーナーを設けるなど、質問しやすい環境を整備したいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	組織心理学
担当者	川久保　惇

授業の概要

産業・組織心理学は、産業や組織における人の心理学的メカニズムを研究対象とし、組織や産業社会をより良くするために活用しようとする学問である。この講義では主に採用・面接、人事評価、ワーク・ライフバランスなどの組織における人の処遇に関する「人事」に関するテーマと、消費者行動とマーケティングなどの購買と消費に関するテーマを取り扱った。

講義形式については、コロナウィルスの影響により、オンラインと対面を交互に実施した。対面講義時には、映像視聴やワークを取り入れた。

授業の問題点

学生の評定をみると、出席に関する項目が 3.92（全体平均：4.60）と低かった。また、授業外学習（予習や復習など）をしましたか」と「質問や発言をしましたか」という項目については、それぞれ 2.86、2.39 であった。授業外学習や授業内での教員と学生間の双方向のやりとりはあまり行われなかったと学生は感じたようである。

学生の授業満足度

授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」のどちらも 4.1 点程度であったことから、概ね多くの学生が授業に対して満足していたと考えられる。一方で、どちらの得点も全体平均には届いておらず、さらなる改善の余地がある。

授業改善の課題と方策

授業改善の方策としては以下の 2 点が挙げられる。一点目は、授業を振り返る復習用の課題を提示することである。講義時間内で全ての学習を完結させるのではなく、授業時間外に取り組むことが必要な内容も講義に盛り込んでいきたい。2 点目は、授業内で学生同士のディスカッションを促進するようなワークを導入したい。学生が受動的に取り組むだけではなく、積極的かつ能動的に取り組めるような工夫を授業に取り入れていきたい。

現在はクラスが A と B の 2 グループに分割されているが、授業内で出た学生の意見などをお互いのグループに共有するなどにより、グループ間での学習成果が同一のものになるように努めたい。

その他

特記事項なし。

科目名	心理療法論
担当者	佐々木 美恵

授業の概要

心理療法および心理援助のさまざまな理論やアプローチを講義する。
心理療法とは、臨床心理学の知見をもとに、こころの問題に関連する心身の問題や症状を改善しようとする方法の総称である。心理療法にはさまざまな学派、方法論があるが、本講義では、精神分析理論や行動主義，人間性心理学など、代表的な方法に関する基本的な知識を講義する。さらに，心理教育的援助や災害時支援など，心理援助の応用的展開についても発展的に講義する。

授業の問題点

- 学生による質問や発言の機会を十分に担保しておらず，双方向性の授業展開としては課題が残った。
- 学生の理解度には個人差があるが，十分な理解に至っていない学生の把握と対応が細部にわたってなされたとは言い難い。

学生の授業満足度

- 概ね良好であったと評価することができる。
- 授業中も熱心に聞く様子が見られており，学生の興味，関心を惹起し，ある程度応えることができたと考えている。

授業改善の課題と方策

- まとめ試験の結果からも，学生の習得度は十分な水準には達していない。知識の定着を図るためのさらなる工夫と改善が必要である。
- 学生の発言機会をより積極的に設定し，双方向性の授業展開となるように努める。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	心理学実験基礎（心理学実験）
担当者	米村 朋子

授業の概要

心理学実験基礎は，演習形式で受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって，心理学的知見が生み出されていく過程を具体的に習得することができる，非常に重要な科目である。この授業は次年度開講の「心理学実験」の受講の基礎となる知識を講義するとともに，受講生が実際に実験を実施し，そこで得られた結果をふまえ，現象に対する問題意識に対する回答を報告する技術の修得を指導する。

授業の問題点

授業アンケートから，「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「質問や発言をしましたか」「ノートやメモ等を取りましたか」の項目に対して，中程度(3)でかつ平均よりも低い評価を受けた。演習形式の対面授業であったにもかかわらず，授業時間は受け身でも受講可能な内容になっていた点や，良く質問する学生と全く質問しない学生との差が大きかった点などが問題だと考えられる。また，授業内容についての評価も高めの評価(4 以上)ではあったものの平均よりやや低い項目が多かった。専門的な内容の学修に対するモチベーションをうまく高めてあげられなかったことが問題だと考えられる。

学生の授業満足度

授業アンケートから，授業方法に関して「方法や資料のわかりやすさ」「質問への対応」「授業を進める配慮」の項目で，平均よりも高い評価を受けた。その他の項目は，高めの評価(4 以上)ではあったものの平均よりやや低い項目が多くを占めており，各回の授業意図が伝わりにくく，満足度が高まらなかったことが分かった。最も満足度が低かった「授業は適切な内容や量でしたか」の項目については，初めてかつ専門的な内容を多分に含む科目で，レポート執筆による授業外学習の時間が多く必要であったことが，影響していると考える。

授業改善の課題と方策

授業アンケートの授業満足度項目以外において，評価の低かった下記 5 項目について以下の改善を実施する。その他の項目についても評価がより高まるよう，改善を検討する。

・授業外学習について：積極的な学習がしやすい課題を明示する
・質問・発言について：授業内でのこちらからの問いかけを増やし発言を促す
・ノート・メモについて：メモを取りやすい資料を事前配布する
・授業テーマについて：各回での目標をより具体的に明示し授業終わりにも再確認する
・授業内容・量について：より重要な内容を精査し，教示順序も整理する

その他

授業を進める中で，授業内容に関する最新の話題を自ら調べて教えに来てくれたり，わからなかったことを積極的に質問してくれたり，レポートに課した課題以上の取り組みを行ってくれたりと，積極的に取り組んでくださった学生さんが複数おられ，教員としても大変学びの多かった演習でした。その一方で，演習の重要性が伝わりきらず，取り組むモチベーションを高められなかった学生も多くおられることが分かり，単なる知識を得るだけでなく，日頃の生活と結び付けて考えながら，心理学の研究スキルの基礎を身に付けていただける授業が提供できるよう，今後一層励みます。

授業改善書

科目名	臨床心理学概論
担当者	羽鳥健司

授業の概要

心理的に問題を抱えている人を援助するために必要な知識の一つである臨床心理学における代表的な心理療法の理論や心理テストの種類と方法、心理治療の一般的な流れなどを紹介する。さらに臨床心理学が役に立つと考えられる代表的な心理的問題や精神的な疾病を学習する。

授業の問題点

①「質問に対応していたか」②「適切な量であったか」③「質問や発言をしたか」の３項目がわずかではあるが平均点を下回っていた。①と③は受講生の人数が多かったことに加えて、隔週でオンデマンドによる配信授業であったことから全員にきめ細かいフィードバックができなかったこと、②は概論であるためできる限り広範囲にわたって紹介したため多いと感じる学生がいたことが考えられる。

学生の授業満足度

いずれの項目も平均値を超えていた。感想からは、資料の分かりやすさ、話す内容やスピード、音量、聞きやすさなどを評価するものが多かった。来年度以降もこれらの評価点を活かしていきたい。

授業改善の課題と方策

出来る限りきめ細かいフィードバックを実行するために、質問への答えを隔週の対面授業時にのみまとめて実施するのではなく、オンラインでも随時実施することが望まれる。分量については、全員を満足させることはできない。ボリュームゾーンと理解の進んでいる学生を主なターゲットにしつつ、理解の遅い学生には個別で対応していくこととする。

その他

授業改善書

科目名	心理実習
担当者	伊里　綾子

授業の概要

学外実習施設（保健医療、福祉、教育、産業・労働領域等に関する専門機関）における見学等の実習および、その事前学習と事後学習を通じて、(ア）要支援者へのチームアプローチ、(イ）多職種連携及び地域連携、そして（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の 3 点について学び、実習担当教員ならびに実習施設の実習指導者による指導を受ける。

授業の問題点

いずれのアンケート項目も平均点よりも高く，大きな問題点は見られなかった。

学生の授業満足度

学生の満足度は全員が 5 点の回答をしていた。予習復習に関するアンケート項目や，質問・発言の多さに関する項目の得点は平均を大幅に上回っていたため，学生一人一人が調べ学習や見学実習に積極的に取り組んだ結果であると考えられる。

また，学生による意見から，見学実習だけでなく，その事前・事後学習に入念に取り組むことで学びが深まったことが推察された。

授業改善の課題と方策

来年度以降も，学生一人一人が，それぞれの課題や目標を見つけて実習に取り組み，有意義な体験ができるよう，実習の事前・事後学習において各自のテーマを見つけるためのサポートをしていきたい。

また，学生の主体的な取り組みが今回の評価につながったと考えられるため，引き続き，発表，発言，ディスカッションの機会を多く設け，学生自身が成長を実感できる実習としたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	心理演習
担当者	杉山　雅宏・伊里　綾子

授業の概要

次に掲げる事項について，具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い，事例検討をすることで，公認心理師の業務に必要な心理支援の基本的な知識および技能を習得できるよう指導する。

・心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション，心理検査および心理面接の実施，地域支援の実施
・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
・心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
・多職種連携及び地域連携
・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

授業の問題点

いずれのアンケート項目も平均点よりも高く，大きな問題点は見られなかった。

学生の授業満足度

学生の満足度は全員が 5 点の回答をしていた。質問や発言をしたかという項目や，授業外学習をしたかという項目の点数が平均点を 1 点ほど上回っていたことから，学生が主体的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。

授業改善の課題と方策

質問や疑問に丁寧に答えることを心掛けたが，その分，授業内容が授業時間に収まりきらず，次週に持ち越したこともあった。そのため，学生の学習状況を十分に見極め，課題量を適切に調整したり，学習状況に応じた内容の重みづけを行いながら，課題の最適化を図りたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	伊里　綾子

授業の概要

まず前半は，心理学の研究手法を用いた論文の収集方法と読み方を学び，各自興味のある文献について発表をしていただきます。また，発表や質疑応答を通じて，様々な心理学の研究手法，分析法について学びます。後半では，文献講読と発表で培った知識をもとに，自身の興味関心のあるテーマについて研究計画を立て，可能な範囲でデータの収集を行い，心理学研究の一連の手続きを体験します。また，その内容について発表・レポート作成を行います。一連の手続きの体験から得られた改善点等を，卒業研究に生かすことができるよう，指導を行います。

授業の問題点

ほぼすべてのアンケート項目も平均点よりも高い中で,「出席や課題提出等はしましたか」という項目のみ平均点を下回っていた（この授業 4.50 点，平均点 4.60 点)。課題提出は行っていたが，欠席が多い学生もおり，出席率がこの授業の問題点といえる。

学生の授業満足度

学生の満足度は全員が 5 点の回答をしていた。質問や発言をしたかという項目や，質問への対応についての項目で高い評価が得られていたことから，学生一人一人の疑問に丁寧に回答したことが，授業の満足度につながったと考えられる。

授業改善の課題と方策

出席率を上げることが課題である。この授業では，学生が持ち回りで発表を行うが，自身の発表回以外で授業に積極的に参加することができる工夫を行うことが，改善の方策として考えられる。発表者と，それ以外の学生の交流を促す工夫をしたい。具体的には，発表者の発表の良かった点などを学生間でフィードバックするような機会をもっと多く設けたいと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	神経生理心理学
担当者	泉水　紀彦

授業の概要

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は，生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ，人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め，身体機能の生理学的基礎をふまえながら，知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ，これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用（精神障害，高次脳機能障害）について学ぶことで，心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は，評定が 4 以上であるが，授業外学習（3.66），質問や発言の有無（3.00）の質問項目は低評価であった。受講生が授業後にコメントカードに感想を書いてもらい，次の授業開始時に共有する方で意見共有を行った。この点は，毎回の振り返りがよい復習となったとコメントがあった。ただ講義形式であったため，授業中に学生を指名して発言を求めることがなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか（4.53），授業は満足できたか（4.59）となっており，全体とどの程度の評価であった。
授業の方法や資料はわかりやすかったかについては，4.71 であった。

授業改善の課題と方策

今年度は，新型コロナウィルスの影響により，2020 年度と同様に，2 グループに分けた隔週対面授業であった。隔週の対面授業と，オンライン授業(オンデマンド型)を並行して実施した。試行錯誤であったが，おおむね高評価であり，次年度も(コロナ禍であれば)同様の授業進行が望ましいと考えられる。授業内容が多かったり，質問紙調査等で授業時間が少なくなったりしたとき，授業の時間配分が不十分であったため，振り返りをフィードバック資料で行うなどして授業内容を改善していきたい。

その他

特になし

専任教員

人間学部　子ども発達学科

授業改善書

科目名	保育方法論
担当者	尾形和男

授業の概要

幼稚園、保育所、認定こども園においてこれからの社会を担う個々の子どもの持つ能力を伸ばすために保育をどのように展開して行ったら良いのか。保育についての基本的な考え方を学ぶと同時に、基本的な方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）・教材の活用方法についての基礎的な知識・技能を身につける。

授業の問題点

全体的に、受講学生の学習態度は平均以上であり積極的な受講態度が読み取れる。しかし、今回の授業では期待に応えられる内容には達していないと考える。

この原因になっているのは、授業の中で大切な部分の進行中に映写機のトラブルが 2 コマ 2 回に渡って生じ授業が中断したこと、またその対応のために、中断したところを再度確認するために再度映写したことが同じ DVD を何回も映写するとした学生の評価が反映していると思われる。丁寧に進めたつもりではあったがそのことが全体として影響して、授業内容、授業方法、授業満足度全てにおいて予想以下という結果であり、多くの改善点が必要と考えられる。

学生の授業満足度

授業満足度は 4 点台であり概ね良好ではあるものの、十分な満足には至っていないと思われる。

今回のこの結果は、授業内容、授業方法にも共通して言えることであるが授業担当者としては機器の操作とソフトの内容について更に改善が必要と考える。

授業改善の課題と方策

今回の結果は、今までの結果とは異なりかなり改善が求められると考える。その要因として次のことが考えられる。

① 授業進行の中で、アクシデントとして DVD 映写装置の故障が生じ、しかも 2 回の授業に渡って生じた。それは重要な内容を映像で流している最中に生じたので、一度中断して話による講義に切り替えたこと。また、次の授業では中断した箇所を再度映像によって確認してもらいながら丁寧に進めたつもりであったが、学生が同じものを重複して見た、という感覚を持ったということ。

② 教室が広いため、予定していた子どもの理解のためのロール・プレイができず、学生にとっては十分な内容が伝わっていないと考えられること。

以 2 点について次回以降改善点として取り組みたい。特に、映像機器の故障は普段の点検が不可欠と考える。同時に、アクシデント発生の際の講義の進め方にも工夫を凝らしたいと考える。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	子どもの理解と援助
担当者	尾形和男

授業の概要

保育実践において実際の子どもに即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進める ために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊びの過程の中で子ども理解する上での基本的な 考え方、子どもを理解する視点を学ぶ。合わせて、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について学ぶ。

授業の問題点

3 クラスに渡り実施したが、1 クラスは概して平均以下の評価であるが、2 クラスは平均以上の高い評価であり、授業から学ぶものがあったと評価している。この結果については、従来と同じく同じ内容のものを同じペースになるように配慮しつつ進めているのであるが、クラスによって評価が異なる結果となった。どのクラスでも同じような理解を図るために、クラスごとの受講者の特徴を把握し、その特徴を生かした授業展開が更に求められると考える。

学生の授業満足度

授業に対する満足度に関して、3 クラスとも平均以上の高い評価をしている。この点から見て概ね授業内容に関しては満足が得られているものと思われる。

しかし、やはりクラスによっては差があるので、問題点にも触れたような配慮が求められると考える。

授業改善の課題と方策

上記の課題に対する改善策として、個々のクラスの学生の興味、意欲、理解度などを中心とする状況把握に努めたい。

そのために、授業内での理解度を把握すること、興味関心の程度などを把握するためのアンケートの実施、あるいは質問をして反応を見るなどして進行させたいと考える。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	保育・教職実践演習
担当者	尾形・山本・石橋

授業の概要

将来的に、教育・保育の現場において専門家として十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。このような最終目的に沿うために次のことを具体的な狙いとする。そのために現在に至るまでの、教職課程・ 保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として最小限必要な資質能力が習得されているかどうかを各自確認する。このようなチェックを通して、教員・保育士になる上で自分が習得できていない課 題や問題点を明確にし、問題点の改善に努めると同時に不足している知識や技能を補いその定着を図ることを目的とする。

授業の問題点

学生からの評価に関して、授業内容、授業方法、授業満足度の各内容は全て平均以上であり、概ね充実した内容であったかと思われる。

しかし、授業の内容は 4 年生が現場に出た時に即役立つ内容のもの、しかも実践的に行えるものを目指していることから、本来の狙いを満たすには担当者 3 名による内容では限界があるように感じる。

学生の授業満足度

授業の満足度そのものは概ね高い評価である。しかし、問題点に示したように、担当者はそれぞれ、保護者への対応、音楽、子どもの味方と対応という内容で授業を展開したものの、現場で実践的に要求される内容はより幅広いものがあることを考えれば、より多くの教員が関わり幅広く対応するのが望ましいと考える。

授業改善の課題と方策

改善につながる課題としては、上記に示したことがまず求められると考える。

次に必要なこととして、現場の様子をより専門的に見るために、現場に行って観察する、あるいは活躍されている先生や保育士などに問題として考えること、取り組んでいることなどを具体的に伝えられる機会を作る必要があると考える。2 年前に、学生が専門家として働くにあたり必要と考えていること、心配なことなどを質問として専門家に回答してもらったことがあり、次年度も更に内容を絞って学生からの質問を取り上げ、現場で活躍されている方に回答してもらうなどの工夫をしたいと考える。

その他

特にはなし。

授業改善書

科目名	幼児体育Ⅰ
担当者	坂田知子

授業の概要

この講座では、幼稚園教諭・保育士として知っていてもらいたい「子どもの運動あそび」についての知識を学習し、子どもに必要とされる運動あそびを多く提示できる能力を養うことを目的とした授業を行いました。

なお、本授業は、保育士、幼稚園教諭を目指す全ての１年生が履修しました。

授業の問題点

「授業への学習態度」のうち、「質問や発言をしましたか」の項目（3.70～3.86 ポイント）および「ノートを取りましたか」の項目（3.48～3.71）において、やや評価が低い結果となっています。

一方、授業の評価については、比較的高い評価であったと感じました。

学生の授業満足度

学生の満足度は、4.40～4.76 であり、全体的に高かったと感じています。引き続き、学生が受講して良かったと思えるような授業になるよう努力していきたいです。

授業改善の課題と方策

質問や発言についてのポイントがやや低い傾向にありました。

この授業は、１年生対象としており、授業担当者が提案したゲームを学生が実践することによって、様々な子どもの運動遊びを学んでいきます。体育館での受講であり、コロナ禍での授業であることを考慮すると、発言を求めることは困難であると感じています。質問や発言についは、様々な手段を用いた方法を検討していきたいと思います。

その他

授業改善書

科目名	保育内容総論（月曜・５限目）
担当者	島田　和幸

授業の概要

保育の意義や目的、思想的変遷、幼稚園教育要領や保育所保育指針などに基づく保育内容、保育計画の在り方などについて考えていく授業で、この学習の底流には、絶えず子どもの成長を見守り観察・ 記録を続けながら、養護と教育が一体化された実践を積み重ねてきた先人の努力が存在する。このような人の営みの歴史的な変遷も重視した授業を通して、子どもにとって有意義な保育内容についての講義を進めていった。

授業の問題点

従来、授業実施に当たっては、可能な限りグループ協議・グループ別発表などをさせてきたが、今年度も「新型コロナ感染予防」に向けて、どうしてもグループ別の学習の機会が制限され、学生に講義を聞かせるか個別作業をさせるかという学習活動が多くなってしまった。盛り上がりに欠ける授業ではあったが、制限された活動の中で学生の自主性を重視した授業を展開してきたが、十分ではなかった。

学生の授業満足度

学生の回答数が一番多かった月曜５限目のアンケート結果を見ると、学生の授業評価の１・Ⅱ・Ⅲのいずれにおいても平均値を上回っており、満足度も高いと考えられる。今後もコロナ禍のもと、可能な範囲で、学生が主体的に学習できる授業となるような工夫を図りながら「学ぶ意欲を高める授業」をめざしていきたい。

授業改善の課題と方策

新学期も新型コロナ感染対策が求められる状況が予想される。感染力の強いオミクロン株の感染に留意しつつも、グループでの学習活動等の際には、ソーシャルディスタンスに十分留意しながら、学生中心の学びの場を工夫しながら協同学習の推進を可能な限り重視していきたい。

また、記述式の学習課題をこれまで通り実施し文章表現力の育成も図りたい。論述形式による期末テストの実施に学生も慣れてきたような気がする。今後は、論述形式のみならず、その内容の充実もめざしていきたい。

その他

毎回の授業で「学習ノート」を印刷・配布し、これをテキスト代りに供覧してきた。ここでは、いくつかの主要な設問を設け 180～200 字で文章化させる作業をとったり、授業終末の感想を書かせたりしながら、これを授業終了後に提出させ、出欠確認と学生の理解状況確認もしていた。しなし、今後は、大学生らしく自主・自立をめざさせるため、学習ノートの形式を考え直していきたい。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（理科）
担当者	長友　大幸

授業の概要

小学校の理科の目標・学習指導・評価のあり方について，具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また，模擬授業を通して，今後あるべき小学校の理科授業について検討し，理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授業の問題点

実験や模擬授業を中心とした学習を本授業では進めるが、受講者の人数から 2～3 名 1 班で行うことができたため、全員 1 回は模擬授業を行うことができた。

理科という教科の性質上、実験道具や設備が必要になることがあるため、実施可能な実験内容に限りがあり、学生の模擬授業を行う際に選択できる授業内容に影響がある。また、コロナの影響もあり、昨年に続いて春期に実験を例年のようには実施できなかったため、秋期の授業において技能面での影響が見られた。さらに春期に理科を履修していない場合、本授業で初めて理科に接することとなる。そのため、知識が曖昧のまま模擬授業を実施することがあることが問題点としてあげられ、本年は特にその傾向が強かった。

学生の授業満足度

限られた時間の中での実施ではあったが、「得るところのあるもの」4.73、「授業に満足」4.64 と昨年以上の高い評価が得られた。短時間ではあるものの、全学生に模擬授業で教壇に立つ機会をもたせたこと、他の学生同士の相互評価などの成果がこうした結果として現れているように思われる。

授業改善の課題と方策

学生は各自が工夫して教材をつくり、指導案を立てて熱心に授業に参加していた。それが授業アンケートの結果にも見られており、多くが「授業に満足」していた。

本授業は演習的要素を多く含んでいるため、学生自身が積極的に動く場面を数多く作ることができたのが良かったのではないかと考える。今後の課題としては、例年通りではあるが、受講者数が定員一杯になったときも、本年と同じように授業を進められるようにすることである。また、今後のコロナの影響により次年度春期に「理科」を履修できない学生、あるいは「理科」の受講を自ら避けて秋期になって本授業ではじめて理科に接することとなる学生に、基礎知識を身につけさせた上で模擬授業に取り組ませるにはどうすればいいか考えていく必要があると思われる。

その他

授業改善書

科目名	文章作成法
担当者	三浦正雄

授業の概要

レポートや論文をはじめ文章の書き方の基礎を指導する授業です。文章を書くための基礎知識から文の作成をへて、文章全体の組み立て、流れ、マナーや読み手に伝わる書き方に至るまで文章を書くための様々な知識や技術について指導しています。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導しています。

「日本語の運用」に続く形で授業を行いますので、「日本語の運用」履修者の受講が望ましいと思われます。

授業の問題点

まず「日本語の運用」に続く形で行っていますが、「日本語の運用」を履修した学生が少なく、同じことを再度、学習せざるを得なくなる点があります。

また、多人数の場合、添削が細部まで行き届かないことがあり、この点が問題点だと思います。本年もできるかぎり添削を行うようにはいたしましたが、多人数のこともあり、不十分な点もあったかと思います。学生も添削を励みとして、授業に熱意を持つと存じますので、今後もできるかぎり添削をしてゆきたいと存じます。

「毎回の授業でテーマは明確に示されましたか」の回答の点数がやや低めだったので、授業のたびに冒頭でテーマを明示するように心がけたいと思います。

学生の授業満足度

学生の満足度を向上させるためにも、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削法、発表方法、論文課題の出し方などを、考えてゆく必要を感じております。

このたび感染症の流行にともないコメント用紙をあまり活用できなかった点も、学生のニーズに応えることの難しさにつながった感があります。

授業改善の課題と方策

前項に記しましたように、①様々な学科の学生のニーズにどのように対応してゆくか、②履修人数が多い場合の授業展開、指導過程、添削、発表方法、論文課題の出し方などを毎年、考えてゆく必要を感じております。

できるかぎり学生のニーズを吸収し、学科を越えた共通項を指導し、また、学生間の相互添削等を取り入れながら、最終的に教員が添削指導できるような工夫をしてゆきたいと存じます。

その他

全学共通科目であるだけではなく、教職課程・保育士養成課程の選択必修科目ですので、ある程度、子ども発達学科に合わせた内容を入れざるを得ませんが、他学科の学生も履修しているため、幅を持たせる必要があり、この点に難しさがあります。

また、添削指導を行う必要がある科目であるため、人数が多いときの対処が難しい科目であります。

授業改善書

科目名	保育内容（表現-造形） I
担当者	森本昭宏

授業の概要

本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付ける。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。

また、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品の見かたについて理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を自らの造形活動の実践と共に理解する。

授業の問題点

今年も対面とオンラインの交互の授業ということであり、制作時間の確保と進行具合の把握に難しさを感じた。直接の実技指導が実質半分である。新聞紙製作や紙版画は学内で、吹き絵やパネルシアター等は自宅で行うよう内容をうまく振り分けた。どうにか自宅でも可能なものは、オンライン課題として題材を扱うこととした。影絵のグループ発表は練習する時間があまり取れない状況であったが、とても息の合った発表ができ（自主的に準備をしていた様子）、学生グループの団結力を感じた。

課題提出までの製作時間には十分に配慮して今年は余裕を持たせたが、時間がないと感じている様子も見受けられた。

学生の授業満足度

今年もコロナ禍ということから隔週での学内授業となっている。製作時間の確保と教室の有効活用を促した。

学生のコメントには「オンライン授業の際には作品を作り、対面授業では講義を聞くという授業形式がとても良いと感じた。対面授業で作品を作ると説明に時間がかかり作品が完成しないことがあるが、オンライン授業では十分な時間があるので余裕を持った作品づくりができた。」とある。自宅に持ち帰って製作するものと、学内制作（＋講義）のバランスが良かったようである。様々な作品を作り造形を楽しむ気持ちが強まったとのコメントもあった。

授業改善の課題と方策

学生への実技指導の中で説明を加えるべき箇所が多くあるなか、隔週授業であったため、指導が全体指導で終わる場面が多々あった。きめ細かい個別の指導がオンラインでは厳しい状況がいくつかあった。チームズの中に注意事項を細かく明記して、大事なポイントを理解できるように配慮した。対面の時には積極的に声がけした。そして机間巡視の際に学生の質問を多く受け付け、細かい説明を加えた。授業計画を何度も明示して、学生の課題作品の提出日を理解させた。毎年学生は作品を溜めて、最後に提出する傾向があるので、そのようにならないように促した。フォームズを有効に活用して課題提出状況を管理することができた。

その他

特になし

授業改善書

科目名	音楽実技Ⅱ
担当者	山本・一村・影山・佐藤・須田・宮崎・安田

授業の概要

「音楽実技Ⅰ」に引き続き、クラス授業と個人レッスンを行った。

クラス授業の目標は、保育・幼児教育を中心とした歌唱教材のピアノ伴奏弾き歌いのレパートリーを増やし、音楽を自律的に学んでいくための基礎となる拍、リズム、長音階、調、調号の理解を深め、伴奏の基礎となる音程、和音、カデンツの知識・技能、旋律および和音を演奏するための運指の技能、ピアノの鍵盤および楽譜の音名の理解と習熟、移調演奏による相対的な音程感覚に基づく音楽の予測読み取りの技能を伸ばすことである。体験的に学ぶ教材を開発した。

個人レッスンでは、保育士、幼稚園教員に必要な弾き歌いの技能を伸ばすための楽曲教材を学生の能力・興味に応じて選び、取り組ませ、自分の力で演奏の諸課題を解決しながら、現場で活用する歌の弾き歌いの技能を伸ばすことを目指した。中間テストにおいては保育園・幼稚園における「生活の歌」の弾き歌いとピアノ曲（編曲を含む）、期末テストにおいては、幼児から小学校までの幅広いレパートリーの中から興味・関心に応じて選曲した弾き歌い曲とピアノ曲（編曲したものからクラシックの曲まで）を演奏させ、振り返らせるとともに、今後の課題についての自覚を促した。

授業の問題点

概ね良好であった。特に４限目、５限目のクラスでは、全体平均よりも高い評価の項目が多く、春期に比べて、きめ細かく一人一人の状況やニーズに応じる授業改善の効果が表れてきたことがうかがえる結果となった。しかしながら、春期に引き続き、３限目のクラスでは全体平均より下回る項目が多く、原因を究明するとともに、より一層きめ細かい配慮と個に応じた指導、より一層わかりやすい ICT 教材を開発する必要性を痛感した。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」について、３限では 4.63、４限では 4.61、５限では 4.60（平均 4.45）、また、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」について、３限では 4.47、４限では 4.56、５限では 4.53（平均 4.37）であった。

授業改善の課題と方策

次年度は、学生が感じている気持ち（わからない、できない）を毎回把握するために、今年度行っていた紙による「学習記録」をやめて、Forms により、できる限りリアルタイムの状況把握に努めたい。また、筆記レポートも、今回、冬休みの課題のみであったが、より頻繁に、Forms を用いた小テストを行い、フィードバックを行う。

クラス授業で行っている、移動ドによる階名への習熟、ABC 音名の習熟により、多くの初心者に対して非常に効果があったことがわかり、継続したい。一方で、入学前に固定ドによるピアノ学習をある程度身に付けてきている学生には十分な対応ができなかった。まず、入学時から春期終了までに、限られた時間（45 分×15 回）で、どの順序でどの内容に取り組ませるかを検討し、ピアノを習ってきている経験を大切にしながらも、新たに学びなおす意識と、音楽の本質を学ぶ姿勢を身に付けてもらえるようにする。そのためには講師の先生方との連携とともに、２年生担当の先生方との連携が重要である。

その他

なし。

授業改善書

科目名	ジェンダー学
担当者	杉浦　浩美

授業の概要

今期は、昨期にひきつづき教室授業と遠隔授業の併用となった。取り上げるテーマについて教室授業で詳しく講ずると同時に、翌週の遠隔授業で関連する課題を出し、調べ学習に取り組んでもらった。遠隔授業の課題は毎回、かなりの工夫をした。ジェンダーに関する映像素材はオンライン上で公開されているニュース、ドキュメントなどをフルに活用し、関連する論文・資料等もできる限り紹介した。さらに自らの生活世界をジェンダーの視点から点検する作業を毎回課したが、それらの作業を通して、ジェンダー問題が社会と直結していること、なにより、自分自身の問題であることを実感し、考えを深めたという学生が多かった。

授業の問題点

「授業内容」「授業方法」「授業満足度」について 3 限、4 限とも、ほとんどの項目で平均を上回っており、特に問題点はないと考えている。

授業改善の課題･方策

自由記述欄には「自分も色々なことを考え、世界を広く見ることが出来る様になった」「多くの知識を得ることが出来た」という評価があった。一方で、「課題の量がとても多い」と書いていた学生も 1 名いたので、力不足の学生に対しては引き続きフォローしていきたい。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	藤野　好美

授業の概要

春期の教養演習Ⅰをもとに、各演習（ゼミ）ごとに、教育に関する考えるべき問題を決め、グループ、または個人で追求し、発表、討論をしながら進めます。考えるための様々な方法や道筋は、教養演習Ⅰでの学びを基本とし、さらに深めていきます。
1 月には、各演習（ゼミ）で追求してきた問題を他の演習（ゼミ）と合同発表会を開き、発表内容について話し合い、相互評価し、次年度の基礎演習での学びにつなげます。

授業の問題点

・各人の興味・関心がバラバラで統一したテーマを作りにくかった。
・話し合いに参加しない学生がいて、教員を含め、誰とも目を合わせず、話しない学生にどう対応するか戸惑った。
・１限ということもあり、遅刻・欠席が多く、全員揃わない回も多かった。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」5.00
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」 5.00

授業改善の課題と方策

学生の満足度としては高いが、授業が充実していたとは思えず、全員が興味を持てるテーマを設定し、理解する力、考える力、書く力、発表する力を向上していくことにつなげたい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	社会福祉論
担当者	藤野　好美

授業の概要

・現代社会における社会福祉の動向と意義、さらに社会福祉の歴史的変遷について解説する。
・社会福祉における子ども家庭福祉の視点について解説する。
・社会福祉の制度や実施体系、相談援助について講義する。
・社会福祉における利用者保護にかかわる仕組みについて解説する。
・社会福祉の課題及び今後求められる点について講義する。

授業の問題点

・A クラスと B クラスと分割して実施するにあたり、対面授業とその対面授業をオンラインで受講できる体制を作り、授業を行った。基本的に、対面授業の時には対面授業に出席するよう指導したが、実態としてはオンラインに流れている学生も多く、対面授業の出席率が悪かった。特に 5 限の出席率は悪く、本来なら 30 名程度の出席があるべきところ、5 名程度という回が数回あった。
・オンライン授業で、毎回何らかの理由でアクセスできない学生が出てきた。授業が始まると、アクセスできない状態への個別対応は出来ないので、悩ましいところであった。
・内容として、制度や法律を記憶すること等難しいところがあるのは否めず、学生の興味関心をどう高めていくかというのが難しい。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」については 4 限が 4.17、5 限が 4.30、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については 4 限が 4.05、5 限が 4.13 だったので、全体平均よりは低いものの、授業満足度として悪くはないと考える。

授業改善の課題と方策

来年度以降、オンライン授業はなくなるのであれば、アクセスの問題は考えなくてよいので、当方としても負担軽減になる。出来ればすべて対面で実施したく、そうすれば学生がもっと参加できる方法も考えていきたい。「社会福祉」にかかわってくる諸問題を自分の問題として考え、社会として解決を考えていくというような。そういう思考方法を身に着けてもらえればと考える。

その他

特になし

授業改善書

科目名	教育原理
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教育の意義、思想及び歴史を講じる科目として、それぞれの項目について解説する純然たる講義形式で授業を進めた。

基本的な項目についての知識の定着を図るため、定期試験のほかに小テストを 2 回実施した。これは概して試験というものに慣れていない履修者のレディネスを考慮したとともに、4 年次に受験することになるであろう各種採用試験への準備も兼ねてのことである。

授業の問題点

昨年度と比べて、数値に大きな変わりはない。全体的に 4 点以上のものがほとんどであり、特段の問題点はない。

昨年度に引き続き、今年度も欠席率が高い（試験の受験率も昨年より低かった）ため、この回答で示されている数値は、比較的真面目に授業を聞いている学生によるものだろう。そう考えると、実態値はもっと低いようにも思われるが、比較のしようがないため何とも言い難い。

学生の授業満足度

授業満足度についてもおおむね昨年並みである。

今年度は 2 クラス開講から 1 クラス開講としたため、AB 分割をしても授業対象者が着任後 4 年間で最大となったが、それでも数値に大きなブレがないことを考えれば、おおむね問題ないとみてよいものと考える。

授業改善の課題と方策

今年度は 1 クラス開講だったものの、AB 分割の関係で 1 クラスあたりの授業対象者は 2 ケタにとどまった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にもよるが、全面対面に復せば 1 クラス 100 名を越えることになるので、小テストを含めて規模に見合った授業方法の改善は必要不可欠になるだろう。

一方で、知識集約型の授業としている関係上、成績不振者が一定数出てしまう点は、例年通りである。卒業必修科目であることから、そのような学生への対応は考える必要があるだろう。ただし、各種免許の必修科目である以上、レベルを下げないことが前提である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	石橋 優美

授業の概要

乳幼児および児童・生徒の発達について、身体・運動、言語・認知、情緒・社会性などの各領域の特徴と相互の関連性についての基本的な知識を学ぶ。その際、ピアジェ、ヴィゴツキーなどの代表的な発達理論を基に、発達を規定する内的、外的要因およびその相互作用などの観点について理解する。また、子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかかわりや援助のあり方を学ぶ。

授業の問題点

本授業は、履修者を 2 つのグループに分け、対面とオンラインを交互に行う授業形態であった。対面、オンラインともに、毎回小レポート課題を出していた。字数指定をしていても、第 1～5 回あたりは、指定の字数に満たない文章や、その回で授業者が説明したことをまとめるだけの文章が多くみられたため、履修者が書いた文章へのフィードバックのしかたに工夫、改善が必要であると感じた。

学生の授業満足度

授業内容、授業方法、授業満足度に関する得点から、本授業は受講生にとっておおむね満足のいくものであったと思われる。授業資料や授業時の説明がわかりやすかったという回答が見られたことから、資料や説明を工夫したことが本授業への評価につながっていると考えられる。

本授業は心理学の授業であるため、心理学に関する専門用語や概念が頻出する。一方で、履修者の多くがこれから初めての実習に行き、子どもと関わる経験を積むことになるため、乳児期、幼児期、児童期の発達のプロセスやメカニズムを、実践的視点からも解説することを意識的に行った。

授業改善の課題と方策

授業初回から、受講生自身が授業中にノートやメモをとることを積極的に促した。そのための工夫として、毎回授業で提示するパワーポイントのスライドを資料として配布したり、その配布資料に重要な用語や説明を書き込めるように枠を用意したりした。恐らくそういった工夫によって、ノートやメモ等を取ったかという質問項目への回答が、平均点を超える結果になったと考えられる。今後の授業においても、受講生が授業の中で能動的に学習するよう、受講生自らメモをとって授業者や他者の話を聞くことの重要性を伝えていきたい。

また、先に述べたとおり、毎回の授業終わりに小レポート課題を出していた。対面の授業時は前回の授業で書いた文章を発表させ、授業者がその発表に質問したりコメントをしたりした。今後の授業においても、こういった時間を設け、受講生の多い授業でも受講生と授業者のやりとりの機会を作りたいと考えている。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（国語）
担当者	佐内信之

授業の概要

国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。

授業の問題点

授業に対する学習態度の評価「質問や発言をしましたか」が、他の項目に比べると低い点数だった（4.21）。これはグループ分け対象科目であったため、授業の半分がオンラインとなり、質問や発言を出しにくい環境であったことが原因だと思われる。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の点数は 4.63、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」は 4.42 と、おおむね好意的な評価が得られた。これは、グループで話し合う活動を取り入れるように意識して授業を構成したためだと思われる。

授業改善の課題と方策

受講者数は多かったが、全員の模擬授業を行ったため、全体的に満足度の高い授業にすることができた。ただし、グループ分けにより対面での授業回数が限られていたため、進行が慌ただしくなってしまった。動画での授業内容との関連を見直し、積極的な学習態度を向上させていくことが今後の課題である。

その他

授業改善書

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、社会科教師としての資質を養うことを目的としている。具体的には、前半部では社会科・公民教育をめぐる教材研究、授業づくりの諸問題について講義し、それらを踏まえて自らの社会科・公民教育の授業観をもとに学習指導案を作成した。後半部では、実際に授業の実践とその検討を行った。授業実践を通して、計画と実際の授業との違いについて体感し、他者との議論で改善点を見出す中で、よりよい社会科授業を創り、絶えず授業改善をしていく社会科教師の専門性について探究した。

授業の問題点

ノートではなくワークシートをもとに授業を展開したため、ポイントが低くなっている（4.54）。なお、ワークシートには、授業内でのメモなども記載されていた。

また、毎回の授業の量に関しては、単元を見通して授業をつくるため、多く思われがちであるが（4.69）、教育実習を見越すと適切な分量である。授業準備に関しては、適切さや分量においてすべて同じであるが、実践の時間を徐々に増やしていった。

学生の授業満足度

おおむね満足していたようである（4.92）。また、半期を通して得るものがあったようである（4.92）。授業改善の努力を続けていきたい。

授業改善の課題と方策

教育法Ⅰを受けて、授業の意図を学生自身が把握し（5.00）、授業外学習に積極的に取り組んでいた（4.77）。また、お互いの実践を検討し、質問し合える空間を徐々に構築し（4.77）、授業をつくり、実践し、省察する社会科教師の専門性の一端に触れることができた。

今後の課題としては、これまで受けてきた授業を相対化し、自身の実践を構築する上でも、自身とは異なる授業に触れさせ、経験させることが求められる。教育法Ⅱでは、他者の授業から気づきや発見が多く見られたが、教育法Ⅰでも多くの気づきが得られるように、理論の異なる多様な活動に取り組ませて、授業観および実践構築のための一助としていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、社会科教師としての資質を養うことを目的とした。具体的には、前半では、教育法Ⅰの理論的・実践的な課題を振り返るとともに、中高社会科教師と教科書の関係性、教材研究や生徒にとっての「身近さ」について検討した。後半では、まず学習指導要領と授業づくり・学習評価の関係について新学習指導要領や学術的な知見を踏まえて検討した。その上で、実際に学習指導案を作成し、授業実践・授業検討会を通して、指導計画と実際の授業の違いについての気づきを体感し、また授業改善への手がかりやアイディアについて議論した。

授業の問題点

ノートやメモに関しては、ワークシートで授業を展開したため、ポイントが低くなっている（4.45）。なお、ワークシートには、授業内のメモが記載されていた。

また、毎回の授業でテーマを示して活動に取り組んでいるにもかかわらず、十分認識されていなかった（4.27）。理論的な教育法Ⅰとは異なり、実践重視の教育法Ⅱでは、自身の教育観・授業観と対峙することになるため、教育法Ⅰの学びから円滑に移行できるように、絶えず教育観・授業観を振り返ることができるように工夫していきたい。

学生の授業満足度

授業には、おおむね満足していたようである（4.55）。また、授業内容も得るものがあったようである（4.73）。引き続き改善に努めたい。

授業改善の課題と方策

本授業に対する興味や関心、授業の方法や資料、内容の質や量、授業進行の円滑さについては、おおむね満足が得られたようである（4.64）。また、学生自身の質問や発言を許容する空間を創り出し（4.64）、授業実践に対する学生相互の検討を促進することができた。一方、とりわけ地理歴史に関する教育は、自身の考えの基盤となる諸学問の背景などを踏まえることで、より豊かな学びとなる。教育法Ⅰの内容を充実させることで対応していきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	初等教科教育法（社会）
担当者	堀田　諭

授業の概要

本講義では、社会科教師の実践的な資質を養うことを目的としている。そのために、様々な社会科授業観について理論的に検討し、社会科学習指導案の作成及び自他の実践を検討することを通して、自己の社会科授業観の構築を目指した。コロナ対応のため、対面とオンラインの併用で行った。

対面授業の前半部では、社会科授業の実践ビデオの検討や学習指導要領改訂及び評価との関係性、社会科授業の実際の活動、学習指導案の作成方法について検討した。後半部では、教科書分析を踏まえた単元構想、評価活動、実践プランの作成・検討を行った。

オンライン授業では、第３学年から第６学年の小学校社会科の内容の検討や、自身の地元の教材研究及び単元プランの構想、評価課題に取り組んだ。

授業の問題点

授業内容に興味や関心を持ち（4.39）、積極的に課題提出に取り組んだが（4.39）、オンライン課題の分量が多かったと思われる（3.61）。適切な課題としていくため、授業当初から、文章の読み取りによる記述から小学校社会科の授業で行われる評価課題を踏まえて単元や実践について考えるものへと質を落とさず転換した。

学生の授業満足度

授業外学習などに積極的に取り組み（4.11）、グループ活動を重視して発言・質問できる空間を創ることができた（4.39）。

全体として、得るものはあったが（4.07）、課題の多さからすべての学生にとって十分満足が得られなかったようである（3.64）。

授業改善の課題と方策

コロナ対応のため、対面・オンライン併用の計画へと変更し、開始時期に共有を図り（4.21）、疑問や質問、毎回の課題に応答したものの、一部の学生には十分な理解が得られなかった。口頭による実践的な活動では積極的に取り組んでいたため、記述による活動とのバランス・転換を図っていきたい。

また、自他の教育観・授業観を問い直す課題を多く取り入れて、自身の実践をふりかえる機会を作っていきたい。

その他

対面・オンライン授業で得られた課題を今後の対面授業に活かしていきたい。

専任教員

経済経営学部　経済経営学科

授業改善書

科目名	中級簿記
担当者	吉田雄司

授業の概要

本講では、日商簿記 3 級レベルの講義をしました。授業では、春期「初級簿記」で学習した基本をもとに、さらに実践的な簿記を学びました。合計残高試算表と精算表の作成が完全にできることが目標です。11 月に「日商簿記検定 3 級試験」がありましたので、その進度に沿った授業をしました。

授業の問題点

秋期の「中級簿記」は春の「初級簿記」を学んだ学生が対象です。夏休みに簿記を学習した学生とそれを行わなかった学生との差が出ています。中級簿記は 1 年生の受講者が多いです。そのため高校時代の感覚で春から夏そして秋の授業と一貫した学習計画を実践すれば日商簿記 3 級は合格レベルに到達できます。夏休みも簿記の学習を続けてください。

学生の授業満足度

11 月の日商簿記検定試験の受験に参加できた学生は学習意欲はあったと思います。しかし、受験会場にまで行けなかった学生にとっては、その満足度は高くはないと思います。令和 3 年 4 月からネット受験が本格的に実施されてきましたので、自分の学習ペースで受験をすることをお勧めします。勉学の基本は、学ぶ「信念」をもつことと教材等の反復学習が要になります。

授業改善の課題と方策

コロナ禍での授業で、2 クラス体制で行ってきた。このため 15 回継続しての対面授業ができず学習の継続性に問題があった。しかし、4 月からは対面授業で行うので通常の授業方式で講義は可能と思う。

その他

大学の授業は、学術的な学問領域の研究の他に資格取得など実践に向けた正課授業が求められていると思います。授業を通じて、学生は論理的思考力を習得し、また会計不正などを起こさない規範的判断能力を養い、その結果として実践的な資格取得等を目指すことが必要です。

授業改善書

科目名	日本経済論
担当者	花崎 正晴

授業の概要

日本経済における高度成長期の特徴、バブル崩壊後の長期にわたる低迷期、労働市場の特徴と所得格差、中小企業およびベンチャー企業の役割、環境・エネルギー問題、地域経済と政府の役割、人口減少と社会保障などについて、最新のデータや統計などを提示しながら講義した。

授業の問題点

グループ分け授業に該当したため、２つのグループともに対面授業が７回、Teams を利用した課題提出方式によるオンライン授業が６回、そして期末試験が１回という構成になった。オンライン授業である程度の補足はしたものの、対面授業では速いスピードで講義を進めざるを得なかったため、予習、復習が不足した学生には、理解するのが難しかった面があるかもしれない。

学生の授業満足度

学生アンケート結果によると、授業満足度は 4.2 程度の水準であった。来期に向けて授業内容を改善することによって、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

グループ分け授業で対面授業の回数が少なかったため、各テーマについて十分な時間をかけて丁寧に説明することや前回の復習をすることができなかった。今後は、場合によってはもう少しテーマを絞り込むことによって、重要な点をより丁寧に説明するとともに、前回講義の復習をするなど、学生が理解しやすい方策を模索していきたい。

その他

授業改善書

科目名	経済学入門
担当者	花崎　正晴

授業の概要

経済学とはどのような学問であるのかに始まり、経済学の歴史、市場経済や計画経済といった経済体制の違い、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本、経済政策の役割、国際貿易や為替レートの意味、環境経済学が取り扱う事象などについて解説することによって、経済学に興味を持たせることを目指した。

授業の問題点

秋期スタートの直前に担当することが決まったため、事前にシラバスを作成、公開することができなかった。また、履修者全体のおよそ 3 分の 2 は人間学部の学生であった。したがって、授業で出てくる概念の多くは、はじめて耳にするものが多かったように思われる。そのような予備知識のない学生に、興味を持たせる工夫をもっとすべきだった点が反省材料である。

学生の授業満足度

履修学生数は 47 名であったが、そのうちおよそ 3 分の 1 の学生については、出席率が極めて低かった。また、学生アンケートの授業満足度は、4.0 を下回る水準にとどまった。おそらく授業内容が難解であったことが、主たる要因であると思われる。より基本的なことから説明するなどして、授業満足度を引き上げる努力が必要であると思われる。

授業改善の課題と方策

シラバスを事前に公開することによって、授業の全体像を学生に提示するとともに、重要な点をより平易かつ丁寧に説明し、前回講義における重要な点を復習するなど、予備知識のない学生も理解しやすい内容にする必要がある。

その他

授業改善書

科目名	国際会計論
担当者	李　相　和

授業の概要

本講義は、国際理解教育の一環として、会計基準の国際的比較研究の成果を総合し、国際会計の最終的目標（会計基準の国際統合）の実現に向けての努力の歴史、現状および将来の課題を学ぶものである。

授業の問題点

受講態度はよいが、受講生の授業に対する関心・意欲がやや弱かった。授業内容について、板書などは改善すべき点は残っている。基礎的な会計知識が足りない学生には授業内容が難しく感じたと思う。

学生の授業満足度

単位付与は課題レポートによる評価を行った。全般的には、期待した基礎レベルには達していて合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業の満足度を高めるために、また積極性を持たせるために、日本企業の IFRS 適用の事例を多く取り上げるなど、会計基礎に関する実例や話題を取り上げ、わかりやすく説明できるように工夫したい。

板書や聞き取りなどの指摘については、これからも真摯に受け止め、気を配っていきたい。

その他

授業改善書

科目名	財務諸表論Ⅱ
担当者	李　相和

授業の概要

本講義は，財務諸表論Ⅰの内容をふまえ、企業会計の理論を学ぶものである。授業では、会計諸規則や会計の諸概念を体系的に説明するとともに、主な会計処理問題を会計制度に織り込みながら解説するものである。

特に、キャッシュフロー計算書の作成と連結会計、時価主義会計、減損会計など企業社会が直面している会計処理問題を具体的に解説する。

授業の問題点

・受講者が多かったが、必ずしも意欲的であるとはいえない。
・板書がみにくいとの指摘があった。
・出欠を取った後にすぐ退室してしまう場合が何度あった。

学生の授業満足度

単位付与は課題レポートによる評価を行った。全般的には、期待した基礎レベルには達していて合格(最低合格水準)に達し、ほとんどの学生がここまで到達することができた。しかしながら、一部では、基本的に期待されるレベルを超え、高い独立性、創造性を示すことができる者や、期待した基礎レベルに達していない者もいる。

授業改善の課題と方策

授業内容が難しくならないように、会計の基礎を固めながら、要点解説や新聞などの資料を用いて、わかりやすく説明できるように工夫したい。また、丁寧に話せるように努力したい。

大学生としての自尊心を尊重するが、出欠を取った後にすぐ退室してしまうようなことは避けてほしい。常識的な授業態度を守って欲しい。

その他

授業改善書

科目名	ヘルスケアサービズ・マネジメント
担当者	一戸　真子

授業の概要

ヘルスケアサービスの特徴や機能、質の向上にはどのようなことが重要であるか、さらに患者およびサービス利用者主体のサービスに必要な事項について理解を深めることを目的として授業を展開した。また、ヘルスケアサービスの質を保証するために、どのようなマネジメントが望ましか、各種制度や法律などもどのように関連してくるかについて授業を行った。

授業の問題点

受講者が多いため、A,B クラスに分け授業が交互に実施されたことにより、各週での対面授業となった。間にレポート課題はあるものの、直接対面での講義に間隔があるため、学生の学習意欲の低下について課題が残った。

学生の授業満足度

やや授業への出席率が低く、A,B 各講義日を間違えて受講するものも少なくなく、平均よりも全体の満足度はやや高いものの、十分に学生に響いていない点が懸念される結果となった。

また、重要な事項についての説明および解説に時間を費やしたため、学生参加型の講義展開ができず、学生の主体的参加が促されていない結果となった。

授業改善の課題と方策

やや一方的な講義形式となったことに対し、改善と工夫が必要であると感じた。今後は、できるだけ伝えたい事項について絞込みを行った上で、解説を重視し、もう少し学生主体、学生参加型の授業の展開についての工夫を行うこととしたい。

その他

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	一戸　真子

授業の概要

テキストを用いながら、興味のある内容について担当し、読み込み、レジュメを作成し、プレゼンテーションし、その後ディスカッションするという一連のプロセスを通して、コミュニケーション能力や発言力、思考力、プレゼンテーション能力の向上を目指して、演習を実施した。

授業の問題点

大学に入学して半年が経過するものの、演習以外の各科目ではあまり十分に発言する授業はなく、また高校までででもあまり積極的に発言する機会がなかったようで、コミュニケーション能力向上のためには、授業の雰囲気を明るく和やかにすることにかなりの工夫を必要とした。

学生の授業満足度

工夫のかいもあり、学生の満足度は高い結果となった。少人数のため、一人ひとりにきめ細かく対応できたため、満足度が相対的に高い傾向であったと思われる。

授業改善の課題と方策

今後の更なる改善点としては、全員がより満足できるよう、個々人の能力に応じたオーダーメード教育を実践できるよう工夫していきたい。

その他

授業改善書

科目名	スポーツマーケティング論
担当者	薄井和夫

授業の概要

この講義では、マーケティングの基礎知識を基に、マーケティングの視点からスポーツをどのように捉え、考えるべきかについて教授した。内容的には、オリンピック・マーケティング、北米・欧州・日本でのスポーツリーグ自体の戦略の違い、アマチュアスポーツ・企業スポーツ・プロスポーツの違い、「する」スポーツに対する自治体マーケティングのかかわり方などを講義した。

また、今年度は、コロナ禍のなかで東京オリンピックが開催され、それに対する賛否両論様々な見解が社会を賑わしたことから、こうした中で、企業のスポーツを通じたマーケティングのあり方がどうあるべきかを講義や自習課題で学生に問うなど、学生が社会の出来事に関心を持てるようにした。

授業の問題点

コロナ禍の感染対策のため、昨年に引き続き、講義全体をＡクラス、B クラスに分け、対面による講義のないクラスは、遠隔による自習課題を設定して毎回提出させた。この方式には、長所と短所がある。短所は、対面講義の時間が限られているため、説明がどうしてもコンパクトにならざるを得ない点である。その一方で、この方式の大きな長所は、講義で説明した内容の応用問題的な課題を自習課題として設定し、自ら調べて自分の見解を述べさせる機会が大幅に増えたことである。これによって、対面授業だけだった時のように一方通行の講義にならず、学生が自ら調べて自分の見解を述べるという大学本来の双方向のやりとりができるようになった。

学生の授業満足度

学生の満足度は、平均が 4.37 であるのに対し、この講義は 4.46 であり、おおむね満足度が高いといえる。

また、「わかりやすく、楽しい講義」とのコメントが寄せられており、こうしたコメントが得られることは、本講義がその狙い通りの効果を発揮したものと考えられる。

授業改善の課題と方策

◎「質問や発言をしましたか」という項目が 3.31（平均は 3.34）でやや低いが、これは対面講義でのことであり、上述のように自由課題のなかでは、学生は、それぞれかなり自由な発言を行っている。対面授業では、学生の発言を促すよう改善を図りたい。

◎「資料のプリントが見づらかった」というコメントが寄せられている。毎回使用しているパワーポイントのファイルの抜粋をコピーして配布しているが、パワーポイントの画面が多いため、どうしても一画面一画面が小さくなり（Ａ４用紙１枚に４画面）、またモノクロになるため学生の興味を引きにくい。来年度は、講義のパワーポイント画面を大学の Microsoft Teams にアップすることにより、各自がカラーで大きな画面を参照でき、適宜、プリウントアウトできるように改善する予定である。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	上級簿記
担当者	大塚浩記

授業の概要

初級簿記や中級簿記で習得した内容に基づいて，より多くの取引を理解し，記帳できるようになることを授業の目標とする。具体的には，日商簿記検定の２級程度の範囲のうち，個別財務諸表に係わる日常の取引と決算を講義する予定である。授業では，取引等の説明が多くなるものの，目標は受講者が実際に会計処理を理解して，記帳できるようになることなので，授業中はもとより，授業以外の時間でも積極的に演習および復習することを望む。

授業の問題点

初学者のための授業ではなく，簿記の学習経験を前提としている授業であるために，受講者の経験や習熟度に差があることである。ただし，今期は学生間の習熟度の開きは比較的に狭く，また学習意欲の高い学生が受講していた分，例年よりは大きな問題とならなかった。

学生の授業満足度

授業評価のアンケートを見る限り，良好である。

授業改善の課題と方策

上記の通り，おおむね良好に実施できた授業だと考えている。

そのうえで，シラバス（と学生の期待）を意識して，授業する範囲を終了させたいことと，受講生にとっての適切な授業進度との関係から，演習にかける時間や，十分な質問機会という点では，足りない場面があったかもしれない。この点では，これまであまり強調してこなかった予習の指示を明確にした方が，さらに良くなる（成果が現れる）かもしれない。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	佐藤正勝

授業の概要

日本経済新聞の経済教室の欄の論文を要約し、現状、問題点、解決策、目標等の各項目に分けたうえで、それぞれがどのような内容であったかを、ワードにまとめて、ゼミで発表させた。

授業の問題点

日本経済新聞の経済教室の欄の論文は、学生にとって、レベルが高いので、まとめるのに、ゼミ生は苦労していたようである。しかし、自分のレベルより高いものに挑戦することこそが、勉強であるので、今後も続けたい。

学生の授業満足度

学生による評価の点数も比較的高いし、授業におけるゼミ生の表情などを見ても、また、下記の「学生の主な意見」を見ても、出席している学生は、授業の内容に、ほぼ満足していたように思われた。

授業改善の課題と方策

今後、可能な限り、ビジュアルな配付資料等を作成し、より分かり易い授業にしたい。

その他

「学生の主な意見」の欄に次の記述があった。

[①]もっと深く掘り下げたプレゼンテーションをやってみたいです！
[②]資料を自分で調べて発表することは、将来プレゼンをやる時などに役に立つと思いました。また資料の理解の仕方や発表資料の書き方も教わったので、とてもよかったです。

授業改善書

科目名	中小企業論
担当者	反田 和成

授業の概要

・本授業では、中小企業の発展性と課題・問題点のほか、中小企業の競争戦略、中小企業の経営戦略、ベンチャー企業、中小企業の海外進出における国際経営戦略といった側面から中小企業を体系的に学ぶことを目的としている。
・実社会における中小企業の特徴と課題について、基本的な仕組みを理解ができるようになると共に、中小企業について経済や産業全体の視点から企業経営の視点まで幅広い観点から理解を深め、学生が将来中小企業を経営する立場、支援する立場、働く立場になったときに役立つ専門的知識を身に付けることを目指している。

授業の問題点

・授業の前半にグループディスカッションを前提とした班分けを行ったが、授業によって出席者がまちまちだったので、学生同士で打ち合わせる時間が少なくなってしました。
・コロナウィルス感染の拡大により、授業の後半はほとんどグループディスカッションができなかった。

学生の授業満足度

・授業の構成は、ミニレポート、グループディスカッション（一部）、中間試験、期末試験を想定したが、一部予定通りに進捗できなかったため、学生の満足度は、4.35 と 4.20 であった。
・一方、中小企業の発展性と課題・問題点のほか、中小企業の競争戦略、中小企業の経営戦略、中小企業の海外進出における国際経営戦略に関して、具体的な事例を踏まえて授業を行ったため、学生の理解は深まったと考えている。

授業改善の課題と方策

・次年度以降、グループディスカッションは出席者が確定してから、班分けを行い実施する。
・次年度以降もミニレポート、グループディスカッション、中間試験、期末試験を行うと共に、具体的な事例を取り上げることで、社会人になった後も活用できる内容の授業にしたい。

その他

・特にありません。

授業改善書

科目名	アジア経営論
担当者	張　英莉

授業の概要

この講義では国際経営、アジア経営に関する初歩的な理論と日本企業のアジア進出の実践例を解説する。講義内容は、①日本企業の国際化と対外投資の歴史的背景、②アジア市場の特徴、カントリー・リスク、およびそれに対応する進出企業の経営戦略（特にマーケティング戦略、人材戦略)、③異文化経営における理論と実践例、の三つの部分によって構成されている。必要に応じて以上の内容に関連する映像資料を併用する。

授業の問題点

授業内容、授業方法に関する回答はすべて 4 ポイント以上なので、大きな問題はないと考えている。来期も履修生にあわせて微調整をしながら、このまま続けていきたい。

しかし、「授業への学習態度」に関しては、例えば「質問や発言をしましたか」との質問に対して、3.19 ポイントとなっており、全項目の中で最下位であった。これについては改善しなければならないと考える。

学生の授業満足度

授業全体に対する学生の満足度の評価は、「授業の内容はあなたにとって得るものがあったか」、「全体的に振り返って、授業に満足できたか」の二つの質問に反映されると思われるが、それぞれは 4.45、4.37 だったので、おおむね満足してもらえたのではないかと感じている。

授業改善の課題と方策

上述の問題を解決するために、昨年度に引き続き、次のような改善策を取り入れたい。

授業中に質問や発言をしない受講生が多いということは、質問・発言しやすい雰囲気、環境が整っていないことが考えられる。今後は双方向教育を推進するためにも、受講生に対して適切な方法とタイミングで問いを投げかけ、質問・発言の機会を作りたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	経営財務論Ⅱ
担当者	福永　肇

授業の概要

本講義は、株式会社の資金調達を核に、企業の財務について学ぶものである（エクイティ・ファイナンス分野）。最初に株式会社のしくみと歴史を学び、「株式会社は人類の大発明」といわれる理由を考えていく。 次に「株式」という有価証券について勉強し、株式会社の設立、会社運営における株式、会計（財務諸表）に おける株式、発行市場や流通市場における株式、株主の役割など、様々な視点からエクイティ・ファイナンスを学び、理解していく。

授業の問題点

教室（408 号室）には天井固定型プロジェクター、窓への遮光カーテンがなかったことなどから、パワーポイント作成資料や各種の（白黒の）授業資料は配布し、黒板板書での授業となった。カラーの色付きのパワーポイント映写による授業の方が、より分かりやすい授業が出来たであろう。

学生の授業満足度

受講生は 12 名、毎回ほぼ全員が出席していた（毎回出席をとった）。欠席する場合は事前にメールで連絡があった。

授業アンケート結果（回答 8 名）では、14 項目中 3 項目以外は高い数字であった（4.25～4.63）。低い点数の 3 項目は「質問や発言をしましたか（3.25）」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか（4.13）」「ノートやメモ等をとりましたか（4.13）」であった。

春期の「企業財務Ⅰ」の受講生は 70 名ほどいたが、この秋期の「企業財務Ⅱ」の受講生は 12 名であった。企業財務Ⅰの授業では、簿記、会計、財務、ビジネス、経済学等での基本的な数字を多く説明し、試験も計算して説明する設問を主体に 10 問を出したが、学生は「数字」に対して及び腰になってしまったようだ。テスト答案に「企業財務Ⅰに比べ、企業財務Ⅱのレベルは格段に上がり、数字に大変弱い私には難しかったです」というコメントがあった（企業財務Ⅰでは複利計算があり学生はまごついたようだ。しかし、企業財務Ⅱの授業では、割算、分数以外は登場させていない）。

12 名の受講生の中で毎回、教室の最後部の列を占拠する学生が 2 グループ 4 人いた。その他の 8 名の学生の大半は、教壇から見て教室の後ろ半分に着席する。コロナ対策から、話しをする教師からは離れているのが正解であるが、せっかく出席するのだから、より良い席に着席することを望みたい。

授業改善の課題と方策

世界でのファイナンス分野の主流は、米国のビジネススクールが教授している投資理論であるが、それらのテキストは数式、関数、微分方程式のパレードで、学生が関心を持てそうになく、また理解が難しい。そこで今期の授業では内容を、企業の資金調達に定め、自己資本（株式発行）、他人資本（銀行借入）について 15 回の講義を行った。次回以降、学生が分かり、興味を持つ授業内容をどのようにするか、が今後の課題である。

その他

・「数字へのリテラシー」が大変弱い。多くの学生が、（期末試験での）筆算による桁数の大きい割算に正解できていない。比率、指標という分数が持つ経済的意味が良く理解できないようだ。大学入学前での、算数ドリルなどでの数字、数学への訓練が緩かったと思料される。

・最初の授業で「この授業では貸借対照表、損益計算書が軸になります。簿記、会計に自信がない人は正直に手をあげて」の質問にほぼ全員が手をあげた（2 年生 9 名、3 年生 3 名）。本学部の特徴の一つは簿記・会計教育である、学生は学んだことに対する自信を持ってほしい。授業では簿記、会計の要点を分かり易く説明してからファイナンスの話に入って行った。

授業改善書

科目名	教養演習Ⅱ
担当者	福永　肇

授業の概要

ゼミナリステンは1名のみ（1年生）。
学生が関心を持った「ロジスティック」に付き、学生が書籍を中心に勉強し、毎回発表を行った。数冊の専門書を読了・。発表し、最新の物流（ロジスティック　4.0）については詳しくなった。

授業の問題点

ゼミナリステンは1名のみで、学生は毎回、一人で90分間の持ち時間での発表（および討論）となった。大学院並みの濃厚かつ充実したゼミナールの実施となったが、学生の負担は大きかったと思料される。

この教養演習Ⅱは、毎週火曜日1時間半の家庭教師スタイルの授業となった。ゼミナールとは、複数の学生と教員が、発表や議論を通じながら学生の考える能力を伸ばしていく「演習」スタイルでありとすると。かなり異形のゼミ授業となってしまった。

学生の授業満足度

授業アンケートへの回答はなかった。

本人は、自分の関心ある分野の勉強ができたので、満足しているようだった（なお、令和4年度の福永の基礎演習もこの学生1人だけでのゼミ運営となる予定）。

授業改善の課題と方策

ゼミナリステン1名との90分間の長丁場での発表・討論となり、学生負担が大きい。現行は致し方ないが、ゼミナリステンが少ない場合、他学年のゼミ、同学年とのゼミとの連携、合同運営も考える必要がありそうだ.

シラバスに校外での授業実施予定の記載をしていなかったため、校外学習（東京証券取引所見学、日本銀行見学、工場見学、他大学でのセミナー参加等）が出来なかった。インターンシップ参加も含め、次年度では校外学習の選択肢も持っておきたい。

その他

ゼミナリステンは1名のみであった。理由を学生に聞くと、ゼミ募集で「経済学では数学を使う。財務、経営分析では数字を使う。勉強しよう」と説明したが、それを聞いた学生たちがゼミ希望から敬遠した処にあったようだ。

授業改善書

科目名	専門演習
担当者	福永　肇

授業の概要

この授業は座学形式の「講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていく「演習」スタイルで実施した。学生は、授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求された。

学生が自分で選んだ個別研究テーマをゼミで発表、討論するスタイルで行った。
3名のゼミナリステンの研究テーマは以下で多くは4年生での卒論に繋げていく予定。

・学生A:「FX」。FX（外国為替証拠金取引）の仕組み、ディトレード、ランダムウォーク理論、ファンダメンタルズ理論、国際金融システム。貿易と外国為替。

・学生B:「競馬の経済学」。競馬のカネの流れ（主催者、馬主、配当）。競馬業界の構造。競馬市場。中央競馬（JRA）と地方競馬（自治体）の経営。国内外の競馬レース。

・学生C:①春期　「各国の軍事費の動向」、
②秋期　「動画配信会社（you tubeなど）のニュー・ビジネス市場。

授業の問題点

ゼミナリステンは3名という少人数なので、学生は毎回、一人30分間の持ち時間での発表（および討論）となった。濃厚かつ充実したゼミが実施出来たが、学生の負担はかなり大きかったと思料される。

学生の授業満足度

授業アンケート結果（回答3名全員）では、14項目中2項目以外は高い数字であった（4.28～4.60）。
低い点数の2項目は「質問や発言をしましたか（3.34）」「授業外学習（予習や復習など）をしましたか（3.86）」であった。

授業改善の課題と方策

春期、秋期で30回のゼミを行ったが、欠席がそこそこあった(事前にメールで連絡あり)。理由は、「新型コロナ濃厚接触者自宅待機」「（長年の持病の）容体悪化」「発熱」「腸炎」という病気関係であった。ゼミナリステンは3名という少人数であったので1人、2人が欠席した場合、出席した学生は90分間の長丁場での発表・討論となり、学生負担が大きい。現行は致し方ないが、ゼミナリステンが少ない場合、他学年のゼミ、同学年とのゼミとの連携、合同運営も考えていく必要がありそうだ.
シラバスに校外での授業実施予定の記載をしていなかったため、校外学習（東京証券取引所見学、日本銀行見学、工場見学、他大学でのセミナー参加等）が出来なかった。インターンシップ参加も含め、次年度では校外学習の選択肢も持っておきたい。

その他

なし

授業改善書

科目名	経営学
担当者	文智彦

授業の概要

経営戦略論や経営組織論、マーケティング論、人的資源管理論など、経営学の専門科目の基礎について講義している。

授業の問題点

学生の授業態度の評価における「質問や発言をしましたか」の項目の評価が 2.83 と低い。
学生の意見の中に、教員の板書に関する意見がある。

学生の授業満足度

Ⅲ. 学生の満足度における、１の項目が 4.25, ２の項目が 4.22、である。

授業改善の課題と方策

授業では頻繁に質問をしているが、大教室での大人数の授業ということもあり学生は発言しにくいようである。
板書についての意見があるので、ゆっくりしっかりきれいに書くよう努力する。

その他

授業改善書

科目名	経営学史
担当者	文智彦

授業の概要

経営学の歴史についての講義である。
古典的経営学、近代的経営学、人間関係論、コンティンジェンシー・セオリーなどの伝統的な理論分野から現代の経営理論に至るまで幅広い領域にわたる内容を講義している。

授業の問題点

学生の授業態度の評価における「質問や発言をしましたか」の項目の評価が 3.05 と、他の項目に比べ相対的に低い数値となっている。

学生の授業満足度

Ⅲ.学生の満足度における、１の項目が 4.29, ２の項目が 4.29、である。

授業改善の課題と方策

アンケートを見る限り、大きな課題はなさそうであるが、「質問や発言をしましたか」の項目の評価が 3.05 と、他の項目に比べ相対的に低い数値となっているので、来年度以降は改善を図りさらに学生にとってよい講義を心掛ける。

その他

授業改善書

科目名	経済統計学
担当者	村田嘉弘

授業の概要

官公庁の収集する経済統計データを読み解く「経済統計学」を紹介しつつ、経済学分野の統計学である「計量経済学」の入門的講義を行うことを目標とした講義です。１年生向けの講義であるため、記述統計学・推測統計学をきちんと理解してもらうことから始め、そこを基礎として計量経済学の基礎部分を講義しました。２年次春学期の「データサイエンス」の前段階に位置する講義です。

授業の問題点

常時 20 名程度が聴講してくれましたが、数学の基礎知識が中学生レベルかせいぜい高校１年生レベルであり、推測統計学に入るための準備としての数式（連続型確率分布を扱うための指数関数の式、積分表示、その他）が出てきたとき、一部の学生はほとんど思考停止に陥ったようです。そのため、その式の意味をかみ砕いて教えることを何回も繰り返し、当初の予定よりはるかに進度が遅れてしまいました。そのため予定した内容を数か所省略せざるを得ませんでした。

学生の授業満足度

内容に関する満足度も全体的な満足度も平均より 0.5 程度低めですが、これは止むをえない部分があると思います。統計学の講義は最低でも高校理系程度の基礎知識を必要とするため、難しく感じてしまう部分があります。理解が難しいと思えば、満足度は下がります。

授業改善の課題と方策

数学的な基礎知識がほとんどない受講生に、図や絵を使って式などの意味内容を理解してもらうということを行いましたが、この方法では限界があります。数学の式の扱いや計算に慣れていないとわずかな計算でも難しく感じてしまいます。

根本的な対策のためには、(1)大学入学前に数学Ⅱの指数関数、対数関数、微分、積分を学んでもらう (2)入学後の全学共通科目「数学（解析基礎）」を受講してもらうなどの措置が必要であると思います。そのため、入学時の早期に履修上の指導を行いたいと思います。

その他

統計学の授業には、理論を中心に講義する方式と、パソコンでのソフトウェア実習を中心に置く方式の２通りがあります。数学の基礎知識が不足する学生にはソフトウェア実習を中心とする方が好まれますが、得られる数値の意味やなぜそのようになるかの理論的根拠の理解が不十分のままになるという傾向が強くあります。これではソフトウェアの使い方を理解しただけになりかねません。やはり、統計学のしっかりした授業を行う他大学と同じように、まずは理論をきちんと学ぶことに力点を置くべきかと思います。そのため、この講義ではパソコンでの実習は行わず、理論をきちんと理解してもらうことを目標としています。

授業改善書

科目名	基礎演習
担当者	森　雅俊

授業の概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。現代の経営に必要な　経営資源（人，モノ，金、情報）を有効に活用して管理運営することです。その１つである情報を収集し分析し活用することが、企業経営の効率化と競争力の強化になります。この授業の目的は、情報技術について学び、その活用方法を学ぶことです。

授業の問題点

学生からの意見として以下の 2 点があった
･AI について多く知ることが出来た。将来に生かせる様なことを多く学べることができ、とても充実した講義を受けることが出来た。

・システムに入れなく、授業が進まないことがあったのでそこを改善して欲しいです。

学生の授業満足」

この授業の履修者は、16 名でアンケート回答者は 12 名であった。
Ⅲ授業満足度について
1　　授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
　　3.75　　(4.45)
2　　全体的に振り返って、授業に満足できましたか
　　3.75　　(4.37)

今回は、授業開始 1 年目だったので、準備が十分でなかったことが、満足度が低い一因であったと思う。来年度は、内容の充実を図っていきたい。

授業改善の課題と方策

この授業では、PC を使っての演習を行うが、学生のコメントにあった
「システムに入れなく、授業が進まないことがあったのでそこを改善して欲しいです」
これは、学生が演習用のシステムに入る ID やパスワードを忘れたことに起因する。
この対策として、ID,パスワードの管理の改善とパスワードの再発行について、迅速にできる方法を検討したい。

その他

特になし

授業改善書

科目名	経営組織論
担当者	大江 清一

授業の概要

本講義では経営組織論の基礎を修得する。経営組織論を理解するためには、経営学総論、経営管理論を履修しておくことが望ましい。経営組織論は、いかなる組織に所属する場合でも応用可能な理論である。

経営組織に関する研究は、経営学のみならず経済学、社会学等多くの分野に近接する学問領域であるので、多角的な視野から講義のテーマにアプローチする。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営組織論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業の問題点

(1)「授業アンケート集計結果」を踏まえた授業の問題点は、講義内容を時間をかけて実務経験を織り交ぜて充実させることである。
(2)従来の講義時間を割り振りは、全講義時間 90 分を理論編と実務編に大きく分け、前者を経営組織に関する学説や理論の説明、後者を講師の実務経験に基づく説明として現実に即した講義を心がけた。この方針を来期も継続する。

学生の授業満足度

(1) 学生の授業満足度は「4.63」と前年度の「4.32」と比較すると改善した。この点については上記の「授業の問題点」で述べた内容を実践し引続き改善を目指す。
(2)講義への集中度は昨年度より改善した。引き続き学生が集中できる講義内容にする。
(3)上記 2 点について、授業外学習や講義中の発言等を積極的に求めていきたい。

授業改善の課題と方策

【講義内容のレベル】

(1)経営組織論は基礎からしっかり学ぶことが重要であり、社会人となった場合に最も有用な内容を含む分野である。
(2)レジメには図表を取り入れてわかりやすさを重視た工夫を凝らしてはいるが、さらにアイキャッチを強化する等、教材のプレゼンテーションに継続して改善を加える。
(3)実務経験に根差した経営組織上の問題点等を多く取り入れるにあたっては付属資料を示してリアリティを出す工夫を行う。学生の反応は良好であったので、レジメの予習、復習だけでなく、関連する経営に関する時事的な興味を抱かせることには効果があったと考える。

その他

(1) 受講者のコメントはなかったが、実務経験を交えた講義に対しては集中度が高と実感したので、引続き講義内容に工夫を凝らす。
(2)「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」という質問に対する評価点は前年度に引き続き「4.53」と高位であった。学生にとって有益な講義を心がける。

非常勤講師

人間学部

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	青木雅幸

授業の概要

春期の「英語 I」に引き続き、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につける。なお且つ、基本文法項目を復習しつつ、各課のまとめとして学習した内容について自分なりの英文を作成する力を育成する。これらを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回り物事を英語で表現できるように指導する。また、隔週の遠隔学修として各 Unit の応用として幼保英検の小模擬試験練習問題を課した。

授業の問題点

秋期も、コロナ禍による A/B グループ編成授業であり、隔週課題提出といった授業となった。また、ワクチン接種による副作用など、多くの学生がストレスを感じつつ終了した。例年のことではあるが、英語の授業及び課題を実施する際の最大の問題点は、英語についての学力差（好き嫌い）がとても大きいことである。授業内容は、幼児英語指導に役立つ英語表現が主ではあるが、一部の学生にとってはそれでも負担が大きいように思われるので授業のペースを緩やかにしている。英語が苦手な学生の多くは、進度が遅いことについては歓迎をしているが、英語を得意としている学生にとっては不満を覚える点であり、悩ましい問題である。

また、幼保英検の模擬問題を隔週で与えているが、対面授業の週に模擬問題の解説を含むためにどうしても進度が遅くなってしまう。

学生の授業満足度

授業満足度についての回答は、全く同じ内容を 1 時間目から 3 時間目まで授業しているにもかかわらず大きな差がある。一般的に 1 時間目は学生には不人気な時間帯であるが、このアンケート調査にもそれが明確に表れている。「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」の問いについての数値は、1 時間目（4.44）～2 時間目（4.58）～3 時間目（4.60）であり、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については、1 時間目（4.19）～2 時間目（4.53）～3 時間目（4.50）となっている。今後、それぞれの時間の学生の反応・態度をより詳細に観察し対応する必要がある。

授業改善の課題と方策

英語は最も学力差が顕著に表れる科目の一つであり、それぞれの時限の学生の能力を判断し、授業が単調にならないよう教科書の活用などに工夫を加え授業を展開する必要がある。苦手意識を持つ学生にとっては進度の遅い授業展開は喜ばしいことであるが、一方、英語が得意な学生にとっては不満の種ともなる。子ども発達学科の学生にとって語学は専門外との認識が強く、英語は中心的な教科ではないとの反応が認められるが、英語教育の低年齢化・教科化が進む今日、教育現場における英語需要は高まる一方である事実を今後とも学生に周知させたい。

その他

小学校で「外国語」・「国際理解の時間」として英語に接し、その後中学・高校と英語を学んだ学生にとっては、大学の英語は繰り返しの復習としか理解されていない。しかし、この授業をとおして、子ども発達学科で英語 I・II を学ぶことの意義を認識することが期待される。小学校のみならず、幼保の現場でも教育者に英語力が求められる時代となっていることを学生諸君に再認識してもらう必要がある。

授業改善書

科目名	子ども英語
担当者	青木雅幸

授業の概要

2020 年より小学校における「外国語（英語）」が教科化され、教員を目指す学生にとっては幼児英語・児童英語教育についての知識と技術は必須である。この授業では、英語教育の基本となる項目を 250 字程度の簡潔な英文で理論を学び、小学校教師と ALT（外国語指導助手）との英会話・英語の学級日誌などのエクササイズに触れることにより現場で役立つ教室英語や単語を習得することを授業の柱としている。日欧の異文化について、言語間干渉、英語と米語の異なり、非言語的コミュニケーション、外国語としての英語学習、第 2 言語としての英語学習、等々をテーマとしている。

授業の問題点

子ども発達学科の受講学生の英語力には大きな差があり、これが授業を展開する上で最も大きな課題と言える。しかし、「英語Ⅰ・II」を一年次に学んでいることもあり、尚且つ「子ども英語」が選択科目であることを考えると授業レベルを低くすることは難しく、この点で一部の学生には難解な授業となることは想定される。「子ども英語」との科目名により、シラバス要項を読まず、簡単な授業であるとの誤解が一部の学生にはある。

また、2 年生と 3 年生が混在して「子ども英語」を選択しており、学年差は英語学習の障害にはならないはずであるが、それぞれの学年がグループ意識を持っている様に思え、授業の発表などで障害となっている。

学生の授業満足度

アンケートの「授業満足度」の２項目、「内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」・「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」については両質問項目とも 4.75 との評価であり学生の授業満足度は高いものと判断している。

学習態度に関する質問項目「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」、「質問や発言をしましたか」では 4.42、4.25 となっており、受講生の多くは予習・質問をしている様に回答しているが、授業担当者としては学生の予習の割合はそれほど高いものではなく、質問をする学生も一部に限られている。従って、学生には予習・復習を十分にするよに今後も促す必要がある。

授業改善の課題と方策

第一に、学生にはシラバス要項の「授業概要」と「予習復習」の内容について十分に納得した上で「子ども英語」を履修するように指導する必要がある。また、1 年次の「英語Ⅰ・II」に間を開けず２年次に「子ども英語」を履修し、3 年次の教育実習に役立てることが最も効率的で実践的であると思われる。先ず「英語Ⅰ・II」を履修している学生にはこのことを理解させたい。

その他

「子ども英語」は、将来日本の国際化を担う子どもたちを育てる教員を目指す学生にとっては重要科目と言っても過言ではない。しかし、実際には英語が苦手な学生も多く、あまりレベルの高いことを要求すると英語嫌いを助長することとなり、この点は今後の大きな課題であり、教科書の活用方法を改善し、苦手な学生でも自主的に予習に取り組めるようにしたい。「この授業でより英語を詳しく理解することができた」「単に英語を理解するだけでなく、子どもに教える際に意識すべきことを学ぶこともできた」「より教育者を目指そうという意識が高まった」との学生のコメントには感動を覚えた。

授業改善書

科目名	中国古典文学
担当者	有木大輔

授業の概要

『十八史略』は十七の正史と宋代の史書一つのダイジェストであり、今でいう受験参考書のようなものである。日本でも初学の必読書として江戸時代の藩校や明治以後の小・中学校の教材として用いられていた。本講座は中でも有名な箇所を取り上げて精読し、その後に司馬遷『史記』の該当箇所とを読み比べる。正史である『史記』も物語的叙述が多く読みやすいものであるが、モンゴル人や初学者向けの『十八史略』との記述内容の違いを明らかにしつつ漢文のレトリックを講義する。

授業の問題点

入門期の漢文の学習には音読が必須であるが、コロナのため受講生に音読をさせることを控えた。本来音読により学生がどのくらいのレベルにあるのかを計ることができるため、コロナが終息してからは導入したい。

学生の授業満足度

総じて 4.5 以上と平均値を超える項目が多かった。授業時の学生からのコメントでも「難しい」という意見よりも「面白かった」という声をよく聞いた。

授業改善の課題と方策

アクティブラーニングのように主体的・能動的に学習する環境を作り出す必要がある。講義ばかりだと単調になるので、映像資料を見せて 1 コマの授業の中でも気分転換となるような変化が必要である。

その他

授業改善書

科目名	日本漢文学
担当者	有木大輔

授業の概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は源平から徳川氏までの歴史を漢文体で記述された史書であり、幕末期においても歴史読物として広く愛読されてきた。歴史上有名な戦国武将も多く登場するため受講者にとっても親しみやすく、かつ比較的平易な教材である。本講座では漢文訓読の知識を確認しつつ原文を読むことに挑戦するため、国語科教員免許取得を目指す学生にとっても有意義なものとなるだろう。また、毎回頼山陽の孫弟子にあたる西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで散文と韻文の違いを知り、明治期に詠史詩が流行した背景を講義する。

授業の問題点

講義型の授業のため、授業者が伝えたいことが多く、質問の時間があまり取れなかった。双方向の学習のためには質問の時間を設けてどこが分からないのかを意思表示させる機会を持たせたい。

学生の授業満足度

総じて 4.5 以上と平均値を超える項目が多かった。学生からの質問はオンラインで受け付けていたが、この項目の点数が低いということは質問の場という認識が乏しかったと思われる。質問をする機会をより明確に示していきたい。

授業改善の課題と方策

プリント中心の授業であるが、映像などを用いて変化をつけて講義が単調にならないように努めたが、プロジェクターの準備に手間取ったりして、授業時間が延長しそうになることもあったところを改善していきたい。

その他

授業改善書

科目名	保育内容(人間関係)Ⅱ
担当者	五十嵐淳子

授業の概要

保育内容(人間関係Ⅰ)で学んだことを踏まえて、保育内容(人間関係Ⅱ)は、さらに学びを発展させ、地域との連携、外国籍の子どもとその保護者とののかかわりを育む保育に視点を置いた授業に取り組んだ。また、保育現場で役に立つことを念頭に置き、保育教材の作成や保育実践を取り入れ、各自発表を行った。

授業の問題点

学生にとって、受け身の授業ではなく主体的に取り組む授業になるように、各自発表を行うなどの授業スタイルにしたが、学生の学ぶ意欲が非常に高く、学生相互が刺激を受け、授業内容の質が高くなったことが読み取れた。発表するだけでなく、学生一人ひとりが質問や発言ができる機会を作るようにさらに工夫が必要であることが課題としてあげられる。

学生の授業満足度

授業内容には理論だけでなく実践との両輪を目指してきたが、授業内容の満足度が 5 点という評価があったので、引き続き、学生にとってためになる授業に取り組んでいきたい。選択科目であるため、学生の意欲的な学びが見られたことも授業満足度に繋がっていると考える。

授業改善の課題と方策

質問に関しては、なるべく授業内に質問に対して声がけを行い、質問する機会を作っていたが、今後はリアクションペーパー等を使用することによって、なかなか発言できない学生も質問できるような工夫を取り入れていきたい。

その他

授業改善書

科目名	フランス語Ⅱ（中級）
担当者	市橋 明典

授業の概要

前期の「フランス語Ⅰ（初級）」に続いてフランス語とその文化を学び且つ基礎文法をマスターすることで「読む・書く・聴く」の能力を養い、仏語を話せるようにすることを目標にした。パリ観光を題材にした初心者にも分かり易いビデオ教材を使用し、毎回簡単な会話練習をしながら基本的な文法の説明を行なった。さらに、実践的なコミュニケーション能力を養うために、フランス映画の映像やシャンソン、単語集を使った語彙の補完につとめた。

授業の問題点

前年度同様に前期の「フランス語Ⅰ（初級)」の授業プログラムは新型コロナ・ウイルスの蔓延防止対策が影響したため遅れが生じ、後期の「フランス語Ⅱ（中級)」においてその遅れを取り戻す必要があった。そのため授業進度のペースが上がり、特に後期から学ぶことになる基礎文法の後半部分は疑問代名詞・疑問副詞・中性代名詞ｙ・部分冠詞・数量の表現・中性代名詞 en・疑問形容詞・命令形・非人称構文・指示代名詞・補語人称代名詞・代名動詞などと比較的難解な項目が多く、前期における学習よりも困難を伴った。受講者は週 1 回・15 回分の限られた授業時間を通して全ての学習項目を理解しなくてはならず、予習・復習・課題を多数こなし、前期の授業よりも高い集中力と努力を要した。

学生の授業満足度

授業アンケートの集計結果における学生のコメント欄には「会話演習やビデオを見ることでより一層理解を深めることが出来た。」や「プリントもあり、分かりやすかった。」といった意見が寄せられ、授業の学習方法に一定の効果があったことが示された。

一方で前期授業のプログラムの遅れにより後期の授業で学ぶべき文法項目が増えたことで「授業が（時間的に）ギリギリのことが多かった。」や「詳しく解説してもらうのは嬉しいが、長引くことが見られた。」といった意見があり、プログラム上やむを得ないこととは言え、時として授業進度に無理が生じて履修者に負担がかかることがあった。

とはいえデータ分析すると、全授業に出席した学生の「授業に対する満足度」は概ね高かったと判断できる。

授業改善の課題と方策

今年度も新型コロナ・ウイルスの感染防止対策が行われるに伴い前期授業に学習プログラム上のやむを得ない遅れが生じた。後期授業において学習すべき項目が増え、それによって若干授業の進度が速まった。結果として一部の履修者の学習に負担がかかった。

今後この傾向を改善するには、事前に前期授業においてコロナ・ウイルスの蔓延防止策による学習プログラム上の遅れが生じる可能性があることを前提とし、後期の学習に無理が生じないように授業進度プログラムを組み立てることにする。

当然ながらこれからも受講者それぞれの理解の度合いを的確に把握し、学生が短期間の内にそれぞれの学習項目を正しく理解できるように授業を工夫する。解説の仕方を常に改善し、学生にとってより一層分かり易いプレゼンテーションが行えるように心懸ける。また、演習に対する学習者の理解を深めるべく、課題レポートと授業内での指導及びアドバイスをさらに丁寧に行うようにする。

その他

授業改善書

科目名	中国語Ⅱ（中級）
担当者	王振宇

授業の概要

この授業では、中国語の実践的な表現を増やし、運用能力を身につける。中国関連の視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化、中国歴史などに対する理解を深める。

授業の問題点

新型コロナ感染症の防止策として、今学期は隔週半分ずつの対面授業となっています。また、授業中の発言を控えるようにと受講生に理解を求めた。授業アンケートの「質問や発言をしましたか」の問いに対する答えが 2.89 であり、低い点数であった。コロナ禍の中で、どのようにして教室で発音練習を行うのかは一番の問題点である。

学生の授業満足度

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」は 4.42、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の問いに対する回答は 4.68 でした。いずれもやや高い評価となっています。また、自由記述欄に「丁寧な授業だと感じた」という評価を頂きました。教員にとっても励みになりますのでありがとうございます。

授業改善の課題と方策

コロナの感染状況が続く状況で、教室での会話練習をいかに行うかは大きな課題になると考える。

その他

授業改善書

科目名	書道
担当者	大橋　修一

授業の概要

中学校の書写の授業及び高校の芸術科書道の免許取得の学生が受講している。中学校の書写の授業から高等学校の芸術科書道へ、どのように移行していくのかを考えながら行う授業である。勿論、書体についても、実際書けるように指導する。

授業の問題点

「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」のポイントが３点台であったことを鑑み、今後は「事前に予習ポイントを伝えること」や、「授業後に、学びを深められるようなおすすめの参考書等を挙げる」などの方法を取っていく予定である。

学生の授業満足度

「提示する文章はできるだけ分かりやすく」、且つ「より実践的な授業を実施すること」を心がけたことが、授業評価に反映されたのではないだろうか。

そのため、先述した点を意識して授業を行っていく予定である。

授業改善の課題と方策

今後も、実習や就職した時に、すぐに役立てられるような授業を行っていくことを心がけたい。

その他

特記事項なし。

授業改善書

科目名	英語Ⅱ
担当者	大山健一

授業の概要

１年次必修科目の秋期（後期）科目であった。全１５回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、最終課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとしつつ、話す活動として、一対一の単語の発音指導を実施した。しかしながら、「質問や発言」が 4 を超えていない結果となったことから、単語の発音指導以上のものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。今期に関しては、自由記述の回答から、「コミュニケーションが取れるところはいい点だと思えた点」「ランダムペアワークを用いて、知らない人とも交流を深めつつ授業に取り組む特殊なやり方がとても楽しく良い時間だったと思えた点」「発音練習の時間があり、発音に自信を持つことができた点」が満足度に繋がったと考えられる。

授業改善の課題と方策

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要性がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

その他

FD 活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。

春期（前期）「英語Ⅰ」と同様に、ＡとＢとのグループ分けも可能であったが、教室の収容人数から合同で実施した。対面授業の利点を意識し、アクティブ・ラーニングを可能な限り実施しつつ、特に大学１年生ということから学生同士のふれ合いや対教師への関係性を構築、面談による英語学習へのアドバイスを実施する必要があると考えられた。一方で、定期試験ではなく、最終課題を課すことを実施し、毎回の対面授業が負担にならないように配慮した。

授業改善書

科目名	英語（読む英語）
担当者	大山健一

授業の概要

２年次以上選択科目の秋期（後期）科目であった。ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。e ラーニング教材を導入し、文法・リスニング・リーディングの確認・解説を取り上げた。評価方法としては、e ラーニング教材の達成度、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

授業の問題点

授業は、学生から事前に取り上げてほしい文法・リスニング・リーディングの事項を調査し、その内容を解説した上で、その内容に合った e ラーニング教材を学習する流れを採用した。解説では板書だけではなく、オンライン授業との平行からスライドを活用した解説をしたため、見るだけで確認が可能で、理解度が上がるように工夫をした。その結果、「ノートやメモを取る」が 4 を超えていない結果になったことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。しかしながら、e ラーニングの受講期間の公平性などを確保するため、ＡグループもＢグループの授業内容を、ＢグループもＡグループの授業内容を提示し、課題を課す方法を採用した。しかしながら、前年度とは異なり、アンケート結果から学生の授業満足度は 4 を超えていない結果となった。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ＡとＢとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。

その他

PC 教室の収容人数から、ＡとＢとのグループ分けとなったが、２年次以上選択科目のため、４年生の履修者が多く、途中で出席をしなくなった学生が複数見られたことから、履修をしても授業の出席率が低い学生がある程度見られた。このような学生がいたことから、ＡとＢとのグループ分けとなった可能性が高く、アンケート回答率も低くなったと考えられる。勉強をしたいという気持ちを持った学生へ迷惑を掛けた言動をしたと自覚を持ってもらう必要はあると思われた。e ラーニングは日々の学習が必要不可欠であるため、事前にシラバスを熟読して、自分自身が学びたい内容であるのかを確認してもらいたいと思われた。

授業改善書

科目名	博物館資料論
担当者	奥田　環

授業の概要

博物館資料の収集、整理保管等に関における理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、資料に対する基礎的能力を養う。
さらに博物館活動の実際や展示にも言及し、具体例を多く挙げながら、博物館資料を活用する手段と目的について講義する。

授業の問題点

博物館資料は博物館活動の根幹であるため、その定義や価値から丁寧に伝えたいと考えるあまり、内容が多くなり、シラバスからやや遅れ気味になったように思う。

学生の授業満足度

学生にとってははじめて知る内容、かつ、実は興味深く発見のある内容で、これまで訪ねたり関心を持っていた博物館について、より身近に感じられたものと思う。
全体的に良く聴き、面白そうに反応する様子は非常にやり甲斐があった。

授業改善の課題と方策

教科書に書いてあること以外（以上）の、現場での具体的な様子や情報を伝えることが、対面授業ならではの効用と思い、様々な事例や余談を伝えたい思いがあるが、それを「不必要な雑談」と捉えられてしまっては、受け取る側の学生も混乱や疑問、不満が生じるであろう。
博物館活動の真の面白みを感じられるよう、こちらも話す内容を整理し、冗漫になったり学生が飽きてしまわないよう、反応を見ながら活気のある充実した授業を目指したい。

その他

学生は総じて良く講義を聴き、積極的に参加し、きちんとノートをとっていたと感じられた。

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

質問に対しての対応についての評価が低かった。大人数の講義のため、授業の中で発言されない限り、一人一人の質問に対応するのは限界があるとも言える。また、学生からのメールが迷惑メールに振り分けられていて返信できなかったこともあった。オンラインとの併用授業だったので、学生とのコミュニケーション手段をもっと考えてもよかったかもしれない。

学生の授業満足度

満足度は低くはないと思う。分かりやすかったという感想は多くの学生から寄せられている。音楽を使って授業で学んだ内容について確認したり、オンライン授業の課題を登校授業で解説したりしたことが学生の満足につながったと思う。

授業改善の課題と方策

大人数での授業になる場合、学生の疑問点などをいかに吸い上げ、対応するかは大きな課題になると思う。授業の感想用紙などで疑問点を書いてもらうことはしているが、個別対応は難しく、全体に関係する内容を取り上げるのにとどまってしまうことが多い。オンラインでつながれる場を工夫し、できる限り個別の質問にも対応できるように努めていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	図書館制度経営論
担当者	川瀬康子

授業の概要

図書館の設置及び運営がどのような制度に基づいているのかを学びます。
また、利用者の視点に立った図書館経営の在り方を考えていくために、図書館経営に係わる組織、管理、運営、各種計画に関する基本的な知識と共に、図書館に関する法律、関連する領域の法律について解説します。

授業の問題点

対面形式の授業からオンライン（課題学習型）形式の授業への変更となったため、学生とのコミュニケーションの面で不足があったこと。対面に比べ、授業内容や課題への疑問や質問など、学生からのアクションをしにくい状況であったことが問題点としてあげられます。

学生の授業満足度

平均点とほぼ同等程度です。

授業改善の課題と方策

オンライン形式でも対面形式同様に学生からのアクションに答えやすくすることが課題と考えます。そのため、課題提出の際に感想や質問などを記載するなど、こちらからの働きかけを行い、潜在的な声にも対応できるようにします。

その他

授業形態の急な変更など学生にとっても慣れない環境のなか、最後まで受講してくれた学生には感謝しています。

授業改善書

科目名	児童家庭福祉論
担当者	工藤　豪

授業の概要

本授業では、わが国における児童家庭福祉の動向について把握するために、児童福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の概要と歴史的展開、子育て支援施策の展開と課題、児童虐待における特徴と制度的対応、さらに保育所・幼稚園・認定こども園の概要や特徴、実施されている保育サービスや子育て環境などについて、幅広い視点から講義する。

授業の問題点

遠隔授業と対面授業の併用という方法の中で、学生が「質問や発言をする」機会を十分に確保することができなかったことを課題と感じる。対面授業においても、例年であれば実施しているグループワークを実施することは回避せざるを得ず、学生同士の積極的な議論を行うことは困難であった。また、学生によっては全面オンラインで受講となった学生もおり、シート上での質問等を行いにくかった側面もあると思われる。

学生の授業満足度

授業方法についての部分（授業でのテーマを明確に提示・授業の内容や量における適切性・学生への質問対応・円滑に進めるための配慮）では、平均点よりも高い評価となっており、学生において一定の授業満足度が得られているものと思われるため、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。

授業改善の課題と方策

対面授業においてグループワークの実施が困難な中、オンライン形式の授業で採用した「意見共有の取り組み」（他の学生がどのように考察・記述したのかを把握できる授業内容）に対して、多くの学生から支持・継続を希望する意見が毎回の感想等でも寄せられた。この形式を対面授業においてもスムーズに活用することができないか、試行錯誤していきたいと考える。

その他

授業改善書

科目名	情報処理（データベース）
担当者	坂本明子

授業の概要

現代社会には様々な業種・職種があるが、データベースを利用していない所はほぼ皆無といっても過言ではない。身近なデータベースとして、Google 検索エンジン、Wikipedia、辞書、WEB ショッピングの商品データベース、図書館 OPAC、アドレス帳、スケジュール管理データベース、電子カルテなど、様々挙げられる。ここまで普及しているデータベースを理解することは非常に重要であり有用である。この授業ではデータベースの基本概念から設計、運用に至るまでの基本的な知識について講義した。また Microsoft Access を用いて具体的なデータベースの構築方法を指導した。さらに、MOS（Microsoft Office Specialist） Access 2013 に合格することを目的とし、試験対策用教材の練習問題を指導した。

授業の問題点

授業への興味が高く感じられた。講義専用のサイトを設け、授業毎の評価を確認させ、意欲的に取り組めるよう工夫した。毎回授業テーマを設定し、それに応じた資料を専用サイトで配信した。コンピュータ操作の実技演習であったため、授業開始時にタイピング力向上のための演習を取り入れた。授業時間を適切に運用し、わかりやすく説明するように努力したものの、操作対象のソフトウェアが Access データベースであり、初めて操作する機能が多く、学生は難しく感じる時もあった。

学生の授業満足度

授業アンケートの授業満足度が 4.66～4.71 であり、学生による意見には「タイピング練習は今後に役立つためいい機会になった。」とコメントがあることから、満足が得られる授業が展開できたと考える。

授業改善の課題と方策

さらにわかりやすく説明するように心がけ、毎回授業をふり返り、各授業での学びを確認する。授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ。学びをふり返り、自分の変容を知ることのよって授業の予習・復習等の自己学習意欲の喚起につながるようにする。より良質な授業となるよう、アンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業展開に反映する。

その他

特になし

授業改善書

科目名	初等教科教育法（家庭）
担当者	佐藤真弓

授業の概要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授業の問題点

コロナの状況下でも本授業は全員一斉参加の対面授業が叶ったものの、やはり調理実習や体験的模擬授業の実施はできず、実践体験的内容が多い家庭科としては非常に悩ましい状況であった。またそのようなときにこそ、実際の小学校家庭科の教科書に触れ、想像力を働かせて家庭科の授業を創造的に組み立ててほしいと思っていたが、教科書を購入、準備する学生が少なくとても残念であった。

グループワークの演習が中心だが、本年度は昨年度までと比較して、おとなしい学生が多く受け身の姿勢が目立った。グループメンバーと意見交換し協力してレポートを作成したり、模擬授業の計画をたて指導案を作り上げなくてはいけないところであったが、グループ内で縦割りに分担を決め、自分の担当分だけこなせばよいというように、お互いの歩調を合わせるということが難しい学生が多い印象であった。オンライン授業が続き個々の学生が個別に学習を勧めざるを得なかった影響がでているのではということがうかがえた。

学生の授業満足度

授業アンケートの項目について 4 点以上の評価が得られたものが多かったが、やはり昨年度までと比較すると多少ポイントが下がっており、平均点と比較しても、今授業の満足度は決して高くはなかったであろうことがうかがえた。校外実習期間とも重なり、その間のグループワークが難しかったためか、「授業外で予習、復習をした」という回答が平均点よりもポイントが高くみられた。

授業改善の課題と方策

家庭科は実践的体験的性格が強いため、様々な状況下でもより実践的、体験的な授業を創造できるように指導をしていきたい。

グループワークにおいて、一人一人の力が見えるように公平な指導や評価ができたのではないかと考えている。グループごとに作成するレポート課題にもページごとに執筆者氏名を明記させる、模擬授業においては全員必ず一度は教師役を行わせる、などを徹底させ、今後もさらにグループワークの運営方法に関する指導をきめ細やかにしていきたい。

さらに、家庭科は現実の日常生活を扱うものであるので、変化する社会状況に応じて、新しい教材の提案、授業方法の工夫、時には違った視点からみる題材の開発などが特に必要な科目であると考えている。学習指導要領、教科書の分析とともに、時事問題などを取り入れ、さらに一歩踏み込んだ家庭科教育内容を提案できるように進めていきたい。

その他

授業改善書

科目名	**英会話Ⅱ(中級)**
担当者	**シーハン小田 早苗**

授業の概要

英会話（中級）の授業として、就活にも役立つよう TOEIC・英検等の資格試験に備えたリスニング学習にも力を入れながら、社会でのさまざまな場面で使用できる会話表現を能動的に学習しました。春期の英会話（初級）に続き、毎回の授業において、前半はテキストを使用しながらリスニング問題に取り組み、後半では聞き取った会話表現をスピーキング練習ですぐに実践に移す構成としました。

さらに発展した学習として、学期の最後にプレゼンテーション課題に取り組みました。身近にいる外国人へのインタビューや与えられたトピックへの意見表明を通し、主体的にリサーチし、自分の考えを英語でまとめるというプロセスを実践しました。英語をツールとして使いながら、大学の他の授業にも応用できる学習スキルが身につくような授業展開を心がけました。

授業の問題点

例年に比べレベルの高い学生がいる一方、モチベーションの低い学生も多く、クラス内のレベル差が大きいことが最大の課題でした。

英語学習に苦手意識を持つ学生の積極的な授業参加を促しつつ、上級の学生の知的好奇心も満足させられるような高度な実践コミュニケーション学習も取り入れ、双方のバランスをうまく取りながら授業を構成することに毎回細心の注意を払いました。

学生の授業満足度

学生がコミュニケーションを楽しみながら能動的に会話演習に取り組めるよう授業内容を工夫しましたが、授業満足度に関するアンケートでのデータ結果、および「説明が丁寧でわかりやすい」「英会話に対する苦手意識が改善できた」「大学生としてより詳しい英語を楽しく学べた」等のコメントにより、その目標は概ね達成できたと思われます。ほとんどの受講者が春期の英会話（初級）から続けて履修していたため、プレゼンテーション課題を含め全般的学習において学生自身が春期からの進歩を実感し、満足している様子でした。

授業改善の課題と方策

英会話の授業として一層のコミュニケーション実践を図り、教師からの一方通行ではなく、学生からの発信を重視するアクティブラーニング形式の授業展開に努めます。アンケートに「たくさんの議題で発表したいものを選べたらさらに楽しいと感じました」というコメントがあったため、今後はより多くのトピックに関し発表する機会を設け、学生の主体的な学びを促します。

また、将来ビジネスの場面で英語を使う可能性のある学生のためにビジネス実践英語を紹介しつつ、将来小学校等で英語を教える立場になる学生のためには英語教授法の専門的知識に基づいた指導法も適宜紹介し、それぞれの学生が自ら将来のビジョンを描きながら学習することができるようにサポートしていきます。

その他

授業改善書

科目名	宗教学
担当者	志田 雅宏

授業の概要

前半はユダヤ教・キリスト教・イスラームの概説、後半は宗教学の諸理論の紹介とそれにもとづく事例紹介という構成の講義を実施した。講義はA・Bの2グループに分かれての受講となった。知識の定着のために小テスト（Googleフォーム）を3回実施し、さらに一度小課題も実施した（期末はレポート形式）。
隔週でA・B同内容の対面授業を実施した昨年度とは異なり、今年度は全15回の授業をA・Bそれぞれに、対面とオンライン（オンデマンド方式）で交互に受講してもらう形式を取った。元々、対面での授業に参加できない学生のために、毎回90分間の講義動画を準備していたが、今年度は毎週、半数（よりやや多くの）受講生がオンラインでの受講となった。
また、リアクションペーパーもすべてオンライン（Googleフォーム）で実施したが、大きな問題はなかった。

授業の問題点

上記の【概要】欄からわかるように、授業の分量は昨年度のほぼ倍となったが、アンケート結果を見ても質・量ともに大きな問題はなかったといえる。教室で対面受講をする学生は毎週40－50名程度（A・Bのどちらかで、しかも対面のグループでもオンライン受講をする学生もいたため）だったのは気がかりだが、リアクションペーパーや小テストへの回答は内容も十分であり、受講生はオンラインでもしっかり受講できていたと考えられる。
ただ（元々人数的にやや難しかったとはいえ）グループワークなどを設けることができなかった。オンデマンド方式のオンライン受講では実質不可であり、教室でもなかなかグループを作りづらい状況だったかもしれない。受講人数によっては、グループワークの機会を設けたい。

学生の授業満足度

アンケートのうち、【授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか】という質問に対する回答が高評価であったことに満足している。本学において、「宗教学」は教養科目の位置づけであるため、教養として学問を学ぶ機会を通して、多くの学生が授業に満足してくれたことに感謝したい。

授業改善の課題と方策

昨年度以上にオンラインの役割が大きくなったこともあり、リアクションペーパーや小テストをすべてオンライン（Googleフォーム）で実施したが、利便性やデータ管理の点からも良かったと思う。今後、全面的に対面授業になっても、この方法を継続したい。また、学生への情報伝達がMicrosoft Teamsだけではやや不十分な場合もあるので、書籍紹介やインターネットのサイト紹介などのコンテンツを含むウェブサイトを作成してみたい。

その他

授業改善書

科目名	子供の食と栄養Ⅱ
担当者	髙尾　優

授業の概要

小児期（学童期・思春期）、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。
子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである（食育基本法）。本授業では、講義および実習を通して、食育基本法について学び、子どもの食の問題点や改善点について検討し、食育を実践できる力を養っていく。また、児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全（食中毒）、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。疾患のときの食と栄養では近年増加している食物アレルギーを持つ子どもへの対応について理解を深める。

授業の問題点

スライドの情報が多く、速く感じられることもあったようだ。
グループワーク以外での学生の発言が少なかった。

学生の授業満足度

授業の満足度に関しては 3 クラスとも、得るところがあった、授業に満足できたという評価だった。

授業改善の課題と方策

パワーポイントについては毎回 PDF にして配信するようにした。（ペーパーレス化を考え、Teams に配信）
子どもの食と栄養Ⅱでは食育に関するグループワークを行ったことで、自ら調べたり、話し合ったりと関心、理解も深まったようだ。また、発表を行うことで人に伝えるときにどうしたら伝わりやすいかなども考えることができたようである。食育に関すること以外にもグループワークや発表を取り入れていきたい。
講義が主な授業の日にはその日の授業内容に関する課題を Teams で回答してもらうという取り組みを行った。その日の授業内容の振り返りをできるようなことを今後も行っていきたいと考えている。

その他

授業改善書

科目名	博物館実習
担当者	髙梨真行

授業の概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って，実践的な知識と技術の習得を目的とする。特に実際の現場では，いかなる問題を抱えながら，どのような対応をしているのか，といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容を実施。秋期は博物館で行われている各種事業について実習の経験を踏まえ具体像を検討し、その上で事業の実際を知るために博物館への見学を回実施した。最終的には実習終了をうけ，各館で体験してきたことを中心に，１ 人１０分間程度の報告をしてもらい。その報告をテーマに受講生全員でのディスカッションを行い総括とした

授業の問題点

授業方法について、とくに「授業を円滑に進めるための配慮」については、平均点を若干下回る結果となった。これは、実技教授中心の春期に対し、秋期では講義および報告、ディスカッションといった割合、単調と感じられるアクティブではない方法を採用したためだと判断する。

学生の授業満足度

授業全体としては概ね好評価と判断される

授業改善の課題と方策

実習終了後の秋期授業の実施当たっては、報告、ディスカッションに至る過程でも、単調な講義形式にとどまることのない方法の採用に努力する。例えば、博物館での各事業に関する内容を扱う講義形式の授業においても、後半の 45 分間を実習先での学生の経験を基に抽出させた課題についてディスカッションするなど、よりアクティブになるような工夫を取り入れたい。

その他

コロナ禍のため、学生の実習の時期が平年よりも大幅に遅れて実施されたため、秋期の最初でも実習未実施の学生が複数いたため、修了を前提としていた当初秋期授業内容において、修正が必要になった。よって、次年度からは、この問題を想定し、未実施の学生も含めて、支障なく参加出来るように、内容に、博物館の実際の問題を取り上げることで、実習前の学生の認識の形成促進に役立つようなものとしたい。

授業改善書

科目名	人体の構造と機能及び疾病
担当者	高柳雅朗

授業の概要

チーム医療において、公認心理師として多職種連携(Interprofessional Work; IPW)を実践することが求められている。この多職種連携の実践に必要な医学の基礎知識について講義する。まず、医学総論として医学と医療やその歴史等を講義する。次に、疾病を理解するために必要な、正常な人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について講義する。そして、心理的支援が必要な疾病を主として疾病について講義する。

授業の問題点

授業に対する学習態度を学生が自己評価するアンケートの結果から、学生の授業外学習（予習・復習等）を促す工夫が必要と思われる。また、質問や発言を増やす工夫も必要と思われる。

基礎知識として全身の正常な解剖学・生理学を学び、さらに主要な症候そして主要な疾病を学ばなくてはならない。これらの学ぶべき範囲が広く、学習項目が多いため、授業の内容が多くならざるを得ないことや、授業の進行がはやくならざるを得ないことがあった。

学生の授業満足度

授業満足度についてのアンケート 2 項目の結果から、学生はおおむね満足していると思われる。今後も学生がより満足する工夫を続けたい。

学生からの意見に、課題の正答についてと、授業における重要項目や重要度の示し方についての意見があった。課題の正答の提示方法を再検討したい。授業における重要項目の扱いや学生への解説等において、よりわかりやすく伝わりやすいように改善したい。

授業改善の課題と方策

学生の授業外学習（予習・復習等）を促すため、対面授業・遠隔授業の両方において課題の実施を検討したい。また、対面授業においては小テストの実施を検討したい。

授業中における問いかけを増やす等し、学生の発言を促したい。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、出来る限り話さずに黙することが求められている。このため、学生に質問や発言を促すことは控えざるをえない。新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まったのち、学生に質問や発言を促したい。

その他

今年度も前年度に引き続き、学生も教職員も新型コロナウイルス感染症への対策が求められ、さまざまな対策を行いつつの授業であった。今後も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行い、授業を進めたい。

授業改善書

科目名	社会学Ⅱ
担当者	中村　牧子

授業の概要

春期の社会学Ⅰに続く応用編として、現代日本社会における労働・ジェンダー・格差等の社会関係について多角的に学ぶ授業である。「労働」については、働き過ぎ・過労死の現状や、女性労働の特徴、正規・非正規雇用の相違などを取り上げ、そこに潜む問題点と取り組みの現状について様々な資料を読み解いた。また現代人の自分らしさを考える授業では、LGBT や障害者などの現代的な問題を取り上げた。いずれにおいても、社会のなかにおける自分自身の位置を理解し、様々な他者の置かれた位置をも理解していくことを目指した。

授業の問題点

学生の学習態度については、前年よりも全体に低調であり、ノート等はとっているものの、授業外学習や質問・発言のスコアが低い。オンライン疲れというか、2 年目に入りオンライン授業を積極的に活用できる学生と惰性で少しだけしか書かない学生が昨年よりも大きく分化してきた感がある。対面授業で相互に影響を与えあう環境が、もっと必要なのかもしれない。
授業内容・方法については、テーマの明確さ、興味・関心を持てた、方法・資料のわかりやすさ、分量の適切さ等では評価されている。オンラインを想定したシラバス構成にしておいたため、シラバスとの一致もほぼ評価された。反面、質問への対応は低めである。これも、一部学生がオンラインを利用してよく質問や意見を送ってくるものの、ただ提出するだけの学生もかなりいたことの反映とも解せる。

学生の授業満足度

授業満足度については、概ねスコアは高い。本講義では、社会学の応用編として、各自が実際に社会に出たときにどんな社会関係に入っていくことになるのか、そこにどんな問題があり、それはどう解決することが可能か、現在どれほど取り組まれているのかなど、具体的・実際的な視点に立つ議論を多く盛り込んでいた。この面が、自由回答においても「これからの人生」にとっての有用性として評価されたようである。

授業改善の課題と方策

オンライン授業は、主体的に学ぼうとする学生にはプラス効果をもつ反面、全員を積極的に関わらせることの難しいスタイルであるため、仮に今後また、半分はそうした形の授業をすることになった場合には、一人ひとりの参加しやすい環境づくりや動機づけが、一層求められると思われる。
授業では多様な立場があること、色々な見方があることを強調して話してきたが、それでも「偏った考え・それが当たり前のような課題」もあると感じたという指摘が、自由回答で出ている。このコメントと同一人物かは不明だが、授業内でそうした主張を書いてくれた学生にはオンライン上でこちらの考えも伝え、相互理解に努めたが、「偏った」という印象をもたれないようなプレゼンの方法は、なお検討の必要があると感じている。また、違和感をもったらそれ自体を論点として意見表明してもらえるような呼びかけが、授業の中身を濃くするためにも有効と考えられる。

その他

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅲ
担当者	中村麗衣

授業の概要

東南アジア地域は、隣接するインドや中国との間に古代から活発な交易が行われ、それぞれの文明を摂取して独自の世界を形成した。東南アジアの社会と文化を特徴づける多様性と多元性が、どのように生じたのか。時と空間を経てもたらされた文化が、それぞれの地で取捨選択され、変容をとげ、定着していく歴史について講義する。

授業の問題点

東南アジア地域は、基礎知識の少ない地域であるため、毎回、映像資料を用いて講義を行った。
地域の多様性を、分析分類して説明したが、イメージをふくらませるための努力が必要である。

学生の授業満足度

Ⅲ授業満足度について		
1	授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか 4.45	
2	全体的に振り返って、授業に満足できましたか 4.50	

授業改善の課題と方策

映像資料のみならず、パワーポイントによるスライド資料を作成して用いてみようと思う。

その他

授業改善書

科目名	社会心理学Ⅱ
担当者	那須里絵

授業の概要

社会心理学Ⅱの授業では、対人行動、対人関係、集団と個人に関するに関する社会心理学の基本的な概念を学び、日常生活における現象や体験と結びつけながら理解できるようになることを目指しました。その際、教員が概念を羅列的に説明するのではなく、出来る限り具体例を提示し、学生の授業内容に対する興味や関心を高め、分かりやすい授業となるよう心がけました。

授業の問題点

授業アンケートでは、多くの学生が社会心理学Ⅱの授業内容に興味や関心を持ち、授業の進度や資料は適切だったと回答していました。また、授業の内容は得るものがあったと高い評価（4.59）が得られました。一方で、「ノートやメモ等を取りましたか」については（4.06）となり、平均よりやや低い値となりました。

学生の授業満足度

授業アンケートにおける授業満足度に関する質問項目では、上記（「ノートやメモ等を取りましたか」）を除く全ての項目で、平均より高い評価が得られました。これは、教員が一方的に知識を教授するのではなく、身近な例をもとに学生自身に考えてもらう時間を多くもうけ、他の学生との意見の共有を行ったことが影響していると考えられます。こうした手法を取り入れることで、学生が授業の中で主体的に学ぶことを促進できたのではないかと思います。

授業改善の課題と方策

「ノートやメモ等を取りましたか」が平均点よりやや低い値であったという授業の問題点を踏まえると、学生がメモを取りやすくなるような資料の提示方法が必要と考えます。以上の点については、今後授業を行う際に改善したいと考えています。

その他

授業改善書

科目名	家族心理学
担当者	那須里絵

授業の概要

家族心理学の授業では、家族心理学の基本的な概念を学び、家族の発達と個人の発達、家族を取り巻く諸問題について取り扱いました。また、家族の理解を深める際に重要となる家族療法の基礎理論や、家族療法の鍵概念についても講義しました。さらに、講師の実務経験を踏まえ、現代社会における様々な家族の形態や家族を取り巻く課題について、架空事例を用いながら理解を深めることを目指しました。

授業の問題点

授業アンケートでは、多くの学生が家族心理学の授業内容に興味や関心を持ち、授業の進度や資料は適切だったと回答しており、高い評価が得られました。一方で、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」に関しては（3.43）となり、平均よりやや低い値となりました。

学生の授業満足度

「他の講義と違い、教授が一方的に話すのではなく、適度に我々（学生）に質問を投げ掛けたり、またグループワークを実施したりと『講義に参加している感』を強く感じられ、真剣に取り組む事が出来た。」「質問の投げ掛けも、1 人だけで終わらせるのではなく、数人に渡って行うので退屈もなし。グループワークでの議題も十分話せ、また理解を深めることの出来る内容で、文句無しによく考えられている素晴らしい講義であると感じた。」といった学生からのフィードバックがあり、全体的に満足度が高い授業を実施できたようで嬉しく思います。

授業改善の課題と方策

「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」に関しては平均点よりやや低い値であったという問題点を踏まえると、学生が予復習しやすくなるような課題の提示方法が必要と考えます。以上の点については、今後授業を行う際に改善したいと考えています。

その他

授業改善書

科目名	教育相談の理論と方法
担当者	那須里絵

授業の概要

教育相談の理論と方法の授業では、教育相談の基礎知識、生徒・児童に生じうる問題、教育相談の具体的手法について講義しました。また、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークを用い、体験を通した事例理解を目指しました。

授業の問題点

授業アンケートでは、多くの学生が教育相談の授業に積極的に参加し、課題を提出した（4.88）ようです。一方で、ロールプレイングを用いた授業は、多くの学生にとって馴染みがなかったようです。これに関しての評価は、平均よりやや低い値となりました。

学生の授業満足度

教育相談の授業は、教員が学生に一方的に知識を教授するものではなく、ロールプレイなどの実践を通した事例理解をもとに、学生が支援者として実際の「相談活動」ができるようになることを目指しています。そのため、ロールプレイの実施は本授業において必須であると考えます。実際にロールを体験してみると、思ったように応答できなかったり、言葉が出てこなかったりすることがあったかと思います。しかしながら、その難しさ、上手くいかなさを体験することが、「相談活動」への学びの一歩であると考えます。

授業改善の課題と方策

ロールプレイのより効果的な実践方法については、今後も検討していきたいと考えます。

その他

授業改善書

科目名	国語科教育法Ⅱ
担当者	橋本和顕

授業の概要

国語科教育法Ⅱは、教職課程の 2 年生を対象に、中高免許取得に向け、前期の授業を受け、充実を図る科目である。前半では、国語科の各領域別に教材の特徴を理解し、言語活動の特性に触れながら、効果的な授業づくりの視点を多方面から学び取ることを意図して進めている。また、後半の活動では、実際に教材研究を行い、学習指導計画を立て、模擬授業の実践、授業協議会の進め、板書の完成図を基に見通しをもって進める。

授業の問題点

おおむね満足度は高かった。前期の反省を生かすことができた。資格認定の科目でもあることから、全授業回の出席を基本としているが、1 回～2 回程度の欠席が見られる。体調を崩す学生もいることから、感染症の広がりの懸念もあり、無理をさせられない面があった。欠席した学生へのフォロー課題を整えていくことも、今後、検討したい。

次に、授業内容や量について適切であったかどうか、今後意識していく必要があるだろう。詳しい内容は、コメントもないので、直に学生から聞き取りをしないと分からないが、協議会での意見交流が盛んになってきた。学習活動をさせる中で、言語活動の中身を十分に理解させていきながら、指導者として配慮することに丁寧に繋げていく時間の確保は、継続して取り組む。前期の成長を確かめながら、丁寧に、学習者の学びの過程を確かめながら振り返ることが重要である。

学生の授業満足度

上記以外は、学習態度、授業内容、授業方法、満足度ともに高評価なので、よいところを意識して、今後も進めていく。特に、学生同士の対話から、発想の豊かさを引き出したり、充分話し合ってから、教員が助言を加えることで、ねらいに近づけたりするなど、丁寧な授業運営を信条としているが、引き続き、学生主体で進めながら、大事な点を学ばせる質の保証も同時に進めていきたい。一人一人が学びの達成感を得られるように、今後も授業内容方法の工夫と改善を加えながら地道に取り組むよう心掛ける。

授業改善の課題と方策

問題点で述べたように、①フォロー課題の検討に入る。欠席をしてしまうと授業効果が半減してしまうので、課題を出し助言を個別に行うなど、相談にも応じやすい手厚い指導を心掛ける。②授業内容や量の見直しを意識して、学生の理解状況を把握しながら、適切な内容と量を割り出していく。このように理解が不十分学生へのフォローを積極的に行っていく。さらに、成長したことへの声掛けも丁寧に進める必要がある。自信をもたせることで、教職への意欲を消さない工夫が必要である。

その他

授業改善書

科目名	~~[redacted]~~
担当者	ヒューパーマー

授業の概要

（読む）（書く）（聞く）（話す）という英語の四技能が、バランスよく身につき、それらをもって総合的なコミュニケーションが可能になるようにする。学生各自で関心のあるトピックを設定し、さまざまなメディアから情報を採取し、スピーチやエッセイで発表し、質疑応答することを指導する。

授業の問題点

学生自身による授業外学習という点においては評価が低めであった。併せて、授業方法という項目においては、学生からの質問に対する対応という点において評価が低めであった。

学生の授業満足度

今回のアンケートでは、過去にあったような学生からの具体的な意見が上がっていない為数字による評価のみとなってしまうが、この授業のベースとなるコミュニケーションという点においては、学生自身による質問や発言の評価が高く、併せてノートやメモをとる学生のスコアーも高いため、積極的に授業に参加している事がうかがえる。

授業改善の課題と方策

学生による授業外学習という点を改善する為には、その向上を図るため課題を増やす、レポート提出などより自主的に学習できるような指導を今まで以上に行う必要性を感じている。
学生からの質問に対する対応という点においては、コロナ禍においてオンライン授業の影響等もあったとも考えられるが、今まで以上に学生の声に耳を傾け対応をしたい。併せて学生が質問をしやすい環境なども整えていきたい。

その他

授業改善書

科目名	造形演習（平面・立体）
担当者	前沢知子

授業の概要

平面や立体を中心とした様々な制作を学生が実際に行うことで、作る楽しさを学生自らが実感することを通して、子どもの作る姿への共感力と、子どもの造形活動の指導力を高めることを目指す。
・材料や道具の基本的な使い方、幼児が安全に楽しめる使い方、保育で応用可能な使い方などを学ぶ。
・平面と立体の制作を行い、実際に自分で作品を作り上げることを通して、材料や道具の使い方を身につけ、制作能力を高めるとともに、制作の楽しさについて実感的に理解する。
・実際の保育の現場を想定して、共同制作を行う。他者と共同して制作することを通して、実践に役立つ現場力を養う。
これらの学びを通して、保育・教育者として、制作のスキルを活用した指導のあり方を考えるよう指導する。

授業の問題点

・プロジェクターのケーブル故障などのトラブルなどがあり、授業の進行がスムーズにいかないことがあった。
・制作において、進度に個人差が大きく、完成した作品を鑑賞する時間を設けるのに、苦慮した。
・共同作業など制作での会話が、大きいな声になり、さらに私語となった学生がいた。

学生の授業満足度

アンケートのタイミングがあわずに、回答数が少なくなってしまったため、満足度について判断するには調査数が少ないが、結果は４と５であった。
また、アンケートにはないが、最終授業で、「来年も取りたい」と言ってくれた学生が複数いたが、実技ということもあり、実技が好き、得意と感じている学生と、そうでない学生とでは、満足度が異なっているという実感をもった。

授業改善の課題と方策

・プロジェクターのトラブルなどに対しては、事前に作動についてまで確認をする必要があった。
・制作進度の個人差については、未完成の作品について、自宅での宿題にするなど、進度を揃えるための工夫を行うことが有効であると考える。
・会話については、制作や授業に関連するものに限定することについて、その意図を含めて、繰り返し伝える必要がある。

その他

アンケートの意見として、一部の私語が大きい学生に対して、注意の仕方が優しいため、すぐにうるさくなってしまったという指摘があった。授業内容が、実技演習であり、協働や共同を伴う性質から、会話が授業のプラスの要因になるため、必ずしも禁止しているわけではなく、その旨は事前に説明をしたが、その意図を学生全員に明確に伝える必要があった。また、授業以外の私語については、より丁寧に注意を促す必要があった。

授業改善書

科目名	民　法
担当者	宮島　薫

授業の概要

2008 年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は民法、法学入門の 2 科目の担当をさせていただいております。民法につきましては同一担当者の別科目の履修を済ませているケースもあり、授業の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては授業内容に集中することが可能でこの点助かります。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。

授業の問題点

担当者の側からの・授業のいわゆる制度設計は、受講対象者が２年次生以上ということで、新入生対象の科目とは異なり、大学生活にも慣れ、自分の学習ペースを有する者が大半であるとも思われますので、担当者自身のモチベーションの保ち方も、気をつけねばならない点かもしれません。少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないように。また、自分または自分たちの行動が、他の受講生の眼にはどのように映っているのか、ということも認識してもらう必要があるかもしれません。

学生の授業満足度

今回の集計結果によれば、出席「４．６０」→シラバスとの一致度「４．６０」→満足度「４．５３」とあり、昨年と比べ若干ではありますが、横ばいか改善傾向にあるようです。これを放置せず、更なる進化を目指そうと思います。一般に、使用教室による人口密度と不快指数は、なにがしかの関係もあるようなので、ゆったりとした環境で、資料を活用しながら、可能な限り個別の指導も交えつつ内容の定着を図るという方針を進めたいと思います。大学側のご理解とご協力に心から感謝いたしております。

授業改善の課題と方策

まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には学生各人がいわゆるプロフェッショナルとして社会から迎えられうるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。加えて具体的に書く作業、声に出して読む作業など、メリハリをつけるようにし、ある意味、正当なライバル意識などは、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけるようにしています。法律を扱う科目である、という科目の特性上、将来の社会人としてのマナーの一つではある、という認識をどう伝えるべきか、可能な限りソフトな対応を心がけたいと思います。

その他

今回は、社会的にはコロナ禍といわれる状況で、かつ講義もリモート併用が継続中という情勢の下自分の居場所を見失っているような学生も存在したかもしれず、これが例えば履修登録はしたものの出席も課題の送信もしない者の存在が物語っているかもしれません。すべての人の不安を取り除くことは困難を伴いますが、専任・非常勤を問わず、学内での情報の共有化と対応の一元化など、今後の検討課題とすべき問題も存在しているかもしれません。

授業改善書

科目名	東洋史特論Ⅰ
担当者	安岡義文

授業の概要

イスラームの社会と建築を中心に主要な王朝ごとにみていく授業を行ってきた。授業を通して、学生がイスラーム教の成立期から現代に到るまでのイスラーム史全体の大まかな流れを把握し、イスラーム建築特有の空間や部材などの建築上の基本的な概念を理解することができるように促してきた。また、イスラーム文化という日本人にとっての異文化に対する理解の重要性を伝えるよう心掛けた。

授業の問題点

アンケートを見ると、学生にとって、より適切なテキストや資料の提示が望まれていたことが窺える。また、授業方法や資料のわかりやすさも改善可能であるので、今後は、学生が学習しやすいようにわかりやすさと適切な分量の資料の作成に尽力したい。

学生の授業満足度

満足度は平均よりも 0.1～0.2/5 程度低く、学生が満足できるコンテンツあるいは授業方法を開発していく必要があると感じた。

授業改善の課題と方策

プレゼンテーションのスライドの進行が速すぎてノートに写しきれないという意見が見られた。今後、書き写してもらいたい重要な箇所では特に、説明のスピードや学生の書き写しの状況などに配慮しながら進めていきたい。また配布資料のわかりやすさや内容の再吟味を行い、学生の学習の便宜を図りたい。宿題などを出し、予習・復習を習慣づけるプログラムを開発していくことも考慮する。

今後の授業では、イスラーム建築だけでなく、絵画、文学、イスラーム化学なども含めてより全体像を理解できるようにしていきたい。

その他

特になし。

授業改善書

科目名	美術史
担当者	柳澤恵理子

授業の概要

本授業は日本美術史入門編として、飛鳥・奈良時代から戦後まで、各時代の代表的な作品・絵師たちを見ていきながら、日本美術の歴史を講義した。同時に、その作品が制作された社会的背景、注文主や享受者といった当時の人々の思い、表現技法などに触れることで、日本美術の特徴について理解を深めてもらうことを目指した。

授業の問題点

交互対面授業になってしまったことでシラバスの内容を縮小せざるを得なかった。基本的に 1 授業につき 1 つの時代の美術について講義したが、2 つの時代を扱った時もあり、駆け足になってしまったため理解が追いつかなかった学生もいた（そのため全体的に質問も多かった)。また、オンライン課題では穴埋め問題や作品について自分で調べてもらうという内容が多かったため、あまり積極的に取り組んでもらえるものではなかったと感じている。

学生の授業満足度

毎回のコメントペーパーと授業評価アンケートの結果を見た限りでは、授業内容や授業方法について概ね満足してもらえたと感じている。

授業改善の課題と方策

学生の理解が追いつかない部分に関しては、なるべく質問に対応するなどして解決していきたい。オンライン課題については絵を比較して自由に論じるという課題が好評だったため、今後はもう少し学生の発想力や考察力を引き出せるような課題を出すことを考えている。

その他

授業改善書

科目名	書誌学
担当者	山口恭子

授業の概要

日本の古典籍についての基礎的事項を講義する。今年度も、遠隔授業と対面授業とを組み合わせての授業であったため、テーマを絞り、写本に関する歴史と用語、古筆切と手鑑、和紙の種類をとりあつかうにとどまった。
また、古典籍を扱うに際して書くことのできないくずし字の解読も行った。これについては、遠隔授業時の課題とした。提出までにある程度の時間をおき、各自のペースで時間を掛けて取り組んでもらえるようにした。

授業の問題点

アンケートの集計結果を見ると、授業に意欲的に取り組んだ学生が少なくないことがうかがえるものの、質問や発言を行ったと考えている学生は少ない。毎時提出させているコメントシートには、質問を書いている学生は一定数いるので、さらに積極的な発言にもつながるような工夫をする必要がある。

学生の授業満足度

アンケートの集計結果からは、学生の満足度が低くないことがうかがえた。今後も、とくに課題や質問に対するフィードバックや解説について丁寧に行ってゆきたい。

授業改善の課題と方策

感染症対策のための授業形態となった際の授業の内容や対応にいっそうの工夫をしたい。とくに、遠隔授業時の課題への取り組みやすさ、復習の徹底、また、対面授業時に発言をしやすい雰囲気作りなどに配慮したい。

その他

授業改善書

科目名	西洋思想史
担当者	山城貢司

授業の概要

主として古代ギリシア哲学思想（ソクラテス以前からアリストテレスまで）を学んだ。比較対象として、アリストテレス以降の思想史的展開（マキャベリ・ニーチェ・科学思想など）にも所々で言及した。教科書的な概説だけでなく、実際のテクストの抜粋の読解に少なからぬ時間を割いたほか、主体的な思考を促すため、授業内における対話や質疑応答に力点を置いた。古典学者の見解のみならず、ハイデガーの解釈なども踏まえながら、学びに奥行きを出すことを心がけた。

授業の問題点

テクストの読解や対話/質疑応答にあてる時間が前もって厳密に計算できなかったため、ほぼ毎回、予定の分量を終わらせることができず、最終的にカリキュラムの終盤部分が未消化になってしまった。
説明がわかりづらく、時に行き当たりばったりになることがあった。
毎回の授業の重要ポイントを十分明確に提示できていなかった。

学生の授業満足度

アンケート結果からは、少なからぬ学生が授業内容に必ずしも満足してはいなかったことがうかがえる。学習内容が難しいという声がほぼ毎回あったことから、学生の側でしっかり咀嚼できたという実感が薄かったのかもしれない。突っ込んだ内容にも踏み込むことがあったからか、熱心な学生からは好印象のコメントも受けてはいたが、もっと全体のバランスに配慮するべきだったといえるだろう。

授業改善の課題と方策

本コースの担当は 2 年目であり、パワーポイント資料やその他の配布資料、また一回ごとの授業の組み立て方などはある程度形になってきたので、来年度はこれを推敲することで、さらなる改善が望めると思われる。
対話や質疑応答を通じた自発的な学びのメリットを生かしつつも、内容が即興的になりすぎないように留意したい。そのためにも、議論の組み立てと時間配分をあらかじめきっちりと決め、もっとこなれた説明を準備することが必須であろう。
また、基本の部分にしっかりと時間をあてることにしたい。カリキュラムに余裕を持たせるためにも、論点をもう少し絞るべきだろう。馴染みの薄い「ソクラテス以前」にあてる時間数を思い切って大幅に削減することが必要かもしれない。
現代社会や今日の学問との関わりを強調することで、学生が学びの意義をもっと実感できるように工夫することも考慮に入れたい。

その他

昨年度と同様、今年度もグループ分けの対象となったため、個人的には不完全燃焼な部分が残るというのが正直なところである。自宅学習では、授業の録画をオンデマンドで視聴してもらい、それについての感想を書いてもらうという形式を採用したが、実際にはそれだけでは理解が不十分であることが判明したため、毎回授業時間の一定部分を費やして前回のおさらいをした。しかし、結果的にコースの進行が遅れる原因の一つとなったのが残念であった。中間レポート課題も課したが、学習効果についてはあまり手応えがなかったので、来年度は別のタイプの課題（グループ学習など）を用意することを検討する。

科目名	**異文化コミュニケーション**
担当者	**吉村貴之**

授業の概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要である。本講座では、異文化コミュニケーション論の理論を学んだうえで、ユーラシアにあった前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方を探る。

授業の問題点

この講座は専門科目でありながら、言語・コミュニケーション領域、史学・文化領域双方にまたがるばかりでなく、年度によっては他学科の受講生も出席するため、いずれの領域の学生にも関心をもってもらうよう配慮しないといけない点が難しい。

学生の授業満足度

年々満足度が上昇していることがアンケートからうかがえるが、さらに学生の興味を引き付けるような視聴覚教材を増やすつもりである。

授業改善の課題と方策

一昨年度あたりから、視聴覚教材を使う回数を増やしたものの、今年度は分散登校に伴う、遠隔学習用の機材準備に時間を浪費し、その分、後半の事例研究は、講師が一方的に話すことが多かったうえに、最後は駆け足の解説となった。一方、自宅学習者にはリアクションペーパーを提出させたことで、例年より学生の理解度に基づいた解説が行えたので、今後も受講者の理解の把握に努めたい。

その他

授業改善書

科目名	韓国語Ⅱ
担当者	李芝善

授業の概要

韓国語Ⅱでは、初級の授業で習得した基礎的知識を広げ、韓国社会において必要なコミュニケーション能力の向上を目指した。韓国語という言語文化活動を通じて、異文化を経験し、韓国社会についての知識や理解を一層深めると共に、他者への理解をも試みるきっかけになることを目的とした。

授業内容は、韓国文化に触れながら、学生のレベルに合わせ韓国人と簡単な会話ができ、韓国旅行に行って使える程度の会話を中心に演習を行った。

授業の問題点

各設問の評価の結果、多くの学生が満足できた授業内容であったと思われる。中には、**課題を難しく感じた学生がいたが、**コロナ禍の影響によりグループ分けにされていた為オンラインとの併用を行っており、出席できなかった学生には課題学習が難しかったのではないかと思われる。

学生の授業満足度

各設問の評価の結果と「先生が毎回優しく教えて下さり、ハングル文字が読めるようになり、簡単な会話が出来るようになりました。」、「毎回の授業で１歩ずつ進展しているような気がしながらも楽しく毎回授業を受けることが出来ました。」など、学生の意見を見ると、多くの学生が韓国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになったと実感しているので、授業で目指していたレベルまでになったと思われる。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果、課題が多く難しく感じた学生がいたので、課題の内容をより易しく変えることで改善できると思う。授業内容については、今まで通り、上記の学生による意見を重視しながら学生と協力して良い授業ができるように最善を尽くしたい。

その他

授業改善書

科目名	学校図書館メディアの構成
担当者	和田　初枝

授業の概要

学校図書館が学校教育に寄与する情報センターとしての役割を果たすため、学校図書館メディアの特性、学校図書館メディアの意義とその構築や組織化について理解する。その上でこうした学校図書館メディアを学校教育にどのように展開するかを考えながら、学校図書館メディアの組織化の実務のスキルを修得する。授業は主として3部で構成した。第1部は講義とし、実務の基礎となる理論の修得を目指した。第2部は講義内容に付随するディスカッションを行い、理論の理解を深めるとともに、理解が不十分な点も明らかにすることで、授業内での理論の修得をサポートした。第3部はディスカッションのまとめをレポート（A４・1枚程度）として作成し提出することで、自身の知識の整理と発信力の研鑽も兼ねた。また、収集、目録、分類については演習を行い講義の理解を深めた。

授業の問題点

授業アンケートに記された下記の2項目から

① 授業方法Ⅱ-3「毎回の授業は適切な内容や量でしたか」　→　3.73
② 学生による主な意見→内容が難しいため仕方ないがもう少し簡潔にして欲しかった。早口に感じ、いていくのが大変であった。

「講義内容の量が不適切(多い)」と「専門事項の解説の平易さの不足」が問題点であると考える。

学生の授業満足度

① Ⅲ授業満足度-1「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」
　→　4.64

本授業は資格科目であり、理論と併せて、現場で実際に役に立つ、あるいは利用できる知識や考え方も繰り返し伝えてきたことが上記結果となったと推測する。資格への熱意を持った学生が多く、そうした思いに今後も真摯に応えていきたいと考える。

授業改善の課題と方策

授業課題
① 授業内で講義すべき内容の精査
② 専門的内容の講義手法の再考
課題改善方策
① 講義の最後に予習のための次回授業の重要ポイントの解説を行い、講義内容を重要ポイントを中心に簡潔にまとまる。
　なお、関連事項や実務の課題については、ディスカッションや復習の中で修得できるよう、資料等にて指示する。
② 特に専門的事項について、実務の例を挙げながら、平易な言葉での講義を工夫する。特に目録や分類は難易度が高く、苦手意識を持ってしまいがちであると推測するため、演習の時間を増やし、実際の例を通して理解を促していく。

その他

なし

非常勤講師

経済経営学部

授業改善書

科目名	キャリアデザインⅡ
担当者	井島由佳

授業の概要

企業研修・公務員研修の実務経験とキャリアカウンセラーとしての実務経験から、就職や公務員、教員試験などに向け、「就職活動」の準備期間として必要な知識や情報を取り入れていけるよう講義と演習を行います。そして、就職活動を始めることを目的として、その先に必要なことを考えるために、ワークやグループディスカッションなどを行っていきます。最終的に、自分の目標設定が明確となっていくよう指導をしていきます。

授業の問題点

今年度は、コロナ禍の影響もあり、WEB と対面の両方で行われました。対面は 2 班に分れての実施でしたが、齟齬がないようリアル授業の録画を提示したため、進捗に問題はなかったと思います。

グループディスカッションや面接練習も実施できたことはよかったと思います。

その反面、半分は WEB であることから、時間が経つにつれて質問なども減少していきました。対面時には殆ど質問等はないのですが、書くことで表現できる学生もいたのですが、慣れが生じたのか課題をこなすことで精一杯であったと考えます。

学生の授業満足度

満足度は、2 限・4 限ともに高い傾向でした。

授業改善の課題と方策

次年度は対面に戻るため、質問等の機会を書くことで設けることは効果があるのではないかと考えます。

その他

授業改善書

科目名	**情報科学史**
担当者	**伊藤 裕二**

授業の概要

授業では、現在身の回りにある情報科学・技術及び近い将来主流となり得るものを中心にその歴史的背景としくみについて講義した。コロナ感染防止のため対面・オンライン講義を交互に行うハイブリッド型を採用したのに伴い、従来のシラバスを必要に応じて修正した。

授業の問題点

本年度は授業内容、授業方法、授業満足度に関して総合的に評価を下げる結果となった。その中でも特に評価の低かった項目について早急に対策が必要である。問題点として以下２点を採り上げる。

1) 「授業内容への興味・関心」と「授業方法・資料の適切さ」が昨年度から大幅に下がった。授業の内容や進め方は昨年同様であった。唯一変更したのは、ハイブリッド型で講義回数が減少するのを補うため各回の講義内容を 10%～15%程度増やした点である。この増加分により学生に理解不足を生じさせ、結果的に授業への興味・関心を低下させたのではないかと推測する。

2) 「学生からの質問への対応」の評価が 3.51 と低かった。学生からの質問は講義内容に関するものは皆無であり、その殆どが講義専用 Web サイトの使い方に関してであった。特にパスワードを紛失したり、オンラインテストの回答に不慣れな学生が多かった。講義時間の制約もあり対応が十分にできなかった。

学生の授業満足度

「授業で得るものがあったか」「授業に満足できたか」の質問に対しての評価は昨年度から 0.7 ポイント程度大幅に下がり 3.5～3.7 となった。評価が下がった原因としては上記 1)が関係すると考える。

授業改善の課題と方策

上欄授業の問題点に対する授業改善策を以下のように考える。

1) 一連の現象を[講義内容が過多で理解不足に陥る→関心・興味がなくなる] という連鎖の結果であると仮定して対策をたてる。来年度は再度講義内容を精選し、従来通りのボリュームに戻す。

2) 講義専用 Web サイトを設けて資料配布、出席確認、オンライン小テスト等を行ってきたが近年アカウント管理、Web サイト基本的操作に不慣れな学生が多くなった。これらの対応に時間を割くのは本末転倒なので次年度は講義専用 Web サイトで個人アカウント利用をしない方向で検討している。

その他

学生から「生徒に質問を投げかけることもせず一方的に話すだけ」という意見が寄せられた。最初数回の講義時に５回程度学生に質問したが反応が皆無であったため、それ以降質問するのを止めてしまった。コロナ感染防止のためドア・窓を開放した冬場の教室では身体だけでなく心も冷えていると感じる。このような状況下でも気軽に質問が飛び交うような雰囲気づくりに努める。

授業改善書

科目名	国際金融論
担当者	小原篤次

授業の概要

1 ドル＝110 円が 120 円になれば円安、100 円になれば円高と呼ぶ。円高になると、輸出には不利になるが、輸入物価は下落し、日本人の海外旅行客が増加する要因になる。他方、円安になると、輸出に有利で、インバウンド観光客の増加要因となる。このように刻々変化する為替は経済活動に影響を与える。前半は、国際金融の役割、外国為替市場、債券市場、株式市場など、後半は、フィンテック、金融政策と金融市場、欧州通貨統合、機関投資家とコーポレートガバナンスなどについて講義する。

授業の問題点

春学期はオンラインで、秋学期は対面となった。出席せずに、オンラインで解答できるクイズの解答者が一定数いたことも合わせると、対面の定着が課題になる。

学生の授業満足度

対面授業ならでは、質問も出されたが、学生によるアンケート結果は平均を下回った。

1 授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか
3.79　4.45　-0.66
2　全体的に振り返って、授業に満足できましたか
3.63　4.37　-0.74

授業改善の課題と方策

授業態度
ノートやメモ等を取りましたか
3.47　4.28　-0.81
この設問が平均値との乖離が大きい。
対面授業の良さでもあるため、このあたりを毎回、促すのが改善点である。

その他

同じ時間帯に、大きな音を発する授業がある。
このことと学生の授業満足度との関係は設問からは読み取れない。

授業改善書

科目名	環境学
担当者	小島望

授業の概要

人類は生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体）のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存している．しかし，現代社会は生物多様性による恩恵を過小評価し，環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している．

本講義では，環境問題を社会問題と捉え，問題解決には何が必要なのかを考えることを目的とする．扱うテーマは全て，①物事を様々な角度から考えること，②物事を批判的に見る目を持つこと，③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること，④科学の限界を知ること，の４つの視座から成り，特に「山，川，海のつながり」に焦点をあてつつ，人と自然のつながりについて理解できるような講義構成をとっている．

授業の問題点

●例年，受講者が多過ぎるので，もう少し人数調整を行ないたい．

●スマホを見たり，授業中勝手に退出したりするやる気のない学生が１クラスに必ず３，４名はいる．ガイダンス時にはそのような学生については履修しないように強く言っているが，そういう学生はガイダンスに出てこない．

学生の授業満足度

●授業毎に必ずリアクションペーパーを配布しているので，学生の質問や反応は概ね把握しており，

●受講生からのコメントや声をかけられる内容のほとんどが，講義内容に興味があって，面白いということだったのと，授業評価の全ての項目がほぼ 4.5 付近という高評価であったことはから，受講生は概ね満足してくれているのではと考えている．来年度も引き続き高評価につながるよう，また受講生にとって「気づき」が多く得られる講義になるよう努めていきたい．

授業改善の課題と方策

●「ノートをとる時間がほしい」，「動画の音と声がかぶって聞こえにくい」など，パワーポイントの切り替えが早いことや説明が聞こえにくいことがあるようなので，来年度からは注意して講義を行ないたいと思う．ただ，「パワーポイントの画面がとても見にくかった」というコメントは 4 限の講義の階段教室のプロジェクタの解像度の低さが問題なので，これについてはどうしようもない．

●現在の講義人数が多過ぎるため，せめて１クラス 40 人を限度として来年度は講義を実施できるように考えている．毎回想定を上回る受講人数が集まるため，受講者からの質問にひとつひとつ丁寧に答えるなどのきめ細かな対応ができないでいる．学習効果をより高めるためには人数を絞ることが必要と考える．

その他

引き続き，学生の学習意欲を高める講義ができるよう尽力したい．今年度は「山，川，海のつながり」をテーマに，現在研究を進めている最新の知見も交えたことで説得力が増し，また新型コロナ感染者の蔓延などの時事問題を絡めた講義を行なったことによって，学生の学習意欲を高めたことに成功したと考えられる．次回以降もまた，研究で得られた知見を可能な限り速やかに講義に還元したい．

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	小島望

授業の概要

本講義では，パソコンの基礎的な使用方法とパソコン利用の基礎となるアプリケーションソフト（Word や Excel）の基本的操作方法を学習する．さらに実践的課題に取り組むことによって，現代社会に必要なパソコンの知識と技能の習得を目指す．

授業の問題点

●コロナ感染対策として，１クラスを２つに分けて対面・リモートを同時に行なっているため，授業が従来のようにゆっくりと丁寧に進むことができないでいる．
●必修科目であるはずが，一部ほとんど出席しない受講生がいる．

学生の授業満足度

●講義の７，８回目くらいまでは，学生からのメールでの質問には必ず答えるようにしているので，授業速度や授業への個人的な悩み等は把握し，随時対応しているので，高い満足度につながっているのだと考える．
●受講生からのコメントや声をかけられる内容のほとんどが，授業速度が適切でわかりやすいとのことだったのと，授業評価の全ての項目がほぼ 4.5 付近という高評価であったことはから，受講生は概ね満足してくれているのではと考えている．

授業改善の課題と方策

●例年であれば，評価は概ね 4.5 を超えているはずが，今回は若干満たない項目が幾つかあった．これについては，おそらくガイダンスに出てこなかった受講生が今期多く，これら多くの者が本講義の目標・方針や注意点を理解していなかったため生じたと考えられる．
●本講義は初心者用パソコンの授業であるため，対面授業のみで実施していた従来のように，授業の進行速度をもう少し落として，パソコンに不慣れな，あるいは苦手意識をもっ受講生にもっと目を向けながら…といった講義に戻したいのだが，授業回数に制限があるので有効な方法を見つけられないでいる．引き続き，効率的な授業を行なうことで，可能な限り対応したいと考えている．

その他

「必修科目であるはずが，一部ほとんど出席しない受講生がいる」と前述したが，これについては退学・休学している学生，他の科目も同様に出席していない学生の情報をわかった時点でよいので知らせていただければと思う．必修科目にもかかわらず来ない受講生が心配になってしまうので．

授業改善書

科目名	**スポーツ文化論**
担当者	**齋藤　うい**

授業の概要

本授業は、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、スポーツと文化の関係性から、スポーツが社会的に構成される文化であることの理解を深め、今後のスポーツのあり方や可能性、課題などを自発的に見出すことを目標としています。現代スポーツの諸問題についても取り上げ、学生が現代スポーツの成立から社会におけるスポーツのあり方についての視野を広げられるような授業づくりを心がけています。

授業の問題点

日常生活で「する・みる」の観点からスポーツと関わりをもっているなか、本授業ではスポーツを通して「学ぶ」という観点を重視し、社会とスポーツ、文化との関係性からスポーツの理解度を高めることを心がけています。一方、スポーツの歴史は古代時代にまで遡るほど深く、また社会とスポーツ、制度とスポーツ、政治とスポーツ、教育とスポーツなど、スポーツを扱うテーマが広範囲であるため、授業内で取り扱う内容が広義になってしまう点は、授業づくりをするうえで十分な配慮が必要だと考えています。

学生の授業満足度

授業アンケートによると、学生の授業満足度は、私が学生に感じている認識や理解レベルとそこまで差異がないように感じます。「質問や発言をしましたか」の項目は、他項目に比べて比較的低い値でした。それは、授業中の学生への質問の機会を設けられていないという現状があげられますので、次年度における授業内容の見直しとともに、学生が質問する機会も増やしていけるよう授業を組み立てていきたいと思います。
また、「配布資料にないスライドやグラフなどがあったため、プリントの枚数が増えても良いのでそれも配布してほしい」との要望もありました。こちらについてもできる限り対応したいと思います。

授業改善の課題と方策

前述したように、本授業で取り扱うテーマは広義であるため、学生の理解を高めるための工夫が必要です。例えば、できるだけ具体的な事例や資料を紹介するようにしています。ときにはDVDを用いて実際の映像を観てもらい、イメージをしやすいように工夫しています。スライド以外の関連資料なども積極的に配布して、その資料をもとに授業を進めることもあります。ときには配布資料に含めていない資料が多くなってしまうこともありますが、その場合は説明を加えてメモをする時間を設けるなど、学生への細かな配慮を心がけたいと思います。

その他

本授業では、授業の合間と最後に授業テーマに関連した簡単な問いを出し、その回答をリアクションペーパーに書かせています。授業の理解度を高めるために、自分自身の言葉で説明する機会を設けています。座学でのスポーツは、スポーツの事例・事象から「何が読み解けるのか」という観点が非常に重要であり、授業から得られた知識をどのように自分自身の考え（問い）として導きだすかが問われると考えているからです。講義内容をふまえてリアクションペーパーに取り組ませることは、自分自身の考え（問い）を再考する良い機会だとも考えます。実際に一生懸命自分自身の言葉で表現しようとしている学生が多く、私自身もリアクションペーパーを読むことで学生の授業理解度を計ることができます。次年度も引き続きリアクションペーパーは取り入れて、学生の意欲を引き出せるような授業づくりを考えていきたいと思います。

授業改善書

科目名	マーケティング・リサーチ
担当者	佐藤　正弘

授業の概要

普段、我々は様々な商品やサービスを購入することで日々の生活を行っています。しかしながら、それらの商品・サービスが市場に投入されるまでの間に、企業はマーケティング・リサーチを行って、その商品・サービスが本当に売れるのかどうかを様々な角度から検証しています。
本講義の目的は、マーケティング・リサーチについての理論を理解してから、実際に理論を駆使してマーケティング・リサーチを活用できるようになることです。

授業の問題点

「授業自体はとても分かりやすい上にノートを書いている時もちゃんと待っていただけるからありがたい。しかし、書く量が多すぎると感じた」という意見があった。

学生の授業満足度

授業満足度は両項目とも 4.67 であり、満足度はかなり高かったと思われる。来年度以降は、問題点を改善して更なる満足度の向上を目指したい。

授業改善の課題と方策

「授業自体はとても分かりやすい上にノートを書いている時もちゃんと待っていただけるからありがたい。しかし、書く量が多すぎると感じた」という意見があったので、この点についての改善のために、適宜プリントの配布等を行っていく。

その他

授業改善書

科目名	消費者行動論
担当者	佐藤　正弘

授業の概要

本講義では、消費者行動を「人間が消費諸活動を現実に実行し、経験すること」と捉えます。それでは、消費とはいったい何でしょうか？　また、消費諸活動を現実に実行し、経験することとはいったいどういうことでしょうか？　これらの問題を理解するためには、消費者行動論だけではなく、消費者行動論を取り巻く様々な隣接領域の学問（経済学、心理学、社会学など）も理解することが必要となります。
これらのことを理解するために、明治乳業株式会社（現：株式会社明治）の販売企画部での実務経験に基づいた様々な事例を説明します。そして、実際に理論を駆使して消費者行動に関わる現象を説明できるようになることが、本講義のねらいです。

授業の問題点

マーケティング・リサーチや去年のこの科目と比べると、満足度が低かった。今年度は対面とオンデマンドの併用で行われたので、もしかしたらその影響が出たのかもしれない。

学生の授業満足度

授業満足度は両項目とも 4.42 と 4.29 であり、満足度は少し低かった。来年度以降は、問題点を改善して更なる満足度の向上を目指したい。

授業改善の課題と方策

来年度も対面・オンデマンドの併用になった場合、満足度を向上させるために、オンデマンドの際の課題設定をしっかりと行いたい。

その他

授業改善書

科目名	人的資源管理
担当者	高橋哲也

授業の概要

労働全般に関して講義した。特に企業において我々がどのような立場であり、どのように管理されるのか、そのことについて学生目線からで理解できるように映像資料を用いて説明した。経営学というと管理主体側の説明が多いが、管理対象としての労働者自身の立場から考えなければならないことの理解を促した。

授業の問題点

授業アンケートで「質問があまりできなかった」とあった点には留意したい。リアクションペーパーを実施し、何か疑問があった場合には対応しているつもりでいたが、学生の視点からすると質問時間が欲しいのかもしれないと気づかされた。
また 15 回という半期の内容であるため、講義内容をかなり圧縮して行わなければならない。重要箇所は押さえているが、やはり説明不足になっている可能性は否めない。

学生の授業満足度

授業アンケートを見ても、概ね良好な反応であった。就職活動を控えた学生にとってはこれからの自分の選択に関わる内容であるため真剣に聞いており、質疑の反応も良かった。また企業や仕事への間違った思い込みもあったが、そのあたりの誤解も解くことができていると思われる。
今年度は比較的真剣に聴講する学生が多かったように思われる。そのため学生の興味関心を引き出すことが出来たことにより満足度は高かった可能性がある。

授業改善の課題と方策

対面授業の学生の満足度はかなり高かったようなので、現状維持および資料の更新で対応可能だと考える。リモート授業を希望した学生が数名いたようだが、初回授業以降は反応がなかったため履修を変更したのかもしれない。授業形態によるものであれば、申し訳ない結果となってしまった。ただしハイブリッド授業の配信は現状では難しいためオンデマンド資料の配付を行っている以上は、その対応を学生に求めたいところである。

その他

「働く」という話題に対して毛嫌いしている学生がどうしてもいるように思われる。そのあたりを解きほぐす工夫はしていきたいと思う。

授業改善書

科目名	世界遺産と観光業
担当者	冨吉　光則

授業の概要

世界の代表的な遺産群の基礎知識を理解し、世界遺産が観光業に及ぼす影響、観光業とともに歩む世界遺産の今後の展望を説明できるようになることを、AB 分級のため、1 回の講義時間を半分にして全 15 回の講義を実施した。対面授業ではないオンラインの課題対応として講義で説明できなかった世界遺産に関する 1000 文字程度の文献を読み、それをワードにタイピングして提出することを課し、タッチタイピングのマスターと内容の把握を同時に習得する方法で講義に厚みを持たせた。

授業の問題点

授業を補足する文献を熟読させ、あわせてタッチタイピングの習得を兼ねてワードに複写したものを課題提出とした点について、タイピングはできると自負している学生もいるが、社会人として文書作成および議事録作成ができるスピード感に達しているレベルには程遠いのが現状であるため、7 回のオンラインを通じてその習得を促した。趣旨を十分理解させることと、習熟度を可視化する時間が取れなかったため、本来の目的に対しての理解度が薄かった学生もいただろう。今後の改善点としたい。

学生の授業満足度

毎回の授業の PPT 資料は平均 40 ページを作成し、さらに動画を交えての講義としたため、文字や説明だけでないイメージとしてとらえることができ、さらに、Teams 内に授業のファイルを PDF 化して閲覧可能としているので、予習の課題、復習の課題の確認だけでなく、メモを取り切れなかった箇所においては、PDF ファイルを再確認することでフォローができるように配慮した。このように 2 段階で理解度を深める方法は講師の手間と時間がかかるが、その配慮をした授業である点は他の科目と比較した場合に、満足度は高いと思われる。

授業改善の課題と方策

・AB 分級でのオンラインに対する課題として、調べる、読む、まとめる、仕様に従って書きだす、という作業をどこまで学生が真剣に行うか、また、それを毎回提出することで授業の到達目標に達するということをしっかり理解しているか、本学学生の場合、私見としては大きな疑問がある。それを最短で実行させるための方法として、授業の補足の熟読＋タイピングで書かせる、とした。熟読→タイピング→提出のフローにより授業で押さえきれなかった重要ポイントの理解は進むはずであるので、最終 15 回目で行う理解度小テストに、その内容に関する問題も取り上げて、理解度を反映することで対策としたい。
・授業の予習・復習の課題を課し、それを 200 文字以内でアンサーファーストでまとめる能力を養う方法で提出させている。文科省の規定する予習・復習の時間を講義時間外で取るように仕向けているが、対応結果を見ると受講生個々の取組内容が非常に薄いので、提示する課題自体に深みを持たせたい。

その他

登録数が 1 千箇所を超えた世界遺産数において、限られた 15 回の講義の中で世界遺産物件と観光を結び付けて取り上げるテーマは限定的になる。さらに無形文化遺産や記憶遺産といった日本政府が力を入れ世界にアピールしていきたい案件にも言及していく必要があり、受講生の多い AB 分級では消化不良となる。
また、受講生の多くは世界遺産検定への関心も低く、さらに踏み込んでいえば観光業に進みたいという志望者も現状では極めて少ない。航空・旅行・宿泊・飲食・テーマパーク・地方創生・マイクロツーリズムといった裾野の広い産業に付随するアイコン的な存在が世界遺産と言えるだろうが、本学における観光産業関連の科目の位置付けや履修する動機付けを出口戦略的に活用するために、もう一度練り直す必要があるのでは、と思われる。少なくとも、他校の観光に関するモチベーションと比べると圧倒的に低いのが気がかりである。

授業改善書

科目名	財政学
担当者	野村容康

授業の概要

租税政策、公債発行、社会保障、公共投資といった日本の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように、現実の制度を前提として、市場経済における財政の機能とその背後にある理論的な考え方について講義する。

授業の問題点

・「質問や発言した」のポイントが質問項目の中で最低のポイント（3.23）であった。
　学生の発言を促す工夫が足りないとみられるものの、昨年度に引き続き今学期もコロナ感染対策として学生への発問を控えたため、想定内の結果である。

学生の授業満足度

アンケートの結果、
「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」：4.00
「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」：4.15
であったので、満足度は決して低くないものと推定される。
受講生の１人から「初めて学ぶ分野だったので、不安でしたが、とてもわかりやすい授業でした」との意見を頂いた。

授業改善の課題と方策

来年度の秋学期にコロナ感染状況が相当程度収束していることを前提に、
① 受講者の理解度を把握するためにも、受講者への発問を促す
② 演習用の資料をより多く用意し、一人一人から回答と意見を聞くことで、双方向の議論を増やす
といった点を心掛けたい。

その他

授業改善書

科目名	アジア経済論
担当者	藤井　喜一郎

授業の概要

グローバルゼーションの中に身を置き、対外貿易と海外投資に大きく門戸を開きながら発展を続けてきた地域がアジアである。授業では、中国がアジア諸国から中間財を輸入してこれを最終財に組み立て加工し、その輸出先を米国と日本に求めるという、多国籍企業のサプライチェーン構造が中国を軸にアジア全域を舞台に展開されてきた仕組みを学んだ。

授業の問題点

1、アジア経済を的確に捉えるために、中国を知らなければならない。「中国を知らずして、日本の繁栄はない」、というキーワードを用いましたが、受講生から中国についてほとんど質問がなかったことを疑問に思っている。
２、授業では、「日本にとって最大の貿易相手国、日本企業の最大の進出先、最大のマーケットでもある中国について」というテーマを設け、その仕組み、中国企業のビジネスモデル、今後の課題をより深く述べ、受講生に中国について問題意識を持たせるべきではないかと思った。

学生の授業満足度

1、 グローバルゼーションの中に身を置き、対外貿易と海外投資に大きく門戸を開きながら発展を続けてきた地域がアジアであることが理解できた。
2、 経済のグローバル化に対応できるために、経済、経営、会計に関する専門性と、多様な分析視角を身につけることができた。
3、 「アジアの日本」として、日本の強みと弱みを考えることができた。
4、 中間テスト・小論文に真剣に取り組み、受講生ほぼ全員が東アジアについて各自の問題意識を述べることができた。

授業改善の課題と方策

教科書を導入すべきでした。アジア諸国の歴史と現状、経済の仕組みと日本との関わりについて体系的に学ぶには、やはり教科書が望ましいと思った。教科書は、アジアの雄・日本経済について知るための手本にもなると思っている。

その他

授業中に居眠りをしている学生さんもいた。これに対し、毎回質問書を配り、受講の感想と質問を書いてくれるよう指導し改善策を図った。

授業改善書

科目名	管理会計論Ⅱ
担当者	藤井博義

授業の概要

管理会計の基本的な知識や計算技法の習得を目的としている。

授業の問題点

本年度は受講生の中で理解度の高い学生と低い学生の差が例年より大きいと感じた。どのレベルに合わせた講義を行うか、そして、理解度の低い学生へのフォローアップが課題である。

学生の授業満足度

概ね満足してもらっているようである。

授業改善の課題と方策

問題点でも書いたように、理解度の低い学生へのフォローアップが課題である。方策としては、練習問題の量を増やし、繰り返し解いてもらうなど試みたい。

その他

授業改善書

科目名	経済学入門
担当者	舩木惠子

授業の概要

経済学がどのような学問であるのか、という概要を理解する授業である。経済学を理解してもらうために時事問題やニュースなどに配慮しながら現実経済と理論の両方の密接な関係を理解させることが本講義の大きな目的である。

授業の問題点

全学共通の科目であることから、授業に対する興味関心や取り組み、知識量などに学生間でかなりのばらつきがあり、授業の焦点を絞るのが難しい科目である。また今季はコロナの感染予防のために隔週の対面授業となり、自宅グループと対面グループの両方の準備が必要になったことにより、課題管理と対面授業時の両方を用意しなければならず、個人指導にまで十分に手が回らなかった。

学生の授業満足度

上記のようなことから、学生の中には不満に思ったり、質問したいと感じたりした学生もいたかと思う。
　また、課題や授業内容の量が多かったとのアンケート結果もあったので、その点においても不満に感じた学生はいたと思う。

授業改善の課題と方策

課題の内容や量が多いことについての批判は受け止め、今後改善するようにしたいが、授業の内容を自ら振り返って整理する習慣を身につける指導は続けていきたいと思う。また授業についていけない学生がいるようならば授業の内容を少し減らすことも考慮したい。

その他

履修生が多く、大教室で行う授業なのでどうしても講義形式にならざるを得ないし、学生側からも名乗りを上げて質問するのもしにくい環境だと思う。なるべくコメント・ペーパーの回数を増やすことを考えたい。

授業改善書

科目名	企業法Ⅱ
担当者	松田和久

授業の概要

会社企業を規制する会社法について、株式会社を中心に講義する。具体的には株式会社の運営機関、組織再編に関する規制について、プロジェクターで映写した内容をノートに書き写してもらい、講義担当者が口頭による説明を加える。

授業の問題点

出席者は全員ノートを取り、講義担当者の説明を大部分の出席者は顔を上げて聞いており、授業に対する取り組み姿勢は例年と比べて高かったと思われる。したがって問題点はない。

学生の授業満足度

アンケートを見る限り、受講者の満足度が高いように思われる。

授業改善の課題と方策

高い授業満足度を維持できるよう、今後も努めたい。

その他

授業改善書

科目名	情報処理(表計算)
担当者	松田 純一

授業の概要

MOS Excel 2019&365(一般レベル)の資格試験に合格するのに必要十分なスキルをつけてもらうことを目的とし、出題範囲の内容はすべて指導した。毎回の授業で課題を提出してもらい、理解していることを確認して、不十分な点があれば次回以降の授業で補足説明を行った。課題には、教科書だけでなく、社会に出ても役立つような実践的かつ最新のデータも取り入れ、役立つことをイメージしやすいようにした。

授業の問題点

おおむね、標準以上の評価が得られたと考えているが、以下の問題点がある。
・わかりやすいと感じる学生も多いが、進みが早い、内容が難しいと感じる学生もいること。特にオンライン授業は自習になるためか十分に理解できない学生がいた。
・前方のモニターが見にくいため、細かい操作が分かりにくいと感じること

学生の授業満足度

授業の満足度は、4.52～4.81 ポイントであった。次回も、基本的には授業内容を変えずに継続していきたい。

授業改善の課題と方策

学生の予備知識に差があるのが実態であるが、基本的には、初心者向けに授業を実施し、理解不十分のままにしないようにきめ細かく指導したい。逆に、理解している学生には応用課題・実践課題を提示するように配慮する。

前方のモニターが見にくい点については、学生の席にある PC に教師の画面を写して理解を深められるようにしたい。

上記の改善に向けて、今期は部分的利用にとどめた授業支援ソフト「InterCLASS」を全面的に活用したい。

その他

授業で使った資料はすべて Teams に掲載して自習できるようにしたが、やはり欠席すると理解度が下がるようである。できるだけ欠席が少なくなるよう、興味ある題材を使うようにしたい。

授業改善書

科目名	経営分析論
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、財務諸表（決算書）としての貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書の基本知識および、企業の成長性・収益性・安全性など財務諸表分析の基本知識と技法を体系的に学べるように講義しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「授業外学習」が比較的低い点数でありました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「オンライン課題は計算か自由討論の内容を提出が良かった」、「グループワーク、ディスカッションがあるのでコミュニケーション力伸ばす良い機会だなと思いました」「プレゼンテーションの能力が向上したと感じました」などのコメントをいただきました。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「授業外学習」が比較的低い点数であったため、今後よりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。

その他

特にありません。

授業改善書

科目名	情報機器の操作
担当者	劉　博

授業の概要

本授業では、情報機器とセキュリティの基本知識、オフィスソフトによる文章作成・データ処理・プレゼンテーション、インターネットを活用する情報収集・発信のための基本技能を体系的に学べるように指導しました。

授業の問題点

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」や「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数でありました。

学生の授業満足度

アンケートの結果から、学生のおおむね本授業の内容について満足していると見て取れます。「教え方が丁寧で、質問もしやすい」、「Excel や Word などの使い方を詳しく知ることができて，おもしろかった」、「グループワークを用いることで多様性豊かな授業を展開していた」、「一方的に教えられて覚えていくのではなく教え教えられながらの授業はより覚えやすく有意義な時間だった」などのコメントをいただきました。

授業改善の課題と方策

アンケートの結果から、「質問や発言をしましたか」が比較的低い点数であったため、今後よりアクティブに学習できる環境が実現できるよう、授業構成と教授方法の改善を積み重ねてまいります。また、「ノートやメモ等を取りましたか」が比較的低い点数であった理由については、今期から指定テキストの内容に沿って授業進行したことよる影響が大きいと考えております。

その他

特にありません。